

南島原市文化財調査報告書 第20集

# 諏訪ノ上遺跡

— 県営水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手型・諏訪地区)に伴う発掘調査 —

2020

長崎県南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書 第20集

# 諏訪ノ上遺跡

— 県営水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手型・諏訪地区)に伴う発掘調査 —

2020

長崎県南島原市教育委員会

## 発刊にあたって

本書は、長崎県による水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・諏訪地区）に伴い実施した諏訪ノ上遺跡の発掘調査報告書です。

諏訪ノ上遺跡は、事業計画段階で実施した試掘調査によってその存在が判明し、今回の本発掘調査を実施することになりました。発掘調査では、弥生時代初頭に位置づけられる刻目突帯文土器をはじめとして、土器や石器が多数出土し、島原半島の縄文から弥生への時代移行の様相がまたひとつあきらかになりました。

今後は、この発掘調査の成果を学術のみならず多方面において有効に活用するとともに、引き続き埋蔵文化財の保護に努めてまいります。

末尾にはなりましたが、発掘調査の実施にご協力くださいました土地の所有者と耕作者の皆様、工事関係の方々、発掘作業と整理作業に従事くださいました方々に厚く御礼申し上げます。

令和2年3月20日

南島原市教育委員会  
教育長 永田 良二

# 例 言

- 1 本書は、諏訪ノ上遺跡（長崎県南島原市深江町諏訪ノ上所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県が事業主体である水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・諏訪地区）に伴って実施した。
- 3 調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって以下の期間で実施した。  
試掘調査 平成22年7月5日～平成23年3月23日（調査坑30箇所120㎡）  
平成26年8月25日～平成26年11月26日（追加工区・調査坑5箇所20㎡）  
本調査 平成26年8月21日～平成26年11月28日  
平成27年6月10日～平成27年8月31日
- 4 現地調査及び本書作成にかかわる整理調査の体制と担当は、以下のとおりである。

## 調査体制

### 南島原市教育委員会

教 育 長	定方 郁夫（～平成26年7月）
同 上	永田 良二（平成26年8月～）
教育次長	井口 敬次（～平成22年度）
同 上	水島 文昌（平成23年度～平成25年度）
同 上	渡部 博（平成26年度～平成28年度）
同 上	深松 良蔵（平成29年度～）
理 事	宮崎 誠（平成31年度）
文化財課	課 長 松本 慎二（平成22年度～）
文化財課文化財班	班 長 林田 順助（～平成25年度）
	同 上 木村 岳士（平成26年度～平成29年度）
	同 上 末永 透（平成30年度）
	同 上 鬼塚 俊範（平成31年度）

## 調査担当

### 試掘調査・本調査・整理調査

南島原市教育委員会 文化財課文化財班 副参事（学芸員） 本多 和典

- 5 試掘調査における写真撮影、調査坑配置図及び土層実測図の作成は、本多が行った。
- 6 本調査における写真撮影及び個別遺構実測図の作成は、本多が行った。また、遺構配置図及び土層実測図の作成、航空写真撮影は、（株）埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。
- 7 遺物の実測は、（株）埋蔵文化財サポートシステム長崎支店及び（株）大信技術開発南島原営業所に委託した。土器の拓本は、岩田貴子が行った。製図は、壺岐美由紀、松原加歩が行った。遺物の写真撮影は、竹村南洋・本多が行った。
- 8 年代測定及び石材鑑定にかかわる自然科学分析は、（株）古環境研究所に委託した。
- 9 本書に関する遺物、図面、写真等は、南島原市深江埋蔵文化財整理室において保管している。
- 10 本書の執筆・編集は、本多による。

# 目 次

第Ⅰ章 はじめに .....	1
1 諏訪ノ上遺跡の位置と周辺地理 .....	1
2 諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡 .....	1
3 本調査までの経過 .....	2
第Ⅱ章 試掘調査 .....	5
1 調査に至る経緯 .....	5
2 調査の方法 .....	5
3 調査の成果 .....	5
第Ⅲ章 本調査 .....	11
1 調査の方法 .....	11
2 基本土層 .....	11
3 遺構 .....	21
4 出土遺物 .....	24
(1) 土器・陶磁器 .....	24
(2) 石器 .....	63
第Ⅳ章 自然科学分析 .....	83
第Ⅴ章 まとめ .....	95

## 挿図目次

第1図	諏訪ノ上遺跡位置図 (S = 1/100,000) .....	3
第2図	諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡 (S = 1/100,000) .....	4
第3図	諏訪地区調査坑配置図 (S = 1/6,000) .....	7
第4図	諏訪地区調査坑土層実測図① (S = 1/50) .....	8
第5図	諏訪地区調査坑土層実測図② (S = 1/50) .....	9
第6図	諏訪地区調査坑土層実測図③ (S = 1/50) .....	10
第7図	グリッド配置図 (S = 1/1,500) .....	12
第8図	調査小区配置図 (S = 1/1,500) .....	12
第9図	土層実測図① (S = 1/80) .....	13
第10図	土層実測図② (S = 1/80) .....	15
第11図	土層実測図③ (S = 1/80) .....	17
第12図	土層実測図④ (S = 1/80) .....	19
第13図	遺構配置図 [1～5区] (S = 1/400) .....	22
第14図	遺構配置図 [6・7区] (S = 1/400) .....	23
第15図	土坑実測図 (S = 1/20) .....	23
第16図	不明大型遺構 (S = 1/100) .....	23
第17図	出土土器実測図① (S = 1/3) .....	24
第18図	出土土器実測図② (S = 1/3) .....	24
第19図	出土土器実測図③ (S = 1/3) .....	25
第20図	出土土器実測図④ (S = 1/3) .....	27
第21図	出土土器実測図⑤ (S = 1/3) .....	28
第22図	出土土器実測図⑥ (S = 1/3) .....	29
第23図	出土土器実測図⑦ (S = 1/3) .....	30
第24図	出土土器実測図⑧ (S = 1/3) .....	31
第25図	出土土器実測図⑨ (S = 1/3) .....	33
第26図	出土土器実測図⑩ (S = 1/3) .....	34
第27図	出土土器実測図⑪ (S = 1/3) .....	35
第28図	出土土器実測図⑫ (S = 1/3) .....	37
第29図	出土土器実測図⑬ (S = 1/3) .....	38
第30図	出土土器実測図⑭ (S = 1/3) .....	39
第31図	出土土器実測図⑮ (S = 1/3) .....	40
第32図	出土土器実測図⑯ (S = 1/3) .....	42
第33図	出土土器実測図⑰ (S = 1/3) .....	43
第34図	出土土器実測図⑱ (S = 1/3) .....	44
第35図	出土土器実測図⑲ (S = 1/3) .....	45

第36図	出土土器実測図⑳ (S = 1/3)	45
第37図	出土土器実測図㉑ (S = 1/3)	46
第38図	出土土器実測図㉒ (S = 1/3)	47
第39図	出土土器・陶磁器実測図 (S = 1/3)	47
第40図	出土石器実測図① (S = 1/2)	63
第41図	出土石器実測図② (S = 1/2)	64
第42図	出土石器実測図③ (6・7 : S = 1/2, 8・9 : S = 2/3)	65
第43図	出土石器実測図④ (S = 2/3)	66
第44図	出土石器実測図⑤ (S = 2/3)	67
第45図	出土石器実測図⑥ (26~33 : S = 1/2, 34 : S = 2/3)	69
第46図	出土石器実測図⑦ (S = 1/2)	70
第47図	出土石器実測図⑧ (40~58・60 : S = 2/3, 59 : S = 1/2)	71
第48図	出土石器実測図⑨ (S = 2/3)	73
第49図	出土石器実測図⑩ (S = 1/3)	74
第50図	出土石器実測図⑪ (S = 1/3)	75
第51図	出土石器実測図⑫ (S = 1/3)	76
第52図	出土石器実測図⑬ (S = 1/3)	77
第53図	出土石器実測図⑭ (S = 1/5)	78
第54図	出土石器実測図⑮ (130~134 : S = 1/3, 135~144 : S = 2/3)	79
第55図	暦年較正年代グラフ①	86
第56図	暦年較正年代グラフ②	87
第57図	黒曜石産地推定判別図①	93
第58図	黒曜石産地推定判別図②	93
第59図	遺物集中部概略図 (S = 1/1, 500)	99
第60図	遺物分布図① [土器・石器 (全体)] (S = 1/500)	102
第61図	遺物分布図② [土器 (時期別) 1群土器・4群土器] (S = 1/500)	103
第62図	遺物分布図③ [土器 (時期別) 2群土器・3群土器] (S = 1/500)	104
第63図	遺物分布図④ [3群土器 (器種大別) - 深鉢] (S = 1/500)	105
第64図	遺物分布図⑤ [3群土器 (器種大別) - 浅鉢] (S = 1/500)	106
第65図	遺物分布図⑥ [3群土器 (器種大別) - 壺] (S = 1/500)	107
第66図	遺物分布図⑦ [3群土器 (器種大別) - 高坏・脚台付土器] (S = 1/500)	108
第67図	遺物分布図⑧ [3群土器 (器種小別) - 深鉢D類] (S = 1/500)	109
第68図	遺物分布図⑨ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類] (S = 1/500)	110
第69図	遺物分布図⑩ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 指] (S = 1/500)	111
第70図	遺物分布図⑪ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 棒] (S = 1/500)	112
第71図	遺物分布図⑫ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : ヘラ] (S = 1/500)	113
第72図	遺物分布図⑬ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 工具刺突] (S = 1/500)	114

第73図	遺物分布図⑭	[3群土器(器種小別) - 深鉢E類: 貝殻腹縁・異種原体] (S = 1/500) …	115
第74図	遺物分布図⑮	[3群土器(器種小別) - 浅鉢I類] (S = 1/500) ……………	116
第75図	遺物分布図⑯	[3群土器(器種小別) - 浅鉢J類] (S = 1/500) ……………	117
第76図	遺物分布図⑰	[3群土器(器種小別) - 浅鉢L類] (S = 1/500) ……………	118
第77図	遺物分布図⑱	[3群土器(器種小別) - 浅鉢M類] (S = 1/500) ……………	119
第78図	遺物分布図⑲	[石器(全体)] (S = 1/500) ……………	120
第79図	遺物分布図⑳	[石器(石材別) - 黒曜石] (S = 1/500) ……………	121
第80図	遺物分布図㉑	[石器(石材別) - サヌカイト] (S = 1/500) ……………	122
第81図	遺物分布図㉒	[石器(石材別) - 安山岩] (S = 1/500) ……………	123
第82図	遺物分布図㉓	[石器(石材別) - その他の石材] (S = 1/500) ……………	124
第83図	遺物分布図㉔	[石器(器種別) - 石核] (S = 1/500) ……………	125
第84図	遺物分布図㉕	[石器(器種別) - 剥片/碎片] (S = 1/500) ……………	126
第85図	遺物分布図㉖	[石器(器種別) - スクレイパー] (S = 1/500) ……………	127
第86図	遺物分布図㉗	[石器(器種別) - 石鏃/石鏃未成品/石錐] (S = 1/500) ……………	128
第87図	遺物分布図㉘	[石器(器種別) - 二次加工剥片/微細剥離剥片] (S = 1/500) ……………	129
第88図	遺物分布図㉙	[石器(器種別) - 磨製石斧磨製/磨製石斧再利用] (S = 1/500) ……………	130
第89図	遺物分布図㉚	[石器(器種別) - 打製石斧/破片・剥片] (S = 1/500) ……………	131
第90図	遺物分布図㉛	[石器(器種別) - 磨石・敲石・凹石/石皿・台石] (S = 1/500) ……………	132



## 表 目 次

第1表	出土土器観察表①	48
第2表	出土土器観察表②	49
第3表	出土土器観察表③	50
第4表	出土土器観察表④	51
第5表	出土土器観察表⑤	52
第6表	出土土器観察表⑥	53
第7表	出土土器観察表⑦	54
第8表	出土土器観察表⑧	55
第9表	出土土器観察表⑨	56
第10表	出土土器観察表⑩	57
第11表	出土土器観察表⑪	58
第12表	出土土器観察表⑫	59
第13表	出土土器観察表⑬	60
第14表	出土土器観察表⑭	61
第15表	出土土器観察表⑮	62
第16表	出土陶磁器観察表	62
第17表	出土石器観察表①	80
第18表	出土石器観察表②	81
第19表	出土石器観察表③	82
第20表	測定試料及び処理	83
第21表	測定結果	85
第22表	半定量分析結果	90
第23表	諏訪ノ上遺跡出土石器	91
第24表	分析対象一覧	91
第25表	西日本黒曜石産地の判別群	92
第26表	測定値および産地推定結果	92
第27表	諏訪ノ上遺跡遺物内訳	96
第28表	2・3群土器器種別内訳	97
第29表	刻目突帯文土器(甕)刻目種類別内訳	97
第30表	石器石材別内訳	99
第31表	黒曜石色調別内訳	99
第32表	石器器種別内訳	99

## 図版目次

図版 1	諏訪ノ上遺跡周辺航空写真	135
図版 2	諏訪地区試掘調査①	136
図版 3	諏訪地区試掘調査②	137
図版 4	諏訪地区試掘調査③	138
図版 5	諏訪地区試掘調査④	139
図版 6	諏訪地区試掘調査⑤	140
図版 7	平成26年度本調査区航空写真（全体）	141
図版 8	平成26年度本調査区航空写真（4・5区）	142
図版 9	平成26年度本調査区航空写真（1～3区）	143
図版10	平成27年度本調査区航空写真（6・7区）	144
図版11	平成26年度本調査区土層① 1区南西壁（東から），3区北西壁（南から）	145
図版12	平成26年度本調査区土層② 4・5区境界ベルト（南から），4区北東壁（南から）	146
図版13	平成26年度本調査区土層③ 4区北張出部北西壁（南東から），4区北張出部北東壁（南西から）	147
図版14	平成27年度本調査区土層 7区横断ベルト①（東から），7区横断ベルト②（東から）	148
図版15	平成26年度本調査区遺構ほか検出状況 2区土坑（東から），5区倒木痕（南東から）	149
図版16	平成27年度本調査区遺構検出状況① 6区不明大型遺構（南西から），6区不明大型遺構（北東から）	150
図版17	平成27年度本調査区遺構検出状況② 7区溝（東から），7区溝（北東から）	151
図版18	作業状況	152
図版19	遺物検出状況① 2区Ⅲa層（北東から），2区Ⅲa層（北から）	153
図版20	遺物検出状況② 4区Ⅲa層（北東から），5区Ⅲa層（北東から）	154
図版21	遺物検出状況③ 1区Ⅲb層（南西から），2区Ⅲb層（西から）	155
図版22	遺物検出状況④ 2区Ⅲb層（北東から），3区Ⅲb層（南西から）	156
図版23	遺物検出状況⑤ 3区Ⅲb層（北東から），4区Ⅲb層（北から）	157

図版24	遺物検出状況⑥	158
	4区Ⅲb層(西から), 4区Ⅲb層(南から)	
図版25	遺物検出状況⑦	159
	5区Ⅲb層(南西から), 5区Ⅲb層(北東から)	
図版26	出土土器①	160
図版27	出土土器②	161
図版28	出土土器③	162
図版29	出土土器④	163
図版30	出土土器⑤	164
図版31	出土土器⑥	165
図版32	出土土器⑦	166
図版33	出土土器⑧	167
図版34	出土土器⑨	168
図版35	出土土器⑩	169
図版36	出土土器⑪	170
図版37	出土土器⑫	171
図版38	出土土器⑬	172
図版39	出土土器⑭	173
図版40	出土土器⑮	174
図版41	出土土器⑯	175
図版42	出土土器⑰	176
図版43	出土土器⑱	177
図版44	出土土器⑲	178
図版45	出土土器⑳	179
図版46	出土土器㉑	180
図版47	出土土器㉒	181
図版48	出土土器㉓	182
図版49	出土土器㉔	183
図版50	出土土器㉕	184
図版51	出土土器㉖・陶磁器	185
図版52	出土石器①	186
図版53	出土石器②	187
図版54	出土石器③	188
図版55	出土石器④	189
図版56	出土石器⑤	190
図版57	出土石器⑥	191
図版58	出土石器⑦	192

图版59	出土石器⑧	193
图版60	出土石器⑨	194
图版61	出土石器⑩	195
图版62	出土石器⑪	196
图版63	出土石器⑫	197

# 第 I 章 はじめに

## 1 諏訪ノ上遺跡の位置と周辺地理

南島原市の位置する島原半島は、有明海に突き出した胃袋の形状をした半島で、長崎県本土部の交通の要衝である諫早地域とは、幅約 3 km の愛野地峡で接続する。半島の中央には約 50 万年前から活動を開始したとされる雲仙火山の山々がそびえ、四方に裾野を広げている。

雲仙火山は、三岳と呼ばれる普賢岳、国見岳、妙見岳、五峰と呼ばれる野岳、九千部岳、矢岳、高岩山、絹笠山、ほかに眉山や猿葉山など 20 を超える山体によって構成されている。1990（平成 2）年 11 月 17 日には雲仙の主峰であった普賢岳（標高 1,359m）が噴火した。その後普賢岳山頂に出現した粘性の高いデイサイト溶岩は、溶岩ドームを形成して成長と崩落を繰り返した。普賢岳の平成噴火の活動は、平成 8 年に終息宣言が出されることになるが、この噴火活動によって山頂に残された溶岩ドームが「平成新山（標高 1,483m）」として現在新たな雲仙の主峰となっている。

これら雲仙火山は別府から阿蘇を経て島原半島へと延びる別府雲仙地溝帯の西端部に位置する。地溝帯は、島原半島の中央部を南北に分断するように走り、地溝帯内は多くの断層に挟まれて年数 mm 単位で沈降を続けており、諏訪ノ上遺跡もこの沈降地帯に位置している。

また、半島南部の口之津町早崎半島には、雲仙火山より古い火山体として約 430 万年前に活動していたとされる玄武岩溶岩を見ることができる。

諏訪ノ上遺跡の所在する南島原市深江町は、島原半島の東部に、市域としては最北部に位置している。北側は水無川をもって島原市との境界となし、南側は深江断層をもって南島原市布津町との境界としている。雲仙の山体部を除いて深江町のほぼ全域は、「深江原（ふかえばる）」と呼ばれる火山性の扇状地となっており、標高 200m 付近から有明海（島原湾）へとなだらかに斜面が下っている。深江川水系の一带と海岸近くの低標高域は、おもに水田地帯として利用されているが、その他の中標高域は広く畑地や果樹園として利用されており、火山性土壌の水はけのよい地質的特徴を活かして、葉タバコやミカンの栽培が盛んである。

諏訪ノ上遺跡は、深江町字諏訪ノ上の畑地帯で、主に葉タバコの栽培がおこなわれていた。ほ場整備事業の区域のなかでは最も標高の低い地点である。現在は廃線となった旧島原鉄道南目線の沿線で、南島原市立深江小学校、同深江中学校、同深江武道館が遺跡に隣接する。また、約 100m 海手に下れば、諏訪神社と神社社叢がある。

## 2 諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡

おもに深江町域を対象として、諏訪ノ上遺跡周辺の遺跡について概観したい。

旧石器時代の遺跡は、これまでのところ認められていない。最も古い段階での遺跡の登場は、縄文時代早期である。上畦津遺跡においては、円筒形条痕文土器、いわゆる一野式土器の出土がある。下末宝遺跡においては、押型文土器とそれに伴う石器群が多数出土している。押型文土器は、楕円文、山形文、平行文などが見られ、深鉢形のみならず壺形もみられる。また、石鏃は幅に対して長さの短い特徴的な鋏形鏃が多く出土している。下末宝遺跡から約 500m 山手にある古作遺跡からは縄文時代早・前期及び縄文時代後・晩期を主体とする遺物の出土がある。縄文時代早・前期の土器は、一野式

土器，塞ノ神式土器，轟式土器など複数時期のものが見られ，特に轟式土器の出土は南島原市域においてはほかに出土例がなく，注目される。

権現脇遺跡では，普賢岳平成噴火の鎮静後に水無川流域において火砕流・土石流対策として雲仙復興事務所により進められた砂防工事に伴って発掘調査が実施され，膨大な量の調査成果が得られている。遺跡の所属時期については，縄文時代早期，縄文時代後・晩期，突帯文期，中世などの時期が複合しており，特に縄文時代後・晩期から突帯文期にかけての資料が充実している。遺構としては縄文時代晩期や突帯文期の小児甕棺墓の検出があり，遺物としては刻目突帯文土器，黒色磨研土器，組織痕土器，丹塗壺，紡錘車，打製石斧，勾玉などの出土がある。また，権現脇遺跡では縄文時代早期と縄文時代後・晩期の遺物包含層に挟まれて，眉山の噴火活動に伴う火山灰層が確認されており，その噴火活動時の爆発による熱風でなぎ倒された倒木の遺構も多数検出されている。

「山ノ寺式土器」の標識名で学史的にも知られる山ノ寺梶木遺跡も深江町所在の遺跡である。日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会や古田正隆などによる調査の履歴があり，縄文時代晩期から突帯文期にかけての充実した資料が得られている。

#### 【参考文献】

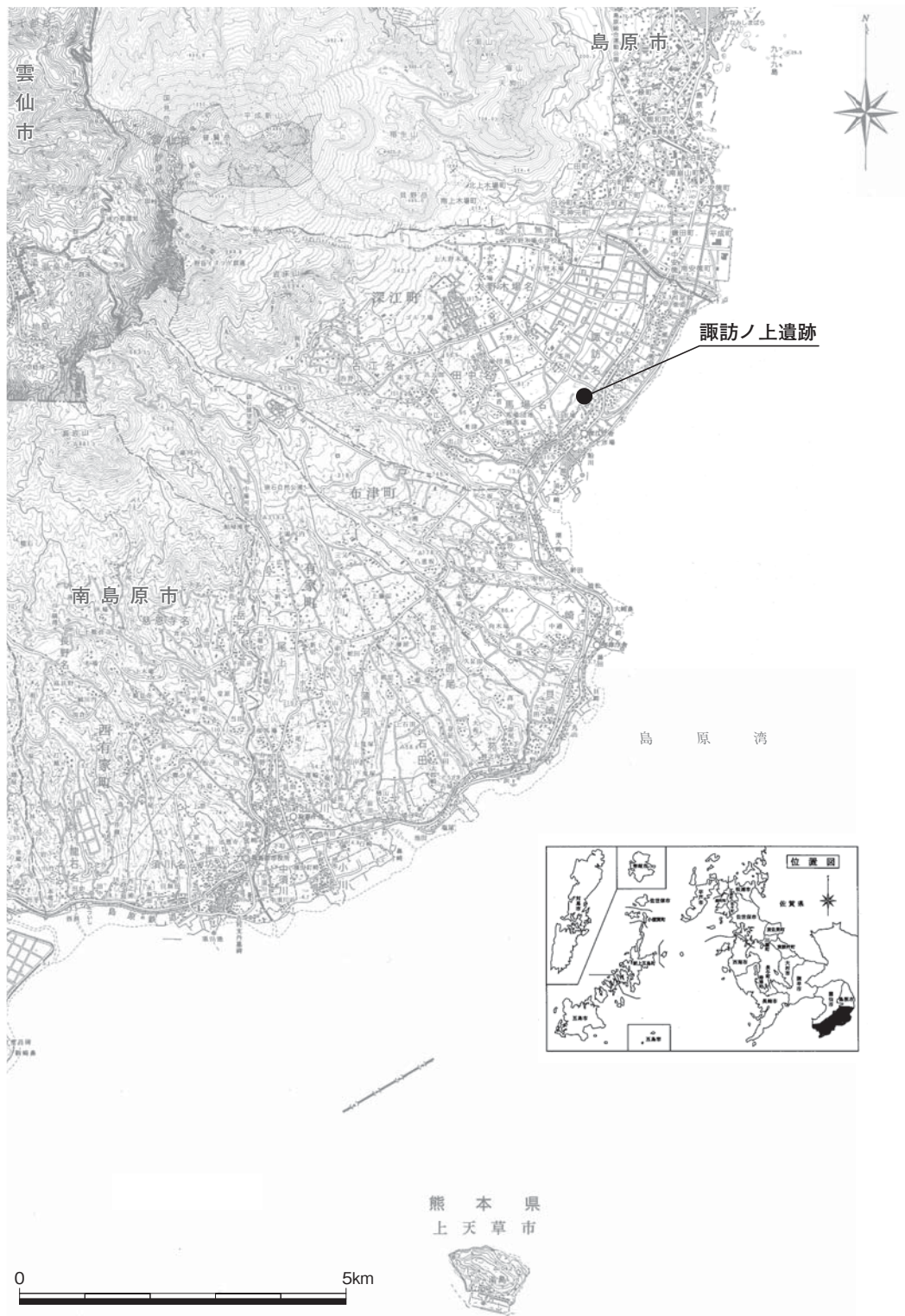
- 深江町郷土誌さん委員会 1971 『深江町郷土誌』 深江町  
古田 正隆 1973 『山の寺梶木遺跡』百人委員会埋蔵文化財報告第1集 百人委員会  
本多 和典編 2005 『下末宝遺跡・上畦津遺跡』深江町文化財調査報告書第1集 深江町教育委員会  
本多 和典編 2006 『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集 深江町教育委員会  
本多 和典 2007 『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第1集 南島原市教育委員会  
本多 和典 2018 『古作遺跡』南島原市文化財調査報告書第10集 南島原市教育委員会

### 3 本調査までの経過

長崎県島原振興局により南島原市深江町諏訪地区において農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業（畑地帯担い手育成型・諏訪地区））が計画された。このことを受けて南島原市教育委員会は，事業計画地において試掘調査を実施した。試掘調査の調査地点は，事前の現地踏査における遺物の散布状況や周辺遺跡の情報も踏まえて，30箇所を設定した。また，その後事業計画に追加の工区が発生したことから，5箇所の追加調査を実施した。なお，事業名称については，平成30年度から「水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型）」に変更になっている。総事業面積は，42.8haである。

試掘調査の結果，事業区域内には突帯文期を主体とする諏訪ノ上遺跡と縄文時代後・晩期及び中世を主体とする出口遺跡の2遺跡が存在することが明らかになり，両遺跡を新規発見の遺跡として登録した。

試掘調査の結果をふまえ，長崎県島原振興局と協議を行い，諏訪ノ上遺跡については，遺跡範囲のうち切土となる部分，石垣となる部分，道路部分，水路部分等を対象として2箇年計画で本調査を実施することになった。調査地が葉タバコの栽培地であったことから，平成26年度については収穫の終わる8月上旬を待っての本調査となった。また，平成27年度の本調査の着手と同時に諏訪ノ上遺跡を含む周辺一帯で事業が着工された。



第1図 諏訪ノ上遺跡位置図 (S=1/100,000)

調査期間及び調査面積は、以下のとおりである。

### 試掘調査

(当初)

調査期間 平成22年7月5日～平成23年3月23日

調査面積 120㎡ (2m四方の調査坑30箇所)

(追加工区分)

調査期間 平成26年8月25日～平成26年11月26日

調査面積 20㎡ (2m四方の調査坑5箇所)

### 本調査

(平成26年度)

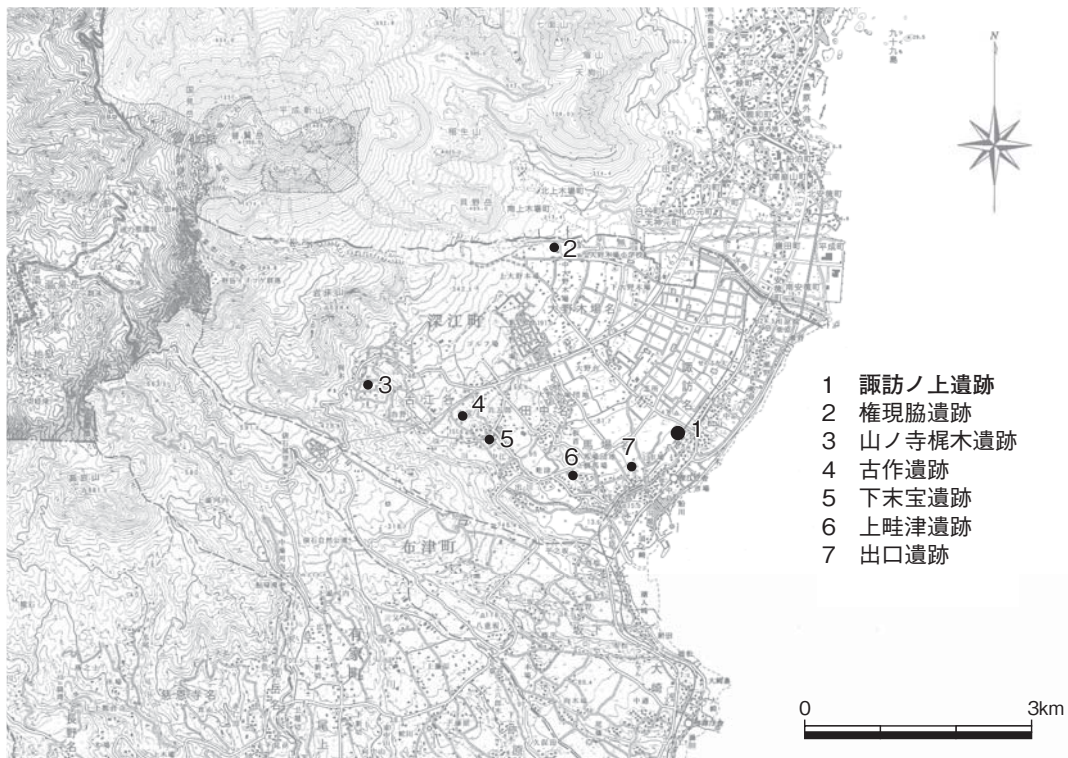
調査期間 平成26年8月21日～平成26年11月28日

調査面積 1,605㎡

(平成27年度)

調査期間 平成27年6月10日～平成27年8月31日

調査面積 773㎡



第2図 諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡 (S=1/100,000)



## 第Ⅱ章 試掘調査

### 1 調査に至る経緯

長崎県島原振興局により南島原市深江町諏訪地区においては場整備事業が計画された。事業区域内に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しなかったが、計画面積が広範囲であったこと、事業区域の近隣に二本櫓遺跡、出口キリシタン墓碑群が存在したこと、事業区域内において現地踏査を行った結果、縄文時代及び弥生時代のものを中心として遺物の散布が見られたこと、以上のことから南島原市教育委員会は試掘調査が必要と判断した。

試掘調査は、平成22年度に実施した。調査地選定にあたっては、現地踏査における表面採集の遺物の分布状況に地形的な状況を加味して、TP. 1～TP. 30の30箇所調査坑を設けた。また、その後事業計画の変更により追加工区が生じたことから、追加の試掘調査を平成26年度に実施した。追加箇所はTP. 31～TP. 35の5箇所である。

### 2 調査の方法

試掘調査にあたっては、まず土地利用が主に葉タバコの栽培であったことから、作付時期を極力避けて調査時期をおもに8月から11月の期間に設定した。調査坑設定箇所の選定にあたっては、現地踏査における表面採集の遺物の分布状況と地形的な状況から判断し、任意に設定した。

調査は、まず2m四方の調査坑を設定して耕作土を除去したのち、土色・土質を見極めながら層位ごとに掘削を行った。掘削は耕作土を含めてすべて人力である。遺物の出土が見られたときは、攪乱土や造成土の場合は、一括で取り上げることとし、遺物包含層である可能性が高いと判断された場合には、いったん出土地点に残したまま同一層分を掘削し、検出状況の写真撮影を行ってから一括で取り上げを行った。各層位の掘削が終わった段階で遺構確認を行い、必要に応じて遺構の検出状況、完掘状況の写真撮影と平面実測を行った。

およそ1万年前とされる土石流堆積物の検出をもって一応の掘削完了と定め、その時点で土層断面の実測図作成と写真撮影を行った。

掘削・記録完了後については、土層ごとに分別して置いておいた廃土を逆順で埋め戻し、途中適宜踏み固め、最後に耕作土をかぶせた。

### 3 調査の成果

深江町域での発掘調査によって確認・整理されている基本土層は、おおよそ以下のとおりである。

- I層 暗褐色土。耕作土。
- II層 暗褐色土。近世以降の造成土。
- III層 黒色～暗褐色土。縄文時代後期～中世の遺物を包含する場合が多い。
- IV層 浅黄橙色火山灰。眉山の火山活動に伴う火山灰。権現脇火砕サージ。
- V層 明黄褐色～暗黄褐色土。縄文時代早期の遺物を包含する場合が多い。
- VI層 黒色土。
- VII層 灰白色砂礫。火山噴火に伴う厚い土石流堆積物。

試掘調査においては、おおむね深江町域における基本土層と同様の層序が見られたが、Ⅳ層・Ⅴ層については確認されなかった。Ⅳ層は雲仙眉山の縄文時代の噴火活動に伴う火山灰層(権現脇火砕サージ)であり、眉山にほど近い山麓遺跡である権現脇遺跡ではこの活動時の爆風でなぎ倒された倒木痕も多数検出されているが、今回の諏訪地区の事業区域内では少なくとも肉眼観察における層位の確認には至っておらず、噴火活動の直接的な影響範囲を推定するうえで重要な情報となろう。また、Ⅲ層については、黒色土(Ⅲa層)と暗褐色土(Ⅲb層)に分層が可能であった。いずれの調査坑においても最下層でⅦ層を確認したが、このⅦ層は土石流堆積物と考えられ、通称「深江原(ふかえば)」と呼ばれる扇状地の基盤となっており、雲仙火山の活動に伴って形成されたものと判断された。

全体的にⅦ層より上位に堆積する土壌は、他の深江町域の遺跡に比べれば層厚が薄い傾向がみられ、これは扇中央部に立地することが要因であるものと考えられる。遺構や遺物の検出も全体としては少なく、これも水資源に乏しい扇中央部という立地条件を反映しているものと思われる。

その中で TP. 25 及び TP. 29 においては良好な遺物の出土がみられた。遺物の多くはⅢ層からの出土で、縄文時代末～弥生時代初頭に位置づけられる資料が大半であった。また、TP. 25 においては、Ⅵ層より縄文時代早期の押型文土器がわずかではあるが確認された。追加工区に設定した TP. 31～TP. 35 においては、縄文時代晩期の遺物の出土が多くみられ、中世の土師皿などの出土もあった。

以上の試掘調査によって諏訪ノ上遺跡および出口遺跡の存在が明らかとなり、新規発見の遺跡として登録を行った。面積は、諏訪ノ上遺跡が約6,000㎡、出口遺跡が約11,000㎡である。

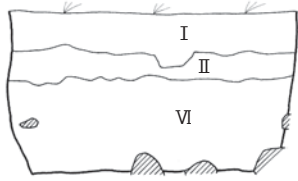


試掘調査状況



第3図 諏訪地区調査坑配置図 (S=1/6,000)

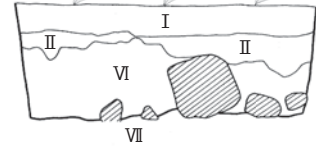
TP.1 南壁 L=72.700m



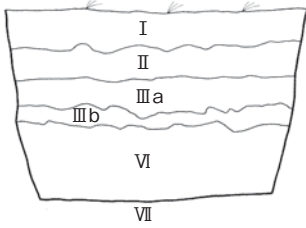
TP.2 西壁 L=75.300m



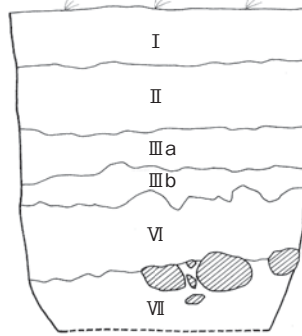
TP.3 南壁 L=69.700m



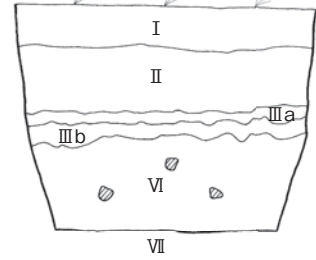
TP.4 南壁 L=66.200m



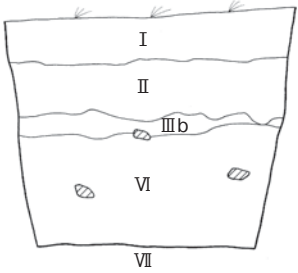
TP.5 南壁 L=36.200m



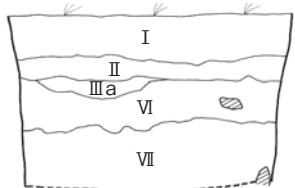
TP.6 南壁 L=63.000m



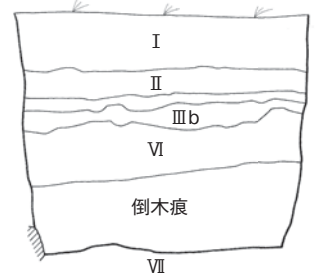
TP.7 南壁 L=60.000m



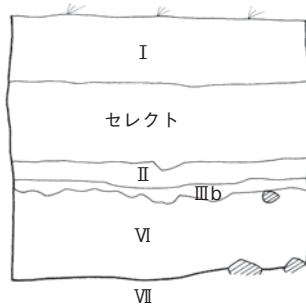
TP.8 南壁 L=36.800m



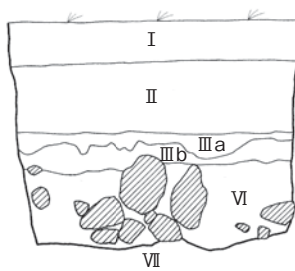
TP.9 南壁 L=58.400m



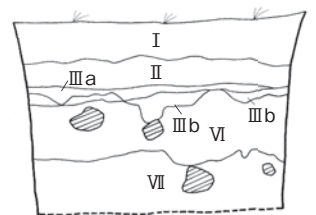
TP.10 南壁 L=55.000m



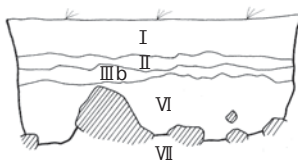
TP.11 南壁 L=50.500m



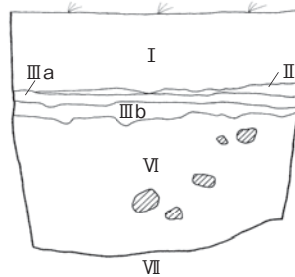
TP.12 西壁 L=44.200m



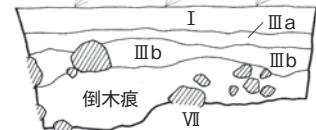
TP.13 南壁 L=37.600m



TP.14 南壁 L=32.100m

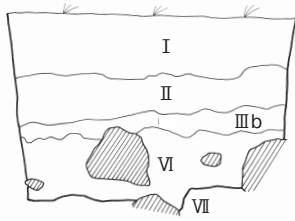


TP.15 南壁 L=79.800m

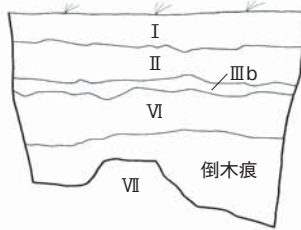


第4図 諏訪地区調査坑土層実測図① (S=1/50)

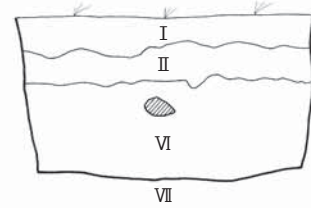
TP.16 南壁 L=62.900m



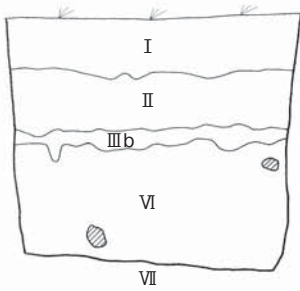
TP.17 南壁 L=64.000m



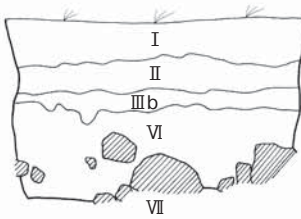
TP.18 南壁 L=67.800m



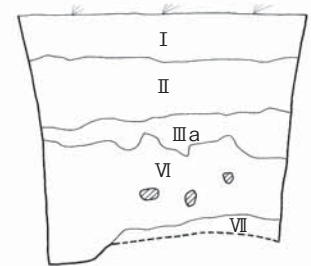
TP.19 南壁 L=52.700m



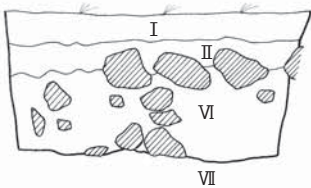
TP.20 南壁 L=56.300m



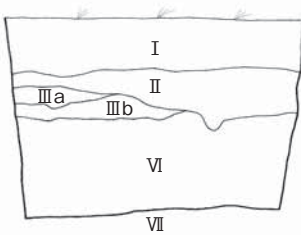
TP.21 南壁 L=47.000m



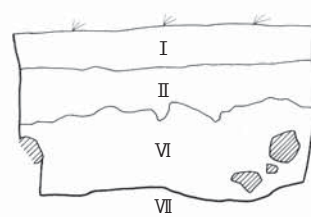
TP.22 南壁 L=51.000m



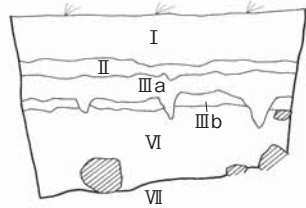
TP.23 南壁 L=37.200m



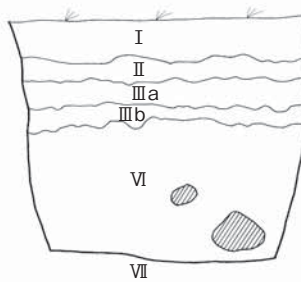
TP.24 南壁 L=22.900m



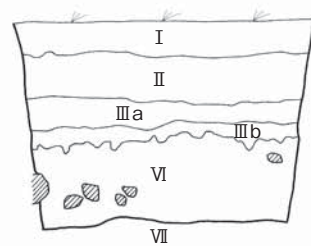
TP.25 南壁 L=33.100m



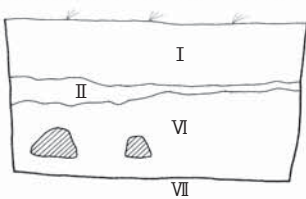
TP.26 南壁 L=32.600m



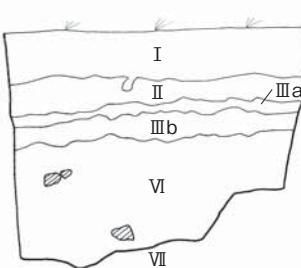
TP.27 南壁 L=29.200m



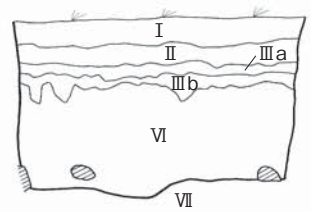
TP.28 南壁 L=26.800m



TP.29 南壁 L=32.800m

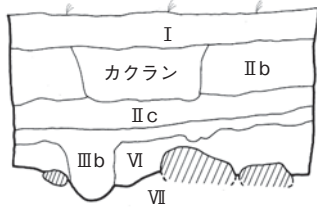


TP.30 南壁 L=38.600m

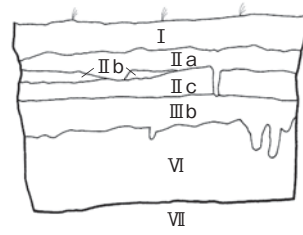


第5図 諏訪地区調査坑土層実測図② (S=1/50)

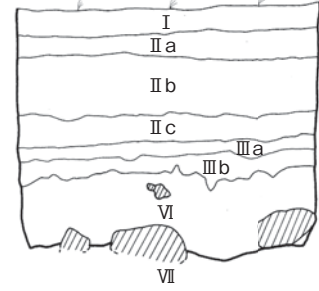
TP.31 南西壁 L=39.200m



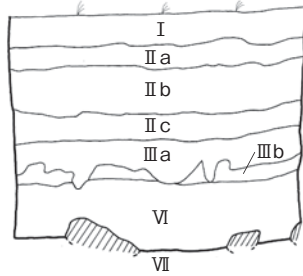
TP.32 南西壁 L=39.200m



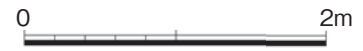
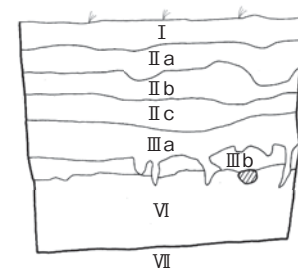
TP.33 南西壁 L=39.200m



TP.34 南西壁 L=36.400m



TP.35 南西壁 L=35.400m



第6図 諏訪地区調査坑土層実測図③ (S=1/50)

## 第Ⅲ章 本調査

### 1 調査の方法

調査の実施にあたっては、調査範囲の設定後にまず重機による表土剥ぎを行い、その後、調査グリッドの設定を行った。調査グリッドは世界測地系に則って、 $X = -30180$ 、 $Y = 79920$ の地点をA1として基点に定め、遺跡全体を網羅するように4m四方のグリッドを配置し、北から南へアルファベットを、西から東へアラビア数字を順に割りあて、北西隅の地点名をもって各々のグリッド名称とした(第7図)。また、調査グリッドとは別に調査運営上の便宜的な調査区の部分的呼称として調査小区(1区～7区)を設定し、記録作業などにおいて用いた(第8図)。

表土剥ぎ後の掘削は人力によって行い、攪乱部を取り除いたのちに主要な遺物包含層であるⅢa層とⅢb層を対象として層位ごとに作業を進めた。Ⅲa層、Ⅲb層の出土遺物については、座標観測を行って出土地点の記録を取り、ドットマップを作成した。

遺構の検出作業は、層位ごとの遺物の検出・観測と取り上げの作業が終わった段階で行った。遺構の掘削については、半裁して遺構の規模や深さ、堆積状況、性格などを把握したうえで完掘するように努め、遺構内に出土遺物があった場合には、それぞれの遺構ごとに整理番号を振って取り上げた。各検出面での遺構を完掘した段階で遺構配置図の作成を行うとともに、完掘状況の写真撮影を行った。必要に応じて、個別の遺構について平面図と断面土層図の作図と写真撮影を行った。

調査区の全体的な堆積状況については、調査小区の境界部分などに設けた土層観察用ベルトを残して確認しながら掘削し、遺物包含層の掘削が完了した時点で調査区壁面と合わせて写真撮影及び土層実測図の作成を行った。すべての掘削作業が完了した段階で航空写真撮影を行い、調査完了後は完掘状態のまま事業者へ調査現場の引き渡しを行った。

### 2 基本土層

諏訪ノ上遺跡における基本土層については、以下のとおりである。基本的には、試掘調査の結果とも変わらない。深江町域において整理されつつある基本層序に対応が可能である。

I層 暗褐色土。耕作土。

II層 暗褐色土。近世以降の造成土。

Ⅲa層 黒色土。突帯文期を主体とする遺物包含層。

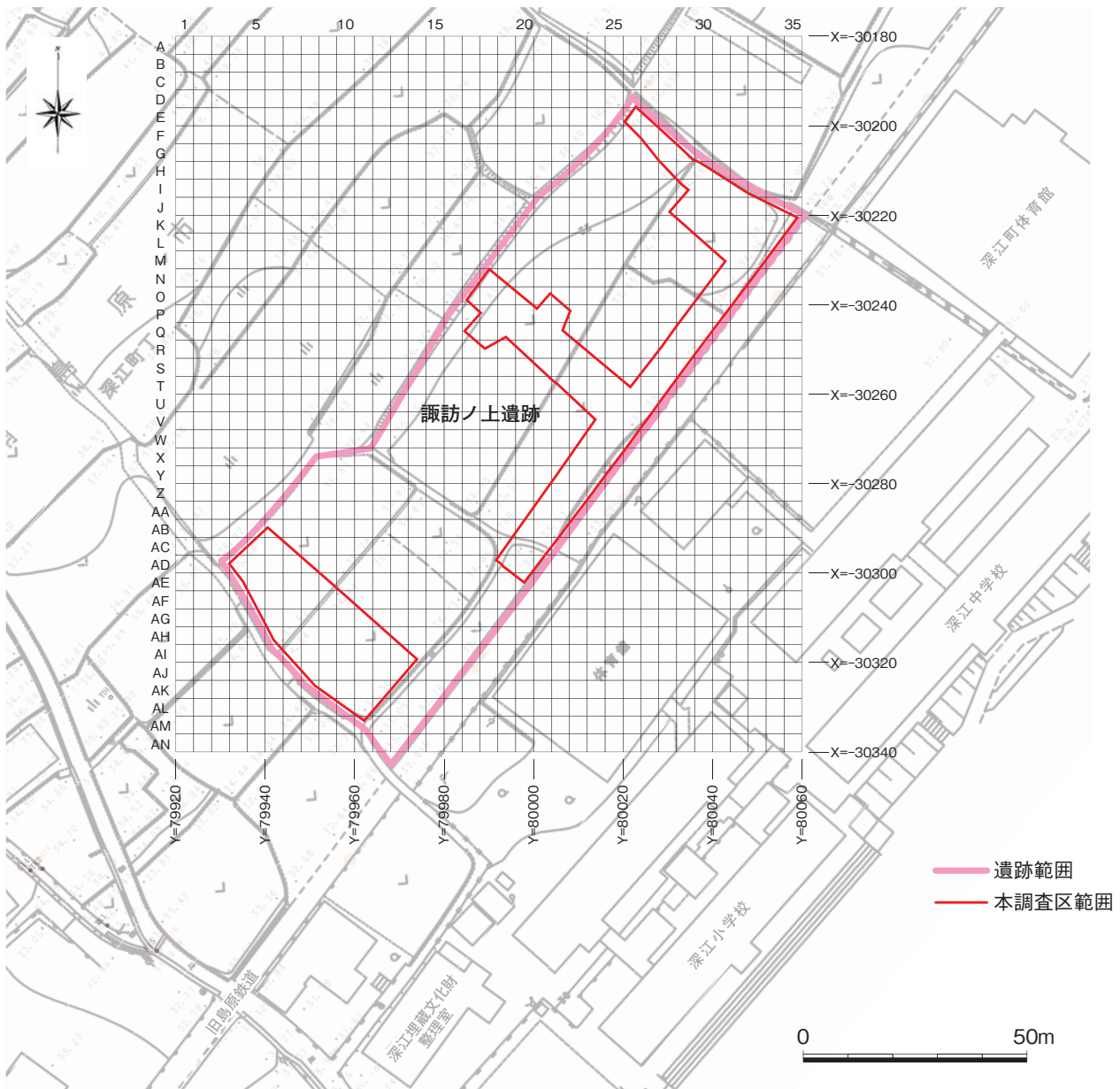
Ⅲb層 暗褐色土。突帯文期を主体とする遺物包含層。

VI層 褐色土～黒色土。

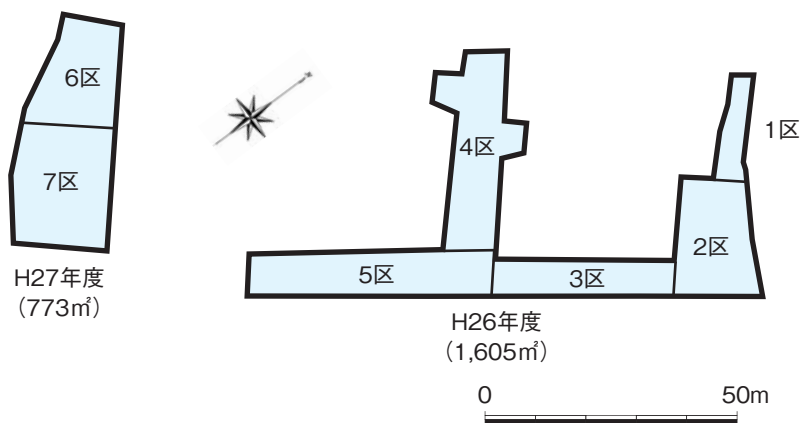
VII層 灰白色砂礫。土石流堆積物

平成26年度の本調査区については、近世以降に大規模に行われてきた耕作地の造成によって、各ほ場の山手部分(ほ場間石垣の海手側)でⅢ層より下位まで削平が及んでいる状況が確認され、そこでは遺物の出土はほとんどみられなかった。

出土遺物の主体を占めるのは突帯文期の資料で、Ⅲa層及びⅢb層からそのほとんどを検出した。それより上位層は近世以降の堆積である。後世の人為的な削平を受けていないと考えられる地点においては、Ⅲa層は層厚5cm程度、Ⅲb層は層厚25cm程度の堆積をみせた。Ⅲa層、Ⅲb層ともに



第7図 グリッド配置図 (S=1/1,500)



第8図 調査小区配置図 (S=1/1,500)



1区北西壁 (a)



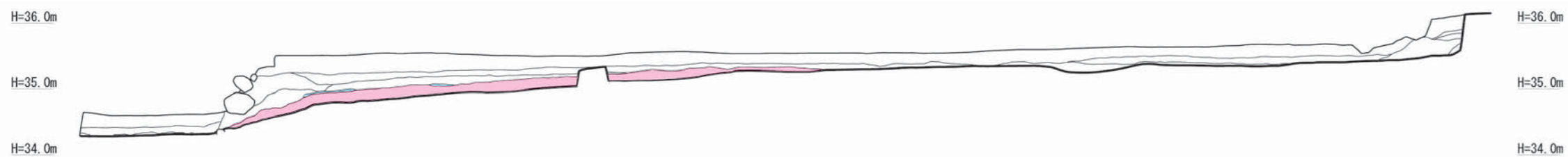
1区横断 (b)



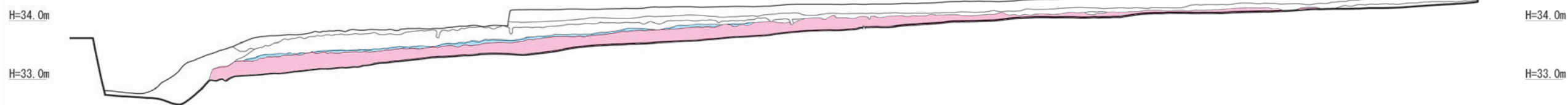
2区北西壁 (c)



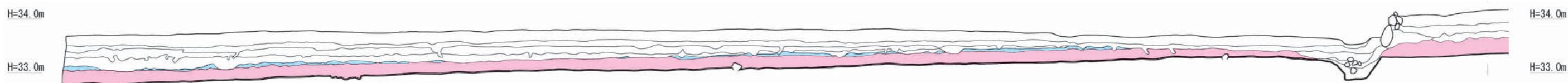
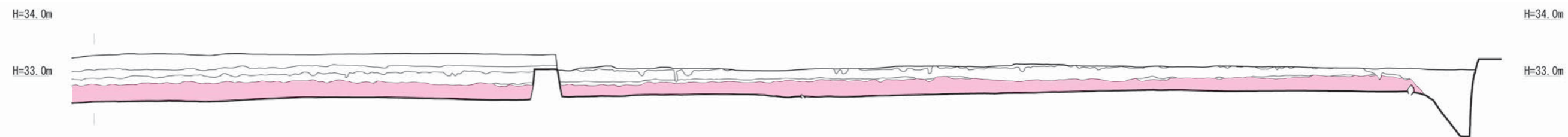
1区南西壁 (d)



3・2区境界ベルト, II区南西壁 (e)



3区北西壁 (f)

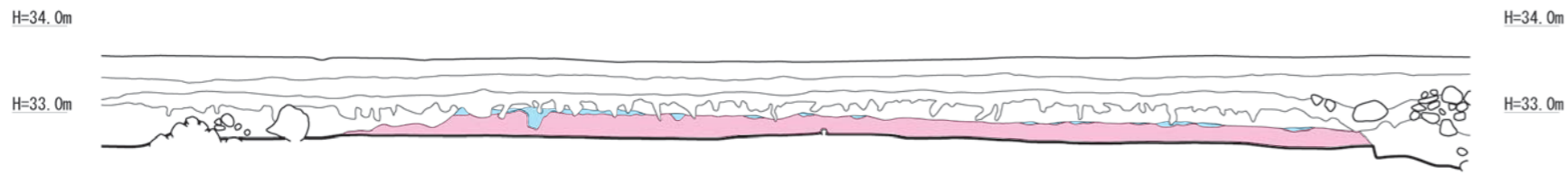


IIIa層  
IIIb層

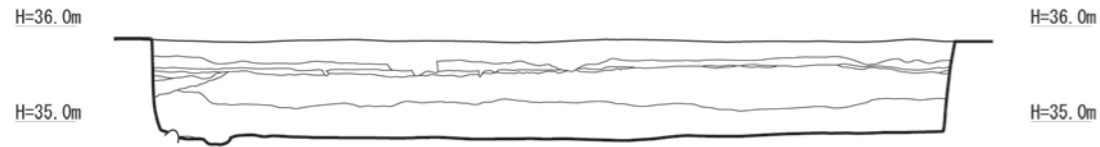


第9図 土層実測図① (S=1/80)

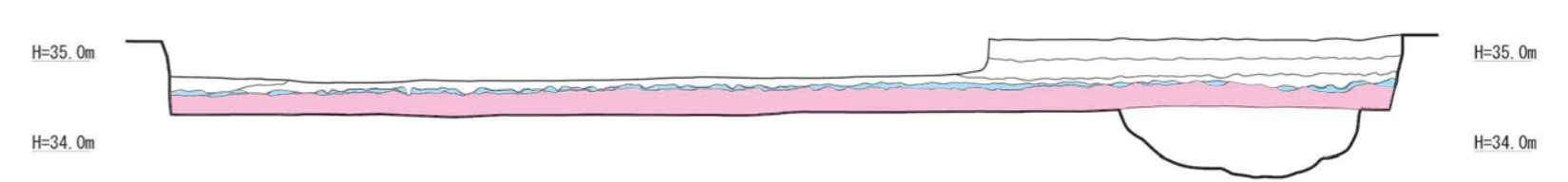
3区南東壁 (g)



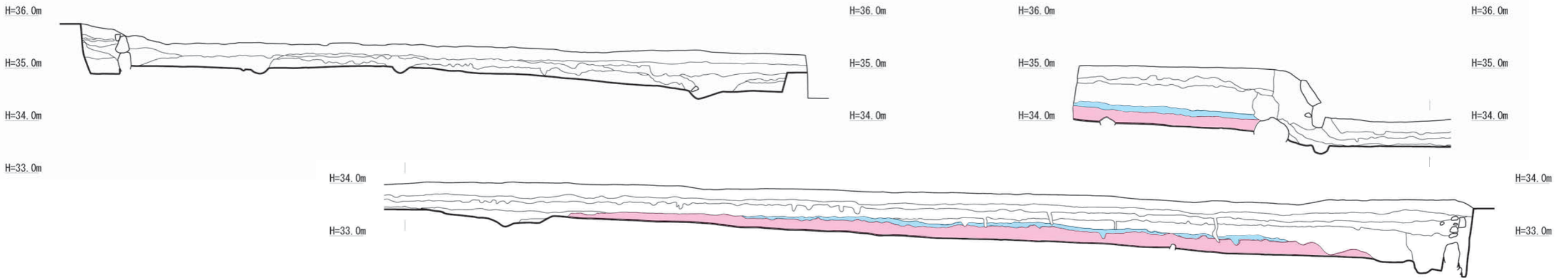
4区北西壁 (h)



4区横断壁 (i)



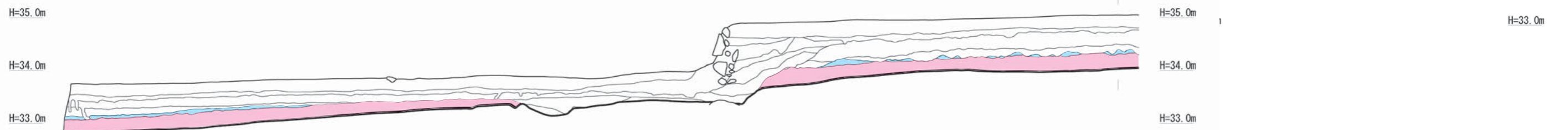
4区北東壁, 3・5区境界ベルト (j)



4区南西壁 (k)



III a層  
III b層

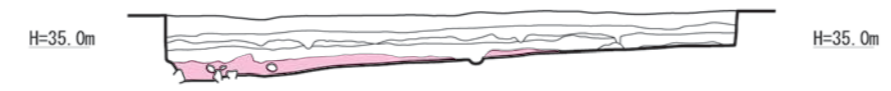


第10図 土層実測図② (S=1/80)

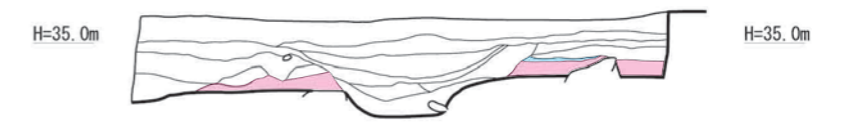
4区南西側張出部西壁 (l)



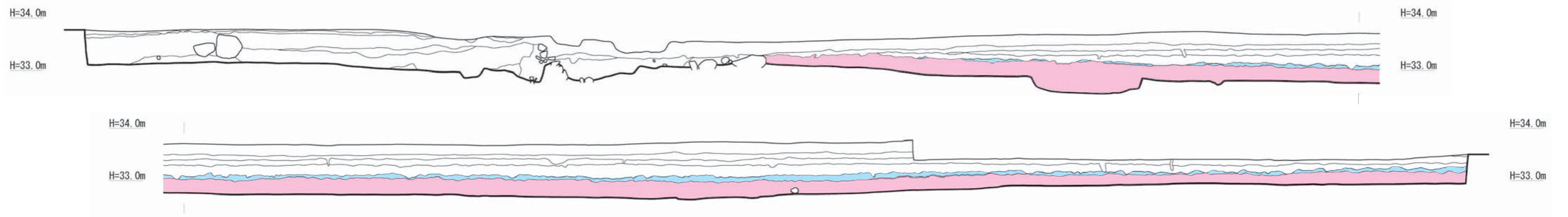
4区南西側張出部北西壁 (m)



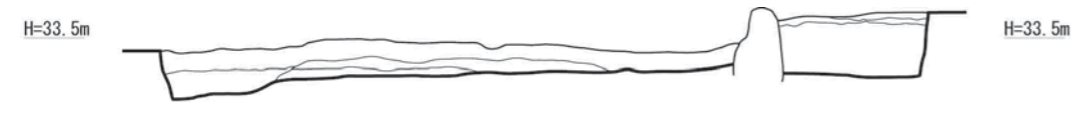
4区南西側張出部南東壁 (n)



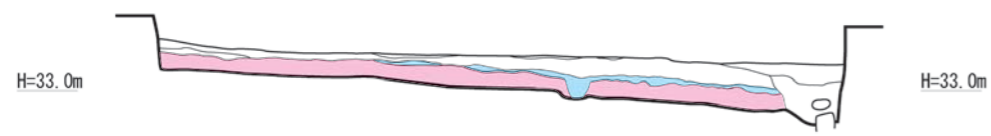
5区北西壁, 4・5区境界ベルト (o)



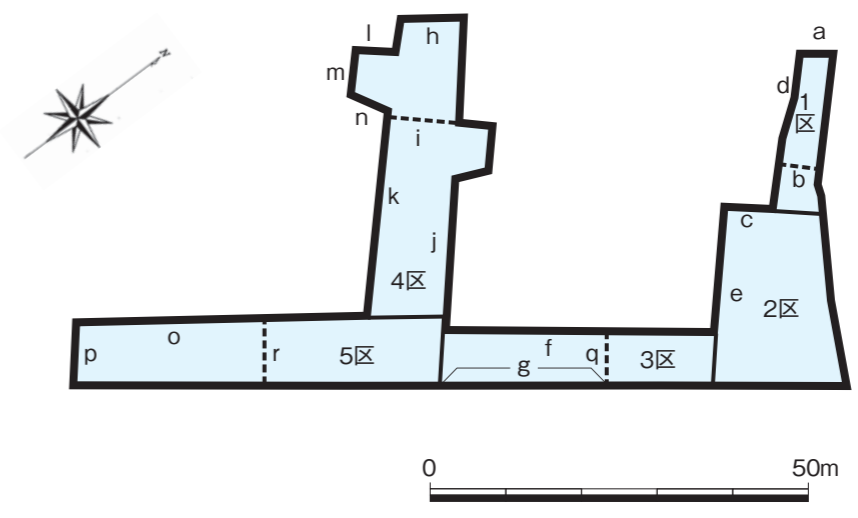
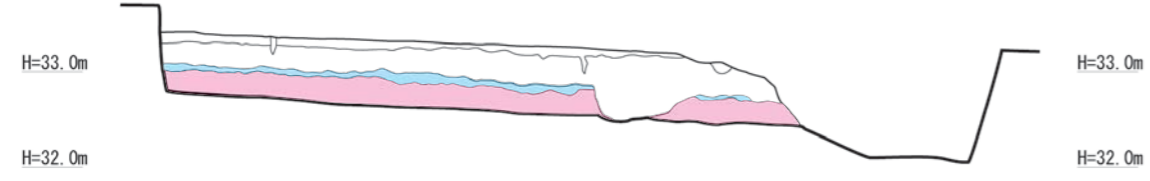
5区南西壁 (p)



3区縦断ベルト (q)

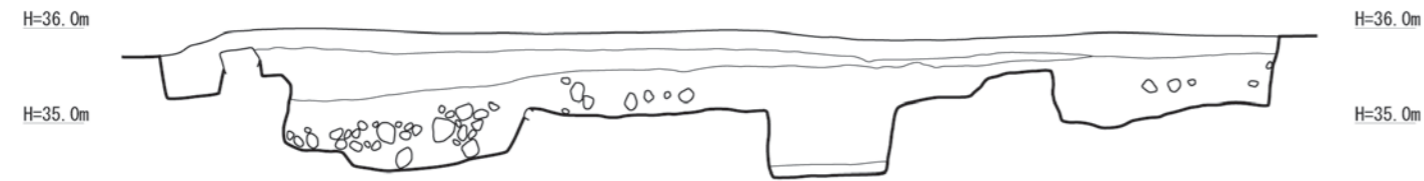


5区縦断ベルト (r)



第11図 土層実測図③ (S=1/80)

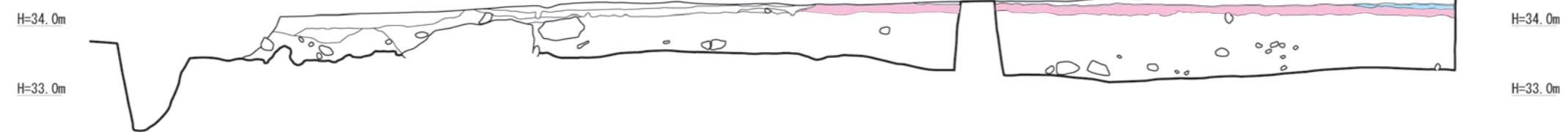
6区北西壁 (s)



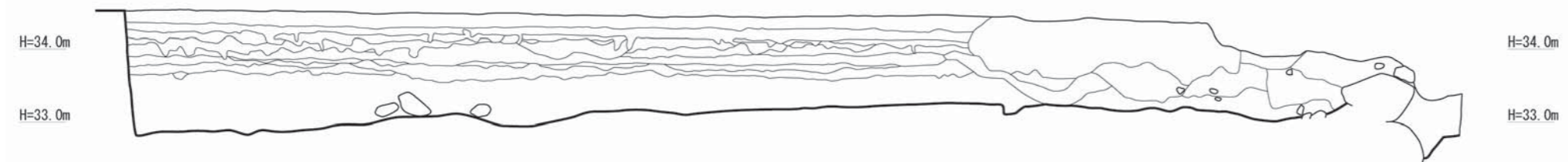
6区横断ベルト (t)



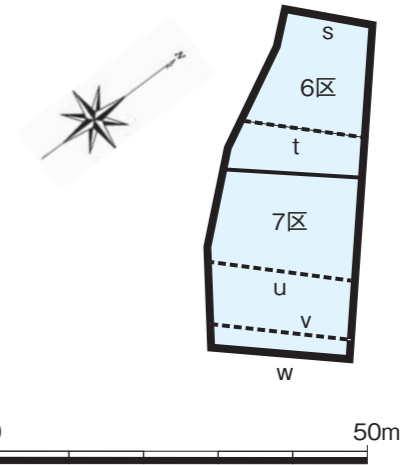
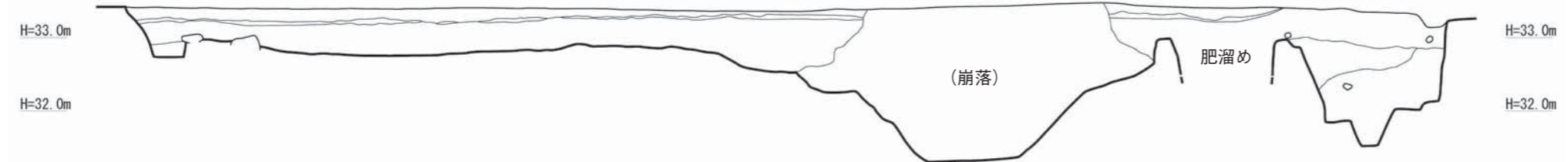
7区横断ベルト (u)



7区横断トレンチ (v)



7区南東壁 (w)



IIIa層  
IIIb層

第12図 土層実測図④ (S=1/80)

きめの細かい火山灰質土であるが、Ⅲ a 層はほとんど礫を含まずやや粘性を有するのに対し、Ⅲ b 層は 2 cm 以下程度の小礫を含み、Ⅲ a 層に比べれば粘性は低い。深江町域でも比較的標高の高い地点で確認される雲仙眉山の縄文噴火による浅黄橙色の火山灰層（Ⅳ層）は認められなかった。一方、本来Ⅳ層中に包含される火山煉瓦については、掘削中に小片がわずかに認められ、これらは山手からの二次堆積とみられる。

平成27年度の本調査区については、Ⅲ a 層及びⅢ b 層の大部分が削平を受けており、造成土であるⅡ層を除去するとⅥ層以下が広く露出する状況であった。調査区南西側の調査区壁面近くでは、固結した土石流堆積物のⅦ層が耕作土下に露出する部分もみられ、この付近では近世以降の耕作地造成のための削平が平成26年度調査区付近よりも大きいことがうかがわれた。

### 3 遺構

#### 平成26年度調査（1～5区）

2・3区及び5区においては、南東側（海手側）で大きく段差を形成する落ち込みが確認され、これを埋め込む状況が見られた。旧島原鉄道南目線の敷設に伴う埋め立て造成であると考えられた。また、5区南西部では大きく削平・攪乱が及んでおり、遺物包含層の残存は認められなかった。3区では縦長の調査区の中ほどを横断するようには場の境界に沿って溝状の遺構が確認され、通路であろうか。突帯文期の遺構と考えられるものとしては、2区において土坑の検出があった。

#### 土坑（第15図）

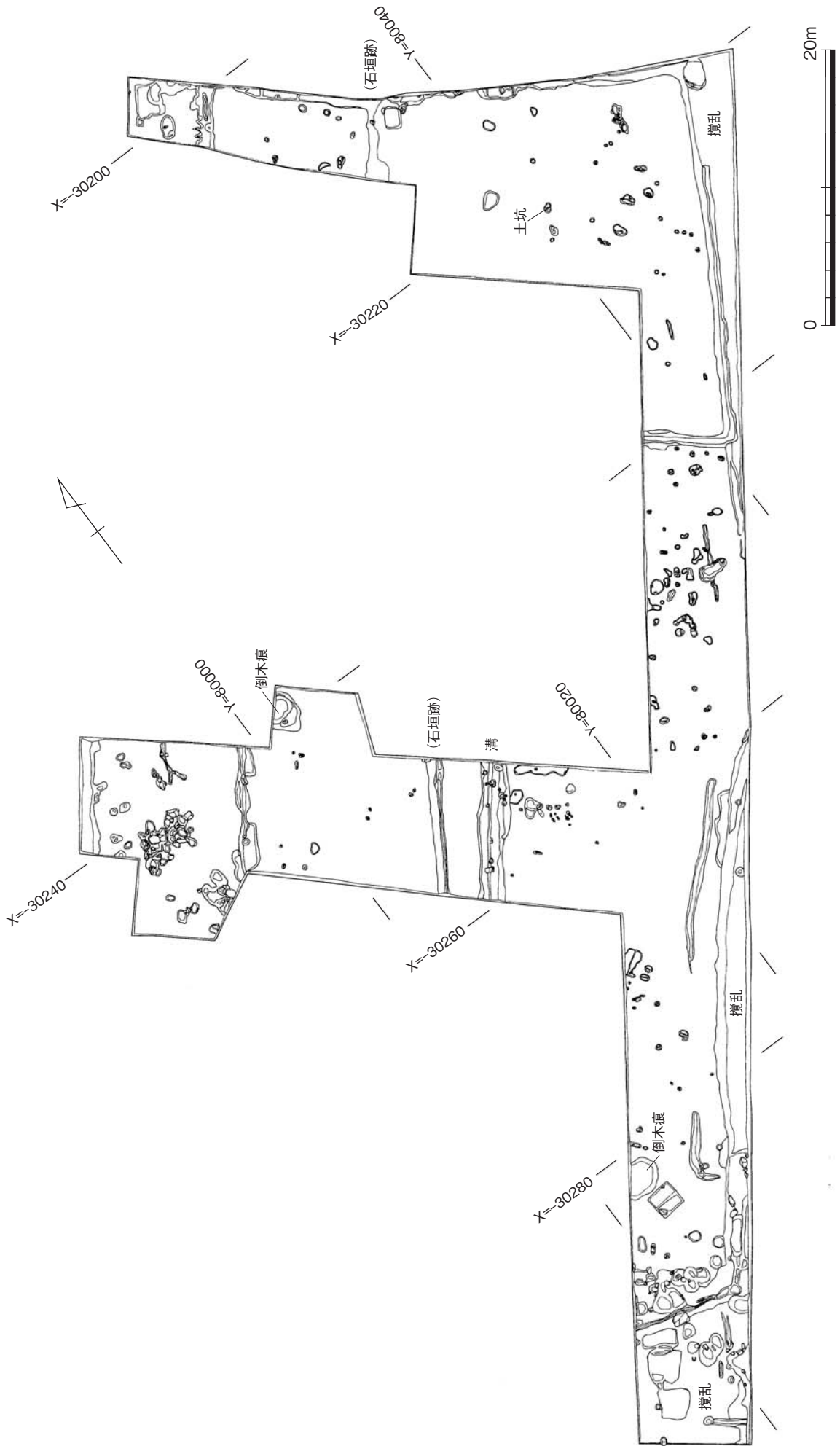
平成26年度調査の2区、調査グリッド K31において、Ⅳ層上面より不整形の土坑を検出した。長軸 79cm、短軸 50cm を測り、主軸を傾斜と直交する方向にとる。底面はわずかに段差をもっており、最深部で 15cm の深さである。遺構内より砂岩製の有溝砥石（第52図118）の出土があった。

#### 平成27年度調査（6・7区）

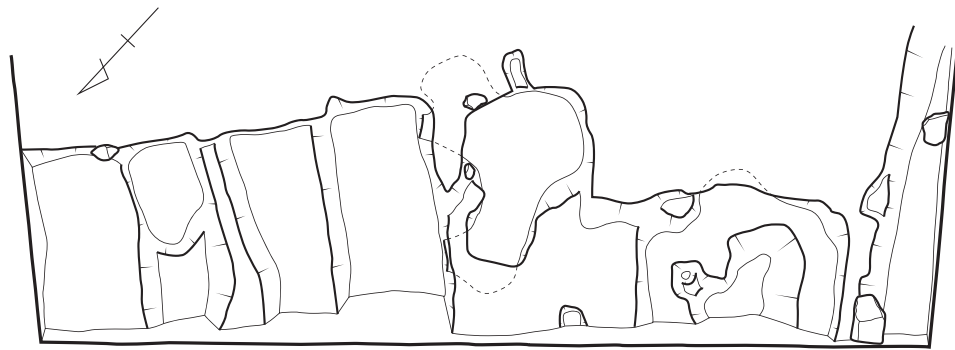
調査区全体が大きく後世の削平・攪乱を受けており、明確に突帯文期の遺構と判断されるものの検出には至らなかった。調査区南西壁付近は地割の石垣造成によって攪乱を受けていた。また、南東壁付近は現代物を多く含む埋め立て造成で、これを除去すると肥溜めが確認されるなどした。27年度調査区をほぼ中央で6区と7区に分断するほ場境界石垣の海手では、3区と同様の溝状の遺構が確認され、おそらく3区のものとして連続すると思われる。また、調査グリッド AK10、AK11では左岸に石列を伴う幅約 1.4m、深さ約 40cm の U 字溝を検出した。近世以降の所産と考える。調査区の最も山手では方形の区画が並ぶ性格不明の大型遺構が確認された。

#### 不明大型遺構（第16図）

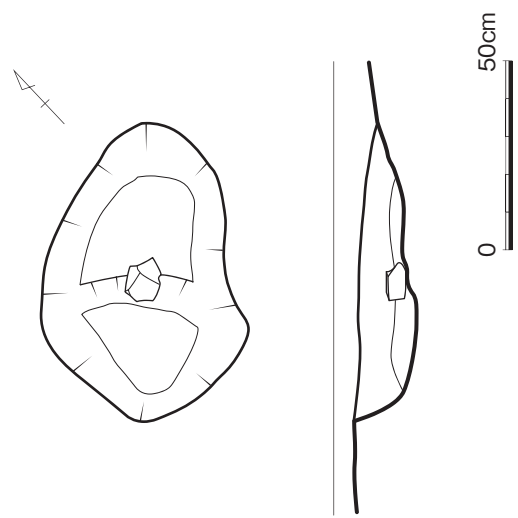
6区の最も山手の地点において、Ⅶ層に掘り込む大型で方形の区画が複数並んで確認された。土石流起因の水成堆積をみせるⅦ層は固結が一定程度進行しており、それを掘り込んだ区画は壁面を作って隣り合っていた。また、埋土はⅦ層の砂礫とⅡ層土が攪乱して堆積しており、ガラスなどの現代物を含んでいることから、ごく新しい時期に埋没したことがうかがえた。おそらく厚い堆積をみせるⅦ層の半固結した砂礫層を、壁や天井を残して掘り込んだ地下式の室のような構造で、天井の落盤によってその機能が失われたものと判断した。遺構の性格や造成時期を断定するには至っていないが、近世以降のものと考えておきたい。



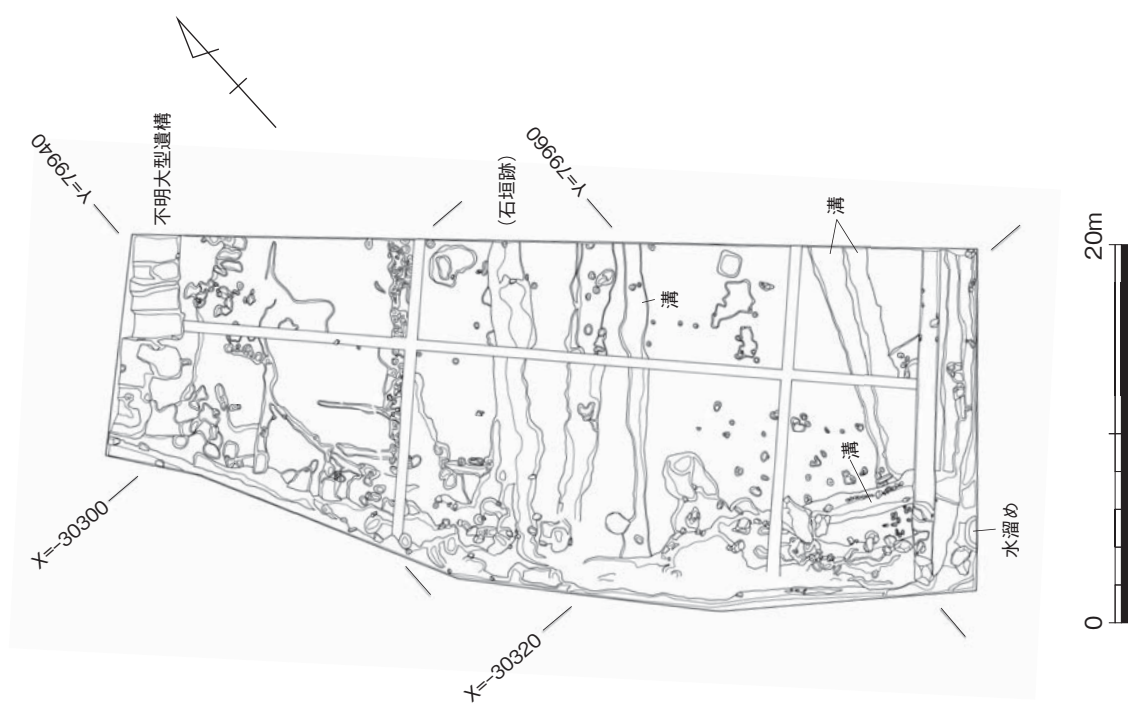
第13図 遺構配置図 [1~5区] (S=1/400)



0 5m  
第16図 不明大型遺構 (S=1/100)



0 50cm  
第15図 土坑実測図 (S=1/20)



0 20m  
第14図 遺構配置図 [6・7区] (S=1/400)

#### 4 出土遺物

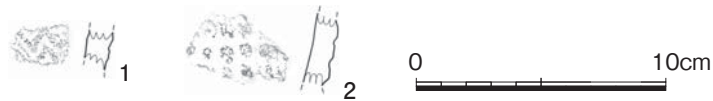
##### (1) 土器・陶磁器

諏訪ノ上遺跡より出土した土器・陶磁器類は、時期別に以下のように大別される。

- 1群 縄文時代早期の土器
- 2群 縄文時代後期の土器
- 3群 縄文時代晩期・突帯文期の土器
- 4群 弥生時代中期～古墳時代の土器
- 5群 中・近世の土器・陶磁器

##### 1群 縄文時代早期の土器

1・2ともに小片であるが、1は山形押型文、2は楕円押型文が外面に観察される。



第17図 出土土器実測図① (S=1/3)

##### 2群 縄文時代後期の土器

3は鉢もしくは深鉢の資料で、内外面ともに研磨調整を施し、肥厚する口唇部外面には縄文と沈線の施文がある。4～6は深鉢の口縁部で、いずれも口唇部を肥厚させ、内外面ともに研磨調整を施す。7は波状をなす鉢口縁部の波頂部で、外面には2条の沈線を引く。8は外反する頸部に内湾する口縁部がつく。口唇部は欠損するが、外面に凹線が認められる。



第18図 出土土器実測図② (S=1/3)

##### 3群 縄文時代晩期・突帯文期の土器

9～44はいずれも深鉢の資料である。全体的な器形がわかるものはないが、砲弾形をなすもの、胴部上位で屈曲するもの、肩部をもつか緩いS字状のカーブをなして外傾もしくは外反する口縁部へと至るものがあると考えられる。

9は直立する口縁部で、内外面ともに丁寧なナデ調整を見せる。あるいは2群土器に含まれる可能性もある。10は口唇部を平坦に整える。15～21の口唇部は内面をナデ調整により丸く収め、外端に稜を作る。17～21は内傾しており、胴部上位で屈曲するものか。

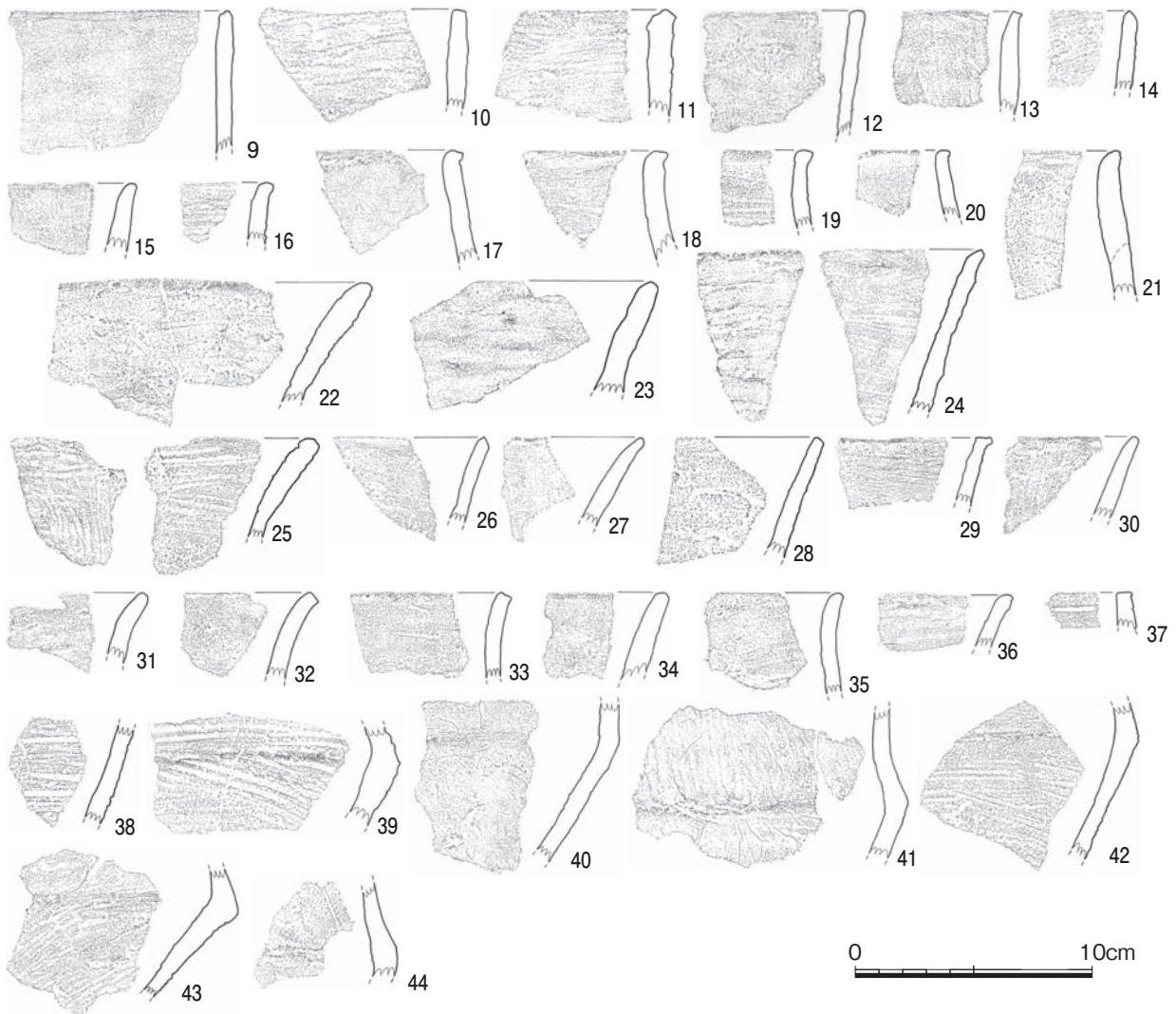
22～36は大きく外傾もしくは外反しており、黒川式期に見られる深鉢の資料であると考えられる。22は厚手で、大きく外反する。23は内面に指頭圧痕を残す。24は外面に横方向の指ナデがみられる。25は



強く外反しており、内外面に横方向の貝殻条痕調整を施すが、外面にはその後縦方向の研磨調整を行っている。27、29・30、32・33は口唇部上面を平坦に整える。

37・38は間隔の広い平行な沈線文を外面に引く。

39~44は胴部の資料である。39の外面は、屈曲部より下位に斜方向の、上位に横方向の貝殻条痕調整が認められる。41の外面には横方向の貝殻条痕調整ののちに縦方向の粗い研磨調整が施される。43は屈曲が強く、あるいは肩部となって口縁部へは大きく開いて立ち上がるかもしれない。



第19図 出土土器実測図③ (S=1/3)

45～184は刻目突帯文土器の甕である。

45～87は指先による刻目が施されている資料である。

45は強く屈曲する2条甕で、口縁部の突帯は口唇部に近接して貼りつけられる。外面においての調整は、胴部が斜方向の貝殻条痕をそのまま残し、胴部突帯の下位から口縁部にかけては横方向の貝殻条痕調整ののちにナデ調整を施している。内面の調整は、横方向の貝殻条痕調整ののちにナデ調整である。内外面ともにわずかではあるが炭化物の付着が認められる。復元口径は24.0cm、復元胴部最大径は29.6cmを測る。46は内傾する口縁部の資料で、口唇部からやや下がった位置に背の高い三角突帯を張りつけている。外面には横方向の貝殻条痕調整を残し、内面は擦過調整ののちにナデ調整を施す。復元口径は35.8cmを測り、口径のわりに薄手のつくりである。47は胴部突帯から下位の資料である。外面には指先で器面を掻き取るような調整が行われ、横方向に粗い筋状の痕跡が残る。内面には横方向の貝殻条痕調整ののちにナデ調整が行われている。外面には炭化物の付着が認められる。復元胴部最大径は45.0cmである。

48は内傾する口縁部で、口唇部断面は先細りとなって外反する。外面に炭化物の付着が認められる。49の口縁部には直接刻目が施される。51の突帯は低く、刻目は小ぶりである。52は内傾が強く、外反して立ち上がる。66は焼成が甘く器面の状態が良くない。低い突帯が口唇部に接して貼り付けられており、線刻が認められる。

68は強く屈曲し、口縁部へは内傾する。69は明瞭には屈曲をせず、膨らむ胴部の最大径部分に突帯を張り付けている。68～70の外面調整は、いずれも突帯より上位を丁寧にナデ調整によって仕上げている。72の刻目は突帯をこえて胴部まで深く達している。77は強い屈曲をみせ、突帯への刻目は指刻みにしてはやや小ぶりである。突帯より下位には斜方向の貝殻条痕調整が認められる。82、85の刻目は大ぶりである。

88～134は棒状工具の側面押しあてによる刻目を施した資料である。

88～117は口縁部の資料、118～134は胴部の資料である。

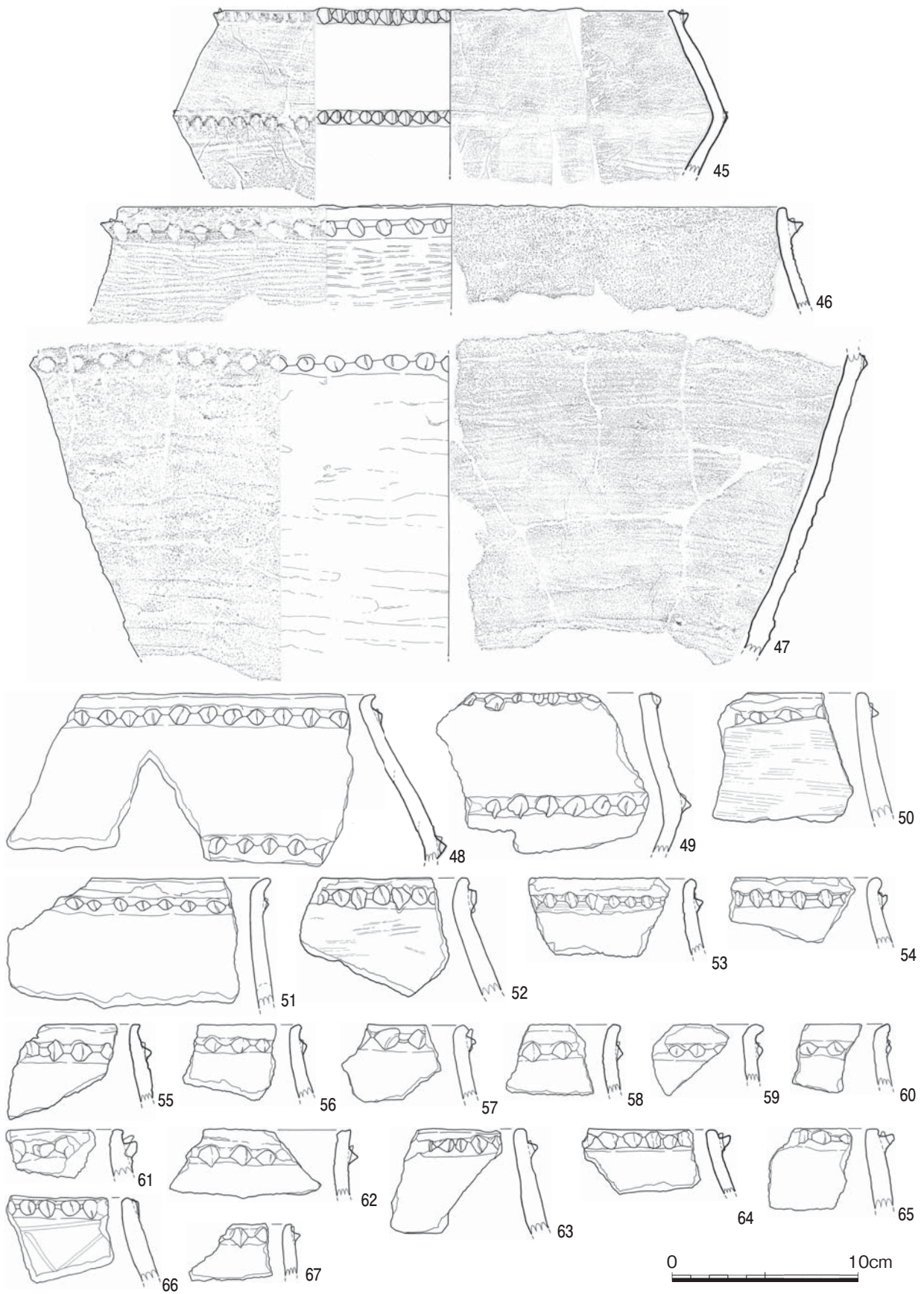
88は強く内傾する口縁部で、復元口径27.4cmを測る。89は口縁部と胴部に刻目突帯をもち、復元口径17.8cm、復元胴部最大径22.4cmを測る。胴部突帯は下向きに貼りつけられ、2条の突帯間は丁寧にナデ調整が施されている。90、92は薄手の器壁で、口唇部は外反する。97、99～101、104は細めの工具で細かく刻目が入る。112は口縁部と胴部に2条の刻目突帯文をもつが幅が狭く、小型品か鉢である可能性もある。外面に炭化物の付着がある。113の突帯は細く、刻目も細い。114には焼成後に内外面から作業した穿孔がみられる。

122、125、128、130はいずれも非常に薄手のつくりで、屈曲部の突帯は細く、刻目も細かい。128は明瞭に屈曲せず、最大径部分に突帯を張りつけ、突帯より下位には斜方向の貝殻条痕調整が残る。126も明瞭には屈曲せず最大径部分に突帯を貼りつけている。刻目は大ぶりである。127、129～131の外面には炭化物の付着が認められる。133には突帯下に横方向の貝殻条痕調整が施されている。

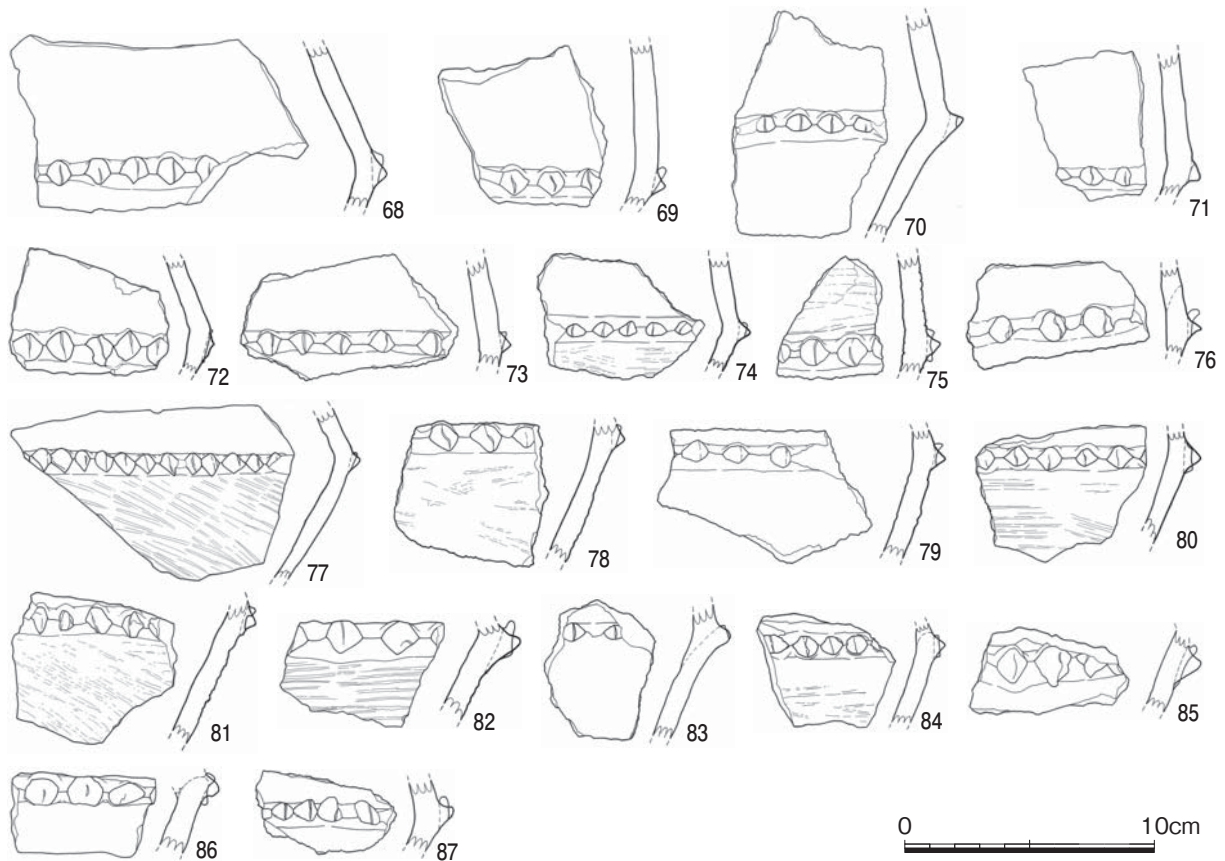
135～176はヘラ状工具による刻目が施された資料である。

135～139は2条の刻目突帯が認められる資料、140～158は口縁部の資料、159～176は胴部の資料である。

135は復元口径26.6cm、復元胴部最大径31.2cmを測る。内外面ともにナデ調整を施す。胴部から



第20图 出土土器实测图④ (S=1/3)



第21図 出土土器実測図⑤ (S=1/3)

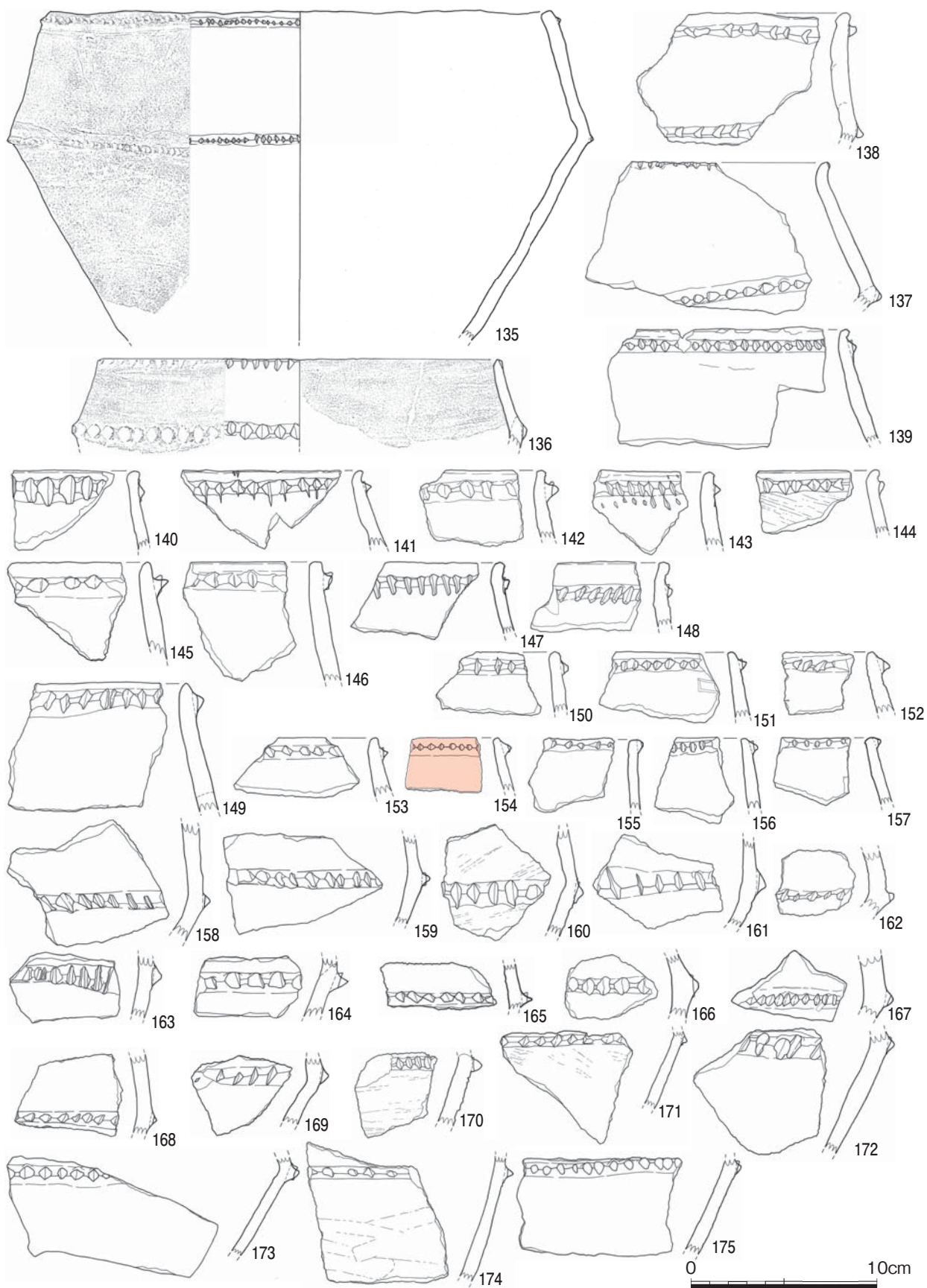
しっかりと屈曲した口縁部は直線的に内傾して、口縁部は丸く収める。2条の突帯は非常に細く、刻目も細かい。胴部突帯より下位には炭化物が付着する。胎土に2mm大の石英を多量に含むのが、他の資料と異なり特徴的である。136は内外面ともに丁寧なナデ調整が行われている。口唇部には突帯を張りつけることなく直接刻目を施している。あるいは鉢形となるか。137は強く屈曲して内傾する口縁部の資料で、外反する口唇部に直接刻目を入れる。外面は丁寧なナデ調整である。口縁部と胴部突帯が平行しておらず、波状口縁になることも考えられる。

138は細めの突帯を2条貼りつけるが、どちらもなでつけが十分でない。141は非常に鋭利な工具を用いており、器面にまで痕跡が残る。148は比較的薄手の器壁で細い突帯を貼りつけるが、深めの刻目は器壁まで及んでいる。151は外面にナデ調整を施し、線刻を入れる。154~157は薄手の資料で、丁寧なナデ調整によって仕上げられている。突帯は口唇部に接して貼りつけられ、刻目は非常に細かい。154の外面には丹塗りが施され、鉢である可能性もある。

161には大ぶりの刻目が施される。163の屈曲は不明瞭である。165は薄手の器壁で、細くて背の高い三角突帯を貼りつける。167は厚手の器壁のわりに刻目が細かく入る。171は薄手の器壁で外面には貝殻条痕調整を残す。174は外面に擦過調整が残り、細い突帯には間隔の広い細かい刻目が入る。171, 173, 176の外面には炭化物が付着する。



第22图 出土土器实测图⑥ (S=1/3)



第23图 出土土器实测图⑦ (S=1/3)

176・177は異種原体による刻目を施した資料である。176は内傾する口縁部の資料で、口縁部突帯は指先による刻目を、胴部突帯にはヘラ状工具による刻目を施す。177は胴部突帯には大ぶりの指先による刻目が入る。口縁部には突帯の貼りつけはなされず、口唇部外端に1箇所のみヘラ状工具によるものと思われる刻目が入るが連続してはおらず、意図的なものかは不明である。

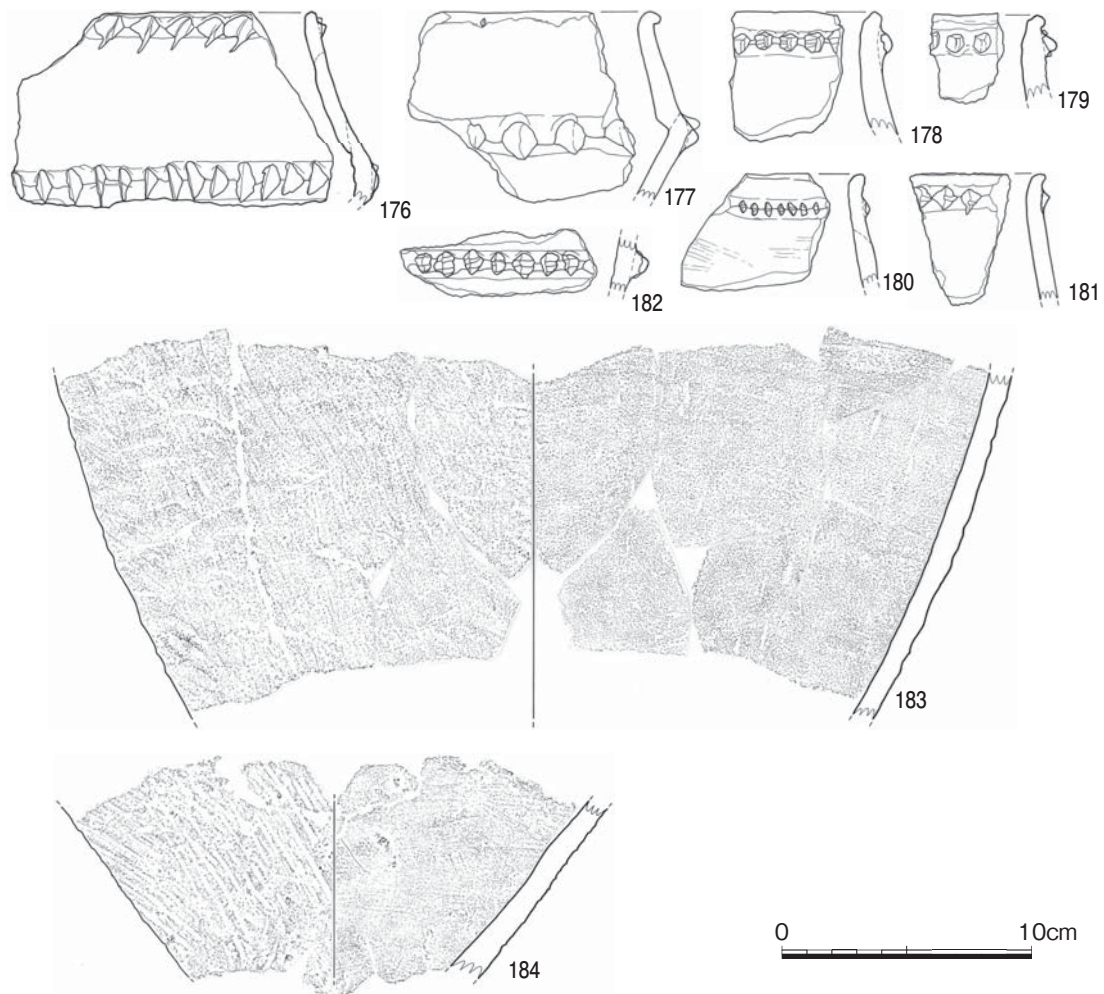
178・179は棒状工具の小口部分の刺突による刻目が施された資料である。180～182は貝殻腹縁による刻目の資料である。

183・184は胴部の資料である。おそらく刻目突帯文土器の甕下部と考えてよからう。183の外表面は縦方向の擦過調整が施されている。184は斜方向の貝殻条痕調整が外面に施されている。

185～228は深鉢もしくは刻目突帯文土器の底部である。185～187については、2群である可能性が高いと考えるが、底部としてここで一括して報告する。

185～188はわずかに上げ底となっており、外面は底部と胴部とが境界を作らず直線的に外へと広がるものである。185・186は内外面に、187は外面に研磨調整が施されている。185は復元底径9.0cm、186は復元底径7.0cmを測る。

189～193は外面が底部と胴部に境界をもつものの、はっきりとした張り出し底とはならないものである。189はわずかに底面に組織痕が残るものの、ナデ調整によって不明瞭である。190も底面に組織



第24図 出土土器実測図⑧ (S=1/3)

痕が残る。籠目であろうか。192の底面には研磨調整が施される。193の外面には縦方向の擦過調整が施されており、底面には不明瞭であるが組織痕が残る。復元底径は、189が9.0cm, 190が7.3cm, 191が10.0cm, 192が8.3cm, 193が7.6cm を測る。

194～215は張り出し底の資料である。194～202は平底のもの、203～215は上げ底のものである。194は底面に種子圧痕の可能性のある凹みが残る。198は外面に貝殻条痕調整を施す。復元底径は、194が6.9cm, 195が10.2cm, 196が10.0cm, 197が10.1cm である。また、198が8.6cm, 199が8.2cm, 200が8.5cm を測る。203の底面は指先によって粘土の掻き取りが行われ、高台状の上げ底となっている。底径は7.6cm を測る。204は復元底径6.1cm とやや小ぶり、鉢の底部である可能性もある。205・206は底面に掻き取り痕が残る。207の底面には凹凸が認められ、籠目などの組織痕の可能性もある。208・213の底面は輪郭部を残して内部は丁寧にナデ調整が行われている。209の底面には擦過調整が明瞭に残る。復元底径は205が9.1cm, 206が7.5cm, 207が8.9cm, 208が7.3cm である。また、209が8.7cm, 210が7.8cm である。

216～221は直線的に胴部へと開いて立ち上がるが、185～188のように研磨調整などは行われず、やや粗い作りのものである。216は組織痕の可能性のある圧痕が底面に残り、外面には貝殻条痕調整が施されている。217の底面には工具による擦過調整が明瞭に観察される。218はわずかに上げ底となる。219は底面及び外面に擦過調整が観察される。復元底径は、216が10.9cm, 217が7.6cm, 218が8.4cm, 219が9.1cm である。

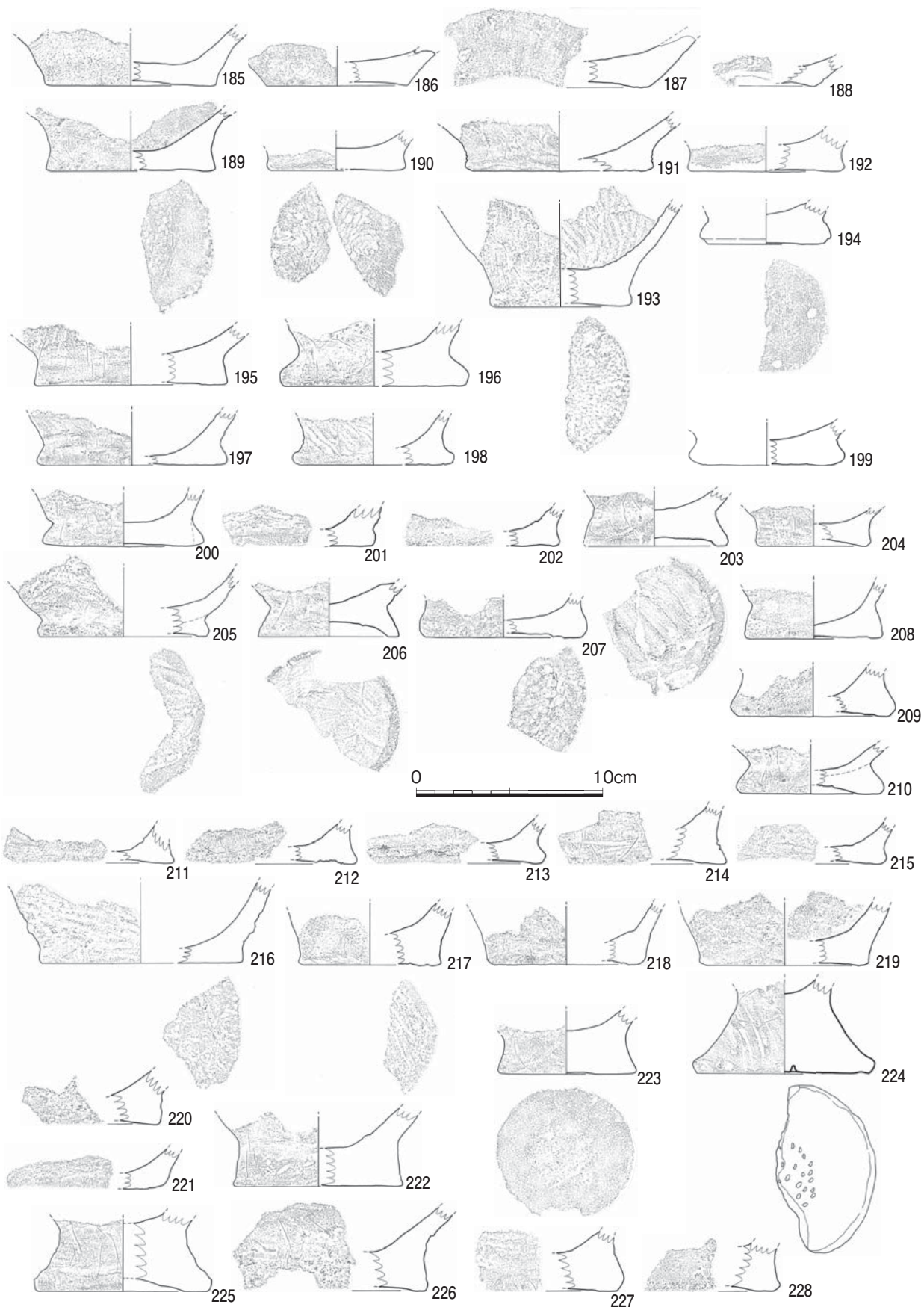
222～228は厚底の資料である。222は底面に擦過調整が残る。224は底面の中心部付近のみわずかに上がる。224は張り出しが強く、あるいは脚台を意識した作りかもしれない。胴部への立ち上がり部分の復元径は4.9cm と小さく、深鉢や突帯文土器の甕ではなく、別器種の可能性もある。底面中央付近に集中的に細い工具による刺突が認められ、おおよそ6mm程度の深さがある。225の底面は非常に滑らかで、磨石などを台として製作した結果かもしれない。復元底径は、223が7.4cm, 224が9.6cm, 225が9.5cm を測る。

229～256は鉢形の土器である。229は内傾する口縁部の資料で、口唇部は先細りとなり外反する。外面に線刻が認められる。内外面ともにナデ調整である。230も内傾する口縁部の資料で、229同様口唇部が外反する。231・232は薄手の器壁で、口唇部外端が張り出す。233・234は同一個体の可能性が高い。屈曲部で段を作り、その直上に1条の沈線を引く。外面は研磨調整が施され、本来の口縁部はおそらく製作時の粘土積み上げの境界部分で欠損したものと思われ、破断面を研磨することにより口縁部を再生している。233は復元口径17.6cm, 復元胴部最大径19.5cm, 234は復元口径16.0cm, 復元胴部最大径18.2cm である。

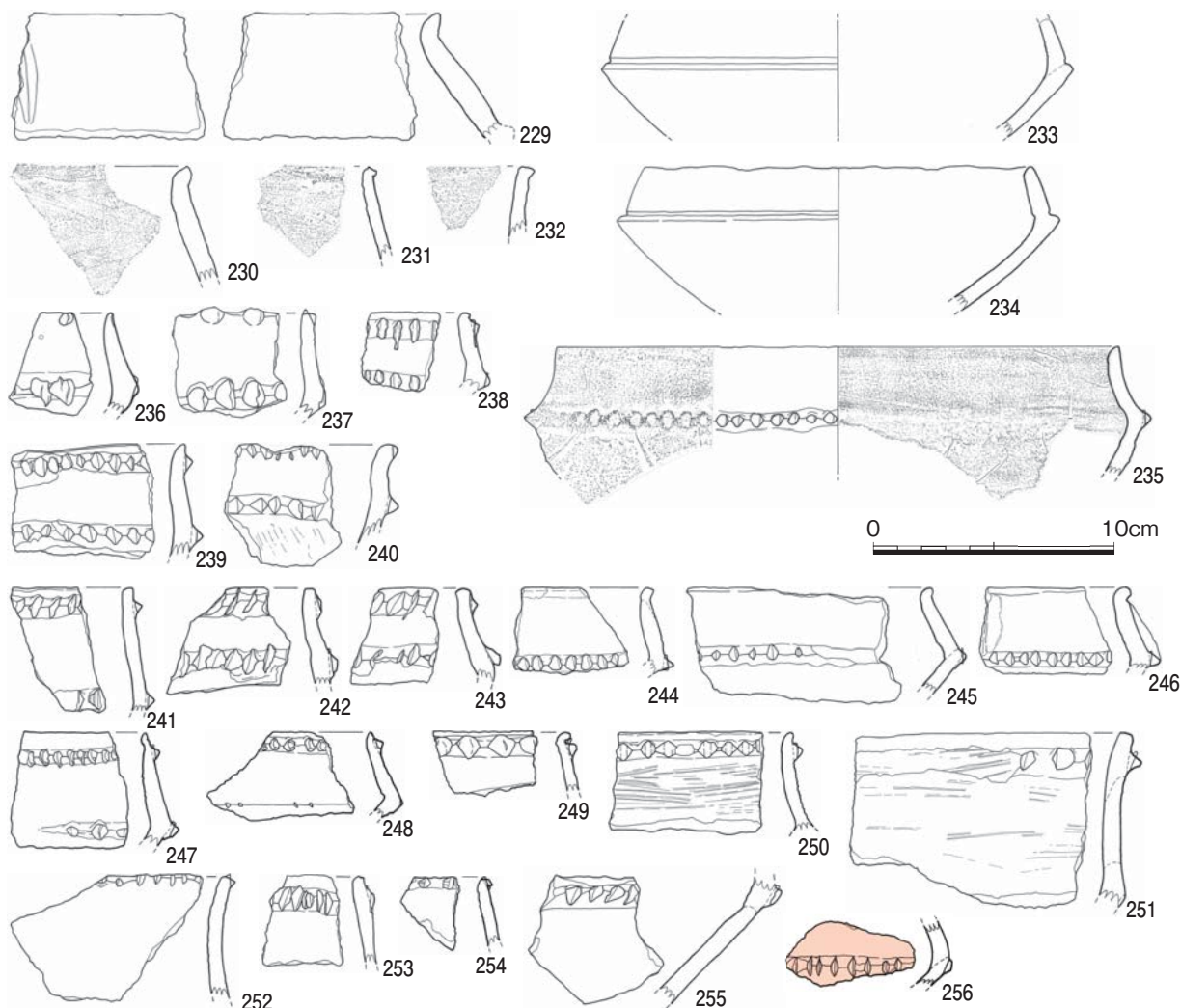
235は胴部突帯にヘラ状工具による刻目を施した資料である。外面は突帯より下位は擦過調整、上位はナデ調整、内面はナデ調整である。復元口径は23.2cm, 復元胴部最大径は25.4cm である。236・237はともに突帯を貼りつけることなく口縁部と胴屈曲部に指先によって刻目を施した資料である。236は先細りとなる口唇部、237は平坦に整えた口唇部である。

238・239はヘラ状工具による刻目を突帯に施した資料である。240は口縁部に直接、胴部には突帯を貼り付けて刻目を入れる。外面の胴部突帯より下位は貝殻条痕調整が認められる。241・242・243は口縁部と胴部に刻目突帯をもつ資料である。刻目はいずれもヘラ状工具によるものである。244・





第25图 出土土器实测图⑨ (S=1/3)



第26図 出土土器実測図⑩ (S=1/3)

245・246は胴部のみ突帯を貼りつけて刻目を施すものである。いずれもヘラ状工具による刻目である。246には口唇部から胴部の突帯への垂下する粘土紐の貼り付けが行われている。247は2条の突帯をもち、口縁部突帯は半裁竹管状工具による刺突によって、胴部突帯は指先によって刻目が施されている。胴部突帯は途中で途切れており、突帯の粘土紐の継ぎ目で剥落したものか意図的なものかははっきりしない。248は口縁部突帯には半裁竹管状工具の小口刺突によって刻目が入れられる。胴屈曲部には突帯を貼りつけることなく直接ヘラ状工具による刻目が入れられる。口縁部突帯直下には炭化物の付着が認められる。249は細い突帯に指先で大ぶりの刻目が入れられる。250の外面には横方向の刷毛目状の調整が施され、口縁部の突帯には棒状工具の側面押し当てによる刻目が入れられる。251は口縁部突帯にヘラ状工具による刻目が認められる。突帯の剥落した部分にも貝殻条痕調整が確認でき、器面調整ののちに突帯が貼りつけられたことがわかる。屈曲直上に炭化物の付着が認められる。252は外反する口縁部で、口唇部にヘラ状工具によって刻目が施される。253・254はヘラ状工具による刻目である。

255・256は胴部の資料で、ヘラ状工具による刻目が施される。255の外面には縦方向の研磨調整が認められる。256は屈曲部に直接刻目が入れられ、外面には赤色顔料の塗布が認められる。

257～518は浅鉢の資料である。

257・258は大きく開く頸部に短い口縁部が立ち上がり、口縁部外面には1条の沈線を引く。

259～269は波状口縁となる資料である。259～267には刻目突帯がつく。259は、口縁部突帯は口唇部に接しており、胴部突帯部分では屈曲しない。刻目は細い棒状工具によるものである。260は屈曲部に突帯を貼りつけ、ヘラ状工具によって刻目を施す。261は口縁部が玉縁状となって肥厚しており、刻目は指先によるものである。262・263・264は内外面ともに研磨されており、ヘラ状工具による刻目である。265は器面の状態があまりよくないが、細い棒状工具先端による刺突列点を突帯上に施す。266は口唇部に接して貼りつけた突帯に棒状工具による刻目を施す。267は肥厚させた口唇部のやや下がった位置に突帯を貼りつけ、その頂端部にヘラ状工具によって小刻みの刻目を入れる。268は内外面ともによく研磨されている。269は屈曲に粘土紐を貼りつけて段を強調しており、口縁部は外反する。外面と内面口縁部付近は研磨調整である。

270～280は壺形もしくは皿形になる資料である。270の外面はナデ調整、内面は研磨調整で、外面には炭化物の付着が認められる。272・273は内外面ともに研磨調整が施されている。275～280はいずれも内外面ともに赤色顔料の塗布が行われ、280は器面の状態が良くないが、それ以外は研磨調整が施されている。

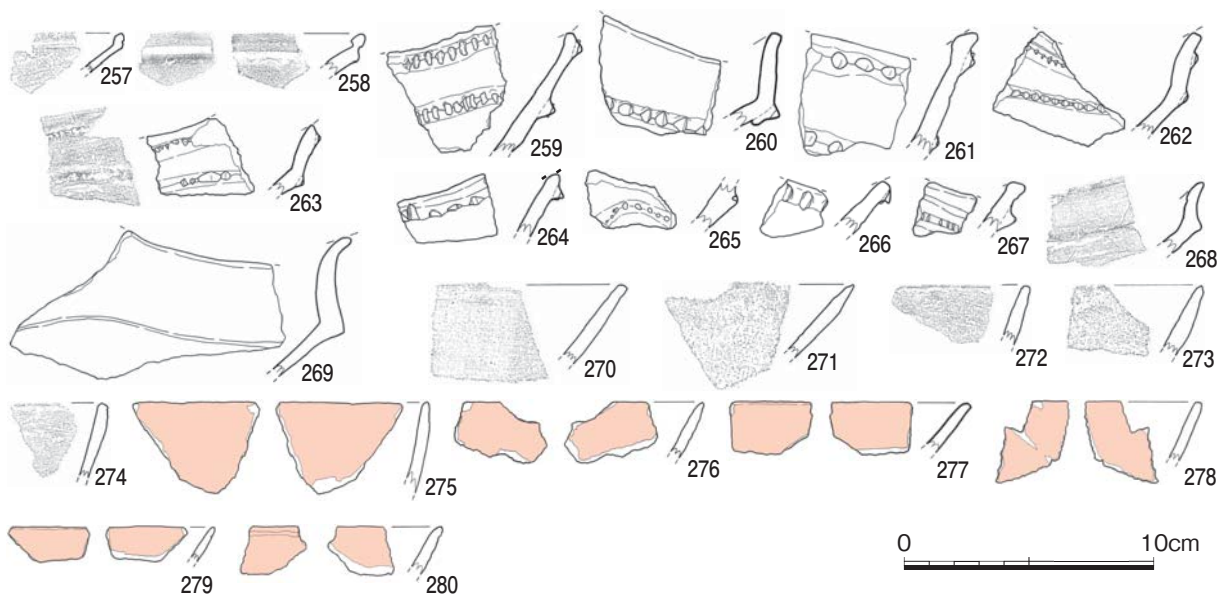
281～337は逆「く」字状に屈曲する浅鉢である。

281は口唇部が外へと屈曲して外面で段を作る。

282～299は外面に段をもつものである。282は黒色磨研で非常によく研磨されている。287の屈曲部は外面に稜を作らない。294は屈曲が弱い。

300・301は外面口唇部直下に沈線を引く資料である。

302～314は口縁部が外反し、口唇部外端に稜をつくるものである。304は口縁部のつくりが分厚く、特徴的である。311は黒色磨研土器で、外面の屈曲より下に赤色顔料の塗布がある。312の外面にも赤色顔料が観察される。314には焼成前の穿孔が認められる。



第27図 出土土器実測図⑪ (S=1/3)

315～332は外反する口縁部で、口唇部を丸く整えるものである。315は粘土紐の積み上げが観察される。器壁に無数の細かい間隙があり、有機質もしくは水溶性の混和物が胎土に含まれていたものと考えられる。復元口径30.8cm, 復元胴部最大径31.6cmである。316は復元口径が21.0cm, 復元胴部最大径が22.7cmである。317の外表面は屈曲部より上位は研磨調整を施しているが、屈曲部より下位は貝殻条痕調整を残す。318は315同様、細かい間隙の多い器壁である。321は外表面及び口縁部内面に丹塗りを施す。329の屈曲部より下位の胴部は非常に器壁が薄い。

333は口縁部が強く外側へ折れる資料である

334・335は口唇部を欠く資料である。

336は薄手の器壁で直立する口縁部の先端は外に折れる。337は大きく外反する口縁部である。336・337については、逆「く」字形浅鉢の範疇に含まれない可能性もある。

338～445はボウル形あるいは洗面器形の器形をなすものである。うち338～409は刻目突帯を口縁部にもつもの、410・411は口唇部に直接刻目を施すものである。

338～366は指先による刻目が施されたものである。339, 343, 346には外表面に吹きこぼれと思われる分厚い炭化物の付着がある。350の内表面は研磨調整が施される。338, 366は突帯が口唇部に接して貼りつけられる。

367～393は棒状工具の側面押し当てによって刻目が入れられる。369, 373, 379は背の高い突帯が特徴的である。381の器壁は他と比べ非常に薄く、傾きに不安がある。あるいは鉢であることも考慮しておく必要がある。356, 393には外表面に吹きこぼれと考えられる炭化物の付着が認められる。

394～408はヘラ状工具による刻目が施されたものである。394・395, 402・403, 406の外表面には炭化物の付着がある。396は比較的薄手の器壁で、突帯も細い。内表面には貝殻条痕調整を残す。

409は半裁竹管状工具による刺突を施す。外表面の調整は擦過で、炭化物の付着が認められる。

410・411は口唇部上面に直接刻目を施す。どちらも指先によるものである。

412～437は刻目突帯をもたない資料である。414～418, 426, 429・430には外表面に炭化物の付着がある。412には焼成後の穿孔が内外の両方から行われている。429は口縁部が外反する。432は内外表面ともに研磨調整が施される。435～437はいずれも内外表面ともに研磨調整が施される。435は外表面に赤色顔料が塗布され、内表面は黒色である。436・437は内外表面ともに赤色顔料が塗布される。

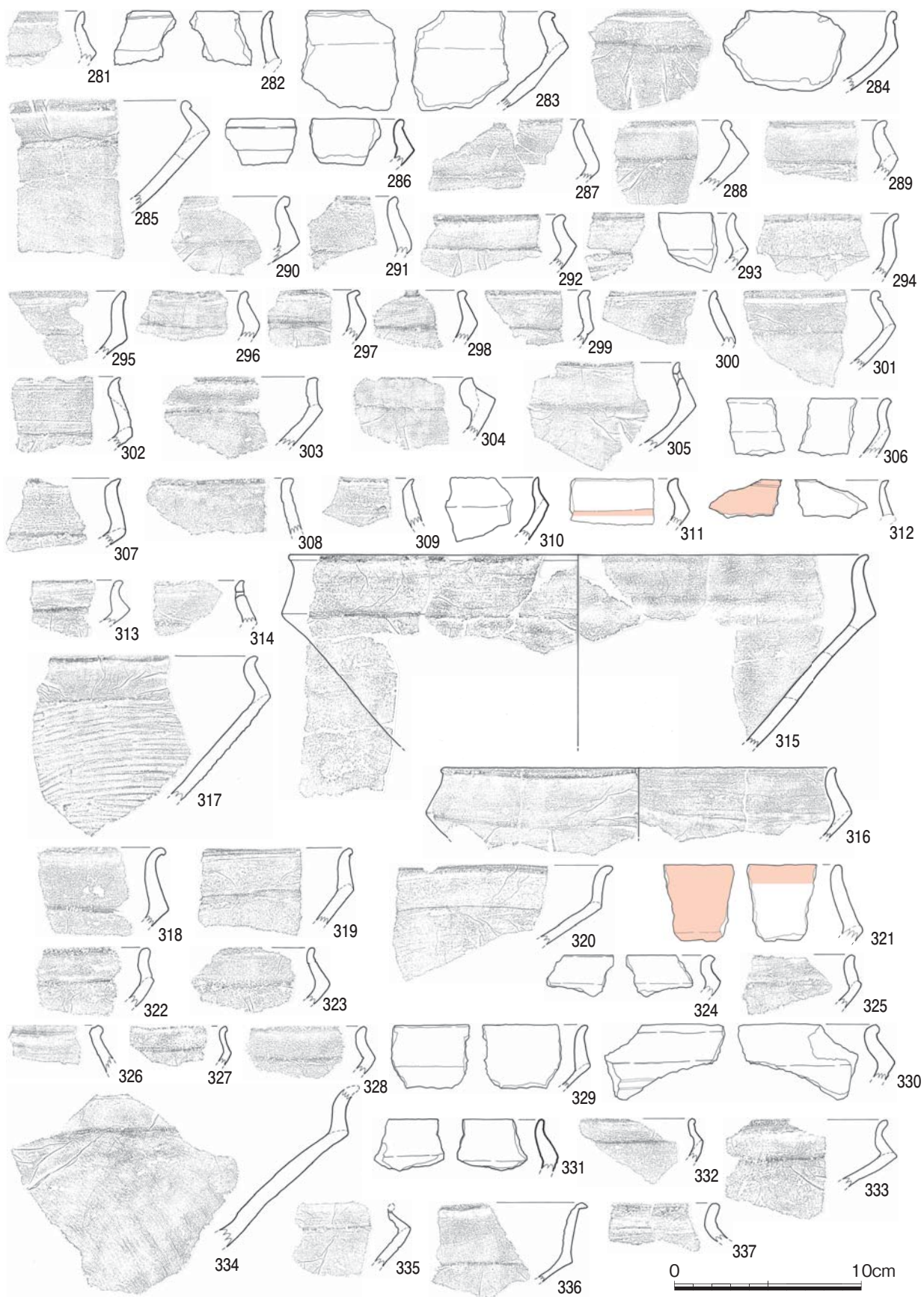
438～445は胴部・底部の資料である。438, 442の外表面には炭化物が残る。438～440は外表面に擦過調整が施される。445は平底をなし、底径7.3cmを測る。

446～473は型取り成型によって製作された組織痕土器である。

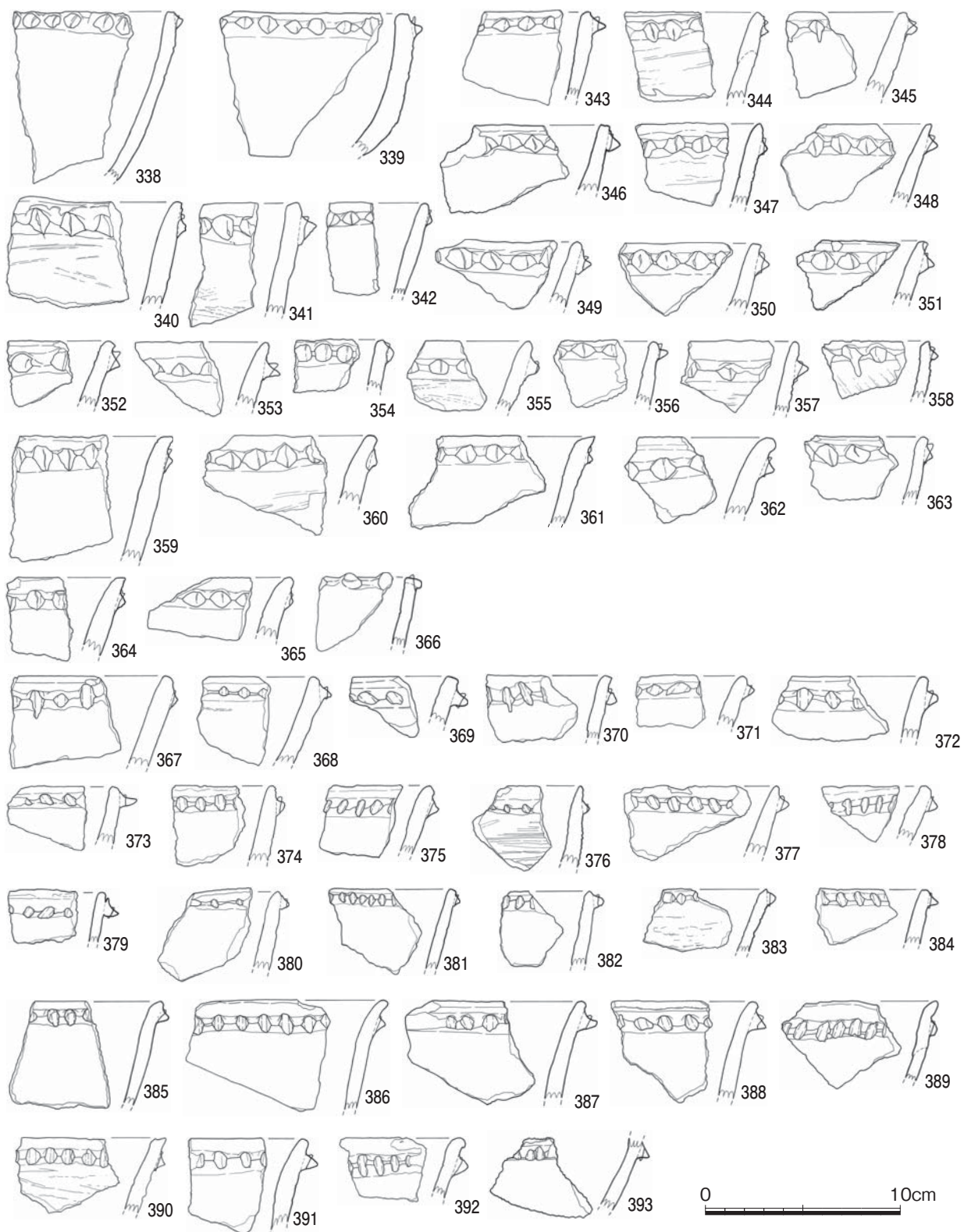
446～451はアングンの痕跡が残る。447, 450は明瞭に組織痕が確認できるが、他はその後のナデ調整により不鮮明である。446の外表面は、屈曲部より下位にアングンの痕跡が認められ、屈曲部より上位には炭化物の付着が認められる。

452～463は籠目の痕跡が認められるものである。456は底部付近の資料で、復元底径は11.8cmを測る。型取り後に貝殻条痕調整・ナデ調整が施され、組織痕は不鮮明である。463は底部から胴部への立ち上がり部分で、型取り後に擦過調整による器面の掻き取りが行われ、組織痕は不鮮明である。

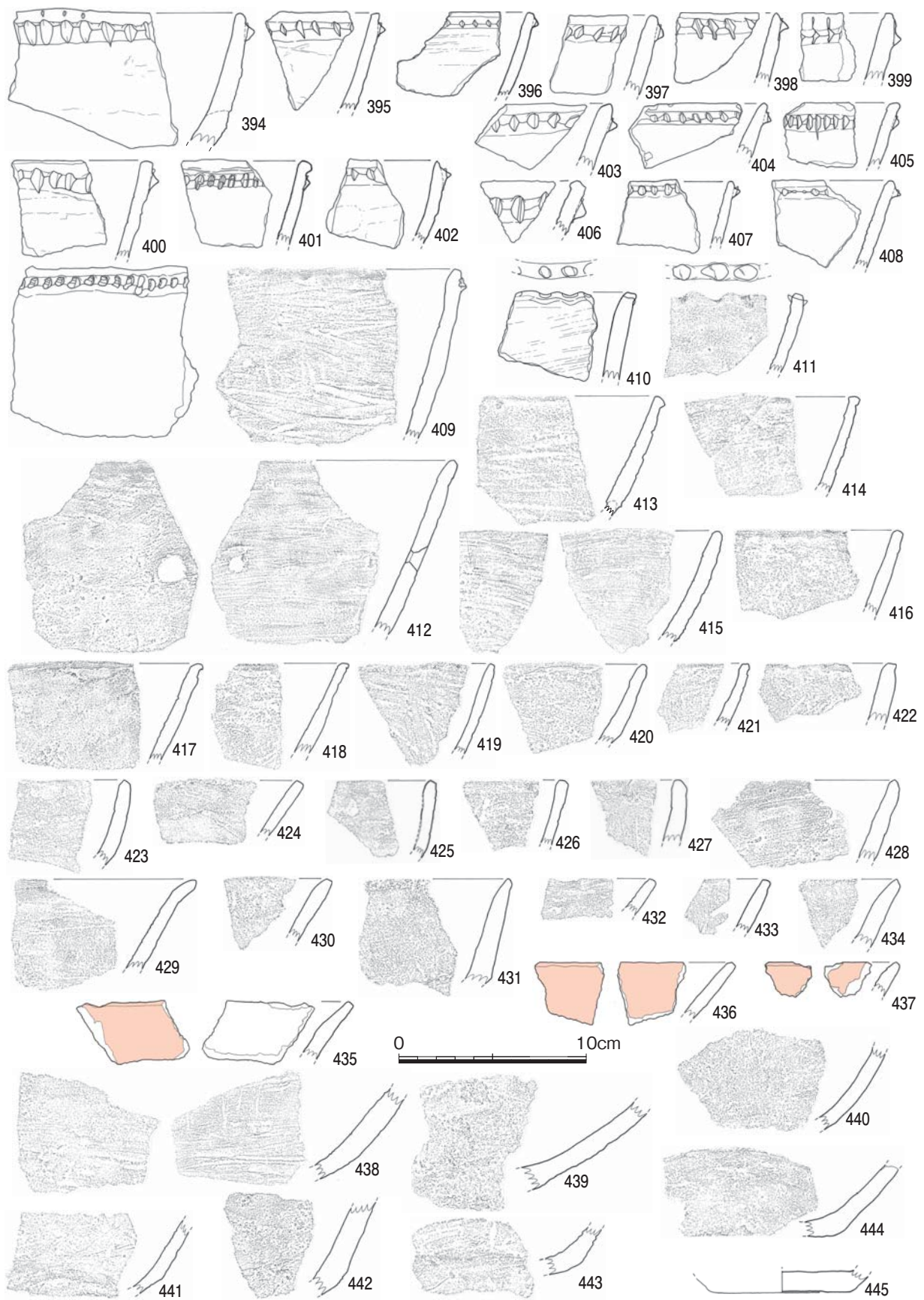
464～473は型取りとそれより上位の粘土紐積み上げとの境界となる屈曲部もしくは段をもつ資料である。464は口縁部にヘラ状工具による刻目突帯をもち、外表面は擦過調整である。段下の組織痕につ



第28图 出土土器实测图⑫ (S=1/3)



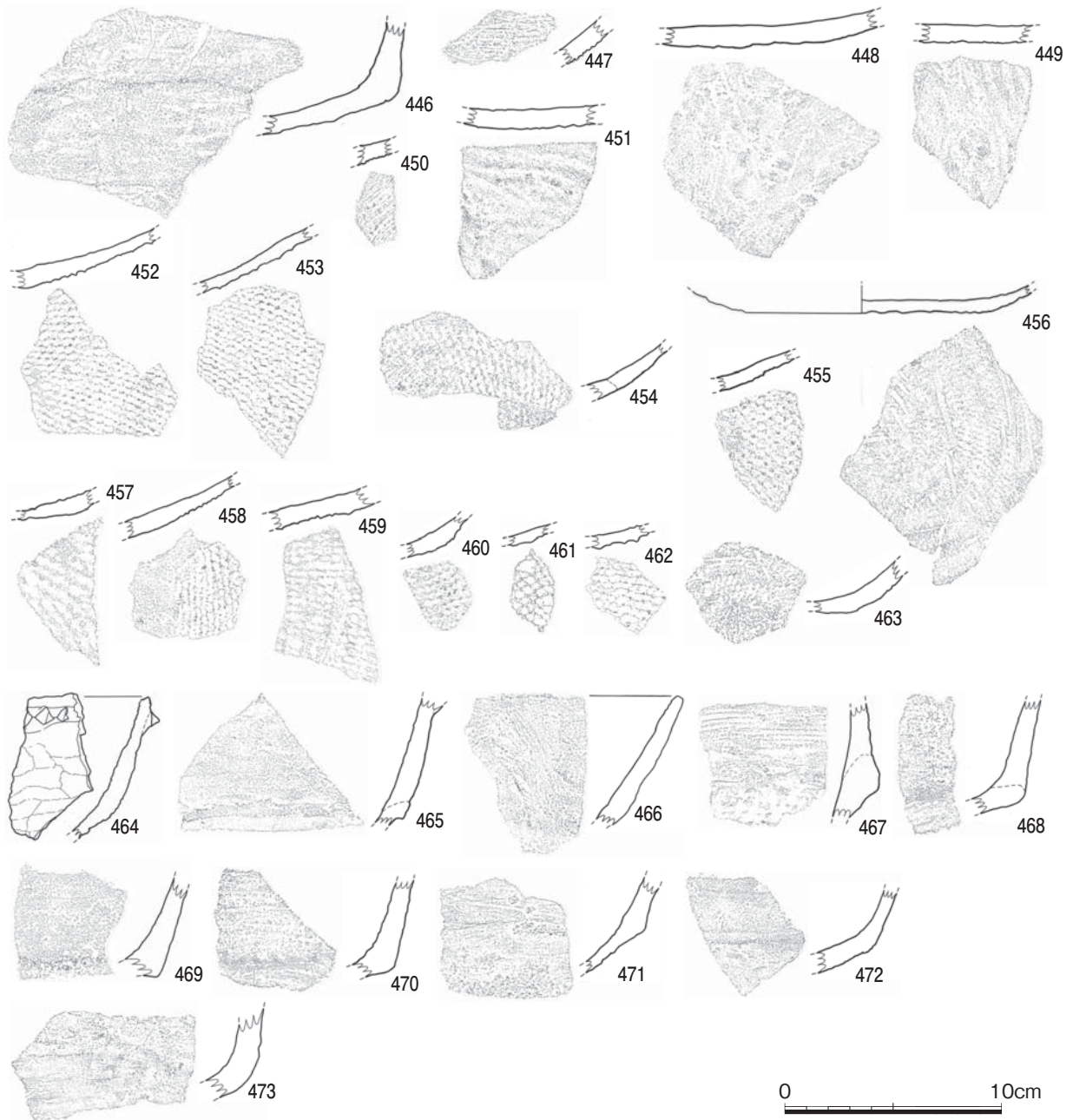
第29图 出土土器实测图⑬ (S=1/3)



第30图 出土土器实测图⑭ (S=1/3)

いてはナデ調整により不明瞭で種類までは判別できない。465も同様に刻目突帯をもつものと思われ、段下にはナデ調整が行われている。466もナデ調整により段下の組織痕は不明瞭である。467は粘土紐積み上げの接合痕が残る。段下に組織痕が残るも、不鮮明である。468～473は外面に炭化物が付着する。いずれもナデ調整により組織痕の種類までは観察できない。

474は黒色磨研で、口縁部はやや内傾し、口唇部は外側へ張り出して段を作る。復元口径18.0cmを測る。475は大きく開く胴部から直立口縁部をもち、外面に凹線3条を引く。476は胴の張る精製品である。口縁部は波状となる可能性もある。477は波状口縁の資料である。内外面ともに研磨され、外面には2条の沈線が引かれる。478～481は屈曲部から外反して立ち上がる口縁部の資料である。481は器面の状態が良くないが、他は研磨調整が施される。482は扁球状の胴部になるものとする。口



第31図 出土土器実測図⑮ (S=1/3)



縁部は玉縁状となることなく直立する。**484**は波状口縁の頂部で、外面に段をもつ。**485**は内外面ともに丁寧に研磨調整が施されており、屈曲して口縁部に至ると考えられるが、粘土紐積み上げの接合部分で剥離欠損している。屈曲部には段を作る。**486・487**は胴屈曲の資料でどちらも研磨調整が施されている。**486**は屈曲部で段を作る。**488**は黒色磨研の胴部の資料である。**489**は肩部の資料で口縁部へは大きく開くものと思われる。

**490・491・492**は赤色顔料の観察される資料である。**490**は線刻を境界として赤色顔料を塗り分ける。**491・492**は屈曲部より上位に赤色顔料を塗布する。**493**の外面屈曲部より下位と内面には擦過調整が施される。**494**は隆起部分と沈線部分を作って文様とする。よく研磨調整がなされている。**495**は屈曲部直下に焼成後の穿孔を行っている資料である。外面には未貫通の穿孔が接する。

**496～518**は精製浅鉢の底部資料である。**498**の外面には縦方向の研磨調整が確認できる。**504**の底面は粘土の掻き取りにより上げ底となり、研磨調整が施されている。**506**の外面底部付近には赤色顔料の塗布が認められる。復元底径は、**496**が10.4cm、**497**が11.0cm、**498**が5.6cm、**499**が7.8cm、**500**が8.2cm、**501**が7.7cmである。また、**502**が7.0cm、**503**が8.3cm、**504**が10.3cm、**505**が7.9cm、**506**が9.8cm、**507**が6.7cmである。

**508～514**は丸底の器面に粘土紐を円形に貼りつけて高台状の底部にしている。復元底径は、**508**が8.9cm、**509**が9.0cm、**510**が6.8cm、**511**が5.0cmである、また、**512**が6.8cm、**513**が7.4cm、**514**が6.4cmである。

**517**は丸底気味の平底で、復元底径は5.8cmである。**518**は脚台状の底部で、復元底径は4.5cmである。

**519～601**は壺の資料である。

**519～536**は頸部から口縁部にかけての資料である。いずれも口縁部は外反するが、**519**や**531**のように外面に段をもつもの、**535**のように肥厚部をもつものもある。**519・520, 530, 531**の頸部には横方向の研磨調整が観察される。また、**523, 527, 531**の頸部には縦方向の研磨調整が施される。復元口径は**519**が17.1cm、**520**が16.4cm、**521**が13.4cm、**522**が9.7cm、**523**が9.6cm、**524**が13.3cmである。**525**が11.0cm、**526**が10.8cm、**527**が10.8cm、**528**が8.2cm、**529**が9.5cm、**530**が8.3cmである。**531**が9.1cm、**532**が8.1cm、**533**が8.5cm、**534**が8.0cm、**535**が7.4cmである。

**537**は底部から頸部までの資料で、平底から境界を設けず胴部に移行し、なで肩の肩部をもち、明確な境界を作らずに頸部が立ち上がる。胴部最大径が18.2cm、底部径が8.0cmである。**538**は胴部から頸部にかけての資料である。丸い胴部・肩部から外面は境界を作らずに頸部が立ち上がるが、内面では稜をつくる。内外面ともに横方向の研磨調整が施される。復元胴部最大径は20.7cmである。**539**は肩部から頸部にかけての資料である。内外面ともに肩部と頸部の境界が明瞭である。**540**は肩部から頸部にかけての資料である。極端ななで肩で、肩部と頸部の境界に圏線を入れる。**541**は胴部・肩部の資料で、丸みを帯びた器形である。復元胴部最大径は15.5cmを測る。**542**は大型の壺の底部と判断した。底面部分まで丹塗りが施される。復元底径は12.2cmを測る。**543**は丸底気味の平底と思われる。復元底径は6.0cmである。**544**は張り出しをもつ底部である。内面は剥落により欠損している。復元底径は8.8cmを測る。

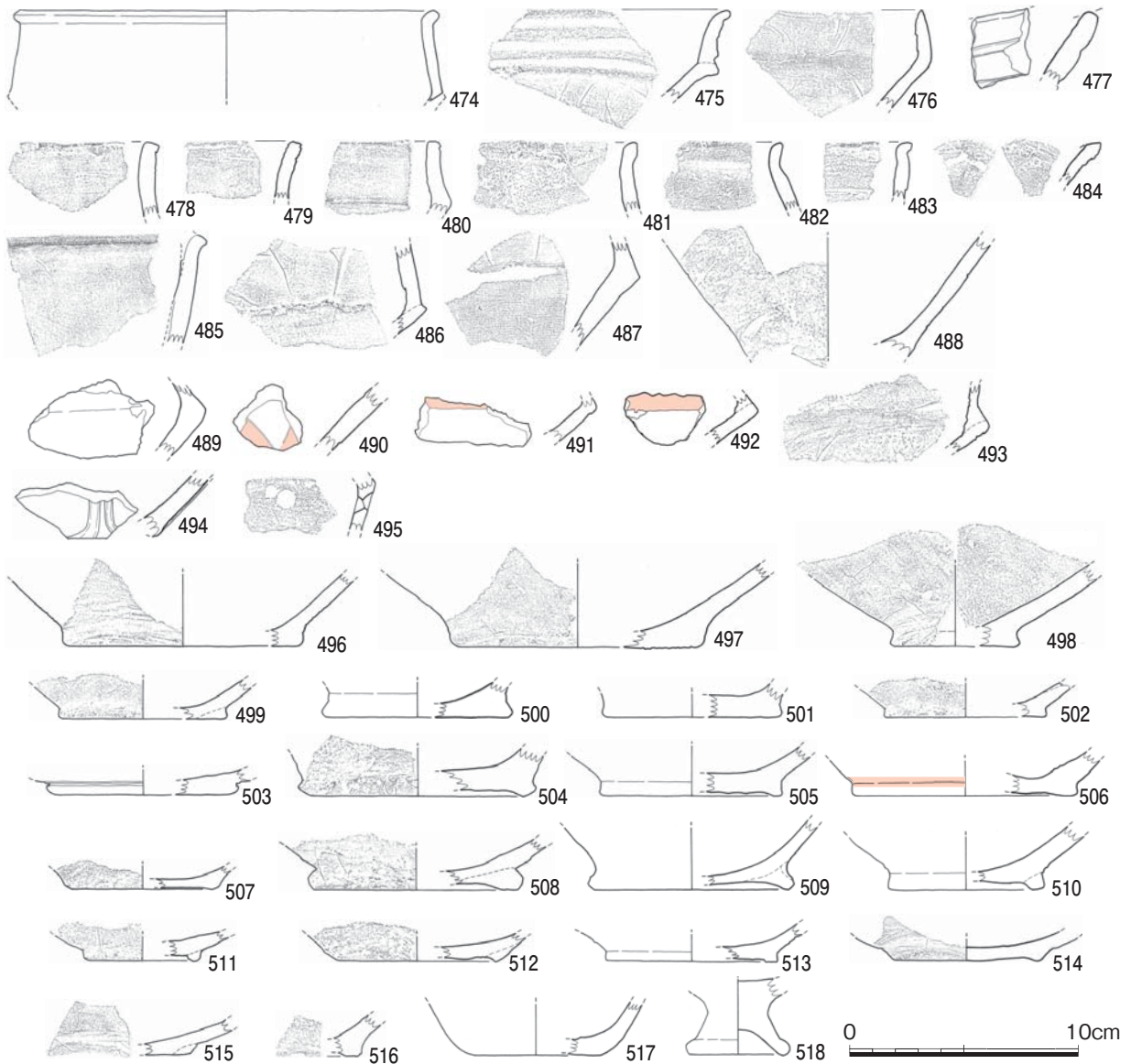
**545～576**は口縁部の破片資料である。いずれも外反するが、**553, 555, 560, 562, 570, 571**は外面

で段を作る。また、547, 549, 551, 553, 557, 563・564, 566, 571には丹塗りは行われておらず、うち547, 549, 553, 563は黒色磨研である。

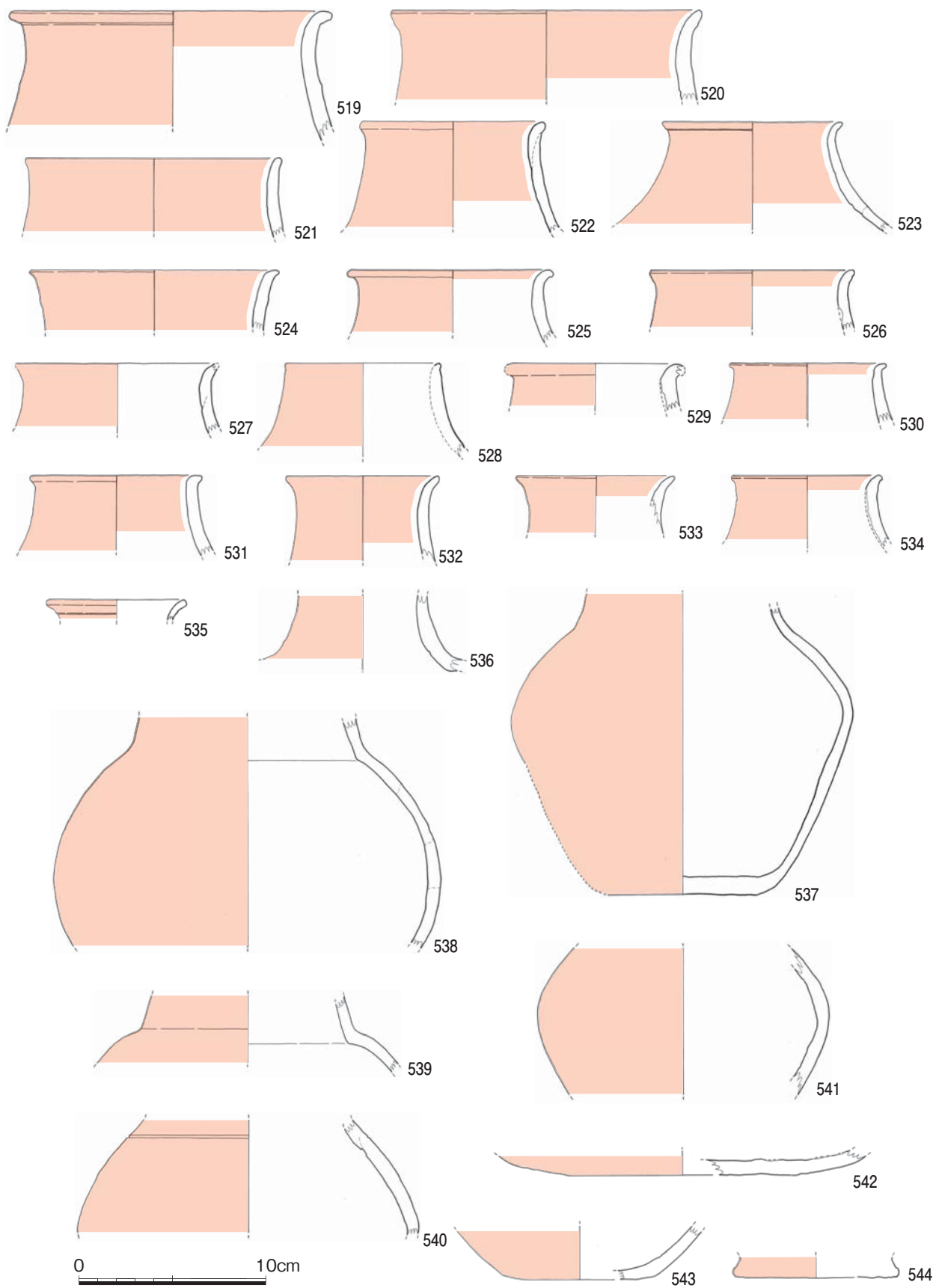
577・578は頸部の資料、579～590は肩部から頸部にかけての資料である。577は丹塗りをせず、外面の肩部と頸部の境界に沈線を引く。578は肩部と頸部の境界に段を設ける。582, 583, 585は丹塗りを行わない。581, 585, 589には肩部と頸部との境界に圏線が入る。

591～598は胴部の資料である。591は丹塗りがなされていない。592は比較的大型品の胴部で、外面には大きく黒斑が入る。593, 596には外面に炭化物の付着がある。594は外面に貝殻条痕調整を残し、その上に丹塗りが行われている。595には外面に黒斑が認められる。598は底部近くの資料と考えられ、途中で器壁の厚さが変わる。

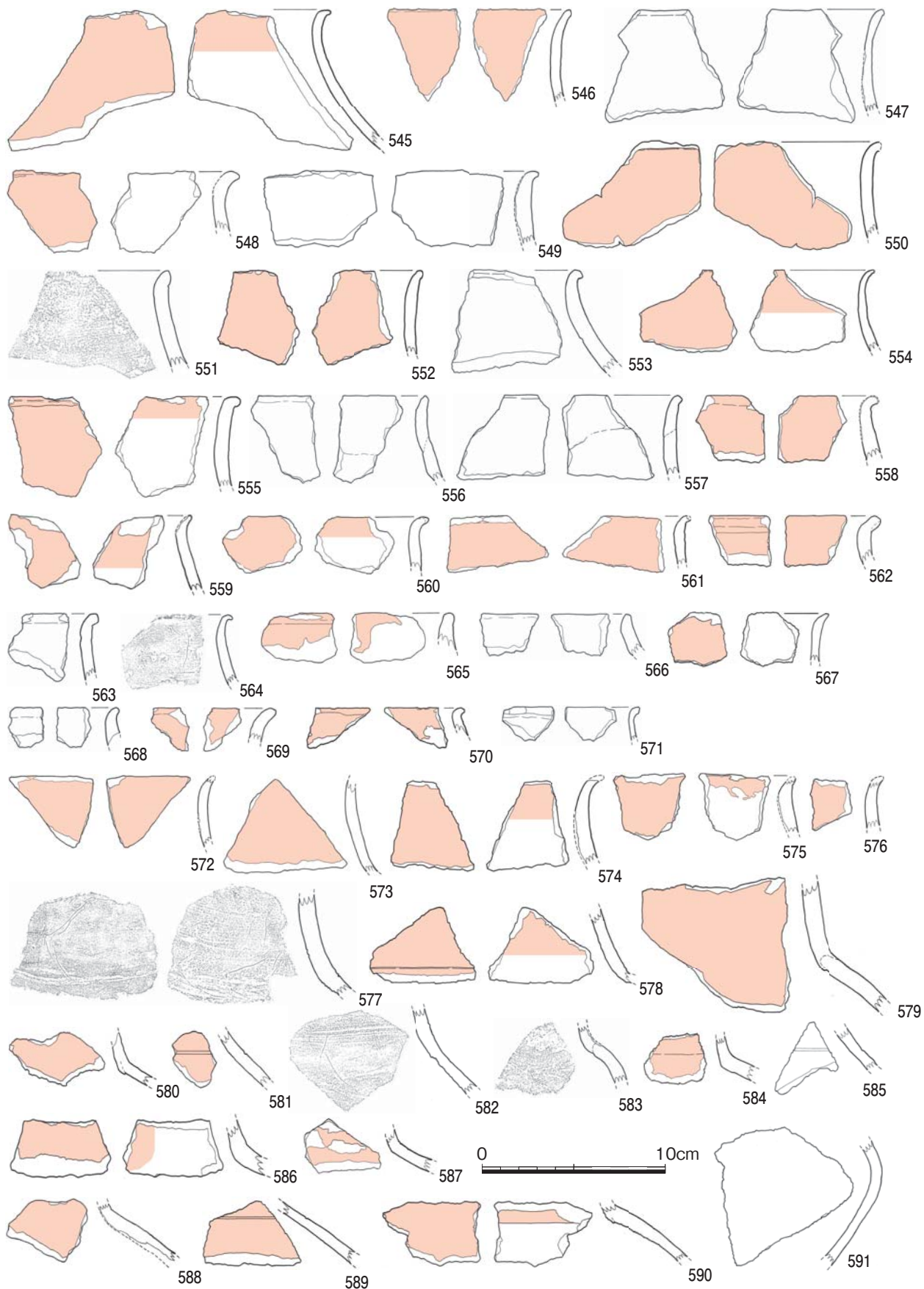
599・600・601は底部の資料である。599は円盤貼り付け底で、底面に明瞭ではないが組織痕らしき痕跡が一部に残る。600も円盤貼り付け底で、底部外面の直上に突帯をめぐらす。601は底部から張り出すことなく胴部へと立ち上がる。



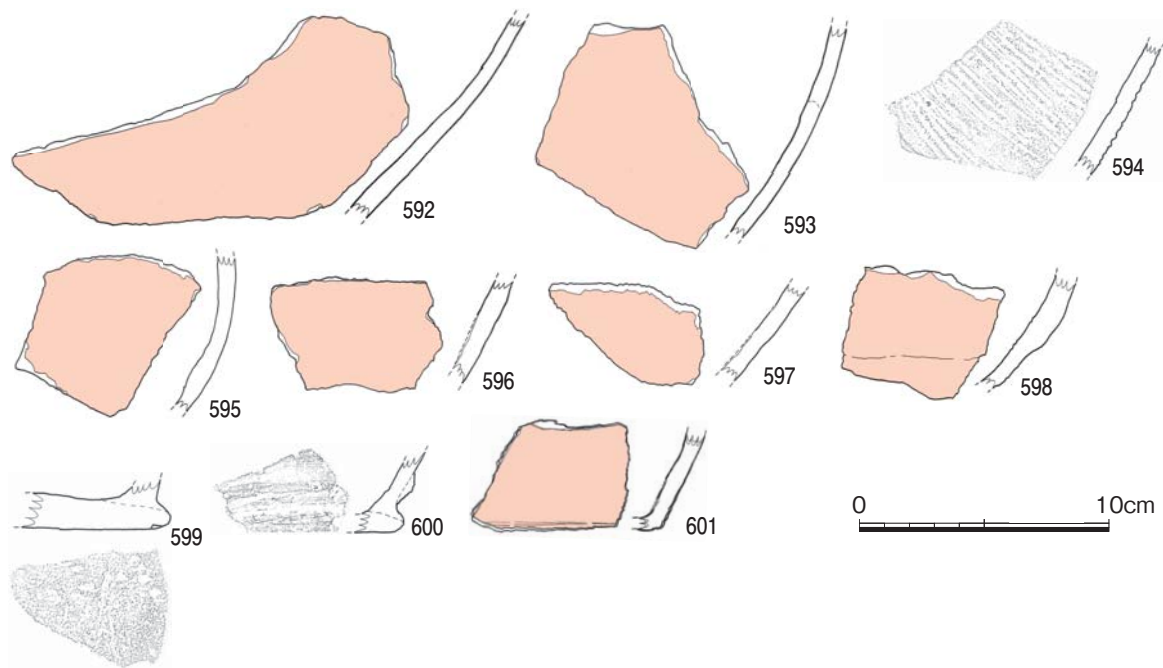
第32図 出土土器実測図⑩ (S=1/3)



第33图 出土土器实测图⑰ (S=1/3)



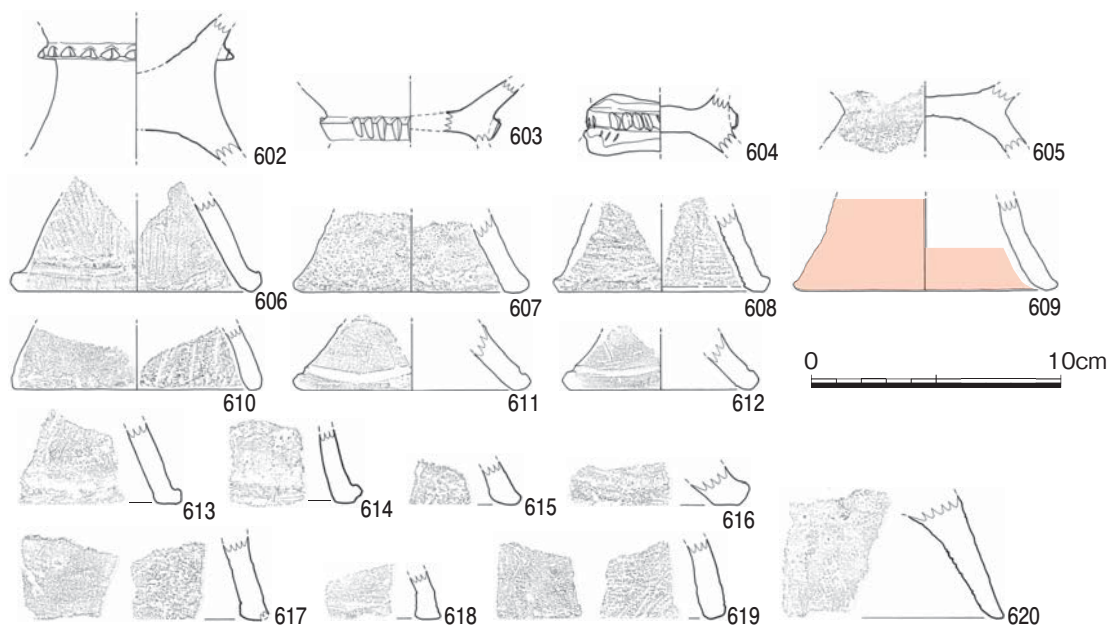
第34图 出土土器实测图® (S=1/3)



第35図 出土土器実測図⑱ (S=1/3)

602~620は、高坏もしくはその他土器の脚台部と思われるものを一括した。

602は高坏の資料で、くびれ部のやや上位に突帯をめぐらし、指先による刻目を施す。603・604はヘラ状工具による刻目が入る。606~620は脚台部の資料である。606, 608, 613, 614, 616の端部は外面に張り出しをもつ。611・612は外面端部に沈線をめぐらす。610は外面に赤色顔料の塗布が行われる。復元底径は、606が10.0cm, 607が9.4cm, 608が8.5cm, 609が10.4cmである。また、610が9.8cm, 611が9.4cm, 612が7.7cmである。



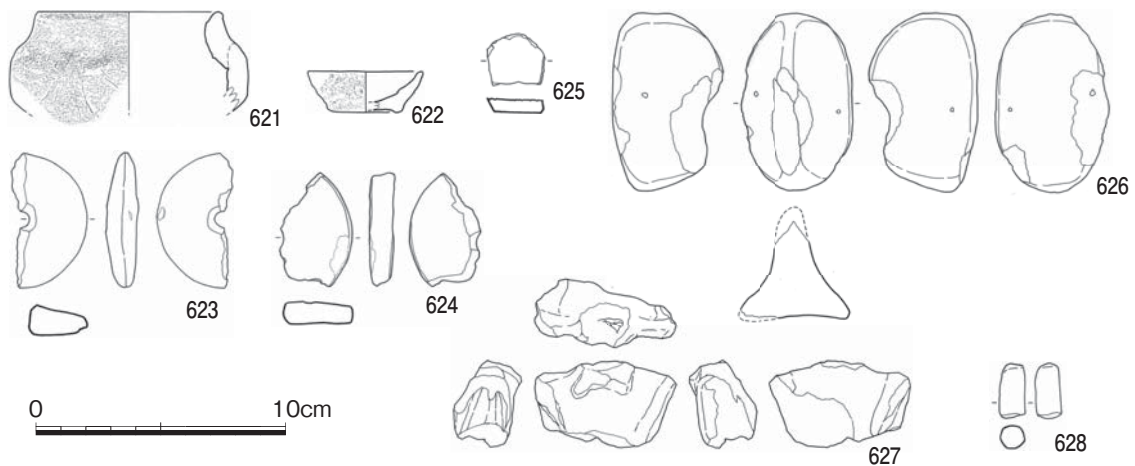
第36図 出土土器実測図⑳ (S=1/3)

621～628は土製品の類である。

621・622はミニチュア土器である。621は復元口径7.2cm，復元胴部最大径9.4cmで口縁部は胴部からすぼまる形状をなす。622は皿形をなし，高台状の底部である。復元口径4.5cm，復元底径は3.0cmである。

623は紡錘車である。中央部分が厚い形状で，器面はよく研磨されている。復元径は5.4cmで，軸穴が中央に通る。624は紡錘車の可能性が高いと考えるが，軸穴がやや中心から外れている。扁平な形状で，器面は研磨されている。

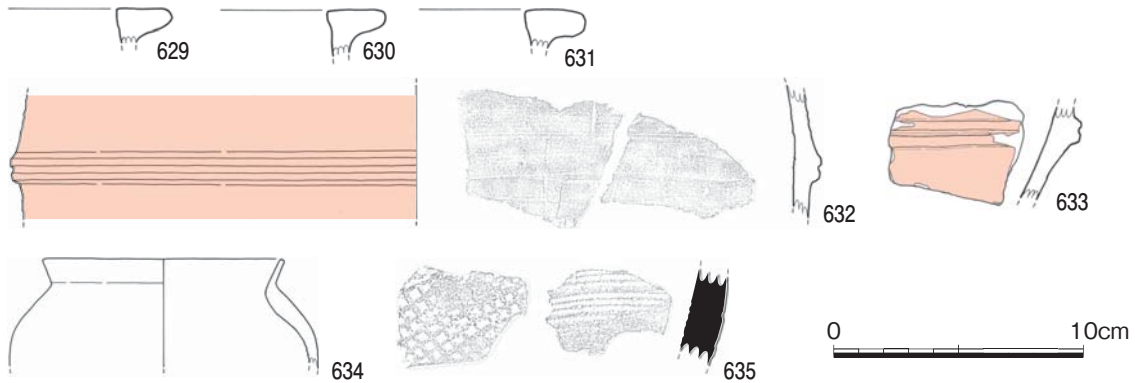
625～628は不明土製品である。625は精製土器片の割れ口に研磨が観察され，再加工品であることがわかる。626は長さ7.1cm，幅4.5cmを測る土製品で，非常に細い焼成前の穿孔が2か所に貫通する。器面は全体によく研磨されている。627は大きく下部を欠損しており，上部にも何らかの突起物がついていたものと考えられる。全体の形状はわからないが，左右対称のつくりとなっており，土偶の可能性も考えられる。628は直径0.9cmの円柱状の製品である。下部は欠損している。



第37図 出土土器実測図② (S=1/3)

#### 4 群 弥生時代中期～古墳時代の土器

629～631は弥生時代中期前半の甕口縁部である。いずれも外側への張り出しをもつ。632・633は丹塗り壺の胴部の資料である。どちらも2条の突帯をめぐらす。632の突帯部分での復元径は32.2cmである。634は古墳時代の土師質土器の小壺である。丸みを帯びた胴部に短い口縁部が立ち上がる。復元口径9.6cm, 復元胴部最大径12.2cmを測る。635は須恵器片である。内外面に叩きと当て具の痕跡を残す。

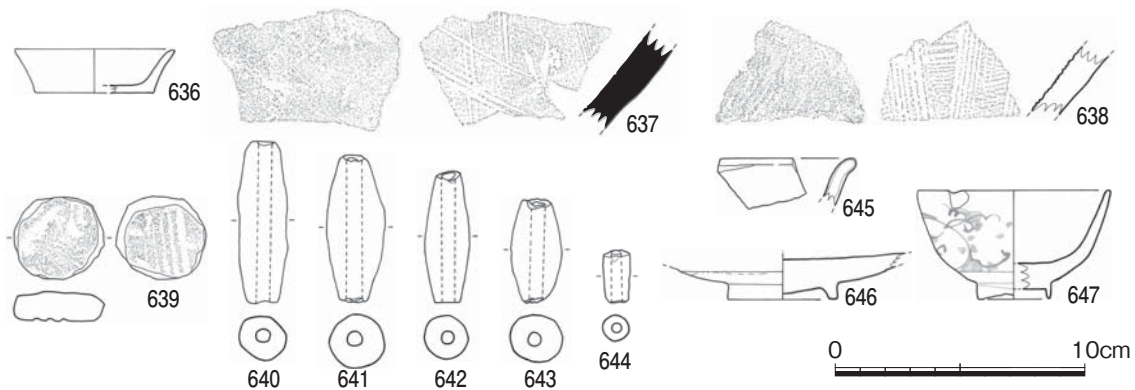


第38図 出土土器実測図② (S=1/3)

#### 5 群 中・近世の土器・陶磁器

636～647は中・近世の土器・陶磁器類である。

636は土師皿で、底面に回転糸切りの痕跡が認められる。復元口径6.3cm, 復元底径4.7cmである。637は須恵質の播鉢である。638は瓦質の播鉢である。7本単位のクシ目が入る。639は瓦質の播鉢片を再加工して円形に整えた円盤状土製品である。640～644は土錘である。645は輸入青磁碗の外反する口縁部である。646は唐津焼の皿である。高台付近は露胎である。復元底径4.4cmを測る。647は肥前磁器の小碗である。復元口径7.6cm, 復元底径2.8cmを測る。



第39図 出土土器・陶磁器実測図 (S=1/3)

第1表 出土土器観察表①

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
17	1	SNU-01766	深鉢	S27	Ⅲ a	山形押型文	ナデ	明赤褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	
	2	-	深鉢	AG 7	V	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
18	3	-	深鉢 or 鉢	R22	Ⅱ c	縄文、沈線/研磨	研磨	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	4	-	深鉢	P29	Ⅱ	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	5	SNU-05183	深鉢	Q30	Ⅲ b	研磨	研磨	橙色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	
	6	SNU-05105	深鉢	P30	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	7	SNU-06789	深鉢	T27	Ⅲ b	沈線/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	8	-	深鉢	W26	Ⅱ c	凹線/ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
19	9	SNU-06947	深鉢	T21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	10	SNU-04338	深鉢	V25	Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	11	SNU-06071	深鉢	J33	Ⅲ b	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	12	SNU-01700	深鉢	S28	Ⅲ a	擦過	ナデ	暗灰黄色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	13	SNU-02947	深鉢	P21	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英	
	14	SNU-02700	深鉢	T25	Ⅲ a	擦過	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
	15	SNU-08050	深鉢	Z21	Ⅲ b	擦過	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	16	SNU-01522	深鉢	P30	Ⅲ a	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石	
	17	SNU-05153	深鉢	P30	Ⅲ b	ナデ	ナデ	灰黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	18	SNU-01203	深鉢	N31	Ⅲ a	ナデ	ナデ	浅黄色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	19	SNU-04913	深鉢	S28	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	20	SNU-06935	深鉢	U23	Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	
	21	SNU-06400	深鉢	K31	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・雲母	
	22	SNU-05527 SNU-07340	深鉢	M33 M32	Ⅲ b Ⅲ b	擦過	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	23	SNU-03768	深鉢	AA21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・黒褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石	
	24	SNU-00196	深鉢	J32	Ⅲ a	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	橙色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	
	25	SNU-01889	深鉢	S28	Ⅲ a	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	26	SNU-05862	深鉢	L30	Ⅲ b	擦過・ナデ	ナデ	オリーブ黒色	にぶい黄褐色・灰色	角閃石・長石・石英	
	27	SNU-03647	深鉢	AA21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石	
	28	SNU-01215	深鉢	O31	Ⅲ a	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子	
	29	SNU-02620	深鉢	Z21	Ⅲ b	貝殻条痕・ナデ	ナデ	灰黄褐色・橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
	30	SNU-03098	深鉢	Q20	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	31	SNU-04108	深鉢	Z23	Ⅲ b	ナデ	ナデ、擦過	明褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	32	SNU-04806	深鉢	S28	Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
33	SNU-07595	深鉢	P19	Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・石英		
34	SNU-05511	深鉢	M32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
35	SNU-06729	深鉢	T28	Ⅲ b	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
36	SNU-07441	深鉢	P21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	明褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
37	SNU-04440	深鉢	U25	Ⅲ b	沈線/ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石		
38	-	深鉢	5区南東部	擾乱	沈線/貝殻条痕	ナデ	黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
39	SNU-07875 SNU-07881	深鉢	Z21 Z21	Ⅲ b Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・赤色粒子		
40	SNU-07544	深鉢	R20	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・橙色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英		
41	SNU-04952 SNU-03458	深鉢	R28 R28	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	ナデ	橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
42	SNU-04552	深鉢	G28	Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
43	-	深鉢	5区南東部	擾乱	貝殻条痕・ナデ	ナデ	黒褐色	褐色	角閃石・石英		
44	SNU-04988	深鉢	R29	Ⅲ b	研磨	ナデ	橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
20	45	SNU-03806 SNU-03807 SNU-03808	甕	Z21 Z21 Z21	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	刻目(指)/ナデ、貝殻条痕	ナデ、貝殻条痕・ナデ	赤色・にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子	年代測定試料 2



第2表 出土土器観察表②

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
20	46	SNU-04005 SNU-06646	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕	ナデ	明褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	47	SNU-00092 SNU-06333 SNU-06334 SNU-06335 SNU-06336 SNU-06338 SNU-06341 SNU-06882 SNU-07205 SNU-07206	甕	K31 K31 K31 K31 K31 K31 K31 L31 L31	Ⅲ a Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ a Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	明褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	年代測定試料3
	48	SNU-00089 SNU-00361 SNU-00887 SNU-07234	甕	L31 L31 L33 L31	Ⅲ a Ⅲ a Ⅲ a Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	明褐色	黒褐色・明褐色	角閃石・石英	
	49	SNU-01437	甕	K31	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄褐色・褐灰色	褐灰色	角閃石・長石・石英	年代測定試料4
	50	-	甕	S21	Ⅱ c	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	51	SNU-06486	甕	L31	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英	
	52	SNU-05842 SNU-05871	甕	L31 L31	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	53	SNU-01291 SNU-05499	甕	M32 M32	Ⅲ a Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	浅黄褐色	褐灰色	角閃石・長石・石英	
	54	SNU-06121 SNU-07746	甕	K33 K33	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	捺過・ナデ	黒色	黒色	角閃石・長石・石英	
	55	SNU-05823	甕	L30	Ⅲ b	刻目(指)/捺過	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	56	SNU-08096	甕	R20	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	57	SNU-03859	甕	Z22	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐灰色	角閃石・長石・石英	
	58	SNU-07726	甕	W26	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい褐色・灰色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	59	SNU-03682	甕	AA21	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子	
	60	SNU-00965	甕	M32	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	明黄褐色	灰色	角閃石・長石・石英	
	61	SNU-01898	甕	S27	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英	
	62	SNU-04241	甕	W24	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	63	SNU-02029	甕	U25	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	浅黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	64	SNU-04285	甕	W24	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	65	SNU-06737	甕	T28	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ、捺過	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石	
66	SNU-04401	甕	V25	Ⅲ b	刻目(指)、沈線/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	線刻あり	
67	SNU-07380	甕	AB22	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・褐灰色	角閃石・長石・石英		
68	SNU-04240	甕	V24	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ、捺過	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
69	SNU-07261	甕	K30	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
70	-	甕	T24	Ⅱ	刻目(指)/ナデ、捺過	ナデ	明黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
71	SNU-06861	甕	L31	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	捺過	にぶい黄褐色・黒褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
72	-	甕	5区南東部	攪乱	刻目(指)/ナデ	貝殻条痕・ナデ、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
73	SNU-06352	甕	K31	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄色・褐色	淡黄色・暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
74	-	甕	5区南東部	攪乱	刻目(指)/ナデ、貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
75	SNU-07593	甕	O19	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	浅黄色	黄褐色	角閃石・長石・石英		
76	SNU-04307	甕	V25	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
77	SNU-06573	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ、貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
78	SNU-00093	甕	K32	Ⅲ a	刻目(指)/貝殻条痕	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
79	SNU-04633	甕	T27	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英		

第3表 出土土器観察表③

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
21	80	SNU-05690	甕	K33	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英	
	81	SNU-05947	甕	L31	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	82	-	甕	1区北東部	石垣義込	刻目(指) / 貝殻条痕	ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	83	SNU-07965	甕	U24	Ⅲ b	刻目(指) / 捺過	ナデ	にぶい褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	84	SNU-05266	甕	O30	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕	ナデ, 貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英	
	85	SNU-04698	甕	T27	Ⅲ b	刻目(指) / ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	86	SNU-00697	甕	K33	Ⅲ a	刻目(指) / ナデ	ナデ	褐色・にぶい黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
22	87	SNU-04085	甕	Y23	Ⅲ b	刻目(指) / 捺過	ナデ	褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英	
	88	SNU-06610 SNU-06611	甕	Z21 Z21	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(棒) / 貝殻条痕・ナデ	捺過	黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	89	SNU-06407	甕	K31	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	褐色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	90	SNU-00709	甕	K34	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ, 貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色・黒色	黒色	角閃石・長石・石英	
	91	SNU-06126	甕	J32	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ, 貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい褐色	褐色	長石・石英	
	92	SNU-06392	甕	K31	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色・灰白色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	93	SNU-04334	甕	V25	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ, 貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	94	SNU-03981	甕	Z22	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	捺過	にぶい黄褐色	黄灰褐色	角閃石・長石・石英	
	95	SNU-03699	甕	AA21	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英	
	96	SNU-07090	甕	U24	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	捺過	明赤色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	97	SNU-08046	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(棒) / 貝殻条痕・ナデ	捺過	浅黄色・灰色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
	98	-	甕	-	-	刻目(棒) / ナデ	ナデ	浅黄色	灰黄色・黒色	角閃石・長石・石英	
	99	SNU-07617	甕	Q18	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	浅黄色	にぶい黄色・灰色	角閃石・長石・石英	
	100	SNU-02467	甕	Z22	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ, 貝殻条痕・ナデ	捺過	にぶい黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英	
	101	SNU-01353	甕	M31	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ, 貝殻条痕・ナデ	捺過, ナデ	明赤褐色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
	102	SNU-05752	甕	J33	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	明黄褐色・灰色	灰色・灰黄色	角閃石・長石・石英	
	103	SNU-02272	甕	X23	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英	
	104	SNU-02258 SNU-03980	甕	X24 Z22	Ⅲ a Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	捺過	にぶい黄褐色・褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	105	SNU-03193	甕	Q21	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	貝殻条痕	明黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
	106	SNU-07402	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・黒褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	107	SNU-04059	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英	
	108	SNU-03463	甕	R29	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	
	109	SNU-03214	甕	Q21	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	110	-	甕	-	廃土	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	111	SNU-01483	甕	M31	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英	
	112	SNU-01558	甕	Q30	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい赤褐色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	年代測定試料7
	113	SNU-03534	甕	AB22	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	捺過	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	114	SNU-03595	甕	AA22	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	焼成後穿孔
	115	SNU-02484	甕	Z22	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	暗灰黄色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	116	SNU-01196	甕	N31	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	117	SNU-03126	甕	Q21	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	捺過	明黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
	118	SNU-05735	甕	K34	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ, 貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
	119	SNU-02197	甕	V24	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	120	SNU-04509	甕	U25	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	121	SNU-04330	甕	V25	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	貝殻条痕, ナデ	浅黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	122	SNU-05678	甕	K33	Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	長石・石英	
123	SNU-01000	甕	M32	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	にぶい褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英		
124	-	甕	-	廃土	刻目(棒) / 貝殻条痕・ナデ	ナデ	褐色	黒褐色・にぶい黄色	角閃石・長石・石英		
125	SNU-01098	甕	M31	Ⅲ a	刻目(棒) / ナデ	ナデ	灰褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
126	SNU-01996 SNU-08031	甕	R29 R29	Ⅲ a Ⅲ b	刻目(棒) / ナデ	ナデ	褐色	褐色	角閃石・長石・石英		

第4表 出土土器観察表④

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
22	127	SNU-06365	甕	K31	Ⅲ b	刻目(棒)/貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	暗灰黄色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	128	SNU-01587	甕	S29	Ⅲ a	刻目(棒)/貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	129	SNU-01235	甕	O30	Ⅲ a	刻目(棒)/貝殻条痕	ナデ	にぶい褐色・褐灰色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英	年代測定試料8
	130	SNU-06310	甕	K32	Ⅲ b	刻目(棒)/捺過	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	橙色	長石・石英	
	131	SNU-05543	甕	M33	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	
	132	SNU-07906	甕	U27	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
	133	SNU-01708	甕	T28	Ⅲ a	刻目(棒)/貝殻条痕	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英	
	134	-	甕	Q18	攪乱	刻目(棒)/ナデ、捺過	捺過	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	135	-	甕	5区	-	刻目(棒)/ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	駒木内出土、年代測定試料1
	136	SNU-06594 SNU-06607	甕	Z21	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	137	SNU-04045	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	138	SNU-07604	甕	Q19	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/捺過・ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	139	SNU-04106 SNU-04114 SNU-04116 SNU-04115	甕	Y23 Y23 Y23 Y23	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	捺過、貝殻条痕・ナデ	浅黄褐色・褐灰色	灰黄色	角閃石・長石・石英	
	23	140	SNU-02505	甕	Z21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/捺過	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英
141		SNU-07273 SNU-06330	甕	K31 K31	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
142		SNU-03129	甕	Q21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
143		SNU-02977	甕	P21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ、捺過	にぶい黄褐色・黄灰色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
144		SNU-03973	甕	Z22	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/貝殻条痕	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
145		SNU-03419	甕	Z22	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
146		-	甕	5区南東部	攪乱	刻目(ヘラ)/ナデ、貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石	
147		SNU-02593	甕	Y22	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・黄灰色	角閃石・長石・石英	
148		SNU-01220	甕	N31	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	浅黄褐色	灰白色	角閃石・長石・石英	
149		SNU-07326	甕	H28	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	黒褐色	灰黄色	長石・石英	
150		SNU-03875	甕	Z22	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
151		SNU-00930	甕	M33	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	線刻あり
152		SNU-01608	甕	S29	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	捺過	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
153		SNU-03722	甕	AA21	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
154		SNU-01713	甕	T26	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	外面に丹塗
155		-	甕	2・3区南東部	攪乱	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	
156		SNU-01084	甕	M32	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	明褐色	にぶい黄褐色・褐色	角閃石・長石・石英	
157		SNU-00960	甕	M32	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
158		SNU-04669	甕	T27	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	貝殻条痕・ナデ、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
159		SNU-04163	甕	W24	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ、貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
160		SNU-07264	甕	K31	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/貝殻条痕、捺過	ナデ	明褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
161		SNU-03407	甕	Y22	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
162		SNU-06802	甕	Q30	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/捺過、ナデ	捺過	にぶい黄褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
163		SNU-06994	甕	T24	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ、捺過	捺過	にぶい橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
164		SNU-01710	甕	T28	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ、捺過、ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	褐灰色	角閃石・長石・石英	
165		SNU-01027	甕	L32	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
166		SNU-03787	甕	Z22	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・黒色	黒褐色	角閃石・長石・石英	
167		SNU-08040	甕	Q29	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
168		SNU-01593	甕	S29	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	灰黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
169		SNU-04823	甕	S28	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	暗灰黄色・にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英	
170		SNU-03233	甕	R20	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/貝殻条痕	ナデ	暗灰黄色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
171		SNU-03868 SNU-03870	甕	Z22 Z22	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(ヘラ)/貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	灰黄褐色・黒色	灰黄褐色	長石・石英・雲母	年代測定試料6

第5表 出土土器観察表⑤

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
23	172	SNU-03023	甕	P21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	173	SNU-06629	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	浅黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	174	SNU-03155	甕	P22	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ、捺過	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
24	175	-	甕	5区南東部	攪乱	刻目(ヘラ)/捺過	ナデ	浅黄褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	年代測定試料5
	176	SNU-06599	甕	Z21	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	177	SNU-07902	甕	U27	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	捺過、ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	178	SNU-04444	甕	U25	Ⅲ b	刻目(棒刺突)/捺過・ナデ	ナデ、捺過	橙色	浅黄褐色・褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	179	SNU-03747	甕	AA21	Ⅲ b	刻目(棒刺突)/ナデ	ナデ	橙色・黒色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	180	SNU-03080	甕	Q20	Ⅲ a	刻目(貝殻)/ナデ、貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
	181	SNU-06169	甕	K32	Ⅲ b	刻目(貝殻)/ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	182	SNU-05746	甕	K33	Ⅲ b	刻目(貝殻)	ナデ	橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	183	SNU-03002 SNU-03008 SNU-03011 SNU-07456 SNU-08069 SNU-08070 SNU-08082	甕	P20 P20 P20 P20 P20 P20	Ⅲ a Ⅲ a Ⅲ a Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	捺過	ナデ	黒褐色・黄褐色	暗褐色	角閃石・長石・石英	
	184	SNU-04091 SNU-04092	甕	Y23	Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	にぶい橙色・明赤褐色	灰黄褐色・黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母、白色粒子	
	185	SNU-06546	深鉢・甕	S21	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	黒褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	底面：ナデ
	186	SNU-04103	深鉢・甕	Y23	Ⅲ b	ナデ	研磨	明褐色	灰色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	187	SNU-07428	深鉢・甕	P22	Ⅲ b	研磨	ナデ	にぶい赤褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	188	SNU-02044	深鉢・甕	U26	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
189	SNU-06636	深鉢・甕	Z21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	黒褐色・にぶい褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：ナデ	
190	SNU-04780 SNU-04795	深鉢・甕	S27 S27	Ⅲ b Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	底面：組織痕(籠目)	
191	SNU-01477	深鉢・甕	K34	Ⅲ b	ナデ	ナデ	褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
192	SNU-01015	深鉢・甕	K33	Ⅲ a	ナデ	研磨	橙色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
193	SNU-00632	深鉢・甕	K34	Ⅲ a	捺過	貝殻条痕	明赤褐色	にぶい黄褐色	長石・石英	底面：組織痕	
194	SNU-05086	深鉢・甕	P30	Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：ナデ	
195	SNU-06983	深鉢・甕	U24	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
196	SNU-04771	深鉢・甕	S27	Ⅲ b	ナデ	ナデ	灰黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	底面：ナデ	
197	SNU-06291 SNU-07765	深鉢・甕	K32 L32	Ⅲ b Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
198	SNU-06728	深鉢・甕	T28	Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	にぶい赤褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：捺過	
199	SNU-02846	深鉢・甕	V24	Ⅲ a	ナデ	ナデ	橙色	浅黄色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
200	SNU-05099 SNU-05155	深鉢・甕	P30 P30	Ⅲ b Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
201	SNU-03529	深鉢・甕	AB22	Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
202	SNU-00129	深鉢・甕	K32	Ⅲ a	ナデ	ナデ	明赤褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
203	SNU-04994 SNU-05024	深鉢・甕	R28 Q28	Ⅲ b Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：指掻きとり	
204	SNU-03701	深鉢・甕	AA21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
205	SNU-00063	深鉢・甕	L31	Ⅲ a	捺過	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
206	SNU-01167	深鉢・甕	N31	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：捺過	
207	SNU-04761	深鉢・甕	S27	Ⅲ b	ナデ	捺過	にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
208	SNU-05626	深鉢・甕	M32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
209	SNU-00804	深鉢・甕	L33	Ⅲ a	ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	底面：捺過	
210	SNU-00783	深鉢・甕	K33	Ⅲ a	ナデ	ナデ	橙色・にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	

第6表 出土土器観察表⑥

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
25	211	SNU-05538	深鉢・甕	M32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：ナデ
	212	SNU-04760	深鉢・甕	S27	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
	213	SNU-04635	深鉢・甕	T27	Ⅲ b	ナデ	ナデ	褐色	褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	214	SNU-07922	深鉢・甕	T28	Ⅲ b	ナデ	ナデ	褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	215	SNU-05139	深鉢・甕	Q30	Ⅲ b	ナデ	ナデ	浅黄色	浅黄色	長石・石英	底面：ナデ
	216	SNU-03412	深鉢・甕	Y23	Ⅲ b	貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：組織痕
	217	SNU-06878	深鉢・甕	K31	Ⅲ b	ナデ	擦過	褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英・雲母	底面：擦過
	218	SNU-09007 SNU-05605	深鉢・甕	L32 L32	Ⅲ a Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	219	-	深鉢・甕	5区南東部	攪乱	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：擦過
	220	SNU-06415	深鉢・甕	K31	Ⅲ b	ナデ	ナデ	褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	221	SNU-07499	深鉢・甕	P21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	明褐色	褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	222	SNU-00640	深鉢・甕	K34	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	223	SNU-03105	深鉢・甕	Q20	Ⅲ a	ナデ	ナデ	褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	底面：擦過
	224	SNU-07900	深鉢・甕	U27	Ⅲ b	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰色	角閃石・長石・石英	底面に刺突
	225	SNU-01649	深鉢・甕	T28	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	石英	底面：ナデ
	226	SNU-07788	深鉢・甕	M31	Ⅲ b	ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	227	SNU-03162	深鉢・甕	P22	Ⅲ a	ナデ	ナデ	褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	228	SNU-02093	深鉢・甕	V25	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい褐色	明褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	229	SNU-04021	鉢	Z21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	暗灰黄色	黄灰色	角閃石・長石・石英・雲母	線刻あり
	230	SNU-00873	鉢	L33	Ⅲ a	ナデ	ナデ	浅黄褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英・雲母	
	231	SNU-07043	鉢	T24	Ⅲ b	ナデ	擦過	浅黄色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	232	SNU-06013	鉢	J32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	233	SNU-03809	鉢	Z21	Ⅲ b	研磨	ナデ	褐色・黄灰色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	234	SNU-06572	鉢	Z21	Ⅲ b	研磨	ナデ	明褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	235	SNU-01467 SNU-06874	鉢	K31 L31	Ⅲ b Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ 擦過	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	年代測定試料10
236	SNU-02145	鉢	V24	Ⅲ a	刻目(指) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
237	SNU-04553	鉢	H28	Ⅲ b	刻目(指) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
238	SNU-00201	鉢	J32	Ⅲ a	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	明赤褐色・にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英		
239	SNU-03099	鉢	Q20	Ⅲ a	刻目(ヘラ) / ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
240	SNU-04112	鉢	Y23	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ, 貝殻条痕	ナデ	明褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
241	SNU-04807	鉢	S28	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英		
242	SNU-02389	鉢	V25	Ⅲ a	刻目(ヘラ) / ナデ, 擦過	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
243	SNU-04957	鉢	R28	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	灰色・にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
244	SNU-07773	鉢	L32	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	明黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英		
245	SNU-06118	鉢	K33	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	にぶい黄色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
246	SNU-06431	鉢	L31	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	にぶい黄色	灰黄色	角閃石・長石・石英	粘土紐貼付	
247	SNU-04647	鉢	T27	Ⅲ b	刻目(半鍬竹管状工具) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
248	SNU-04538	鉢	G29	Ⅲ b	刻目(半鍬竹管状工具) / ナデ	ナデ	黄褐色・黒褐色	にぶい褐色・暗灰黄色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
249	SNU-01962	鉢	T27	Ⅲ a	刻目(指) / ナデ	ナデ	褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
250	SNU-04725	鉢	T28	Ⅲ b	刻目(棒) / 貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
251	SNU-06390	鉢	K31	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / 貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
252	SNU-05418	鉢	N31	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	褐色	灰黄色	角閃石・石英	年代測定試料9	
253	SNU-07432	鉢	P21	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	褐色・黒褐色	にぶい褐色・灰褐色	角閃石・長石・石英		
254	SNU-03624	鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	石英		
255	SNU-06507	鉢	L31	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / 研磨	貝殻条痕・ナデ, 研磨	にぶい褐色	褐色	長石・石英		
256	SNU-01042	鉢	M32	Ⅲ a	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	にぶい褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
27	257	SNU-04123	浅鉢	X23	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
258	SNU-02215	浅鉢	W24	Ⅲ a	研磨	研磨	浅黄色	にぶい黄色	角閃石・長石		

第7表 出土土器観察表⑦

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考	
						外面	内面	外面	内面			
27	259	SNU-05611	浅鉢	L32	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	褐灰色	褐灰色	角閃石・長石・石英		
	260	SNU-00529	浅鉢	K33	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英		
	261	SNU-04449	浅鉢	V25	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄橙色・暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
	262	SNU-03307	浅鉢	S21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/研磨	研磨	橙色	橙色	角閃石・長石・石英		
	263	SNU-07569	浅鉢	S21	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/研磨	研磨	にぶい黄橙色・黒褐色	にぶい橙色・褐灰色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	264	SNU-05053	浅鉢	T28	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	研磨	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・雲母		
	265	SNU-01938	浅鉢	T28	Ⅲ a	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	橙色	角閃石・長石・石英		
	266	SNU-05206	浅鉢	P30	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・長石		
	267	SNU-06891	浅鉢	K32	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	角閃石・長石・石英		
	268	SNU-00429	浅鉢	L31	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	269	SNU-05680	浅鉢	K33	Ⅲ b	研磨	研磨, ナデ	黄灰色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	270	SNU-06385	浅鉢	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	橙色・暗灰黄色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
	271	SNU-05326	浅鉢	O31	Ⅲ b	研磨	研磨	浅黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	272	SNU-05278	浅鉢	N30	Ⅲ b	研磨	研磨	灰黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	273	SNU-00371	浅鉢	L31	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	274	SNU-01075	浅鉢	M32	Ⅲ a	研磨	研磨	黒褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英		
	275	-	浅鉢	-	魔土	研磨	研磨	赤褐色・にぶい黄褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	276	SNU-06138	浅鉢	J32	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	277	SNU-00652	浅鉢	K33	Ⅲ a	研磨	研磨	赤褐色	赤褐色	長石・石英	赤色顔料	
	278	SNU-05438 SNU-07984	浅鉢	M31	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	279	SNU-05223	浅鉢	P31	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	280	SNU-00532	浅鉢	K32	Ⅲ a	不明	不明	にぶい赤褐色	灰赤色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	28	281	SNU-05563	浅鉢	M32	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
		282	-	浅鉢	2区	Ⅲ b	研磨	研磨	黒色	黒色	角閃石・長石・石英	
		283	SNU-00256	浅鉢	J32	Ⅲ a	研磨	研磨	黒褐色	黒色	角閃石・長石・石英・雲母	
		284	SNU-07459	浅鉢	P20	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英	
		285	SNU-04949	浅鉢	R28	Ⅲ b	研磨	研磨	浅黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
		286	SNU-01374	浅鉢	H28	Ⅲ a	研磨	研磨	黒色	黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
287		SNU-01979 SNU-04891	浅鉢	T28 T28	Ⅲ a Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい褐色	橙色	角閃石・長石・石英		
288		SNU-06759	浅鉢	R28	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
289		SNU-06985	浅鉢	U24	Ⅲ b	研磨	研磨	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
290		SNU-01970	浅鉢	T27	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英		
291		SNU-01943	浅鉢	S28	Ⅲ a	研磨	擦過・研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
292		SNU-01097	浅鉢	M31	Ⅲ a	研磨	研磨	橙色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
293		SNU-00269	浅鉢	J32	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色・褐灰色	褐灰色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
294		SNU-02919 SNU-07438	浅鉢	O21 P21	Ⅲ a Ⅲ b	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英		
295		SNU-01363	浅鉢	H28	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
296		SNU-05063	浅鉢	T28	Ⅲ b	研磨	研磨	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
297		SNU-01857	浅鉢	R28	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
298		SNU-04958	浅鉢	R28	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	赤色顔料塗彩	
299		SNU-05894	浅鉢	L31	Ⅲ b	研磨	研磨	浅黄褐色・黒褐色	明黄褐色・黄褐色	角閃石・長石・石英		
300		SNU-01670	浅鉢	T28	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
301		SNU-05234	浅鉢	P31	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英		
302		SNU-01990	浅鉢	T28	Ⅲ a	ナデ	研磨, ナデ	にぶい褐色	明褐色	角閃石・長石・石英		
303		SNU-04036 SNU-03924	浅鉢	Z21 Z22	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
304		SNU-01016	浅鉢	K33	Ⅲ a	研磨	研磨	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		

第 8 表 出土土器観察表⑧

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考	
						外面	内面	外面	内面			
28	305	SNU-03293	浅鉢	R22	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい橙色	褐灰色	角閃石・長石・石英	焼成後穿孔	
	306	SNU-03191	浅鉢	Q21	Ⅲ a	研磨	研磨	褐灰色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	307	SNU-04853	浅鉢	T28	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい橙色	角閃石・長石・石英		
	308	SNU-07012	浅鉢	T25	Ⅲ b	研磨	擦過	明黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	309	SNU-04981	浅鉢	S28	Ⅲ b	ナデ	研磨・ナデ	明褐色	にぶい橙色・黒色	角閃石・長石		
	310	SNU-00129	浅鉢	N32	Ⅲ a	研磨	研磨	黒褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	311	-	浅鉢	Z22	Ⅱ c	研磨	研磨	灰黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	赤色顔料	
	312	SNU-06889	浅鉢	K32	Ⅲ b	ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	313	SNU-00618	浅鉢	K34	Ⅲ a	研磨	ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	314	SNU-00955	浅鉢	M32	Ⅲ a	研磨	ナデ	黄灰色	黄灰色	角閃石・長石・石英・雲母	調整前穿孔	
	315	SNU-04180 SNU-04254 SNU-04363 SNU-04518	浅鉢	W25 V24 V25 W25	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色 淡黄色 暗オリーブ褐色	暗灰黄色・灰黄褐色	角閃石・長石・石英		
	316	SNU-02012 SNU-04551	浅鉢	H28 G28	Ⅲ a Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色・灰黄褐色	にぶい黄褐色・灰黄褐色	角閃石・長石・石英		
	317	SNU-02836	浅鉢	U24	Ⅲ a	研磨・貝殻条痕	研磨	にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
	318	SNU-03579	浅鉢	AA21	Ⅲ b	研磨	研磨	浅黄褐色	淡黄色	角閃石・長石・石英		
	319	SNU-03484	浅鉢	O31	Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	320	SNU-06067	浅鉢	J33	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	321	SNU-05915	浅鉢	L31	Ⅲ b	研磨	研磨	赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	322	SNU-02340	浅鉢	Y23	Ⅲ a	研磨	ナデ	明黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
	323	SNU-06398	浅鉢	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	324	SNU-01390	浅鉢	H28	Ⅲ a	研磨	研磨	灰色	黒褐色	角閃石・長石・石英		
	325	SNU-00602	浅鉢	J33	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	326	SNU-05189	浅鉢	Q30	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	327	SNU-03751	浅鉢	AA21	Ⅲ b	不明	不明	橙色	明黄褐色	角閃石・石英		
	328	SNU-02557	浅鉢	Z22	Ⅲ a	研磨	研磨	褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	329	SNU-07511	浅鉢	Q22	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色・褐灰色	黄灰色	角閃石・長石・石英		
	330	SNU-06111	浅鉢	J33	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色・黒褐色	黒色	角閃石・長石・石英		
	331	SNU-05277	浅鉢	N30	Ⅲ b	研磨	研磨	灰褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子		
	332	SNU-07407	浅鉢	Z21	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色・黒褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英		
	333	SNU-03521	浅鉢	AB22	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	明褐色	角閃石・長石・石英		
	334	SNU-01425	浅鉢	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色・黒褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英		
	335	SNU-03670	浅鉢	AB21	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英		
	336	SNU-00598	浅鉢	L31	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英・雲母		
	337	SNU-02284 SNU-02256	浅鉢	X24	Ⅲ a	研磨	研磨	橙色・明赤褐色	橙色・明赤褐色	角閃石・長石・石英		
	29	338	SNU-03785	浅鉢	AA22	Ⅲ b	刻目(指) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄色・黒褐色	角閃石・長石・石英	
		339	SNU-02801	浅鉢	S24	Ⅲ a	刻目(指) / ナデ・擦過	ナデ	黒褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母	年代測定試料12
		340	SNU-04935	浅鉢	S28	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕・ナデ	ナデ	灰黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
		341	SNU-07418	浅鉢	O21	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕・ナデ・貝殻条痕	擦過	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
342		SNU-04504	浅鉢	U27	Ⅲ b	刻目(指) / 擦過	擦過・ナデ	にぶい赤褐色	黒褐色・橙色	角閃石・長石		
343		SNU-07974	浅鉢	T26	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	黄褐色・黄灰色	灰色	角閃石・長石・石英		
344		SNU-07978	浅鉢	K33	Ⅲ b	刻目(指) / 貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
345		SNU-03335	浅鉢	U24	Ⅲ a	刻目(指) / ナデ	ナデ	灰黄色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英		
346		SNU-05394	浅鉢	N32	Ⅲ b	刻目(指) / 擦過	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
347		-	浅鉢	-	廃土	刻目(指) / 貝殻条痕	ナデ	オリーブ黒色・橙色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
348		SNU-00822	浅鉢	L33	Ⅲ a	刻目(指) / ナデ	ナデ	浅黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英		
349		SNU-06000	浅鉢	J32	Ⅲ b	刻目(指) / ナデ	擦過・ナデ	浅黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		

第9表 出土土器観察表⑨

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
29	350	SNU-00446	浅鉢	L32	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	351	SNU-03183	浅鉢	Q21	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英	
	352	SNU-03056	浅鉢	Q20	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	オリーブ黒色	灰色	角閃石・長石・石英	
	353	SNU-02420	浅鉢	Z22	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	354	SNU-03832	浅鉢	Y22	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	355	SNU-01058	浅鉢	M32	Ⅲ a	刻目(指)/貝殻条痕	ナデ	橙色	明赤褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	356	SNU-00401	浅鉢	L31	Ⅲ a	刻目(指)/ナデ	捺過	にぶい黄褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	357	SNU-02585	浅鉢	Y22	Ⅲ a	刻目(指)/貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色・灰色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	358	SNU-01487	浅鉢	P30	Ⅲ a	刻目(指)/貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色・オリーブ黒色	オリーブ黒色	角閃石・長石・石英	
	359	SNU-07291	浅鉢	K31	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・黒褐色	黒色	角閃石・長石・石英	
	360	SNU-04762	浅鉢	S27	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	黒色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	361	SNU-05802	浅鉢	K30	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	黒色・浅黄色	黒色	角閃石・長石・石英	
	362	SNU-05261	浅鉢	O30	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕	ナデ	橙色・黒褐色	赤褐色・にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	363	SNU-06473	浅鉢	L31	Ⅲ b	刻目(指)/捺過	ナデ	にぶい黄褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
	364	SNU-06378	浅鉢	K31	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・黒色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	365	SNU-06287	浅鉢	K32	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	366	SNU-05669	浅鉢	K33	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	黒褐色・黄灰色	黒褐色・灰黄色	角閃石・長石	
	367	SNU-02631	浅鉢	Z23	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ・捺過	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	368	SNU-04095	浅鉢	Y23	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
	369	SNU-07445	浅鉢	P20	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	浅黄色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	370	SNU-07886	浅鉢	Y23	Ⅲ b	刻目(棒)/捺過・ナデ	捺過・ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
	371	SNU-05172	浅鉢	P30	Ⅲ b	刻目(棒)/捺過・ナデ	ナデ	橙色・灰褐色	にぶい黄褐色・黒褐色	角閃石・長石・石英	
	372	SNU-03757	浅鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	373	SNU-02483	浅鉢	Z22	Ⅲ a	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	374	SNU-03584	浅鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(棒)/貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	375	SNU-03585	浅鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
	376	SNU-03876	浅鉢	Z22	Ⅲ b	刻目(棒)/貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	浅黄色	黄褐色	角閃石	
	377	-	浅鉢	5区南東部	攪乱	刻目(棒)/ナデ・捺過	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	378	SNU-06749	浅鉢	S29	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	褐色	にぶい褐色・黒色	角閃石・長石・石英・雲母	
	379	SNU-05126	浅鉢	Q30	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	黒色	黒褐色	角閃石・長石	
	380	SNU-04522	浅鉢	X23	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
	381	SNU-05536	浅鉢	M32	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	浅黄色・暗灰黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英・雲母	
	382	SNU-04690	浅鉢	T27	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	383	SNU-06301	浅鉢	K32	Ⅲ b	刻目(棒)/捺過	ナデ・捺過	にぶい黄褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	384	SNU-05180	浅鉢	Q30	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	浅黄色・黄灰色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	385	SNU-05007	浅鉢	R29	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
	386	SNU-08005	浅鉢	G28	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	ナデ・捺過	にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	387	SNU-03003	浅鉢	P20	Ⅲ a	刻目(棒)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英・雲母	
	388	SNU-07487	浅鉢	Q20	Ⅲ b	刻目(棒)/ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
389	SNU-01545	浅鉢	Q29	Ⅲ a	刻目(棒)/捺過	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
390	SNU-06074	浅鉢	J33	Ⅲ b	刻目(棒)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	暗灰黄色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
391	SNU-02996	浅鉢	P20	Ⅲ a	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
392	SNU-00816	浅鉢	L33	Ⅲ a	刻目(棒)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	暗灰黄色・黄灰色	角閃石・長石・石英		
393	SNU-01031	浅鉢	L32	Ⅲ a	刻目(棒)/ナデ	ナデ	明黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英		
30	394	SNU-05896	浅鉢	L31	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/捺過・ナデ・捺過	ナデ	にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石	
	395	SNU-00356	浅鉢	L32	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/捺過	ナデ	橙色	浅黄色	角閃石・長石・石英・雲母	
	396	SNU-02417	浅鉢	Z22	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	ナデ・貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	397	SNU-01602	浅鉢	S29	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	398	SNU-01777	浅鉢	S28	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	399	SNU-03777	浅鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・灰黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石	



第10表 出土土器観察表⑩

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
30	400	SNU-07325	浅鉢	H28	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	橙色・褐灰色	橙色・灰褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	401	SNU-04878	浅鉢	T28	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄橙色・黒色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	402	SNU-04150	浅鉢	X24	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/捺過	ナデ	暗灰黄色	灰黄色	長石・石英	
	403	SNU-00355	浅鉢	L32	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	404	SNU-03094	浅鉢	R20	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	浅黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	405	SNU-03159	浅鉢	P22	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	捺過・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	406	SNU-07316	浅鉢	H29	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/ナデ	捺過	黒色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	407	SNU-07821	浅鉢	M31	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色・灰黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	408	SNU-03261	浅鉢	R21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	貝殻条痕・ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
	409	SNU-03688	浅鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(伴裁竹管状工具)/貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・白色粒子	年代測定試料11
	410	SNU-03452	浅鉢	X23	Ⅲ b	刻目(指)/貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	411	SNU-04211	浅鉢	W24	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	412	SNU-05698	浅鉢	K33	Ⅲ b	捺過	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔
	413	SNU-03052	浅鉢	Q20	Ⅲ a	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	414	SNU-06243	浅鉢	K32	Ⅲ b	捺過	ナデ	橙色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	415	SNU-07750	浅鉢	J33	Ⅲ b	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい褐色・黒色	灰黄褐色・黒褐色	角閃石・長石	
	416	SNU-03490	浅鉢	N31	Ⅲ b	捺過	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐色・橙色	角閃石・長石	
	417	SNU-00449	浅鉢	L31	Ⅲ a	捺過	ナデ	橙色・黒褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	418	SNU-05572	浅鉢	M32	Ⅲ b	捺過	貝殻条痕・ナデ	灰黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	419	SNU-03283	浅鉢	R22	Ⅲ a	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英	
	420	SNU-02594	浅鉢	AA20	Ⅲ b	捺過	貝殻条痕・ナデ	黒褐色・にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	421	SNU-06866	浅鉢	L31	Ⅲ b	捺過	ナデ	暗灰黄色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	422	SNU-08045	浅鉢	W23	Ⅲ b	捺過	捺過	黒色・にぶい黄褐色	褐灰色	角閃石・長石	
	423	SNU-07120	浅鉢	S24	Ⅲ b	研磨	捺過・研磨	にぶい黄褐色	黄灰色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	424	SNU-07301	浅鉢	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	明褐色・灰色	角閃石・長石・石英・雲母	
	425	SNU-02766	浅鉢	T24	Ⅲ a	研磨	捺過	明赤褐色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・暗灰黄色	角閃石・長石・石英	
	426	SNU-07248	浅鉢	L31	Ⅲ b	捺過	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英	
	427	SNU-02926	浅鉢	P21	Ⅲ a	捺過・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	428	SNU-04602	浅鉢	H29	Ⅲ b	捺過・ナデ	ナデ	褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	429	-	浅鉢	5区南東部	攪乱	捺過	捺過・ナデ	オリブ黒色・にぶい黄褐色	暗灰黄色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	430	SNU-05554	浅鉢	M32	Ⅲ b	ナデ	研磨	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英	
	431	SNU-01079	浅鉢	M32	Ⅲ a	ナデ	ナデ	黒色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	432	SNU-02126	浅鉢	V25	Ⅲ a	研磨	研磨	暗灰黄色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	433	SNU-03356	浅鉢	R21	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英・黒曜石	
	434	SNU-05553	浅鉢	M32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	435	SNU-07219	浅鉢	J32	Ⅲ b	研磨	研磨	赤褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英・雲母	赤色顔料
	436	SNU-06875	浅鉢	L31	Ⅲ b	研磨	研磨	赤褐色	明赤褐色・にぶい褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料
	437	SNU-00481	浅鉢	K32	Ⅲ a	研磨	研磨	明赤褐色・灰黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料
	438	SNU-04089	浅鉢	Y23	Ⅲ b	捺過	捺過	にぶい褐色	褐灰色	角閃石・長石・石英	
	439	SNU-02323	浅鉢	Y23	Ⅲ a	捺過	ナデ	赤褐色	にぶい黄褐色・褐灰色	角閃石・長石・石英	
	440	SNU-00039	浅鉢	K32	Ⅲ a	捺過	ナデ	赤褐色・褐灰色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
	441	SNU-07167	浅鉢	T24	Ⅲ b	捺過・ナデ	捺過・ナデ	褐色	浅黄褐色	角閃石・長石・石英	
	442	SNU-03493	浅鉢	N32	Ⅲ b	ナデ・捺過	研磨	にぶい黄褐色・黒色	にぶい黄褐色・褐灰色	角閃石・長石	
	443	-	浅鉢	5区南東部	攪乱	捺過・ナデ	ナデ	明赤褐色	褐色	角閃石・長石	
	444	SNU-03024	浅鉢	P21	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英	
	445	SNU-03988	浅鉢	Z22	Ⅲ b	ナデ	ナデ	赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ
	446	SNU-04465	浅鉢	V26	Ⅲ b	捺過・アンギン	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	年代測定試料13
	447	SNU-05866	浅鉢	M31	Ⅲ b	アンギン	研磨	明黄褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	448	SNU-04714	浅鉢	T28	Ⅲ b	アンギン	研磨	にぶい褐色・褐灰色	黒色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母・白色粒子	
449	SNU-03384	浅鉢	V26	Ⅲ b	アンギン	研磨	褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英		

第11表 出土土器観察表①

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考	
						外面	内面	外面	内面			
31	450	SNU-04474	浅鉢	U25	Ⅲ b	アンギン	ナデ	にぶい黄橙色	浅黄色	角閃石・長石		
	451	-	浅鉢	5区南東部	擾乱	アンギン	研磨	にぶい黄橙色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	452	SNU-05970 SNU-07279	浅鉢	K31 K31	Ⅲ b Ⅲ b	籠目	ナデ	黒褐色・明赤褐色	にぶい赤褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
	453	SNU-06361	浅鉢	K31	Ⅲ b	籠目	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色・灰色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
	454	SNU-05609 SNU-05614	浅鉢	L32 L32	Ⅲ b Ⅲ b	籠目	ナデ	にぶい黄橙色・橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	455	SNU-03359	浅鉢	S20	Ⅲ a	籠目	ナデ	灰褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英		
	456	SNU-04415 SNU-04416 SNU-04418	浅鉢	V25 V25 V25	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	不明	ナデ	にぶい黄褐色・にぶい橙色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：籠目	
	457	SNU-03022	浅鉢	P21	Ⅲ a	籠目	ナデ	黒褐色・にぶい黄褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英		
	458	SNU-05924	浅鉢	L31	Ⅲ b	籠目	ナデ	にぶい褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	459	SNU-03558	浅鉢	AA22	Ⅲ b	籠目	研磨	褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英		
	460	SNU-01059	浅鉢	M32	Ⅲ a	籠目	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	461	SNU-03245	浅鉢	R20	Ⅲ a	籠目	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	462	SNU-07281	浅鉢	K31	Ⅲ b	籠目	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
	463	SNU-05392	浅鉢	N32	Ⅲ b	籠目・捺過	ナデ	黒色・にぶい黄褐色	暗褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
	464	SNU-00097	浅鉢	K31	Ⅲ a	刻目(ヘラ) / 捺過	ナデ	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英		
	465	SNU-03776	浅鉢	AA21	Ⅲ b	刻目(ヘラ) / ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	466	SNU-03583	浅鉢	AA21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	467	-	浅鉢	J32	Ⅱ c	貝殻条痕, ナデ, 籠目	ナデ	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	468	SNU-00198	浅鉢	J32	Ⅲ a	捺過, ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
	469	SNU-05345	浅鉢	O31	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色・褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
	470	SNU-06069	浅鉢	J33	Ⅲ b	捺過	ナデ	明褐色・にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	471	SNU-00218	浅鉢	J33	Ⅲ a	ナデ	研磨	黒色・にぶい黄褐色	黒色	角閃石・長石・雲母・白色粒子		
	472	SNU-07548	浅鉢	Q20	Ⅲ b	ナデ	ナデ	明褐色・褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	473	SNU-05912	浅鉢	L31	Ⅲ b	ナデ	ナデ	灰黄褐色	明黄褐色	角閃石・石英・雲母		
	32	474	SNU-03459 SNU-04956 SNU-07918	浅鉢	R28 R28 S28	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨	黒褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母	
		475	SNU-05191	浅鉢	Q30	Ⅲ b	研磨	研磨	明黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
		476	SNU-07558	浅鉢	R20	Ⅲ b	研磨	研磨	暗灰黄色	黄灰色	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	
477		SNU-04188	浅鉢	W25	Ⅲ b	研磨	研磨	褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英・雲母		
478		SNU-05405	浅鉢	N31	Ⅲ b	研磨	研磨	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
479		SNU-05551	浅鉢	M32	Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	にぶい褐色・褐色	角閃石・長石・石英		
480		SNU-00409	浅鉢	M31	Ⅲ a	研磨	研磨	灰黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
481		SNU-00410 SNU-05437	浅鉢	M31 M31	Ⅲ a Ⅲ b	不明	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
482		SNU-02083	浅鉢	U26	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	浅黄褐色	長石・石英		
483		SNU-02615	浅鉢	Z21	Ⅲ b	研磨	研磨	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石		
484		SNU-01225	浅鉢	O30	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
485		SNU-01544	浅鉢	Q29	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
486		SNU-00036	浅鉢	K32	Ⅲ a	研磨	研磨	明赤褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・雲母		
487		SNU-07969	浅鉢	V24	Ⅲ b	研磨	研磨	暗灰黄色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英		
488		SNU-05817 SNU-05793	浅鉢	K31 L30	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨	黒色・灰黄褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英・雲母		
489		SNU-06946	浅鉢	S22	Ⅲ b	研磨	研磨	灰褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
490		SNU-07807	浅鉢	M31	Ⅲ b	研磨	ナデ	にぶい赤褐色・灰黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英	線刻あり, 赤色顔料	
491		SNU-07305	浅鉢	K33	Ⅲ b	研磨	ナデ, 研磨	浅黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	

第12表 出土土器観察表⑫

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考	
						外面	内面	外面	内面			
32	492	SNU-07342	浅鉢	M32	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	赤色顔料	
	493	SNU-04400	浅鉢	V25	Ⅲ b	研磨、捺過	捺過・研磨	明赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英		
	494	SNU-01742	浅鉢	S27	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英		
	495	-	浅鉢	M32	Ⅱ c	研磨	ナデ	にぶい黄褐色	灰白色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	焼成後穿孔	
	496	SNU-06978	浅鉢	U24	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
	497	SNU-06178 SNU-06223	浅鉢	K33 K32	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	にぶい橙色	角閃石・長石・石英		
	498	SNU-08030	浅鉢	R29	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色・橙色	橙色	角閃石・長石		
	499	SNU-07811	浅鉢	J33	Ⅲ a	研磨	研磨	明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英		
	500	SNU-02894	浅鉢	O21	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	501	SNU-00421	浅鉢	M31	Ⅲ a	研磨	研磨	黒褐色	黄灰色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	502	SNU-06090	浅鉢	J33	Ⅲ b	研磨	研磨	灰黄褐色・橙色	暗灰黄色	角閃石・石英	底面：捺過	
	503	SNU-01154	浅鉢	N31	Ⅲ a	研磨	研磨	浅黄色	明黄褐色	角閃石・長石・石英		
	504	SNU-06421	浅鉢	L31	Ⅲ b	研磨	研磨	橙色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	505	SNU-04539	浅鉢	G28	Ⅲ b	研磨	研磨	暗灰黄色	黄灰色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	506	SNU-07392	浅鉢	Z21	Ⅲ b	研磨	研磨	黒褐色・明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：研磨 赤色顔料	
	507	SNU-06198	浅鉢	K32	Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	508	SNU-07280	浅鉢	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	黒褐色・灰黄色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
	509	SNU-06671	浅鉢	AA22	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい褐色・黒色	黒色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	510	SNU-06770	浅鉢	S27	Ⅲ b	研磨	研磨	黒色・灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	511	SNU-07388	浅鉢	P20	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・赤色粒子	底面：ナデ	
	512	SNU-07422	浅鉢	P22	Ⅲ b	研磨	研磨	浅黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：研磨	
	513	SNU-01635	浅鉢	R30	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：研磨	
	514	SNU-06956 SNU-03174	浅鉢	S22 Q21	Ⅲ b Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい黄褐色・黒褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	515	SNU-05343	浅鉢	O31	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	底面：研磨	
	516	SNU-01112	浅鉢	M32	Ⅲ a	捺過	研磨	にぶい黄褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
	517	SNU-06139	浅鉢	J32	Ⅲ b	研磨	ナデ	極暗褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	518	SNU-02841	浅鉢	U24	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英	底面：ナデ	
	33	519	SNU-01420 SNU-01421 SNU-02011	壺	K31 K31 K31	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨、ナデ	赤褐色	暗赤褐色・灰黄色	長石・石英	
		520	SNU-07117	壺	T24	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石	
		521	SNU-01156 SNU-05391 SNU-05393 SNU-01166 SNU-03495	壺	N31 N32 N32 N31 N31	Ⅲ a Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ a Ⅲ b	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	
		522	SNU-08013	壺	H28	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	赤褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
		523	SNU-00262	壺	J32	Ⅲ a	研磨	研磨、貝殻条痕・ナデ	橙色	明赤褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
524		SNU-06675 SNU-06683	壺	AA22 AA21	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英		
525		SNU-07747	壺	K33	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色	明褐色	角閃石・石英		
526		SNU-05382	壺	O32	Ⅲ b	研磨	研磨	赤色	明黄褐色	石英		
527		SNU-00616	壺	J34	Ⅲ a	研磨	不明	明赤褐色	明黄褐色	長石・石英		
528		SNU-05040	壺	R28	Ⅲ b	不明	不明	にぶい褐色・暗赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英		
529		SNU-02886	壺	P20	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい赤褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英		
530		SNU-00440 SNU-01092	壺	L32 M32	Ⅲ a Ⅲ a	研磨	ナデ	暗赤褐色・黒褐色	極暗赤褐色・黒褐色	角閃石・長石・石英		
531		SNU-07396 SNU-03916 SNU-03996	壺	Z21 Z22 Z22	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい赤褐色・黒色	にぶい赤褐色	角閃石・長石・石英		

第13表 出土土器観察表⑬

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
33	532	SNU-07108	壺	S24	Ⅲ b	研磨	研磨, ナデ	赤褐色	赤褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石	
	533	SNU-08060	壺	P21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	赤褐色・明黄褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英	
	534	SNU-06120	壺	K33	Ⅲ b	ナデ	ナデ	明赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英	
	535	SNU-06319	壺	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	
	536	SNU-04348	壺	V25	Ⅲ b	研磨	ナデ	にぶい赤褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英	
	537	SNU-06571 SNU-06574 SNU-06576 SNU-06581 SNU-07308 SNU-07309 SNU-07863 SNU-07869	壺	Z21	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	538	SNU-04062 SNU-06564 SNU-06565 SNU-06566 SNU-06567 SNU-07388	壺	Z21	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨	赤色	明赤褐色	角閃石・長石・赤色粒子・白色粒子	
	539	SNU-03801 SNU-03802 SNU-06626	壺	Z21	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	不明	赤褐色	明褐色	長石・石英・赤色粒子	
	540	SNU-06649 SNU-02518 SNU-03947	壺	Z22	Ⅲ b Ⅲ a Ⅲ b	研磨	ナデ	にぶい赤褐色・黒褐色	にぶい赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	
	541	SNU-03418 SNU-03791 SNU-06604 SNU-07393	壺	Z22	Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	橙色	長石・石英	
	542	SNU-02047	壺	U26	Ⅲ a	-	ナデ	明赤褐色・にぶい橙色	橙色	角閃石・長石・石英	底面: ナデ
	543	SNU-06452	壺	L32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	544	SNU-06199	壺	K32	Ⅲ b	ナデ	-	明赤褐色	にぶい黄色	角閃石・長石・石英	
	545	SNU-04785 SNU-04786	壺	S27	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨, ナデ	赤褐色	にぶい黄褐色・赤褐色	角閃石・長石・石英	
	546	SNU-05496	壺	M32	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色	赤褐色・橙色	角閃石・長石・石英	
	547	SNU-07087	壺	T23	Ⅲ b	研磨	研磨	暗灰黄色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	548	SNU-07739	壺	K33	Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・石英	
	549	SNU-03276	壺	Q20	Ⅲ a	研磨	研磨	黒色・褐色	黒色・灰黄褐色	角閃石・長石・石英	
	550	SNU-05131	壺	Q30	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	
	551	SNU-00549	壺	K33	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	552	SNU-03494	壺	N31	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英	
	553	-	壺	K31	Ⅱ c	研磨	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	554	SNU-07442	壺	P21	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色・にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	555	SNU-00068	壺	L31	Ⅲ a	研磨	研磨	赤褐色	にぶい橙色	角閃石・長石・石英	
	556	SNU-00940	壺	L32	Ⅲ a	研磨	研磨	にぶい赤褐色	赤褐色・黒褐色	角閃石・長石・石英	
	557	SNU-00358	壺	L32	Ⅲ a	研磨	研磨, ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	角閃石・長石・石英	
	558	SNU-02013	壺	J33	Ⅲ a	研磨	研磨	赤褐色	赤褐色・にぶい黄褐色	長石・石英・雲母	
	559	SNU-00613	壺	J34	Ⅲ a	研磨	ナデ	赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
	560	SNU-03620 SNU-03619	壺	AA21	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	研磨, ナデ	赤褐色	赤褐色・明赤褐色	角閃石・長石・石英・雲母・白色粒子	

第14表 出土土器観察表⑭

図	番号	取上番号	器種	グリップ	層位	文様・調整		色調		胎土	備考	
						外面	内面	外面	内面			
34	561	SNU-06682	壺	AB21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英		
	562	SNU-00026	壺	J32	Ⅲ a	研磨	研磨	赤褐色	赤褐色	長石・石英		
	563	SNU-00926	壺	M33	Ⅲ b	研磨	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英		
	564	SNU-06195	壺	K32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
	565	SNU-02307	壺	Y23	Ⅲ a	研磨	研磨	赤色	赤色	角閃石・長石・石英		
	566	SNU-05557	壺	M32	Ⅲ b	研磨	研磨	明褐色	明褐色	角閃石・長石・石英		
	567	SNU-06696	壺	V25	Ⅲ b	研磨	研磨、ナデ	赤褐色	黄灰色	角閃石・長石・白色粒子		
	568	SNU-07923	壺	O30	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英		
	569	SNU-07300	壺	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	橙色	石英		
	570	SNU-07733	壺	J33	Ⅲ b	研磨	研磨	赤褐色	赤褐色・にぶい橙色	石英		
	571	SNU-07229	壺	K32	Ⅲ b	研磨	研磨	褐色	にぶい黄褐色	長石・石英		
	572	SNU-05971	壺	K31	Ⅲ b	研磨	研磨	赤褐色	赤褐色	石英		
	573	SNU-06123	壺	K33	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤色	褐色	長石・石英		
	574	SNU-06541	壺	S24	Ⅲ a	研磨	研磨	明赤褐色	にぶい赤褐色	角閃石・長石		
	575	SNU-06278	壺	K32	Ⅲ b	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英		
	576	SNU-05675	壺	K33	Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	明赤褐色・褐色	長石・石英		
	577	SNU-06403	壺	K31	Ⅲ b	研磨	ナデ	褐色・暗灰黄色	褐色	角閃石・長石・石英		
	578	SNU-03827	壺	Y22	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色	明赤褐色・暗灰黄色	角閃石・長石・石英		
	579	SNU-03457	壺	R28	Ⅲ b	研磨	ナデ	暗赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英		
	580	SNU-05664	壺	L33	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英		
	581	SNU-04046	壺	Z21	Ⅲ b	沈線/研磨	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英		
	582	SNU-04345	壺	V25	Ⅲ b	ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
	583	SNU-01180	壺	N31	Ⅲ a	研磨	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	長石・石英・雲母		
	584	SNU-05068	壺	T28	Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	浅黄色	角閃石・長石・石英		
	585	SNU-06656	壺	Z22	Ⅲ b	沈線/研磨	ナデ	褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英		
	586	SNU-01478	壺	K34	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色・明褐色	浅黄色	長石・石英		
	587	SNU-02656	壺	T25	Ⅲ a	研磨	ナデ	明赤褐色	浅黄色	長石・石英		
	588	SNU-05161	壺	P30	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
	589	SNU-03912	壺	Z22	Ⅲ b	研磨	研磨	褐色・黒色	灰褐色	角閃石・長石・石英		
	590	SNU-03601	壺	AA21	Ⅲ b	研磨	研磨、ナデ	明赤褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
	591	SNU-03975	壺	Z22	Ⅲ b	研磨	ナデ	黒色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
	35	592	SNU-05916 SNU-05923	壺	L31	Ⅲ b	研磨	ナデ	赤褐色・暗赤褐色	黄灰色	長石・石英	
		593	SNU-03976	壺	Z22	Ⅲ b	研磨	不明	赤褐色	にぶい褐色	長石・石英	
		594	SNU-03304	壺	R21	Ⅲ a	貝殻条痕	ナデ	褐色	褐色	長石・石英	
595		SNU-05786	壺	L30	Ⅲ b	研磨	擦過	にぶい赤褐色・黒色	淡黄色	長石・石英		
596		SNU-04638	壺	T27	Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英		
597		SNU-06624	壺	Z21	Ⅲ b	研磨	ナデ	暗赤褐色・にぶい赤褐色	褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
598		SNU-05517	壺	M32	Ⅲ b	研磨	ナデ	褐色・暗灰黄色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
599		SNU-01844	壺	R29	Ⅲ a	ナデ	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
600		SNU-02972	壺	P21	Ⅲ a	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	長石・石英	底面：ナデ	
601		SNU-06694	壺	W24	Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	灰黄色	角閃石・長石・石英		
36	602	SNU-04861	高坏・脚台	T28	Ⅲ b	刻目(指)/ナデ	擦過、ナデ	にぶい褐色	褐色	角閃石・長石・石英	底面：擦過、ナデ	
	603	SNU-02951	高坏・脚台	P21	Ⅲ a	刻目(ヘラ)/ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	底面：ナデ	
	604	SNU-05913	高坏・脚台	L31	Ⅲ b	刻目(ヘラ)/-	ナデ	明褐色	にぶい黄褐色・褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
	605	SNU-00340	高坏・脚台	L32	Ⅲ a	ナデ	ナデ	褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	底面：ナデ	
	606	SNU-06149	高坏・脚台	J32	Ⅲ b	擦過、ナデ	ナデ	褐色	褐色	角閃石・長石・石英		
	607	SNU-03010	高坏・脚台	Q20	Ⅲ a	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英		
	608	SNU-05775	高坏・脚台	J34	Ⅲ b	ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	褐色	石英・白色粒子		
	609	SNU-00056	高坏・脚台	L31	Ⅲ a	研磨	ナデ	明褐色	褐色・黒褐色	角閃石・長石	赤色顔料	

第15表 出土土器観察表⑮

図	番号	取上番号	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
36	610	SNU-05052	高坏・脚台	T28	Ⅲ b	ナデ	捺過	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	611	SNU-03285	高坏・脚台	R22	Ⅲ a	研磨	研磨	橙色	橙色	石英	
	612	SNU-03985	高坏・脚台	Z22	Ⅲ b	研磨	研磨	にぶい黄褐色・橙色	明黄褐色	石英	
	613	-	高坏・脚台	K33	Ⅱ c	ナデ	貝殻条痕・ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	614	-	高坏・脚台	J32	Ⅱ c	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	明黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	
	615	SNU-00751	高坏・脚台	K33	Ⅲ a	ナデ	ナデ	橙色	明赤褐色	角閃石・石英	
	616	SNU-06288	高坏・脚台	K32	Ⅲ b	ナデ	ナデ	にぶい黄色	-	角閃石・長石・石英	
	617	SNU-06526	高坏・脚台	N31	Ⅲ a	ナデ	捺過・ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石・石英	
	618	SNU-04050	高坏・脚台	Z21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・石英	
	619	SNU-04884	高坏・脚台	T28	Ⅲ b	ナデ	捺過	浅黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
37	620	SNU-05067	高坏・脚台	T28	Ⅲ b	ナデ	貝殻条痕・ナデ	明黄褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
	621	SNU-05174	ミニチュア土器	Q30	Ⅲ b	ナデ	ナデ	淡黄色	黄灰色	角閃石・長石・石英	
	622	SNU-08056	ミニチュア土器	P21	Ⅲ b	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英	
	623	SNU-05361	紡錘車	N31	Ⅲ b	研磨	-	浅黄色	浅黄色	角閃石・長石・石英	
	624	SNU-05946	紡錘車	L31	Ⅲ b	研磨	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
	625	SNU-00597	土製品	L31	Ⅲ a	研磨	-	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	626	SNU-05216	土製品	P31	Ⅲ b	研磨	-	灰黄褐色	-	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	
	627	-	土製品	Z22	Ⅱ c	ナデ	-	にぶい褐色	-	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	628	SNU-00260	土製品	J32	Ⅲ a	ナデ	-	にぶい褐色	-	角閃石・長石・石英	
	38	629	-	甕	U26	Ⅱ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英・雲母・赤色粒子
630		-	甕	P29	Ⅱ c	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英・赤色粒子	
631		-	甕	3区	Ⅱ	ナデ	ナデ	明黄褐色	にぶい黄褐色	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	
632		SNU-06588 SNU-06589	壺	Z21 Z21	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
633		SNU-03954 SNU-03795	壺	Z22 AA22	Ⅲ b Ⅲ b	研磨	ナデ	明赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英	
634		SNU-02128	小壺	V25	Ⅲ a	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英	
635		-	甕	Q18	Ⅱ	タタキ	タタキ	褐色	褐色	長石・石英・赤色粒子	
636		-	Ⅲ	R22	Ⅱ c	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
637		SNU-02599	播鉢	AB21	Ⅲ b	ナデ	罫目・ナデ	灰色	灰色	角閃石・長石・石英	
638		SNU-07926	播鉢	T25	Ⅲ a	ナデ	罫目	黄褐色	にぶい赤褐色	角閃石・長石・石英	
39	639	-	土製品	S24	Ⅱ	-	-	黄灰色	黄灰色	長石・石英	
	640	-	土鉢	2・3区南東部	攪乱	ナデ	-	にぶい黄褐色	-	赤色粒子	
	641	-	土鉢	7区	石垣裏込	ナデ	-	灰黄褐色	-	角閃石・長石	
	642	-	土鉢	3区南東部	攪乱	ナデ	-	褐色	-	長石・石英	
	643	-	土鉢	2・3区南東部	攪乱	ナデ	-	にぶい褐色	-	長石・石英・赤色粒子	
	644	SNU-00204	土鉢	J32	Ⅲ a	ナデ	-	にぶい褐色	-	赤色粒子・長石	

第16表 出土陶磁器観察表

図	番号	取上番号	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
						外面	内面	外面	内面		
39	645	-	青磁碗	2・3区南東部	攪乱	-	-	灰白色	灰白色	-	
	646	-	陶器皿	2・3区南東部	攪乱	-	-	にぶい黄褐色・赤褐色	灰白色	-	露胎
	647	-	染付碗	7区	石垣裏込	唐草文	-	明緑灰色	明緑灰色	-	

## (2) 石器

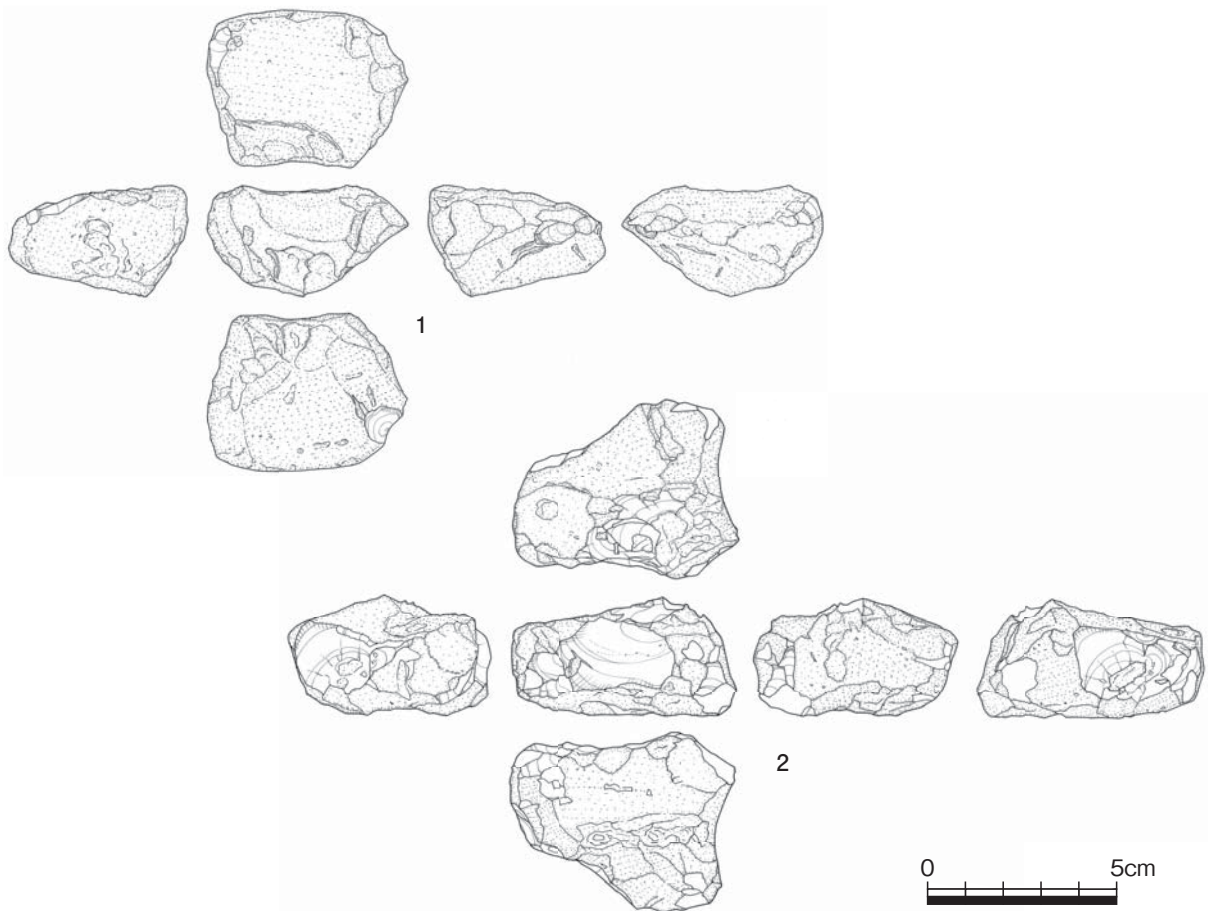
1・2は黒曜石の原石である。1は亜角礫で、自然面には細かい爪痕状の溝が入る。2は角礫状で、剥離面もみられるが、風化が進み、不純物が多く入る。

3～25は石核である。3～7はサヌカイト，8～25は黒曜石である。

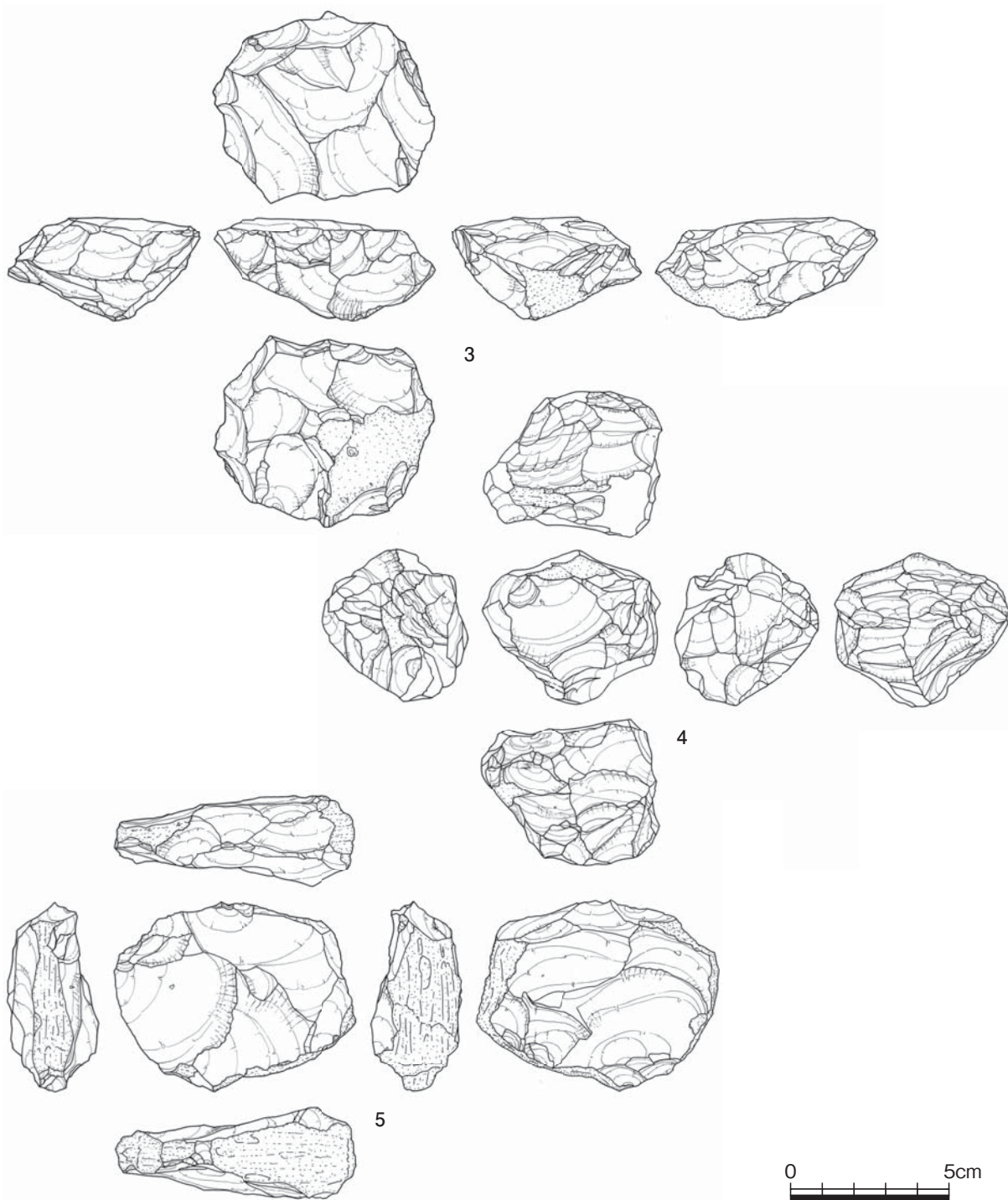
3は部分的に自然面を残し、扁平な形状をなす。周縁から中心に向かって剥離作業が行われる。4は打面転換をしながら作業を行っており、剥離が全体に及んでいる。二次移動によるものか、稜線上には潰れが観察される。5は扁平な形状で、上下面は周縁から中心に向かって剥離が行われ、側面をめぐるように自然面が残る。6は一部に自然面を残し、多方向から剥離が行われる。7はおもに自然面を打面とする剥離がみられる。

8は黒曜石角礫を素材としており、黒曜石の石核としては大型である。平坦な自然面を打面として、集中的に剥離が観察される。9は自然面を打面として連続的に同一方向に剥離が行われる。10は扁平な形状で、上下面に求心的な剥離が認められる。一部稜線上に潰れが観察される。11は打面を転換させながら数度の剥離を行う。12は上面から求心的な剥離が行われ、角錐状の形状となる。13は最終的に剥離面である上面を打面として、連続的な剥離を行っている。

14は多方向からの剥離作業により、サイコロ状の形状となる。15は大きく自然面を残しており、3 cm 角程度の非常に小さい角礫が素材であったことがうかがえる。16は打面を変えながらごく小さい

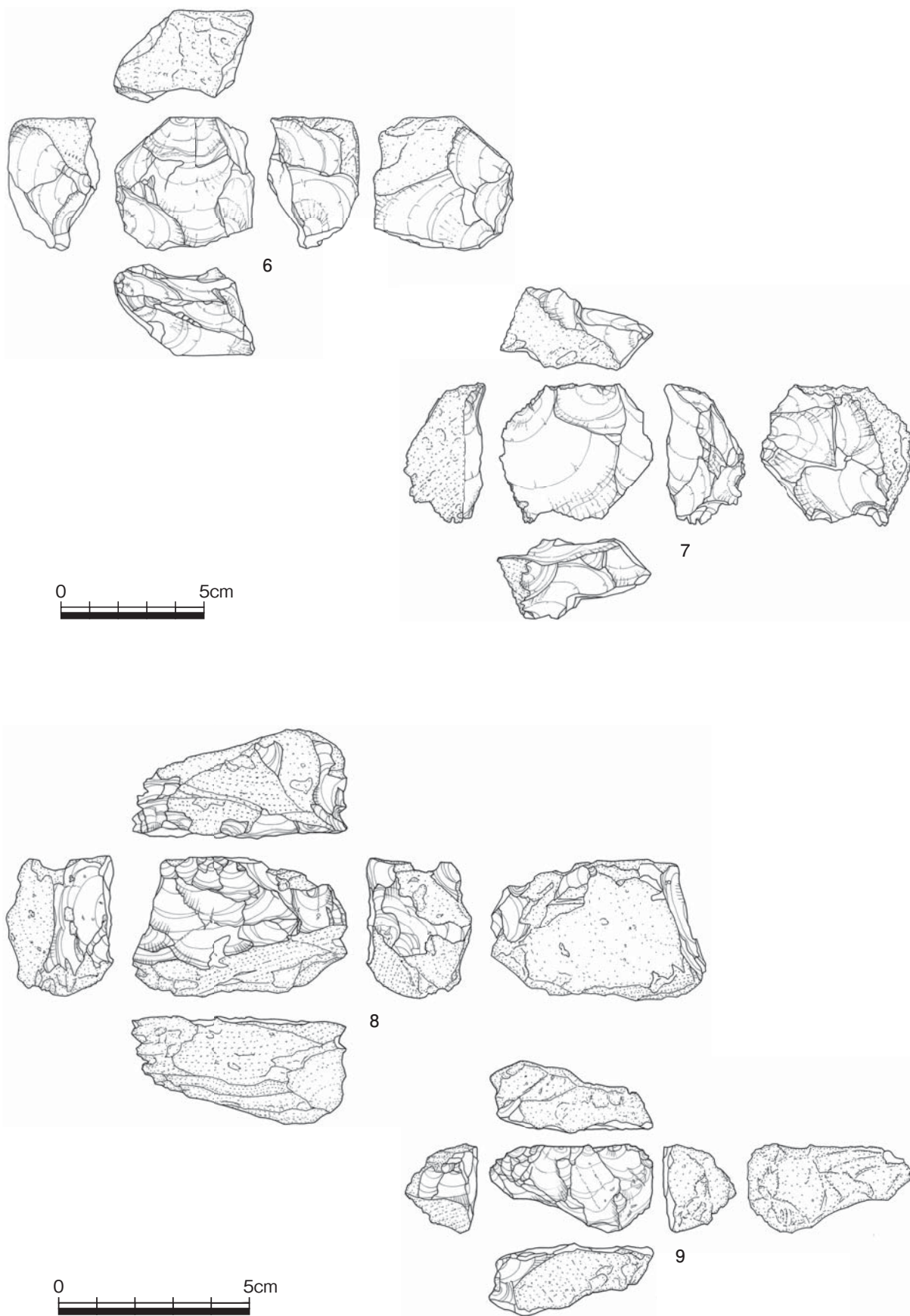


第40図 出土石器実測図① (S=1/2)

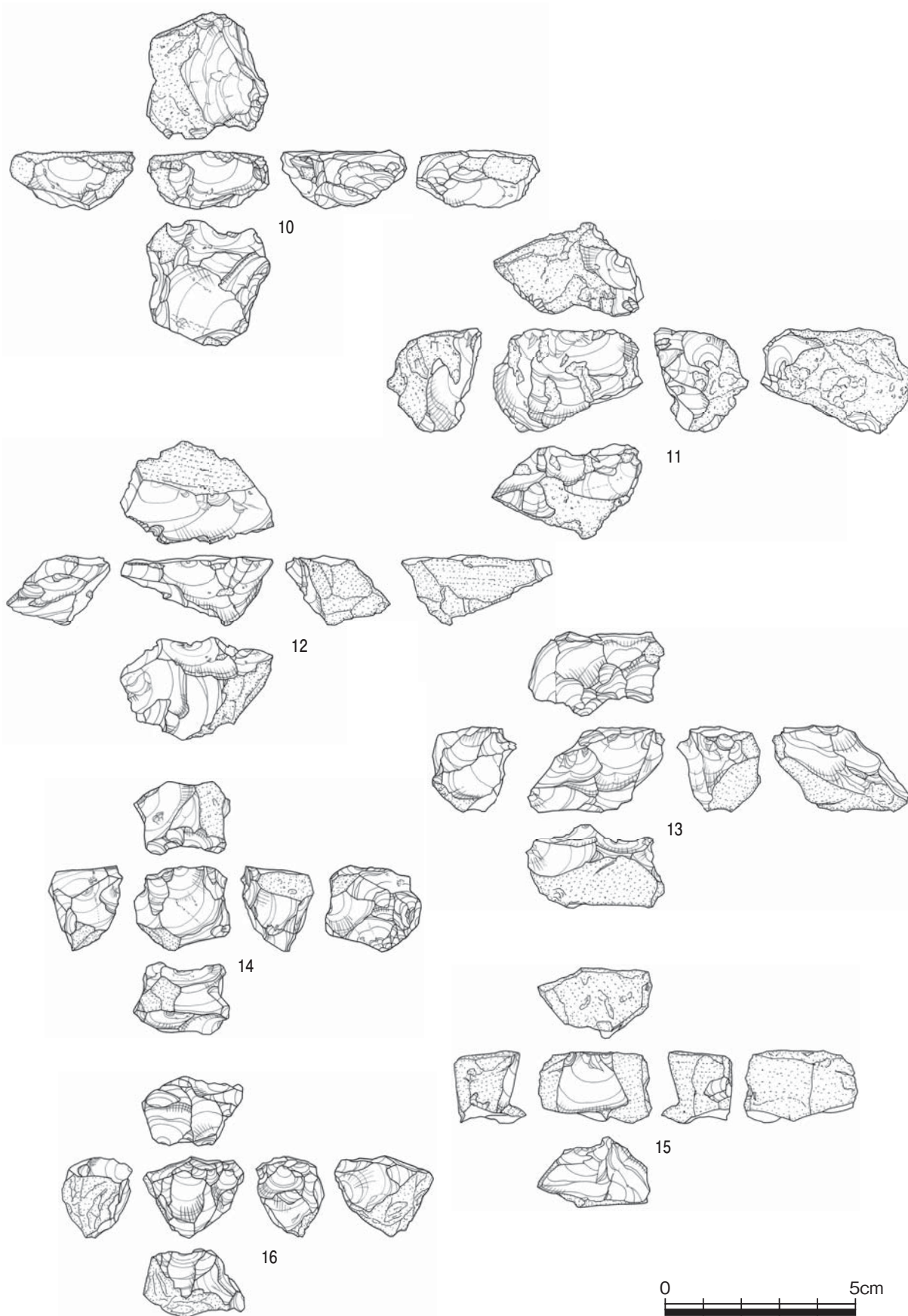


第41图 出土石器实测图② (S=1/2)

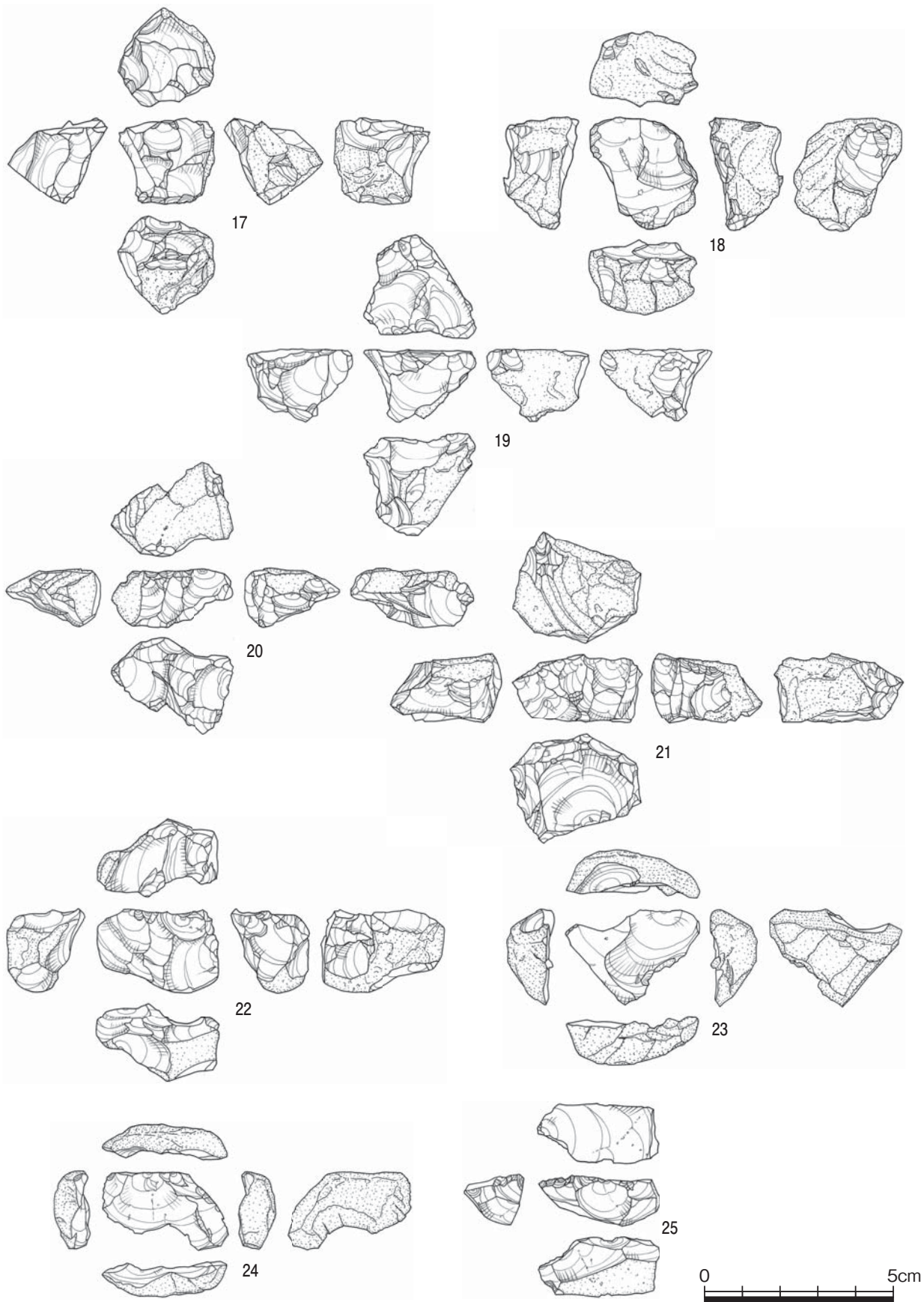




第42图 出土石器实测图③ (6·7 : S=1/2, 8·9 : S=2/3)



第43图 出土石器实测图④ (S=2/3)



第44图 出土石器实测图⑤ (S=2/3)

剥片を作出する。17は自然面，剥離面両方を打面として，打面転換しながら剥離作業を行っている。18は素材の長軸方向に剥離作業を行っている。19は暗青灰色の黒曜石である。20は平坦な自然面から連続的な剥離が行われている。21は不純物の多い黒曜石で，上面から側面をめぐるように剥離作業が行われている。22は多方向からの剥離が認められる。23・24は大きく自然面をとどめており，亜円礫を素材としていることがわかる。どちらも限界まで剥離作業が行われた残核である。25は剥離面を打面として最終的な剥離が行われている。

26～39はスクレイパーである。26は安山岩製，27～33，35～39はサヌカイト製，34は黒曜石製である。

26は片面に大きく自然面を残し，両側縁に連続的な剥離が認められる。27は片面に大きく自然面を残す。裏面は求心的な剥離面で覆われ，一側縁に細かい連続的な調整剥離を入れて刃部となす。28は剥片素材の末端付近を切断し，打点付近に両面から円弧状に調整を行う。29は素材剥片の打点付近と片方の側辺を切断し，もう片方の側辺に両面から調整剥離を施し，刃部は弧状となる。30は縦長の先細りとなる素材剥片の両側辺に主要剥離面側から調整剥離を行う。31は自然面を打面とする縦長剥片素材で，末端にも自然面を施す。右側辺に両面からの調整剥離が認められる。また，左側辺上半にも主要剥離面側からの細かい連続的な剥離が認められ，使用によるものかもしれない。32は縦長剥片素材で，打点付近は切断する。右側辺に主要剥離面側からの連続的な調整剥離が認められる。左側辺の中ほどに挟入するやや大きめの剥離が認められるが，反対側辺が発掘調査時の欠損のため対になるものかはわからない。33はやや小ぶりの縦長剥片を素材としており，両側辺に連続的な剥離が認められる。34は先細りとなる縦長の剥片素材を用いる。一部に自然面を残し，左側辺に主要剥離面側から連続的な調整剥離が行われる。

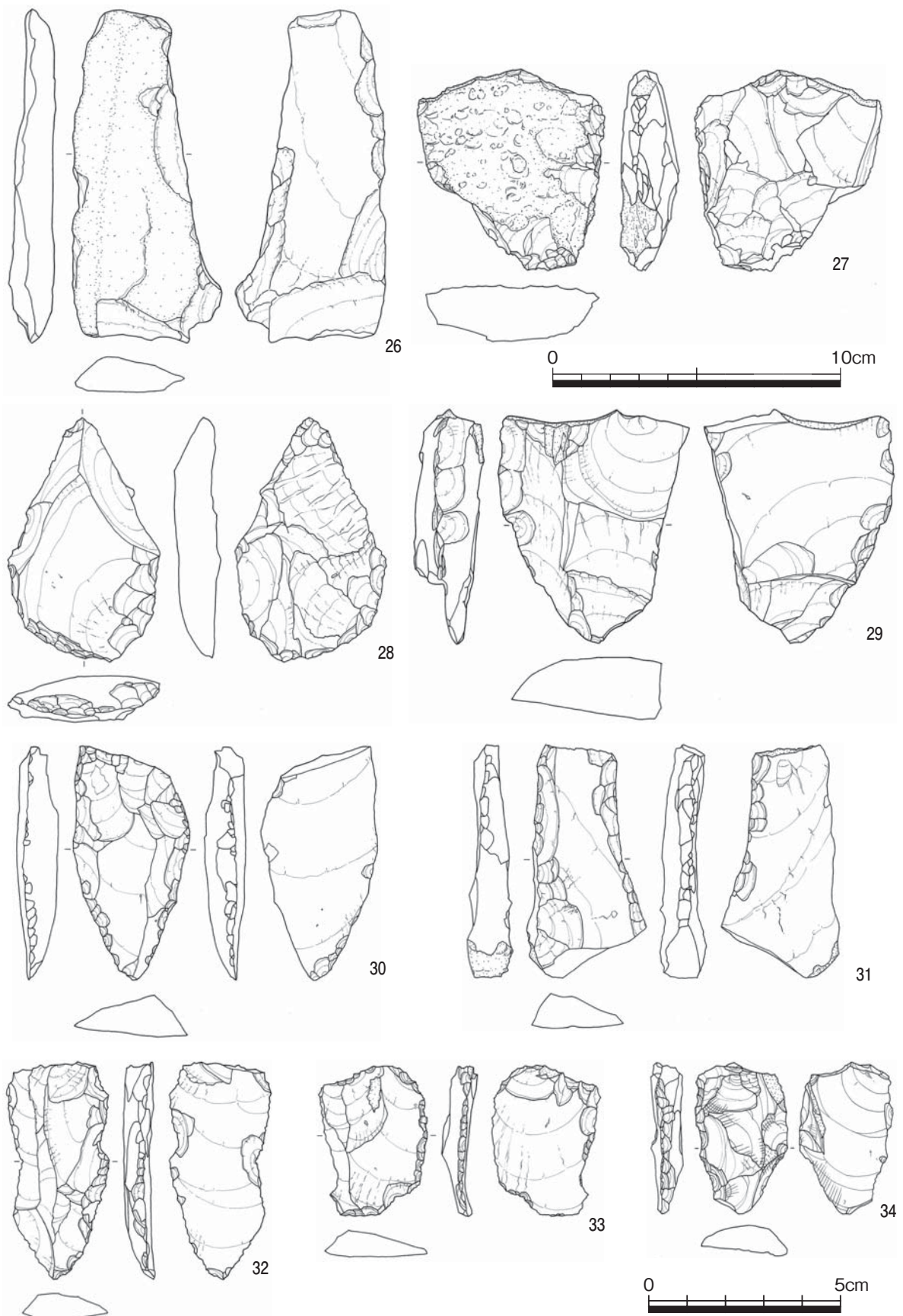
35は厚みがあり片方の側辺に自然面が残る縦長剥片を素材とし，もう片方の側辺に細かい剥離が主要剥離面側から入る。36は打点付近に数度の切断作業を行い，両側辺に主要剥離面側からの調整剥離を施す。片方は90度近くの急角度である。37は横長の剥片の打点付近を除去し，弧状をなす末端部に主要剥離面側から細かい調整剥離を行う。38は幅広の剥片素材の打点付近を除去し，末端部に細かい調整剥離を行う。39は幅広で末端部に自然面を残す剥片素材で，片方の側辺に調整剥離を行う。

40～53は石鏃である。54～58は石鏃未成品である。40，43・44，47，50～52，54～58は黒曜石製，41・42，45・46，53はサヌカイト製である。また，49はチャート製である。

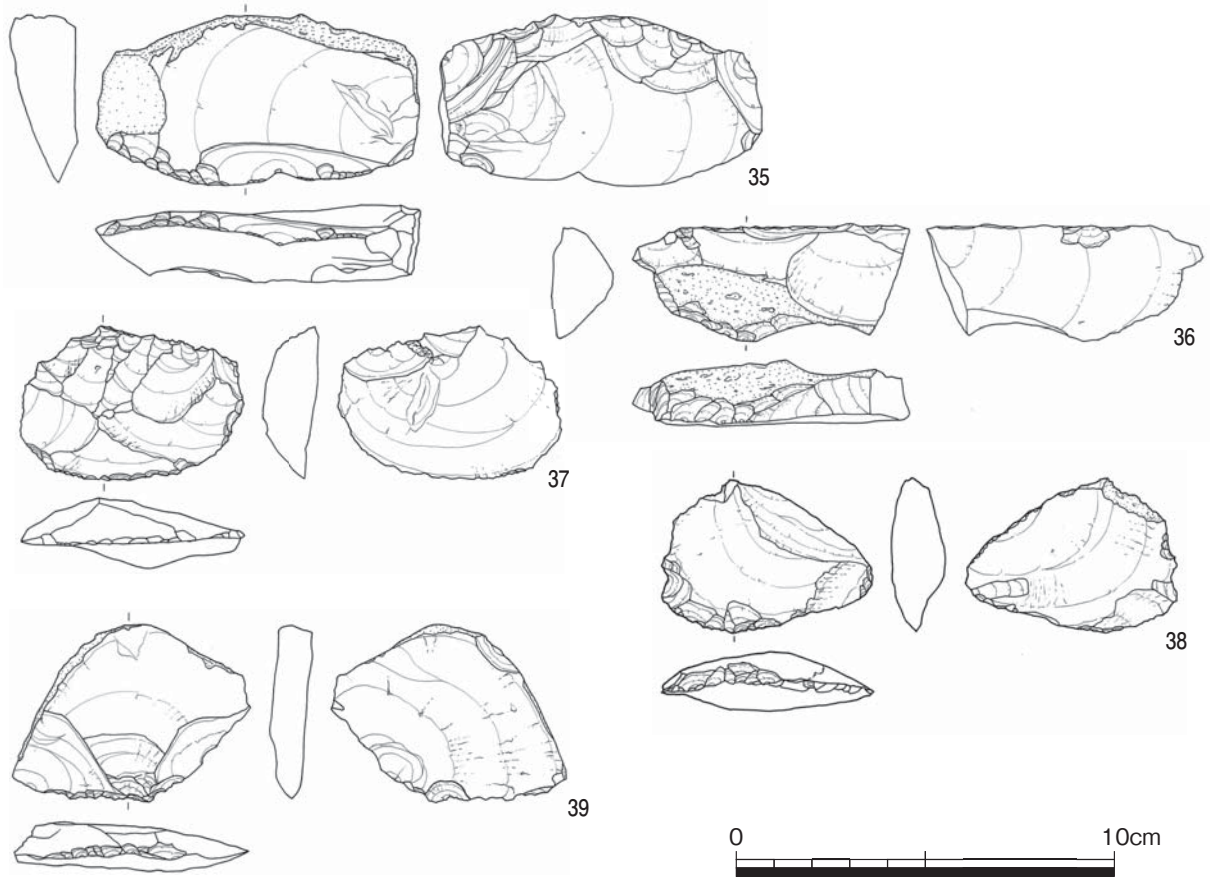
40は平基式のもの，41～48は内湾する基部のもの，49～52は凹基式のものである。49は側辺が鋸歯状である。50はわずかに素材面を残す。51は両側縁に挟入部を作り出す。53は非常に薄手である。54は右側縁に急角度の加工がみられるが，左側辺部・基部付近が薄すぎて製作を途中で断念したものか。55は両側縁に加工が行われるが，基部部分への加工は見られない。あるいは剥片鏃の可能性もある。56は素材面を大きく残し，両側縁部分への加工が行われているが，基部はいびつな形状のまま加工が終わっている。57は両面ともに加工面によって覆われるが，製作途中で欠損したものか。58は素材面を大きく残すが，調整は全周に及んでいる。

59・60は石錐である。59はサヌカイト製，60は黒曜石製である。60の左右の稜線には潰れが観察され，使用によるものと考えられる。

61～84は二次加工剥片もしくは使用によるものと考えられる微細な剥離のある剥片である。いずれ



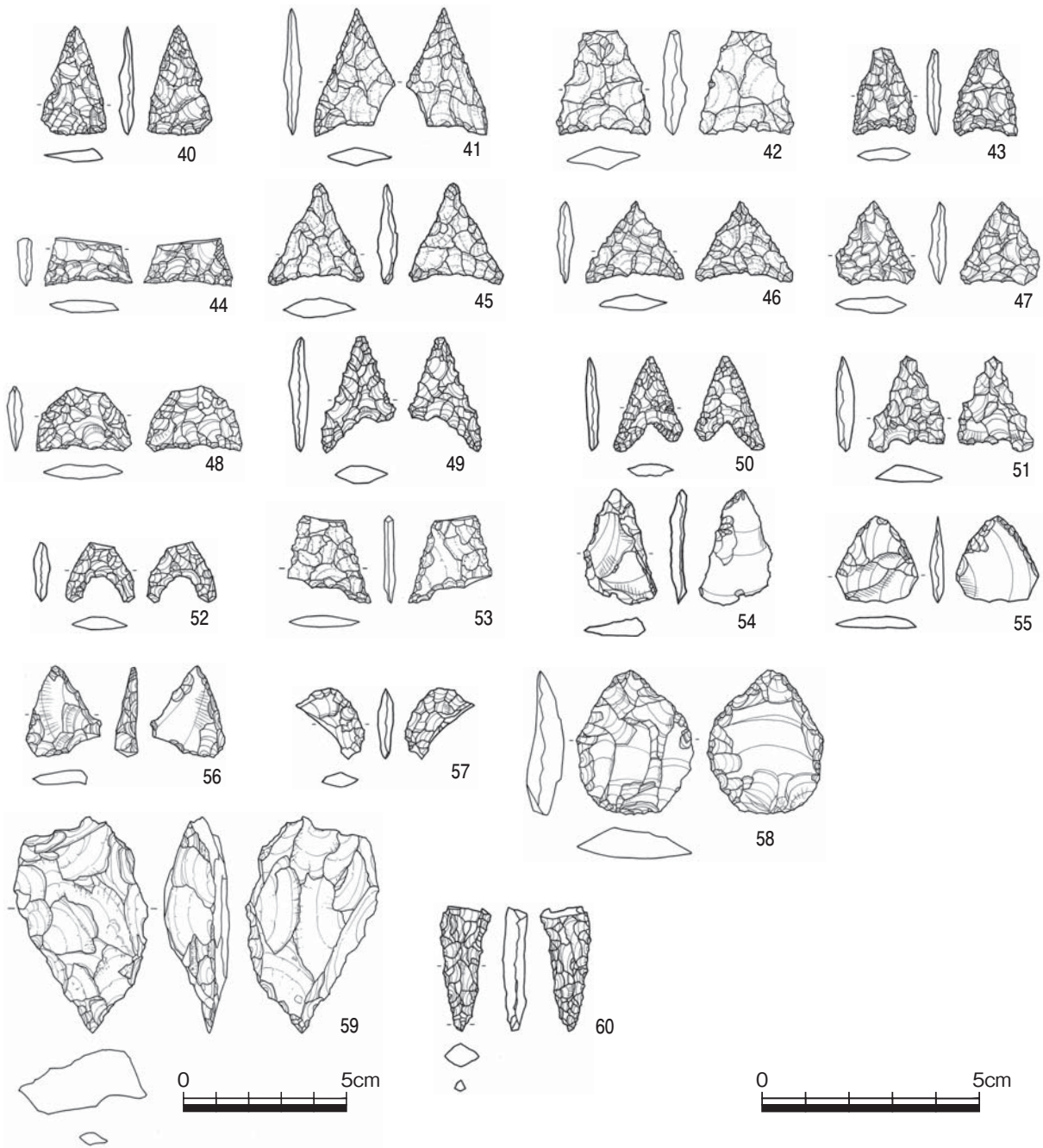
第45図 出土石器実測図⑥ (26~33 : S=1/2, 34 : S=2/3)



第46図 出土石器実測図⑦ (S=1/2)

も黒曜石を素材とする。**61**は縦長剥片で末端部は切断する。両側辺に微細な剥離が連続する。**62**は「し」字状の縦長剥片で、末端部には自然面を残す。左側辺には二次加工とみられる連続的な細かい剥離がみられ、右側辺には微細剥離が観察される。**63**は左側辺に自然面を残す縦長剥片で、直線的な右側辺に微細剥離が認められる。**64**は背面に自然面を残す縦長剥片で、微細剥離が左側辺の背面側に観察される。**65**は背面の一部に自然面を残し、右側辺背面側に微細剥離が認められる。**66**は先細りとなる縦長剥片で、右側辺の背面側に微細な剥離が連続する。**67**は細い縦長剥片で自然面を残し、左側辺下半に微細剥離が連続する。**68**は不整形の縦長剥片で周縁に細かい剥離がめぐる。

**69**は一部に自然面の残る縦長の剥片で、直線的な右側辺に微細剥離が連続する。**70**は不純物の多い剥片で、打点付近から左側辺にかけて二次加工とみられる細かい剥離が認められる。**71**はやや末広がりとなる縦長剥片で、末端部には自然面が残る。両側辺に微細な剥離が認められる。**72**は背面に自然面を残す縦長の剥片で、左側辺中ほどに二次加工とみられる細かい剥離が内湾する。**73**は「し」字状の縦長剥片で、左側辺に内湾する急角度の二次加工が施される。**74**は比較的幅の広い剥片で、両側辺から末端部にかけて微細な剥離がめぐる。**75**は暗灰色の黒曜石で、右側辺に微細剥離が連続する。**76**は左側辺のほうに自然面を残し、直線的な右側辺に微細な剥離が連続する。**77**は平坦な自然面を打面とする先細りの剥片で、両側辺に微細な剥離が入る。右側辺は急角度である。**78**は暗灰色を呈する黒曜石である。屈曲する左側辺に微細剥離が認められる。**79**は素材剥片の主要剥離面に二次加工の細か



第47图 出土石器实测图⑧ (40~58·60 : S=2/3, 59 : S=1/2)

い剥離が連続する。**80**は暗灰色の黒曜石で、末端部は切断したものか。両側辺に微細な剥離が認められる。**81**は幅の広い剥片で、打点付近は除去し、左側辺に連続して二次加工を施す。また、右側辺には微細な剥離が認められる。**82**は打点付近を除去した剥片で、直線的な末端部に連続的な剥離が認められ、二次加工の可能性がある。**83**は厚手の横長剥片で、末端部の両端付近に二次加工を施す。**84**は横長の剥片で左側辺に連続する微細剥離が認められる。

**85～90**は磨製石斧、**91**は磨製石斧破片の再加工品である。

**85**は蛇紋岩を素材とするものである。基部付近を欠損する。**86**は安山岩製で、刃部はややすぼまる。**87**は頁岩製で、刃部には使用による欠損が認められる。また、右側縁には研磨面に対して両面からの剥離が施されており、再加工して別器種での使用が行われたか、あるいは磨製石斧の小型化が図られた可能性がある。**88**は頁岩を素材としており、大きく欠損するがかりうじて刃部は残存する。刃部はすぼまり、円弧状となる。**89**は頁岩製で、基部の資料である。**90**は蛇紋岩製の小型品で撥型をなし、刃部はやや弧状となる。**91**は頁岩が素材で、磨製石斧から欠損した剥片であると考えられる。周縁に二次加工がめぐる。

**92～100**は打製石斧である。いずれも安山岩が素材である。

**92**は両面に素材面を残し、短冊形をなすが、基部はややすぼまる。刃部付近には摩耗が認められる。**93**はやや刃部が広がり、幅広である。全体的に著しく摩耗が及んでいる。縦方向の線条痕が残る。**94**は基部を欠損する。やや刃部が広がり、刃部付近は摩耗する。**95**は片面のみに素材面を残し、刃部は欠損する。**96**は両面に素材面を大きく残す資料で、非常に薄手である。刃部側を欠損する。**97**は基部の資料で、両面に素材面を残す。**98**も基部の資料である。**99**は刃部と基部を欠損する資料で、両面に摩耗がみられる。**100**は刃部付近の資料で、扁平な素材を用いている。縦方向の線条痕が観察される。

**101**は結晶片岩、**102～110**は安山岩で、打製石斧の製作、刃部再生、使用による欠損によって生じた剥片、破片であると判断した。

**111**は安山岩を素材とする石皿である。**112**は安山岩を素材とする台石である。片面には凹部をもつが滑面形成には至っておらず、裏面は平坦である。

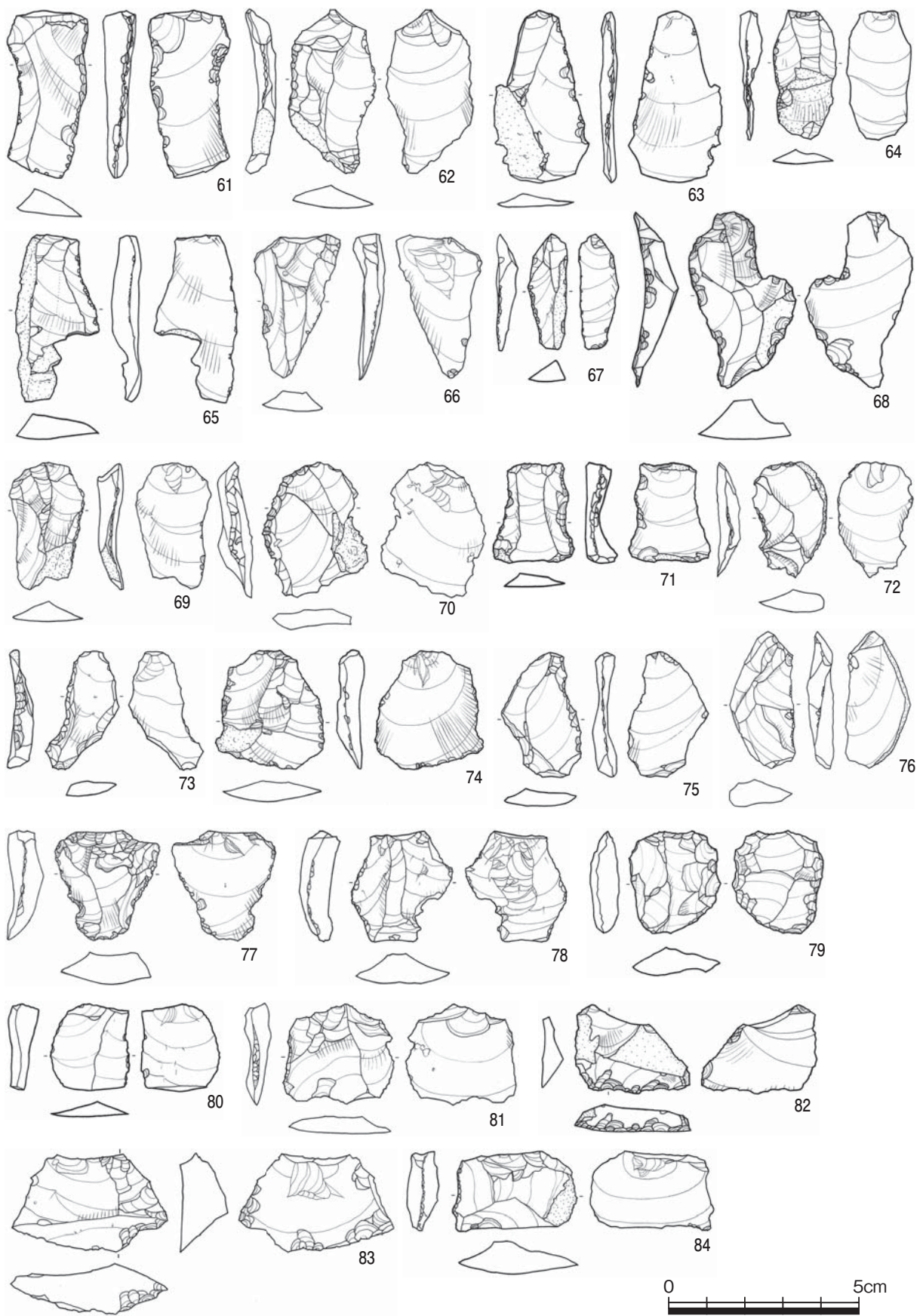
**113～119**は砥石で、うち**118・119**は有溝のものである。いずれも砂岩を素材としている。

**113**はきめの細かい砂岩を素材とする。片面だけの研ぎ面である。**114**は比較的粗い砂粒の砂岩で、裏面は剥落している。**115**は断面三角の柱状の水磨礫が素材で、各面を研ぎ面として使用したものか。端部には潰痕がみられ、敲石としての使用も考えられる。**116・117**は片面に研ぎ面が認められる。**118**は2面を研ぎ面として使用しており、それに重なって数条の溝状の研ぎ面が確認できる。**119**は亜円礫の用いており、表裏面および側面を研ぎ面として使用しており、さらに2面には溝状の研ぎ面が認められる。

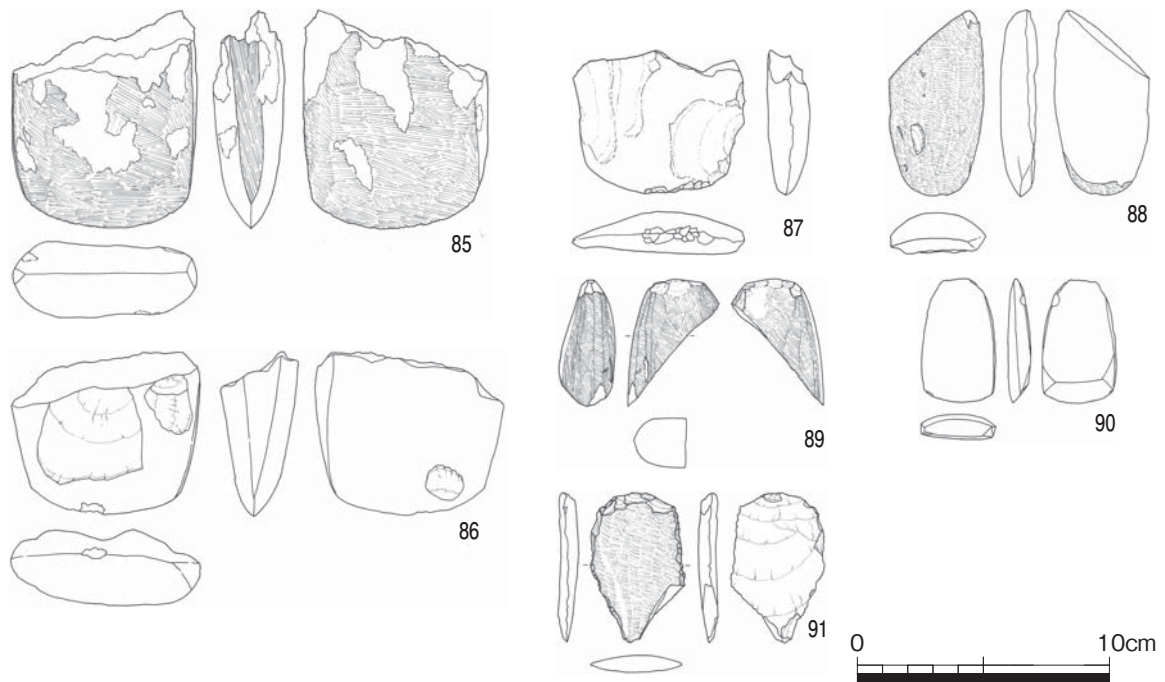
**120～144**は敲石、磨石の類である。

**120**は扁平な砂岩の水磨礫で、表裏の平坦面の中央部と側面の1か所に潰痕が集中する。**121**はきめの細かい砂岩が素材で表裏面に滑面をもつ。表面は中央付近がやや凹むため、リング状の滑面となる。裏面の中央付近には細かい潰痕が認められる。また欠損部には連続的に剥離が並び、稜線上に潰れが観察されることから、欠損後に別用途で利用されたことがうかがわれる。**122**は安山岩製で、表面には凹部をもち、裏面には粗いが滑面となって平坦面を作る。また、両側面も潰痕によって平坦面を作





第48图 出土石器实测图⑨ (S=2/3)

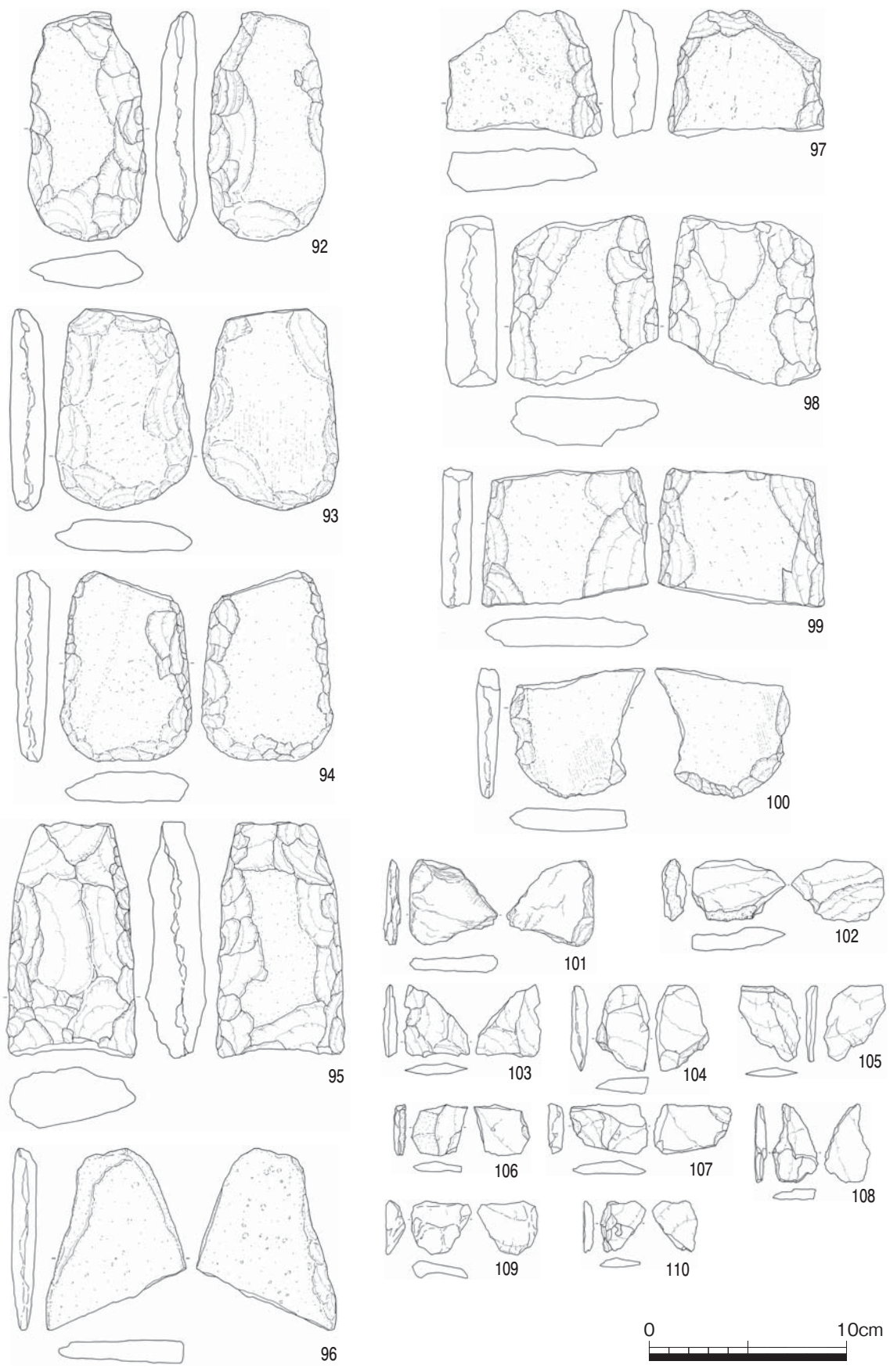


第49図 出土石器実測図⑩ (S=1/3)

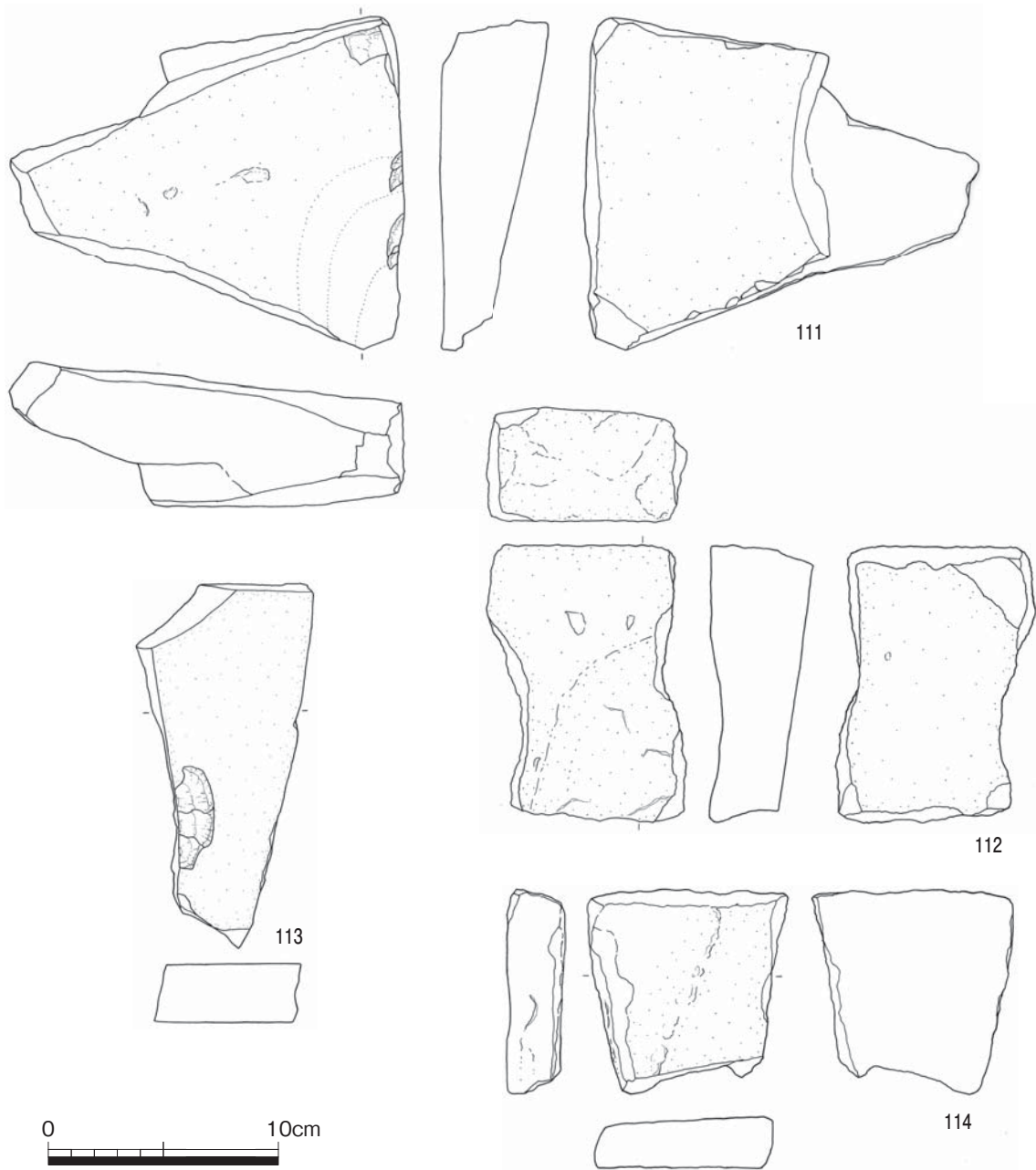
る。123は砂岩を素材とし、磨石から敲石への転用品で、表裏面に磨り面と潰痕をもち、側面には潰痕と欠損剥離がめぐる。124は砂岩製で、割裂した磨石を敲石に転用しており、破断面に潰痕が集中する。125は扁平な安山岩素材の資料で、周囲を潰痕がめぐる。126は安山岩が素材で、表裏面に滑面を有し、側面には潰痕と剥離欠損がめぐる。127は砂岩が素材で、表裏面に凹部を作る。128は安山岩製の磨石で、表裏面に滑面が認められる。129は玉葱状の剥離をみせる砂岩素材の敲石で、表裏面に潰痕が認められる。

130は凝灰岩亜円礫の敲石で、端部に敲打による剥離が残る。131はきめの細かい砂岩の扁平な水磨礫で、長軸方向の両端部に潰痕が集中する。132は石英の円礫で端部に潰痕が認められる。133はきめの細かい砂岩円礫で、端部に潰痕が残る。134は石英の円礫で、側面に帯状に潰痕が認められる。

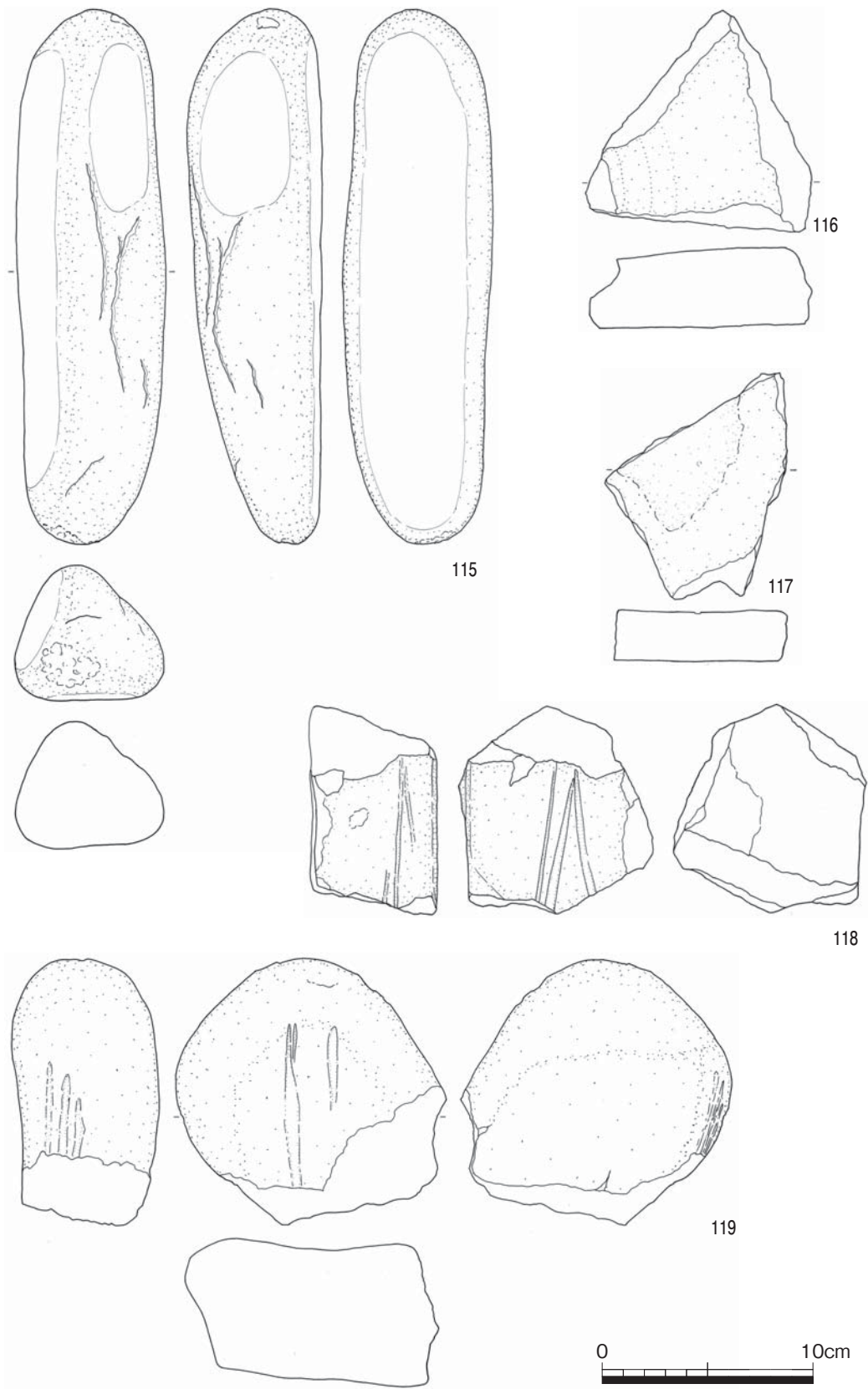
135～144は小型の磨石で、土器の調整・施文具などの用途が想定される資料である。素材は、135～139、142は砂岩、140は安山岩、141・143は頁岩、144は蛇紋岩である。135・136は扁平な形状である。137は表裏面に磨り面が観察される。138は表面右上部に平坦面が認められ、使用によるものか。139・144は全体が滑面により覆われており、光沢を帯びる。



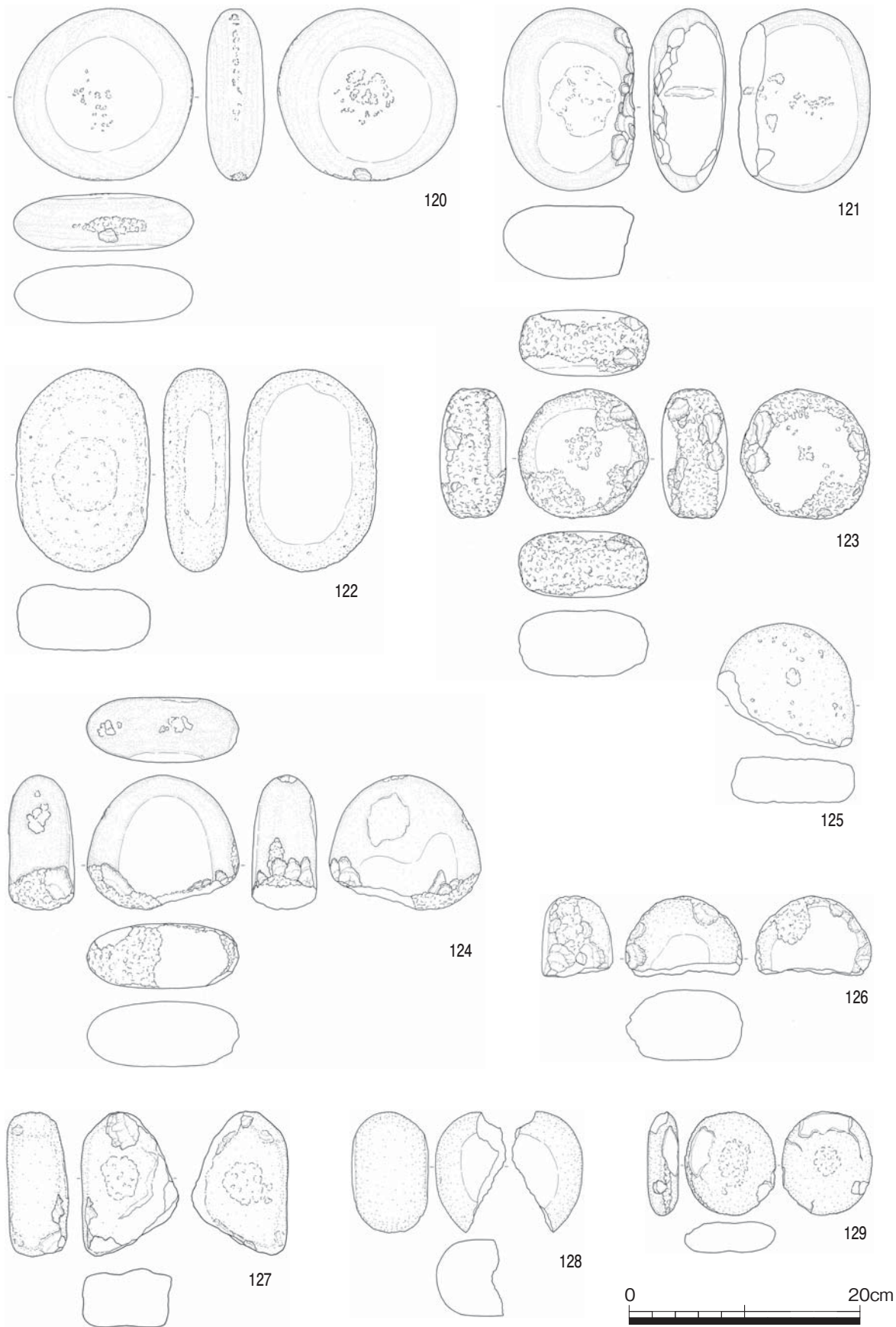
第50图 出土石器实测图① (S=1/3)



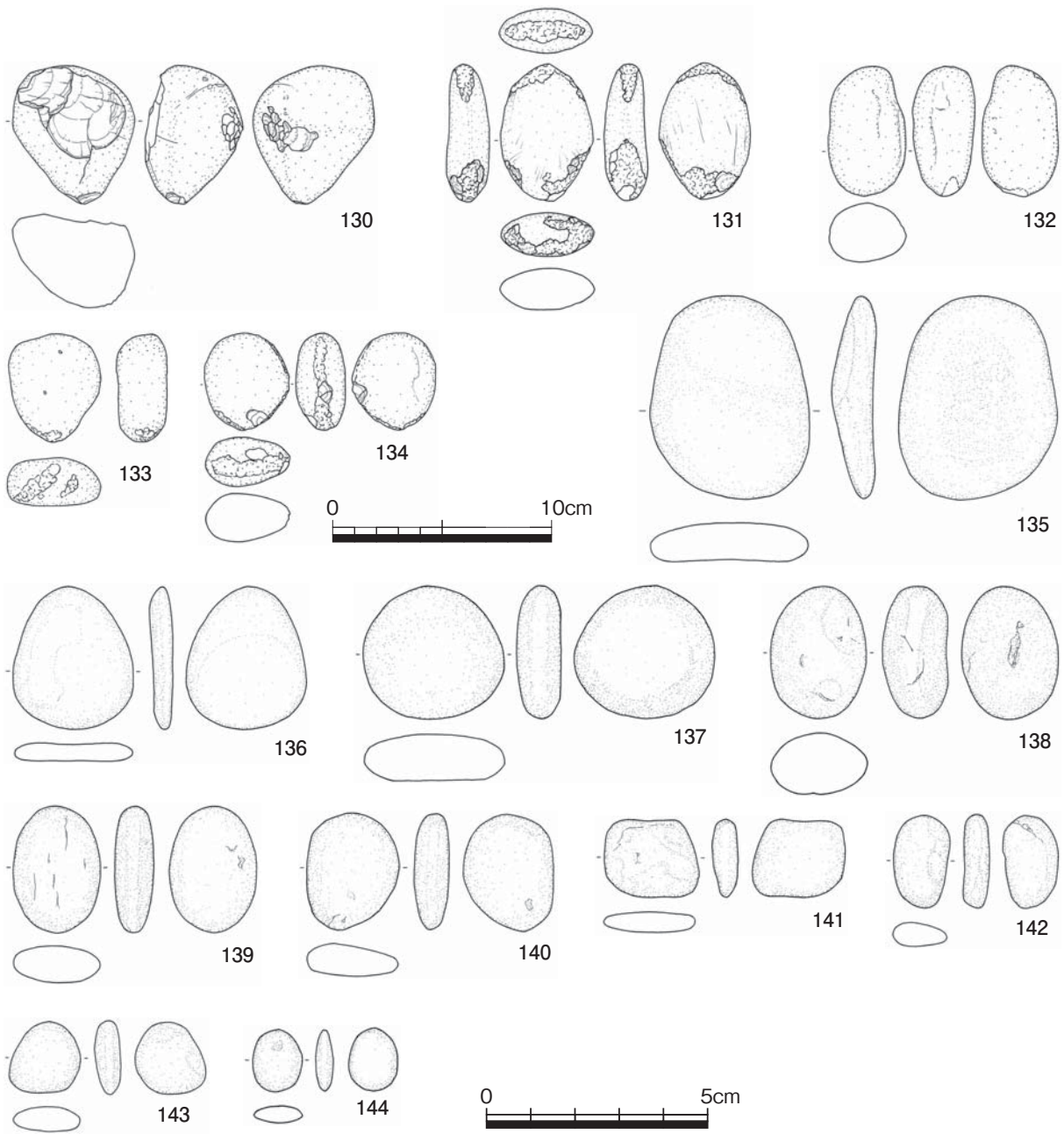
第51図 出土石器実測図⑫ (S=1/3)



第52図 出土石器実測図⑬ (S=1/3)



第53图 出土石器实测图⑭ (S=1/5)



第54図 出土石器実測図⑮ (130~134 : S=1/3, 135~144 : S=2/3)

第17表 出土石器観察表①

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
40	1	SNU-04667	原石	黒曜石	T27	Ⅲ b	3.3	5.3	4.7	79.1	
	2	SNU-07710	原石	黒曜石	T25	Ⅲ b	3.6	6.0	5.4	104.9	
41	3	SNU-05555	石核	サヌカイト	M32	Ⅲ b	3.3	7.0	6.0	127.4	
	4	SNU-04865	石核	サヌカイト	T28	Ⅲ b	4.9	5.6	4.6	119.4	
	5	SNU-06073	石核	サヌカイト	J33	Ⅲ b	6.0	7.6	2.9	119.7	
42	6	SNU-04323	石核	サヌカイト	V25	Ⅲ b	4.7	4.9	3.2	67.7	
	7	SNU-01999	石核	サヌカイト	P29	Ⅲ a	4.9	5.3	2.9	54.3	
	8	SNU-07289	石核	黒曜石	K31	Ⅲ b	3.7	5.7	2.8	53.0	
	9	SNU-01748	石核	黒曜石	S27	Ⅲ a	2.3	4.3	1.9	14.5	
43	10	SNU-06246	石核	黒曜石	K32	Ⅲ b	1.5	3.3	3.3	16.5	
	11	SNU-06231	石核	黒曜石	K32	Ⅲ b	2.8	4.0	2.5	18.9	
	12	SNU-05390	石核	黒曜石	N31	Ⅲ b	1.9	4.1	2.7	11.8	
	13	SNU-04630	石核	黒曜石	T27	Ⅲ b	2.3	3.6	2.3	11.1	
	14	SNU-05943	石核	黒曜石	L31	Ⅲ b	2.2	2.5	2.0	9.5	
	15	SNU-05251	石核	黒曜石	O31	Ⅲ b	1.9	3.0	1.9	9.8	
	16	SNU-00422	石核	黒曜石	M31	Ⅲ a	2.1	2.7	1.9	8.0	
44	17	SNU-00295	石核	黒曜石	K32	Ⅲ a	2.3	2.6	2.6	11.8	
	18	SNU-00851	石核	黒曜石	L33	Ⅲ a	3.0	2.8	2.0	12.4	
	19	SNU-02327	石核	黒曜石	Y23	Ⅲ a	1.9	3.0	2.8	11.7	
	20	SNU-04354	石核	黒曜石	W25	Ⅲ b	1.6	3.3	2.5	8.9	
	21	SNU-05468	石核	黒曜石	M32	Ⅲ b	1.8	3.4	3.0	15.5	
	22	SNU-04887	石核	黒曜石	T28	Ⅲ b	2.2	3.2	2.1	10.5	
	23	SNU-05789	石核	黒曜石	L30	Ⅲ b	2.6	3.5	1.3	5.8	
	24	SNU-00135	石核	黒曜石	K32	Ⅲ a	2.1	3.3	1.0	4.3	
	25	SNU-01312	石核	黒曜石	J32	Ⅲ a	1.6	3.2	1.4	5.2	
	45	26	SNU-04788	スクレイパー	安山岩	S27	Ⅲ b	12.0	5.2	1.6	91.0
27		-	スクレイパー	安山岩	-	北西側壁	7.0	6.5	2.0	89.6	
28		-	スクレイパー	サヌカイト	S24	Ⅲ b	8.5	5.3	1.6	60.8	
29		SNU-00028	スクレイパー	サヌカイト	K31	Ⅲ a	8.1	6.6	2.4	95.0	
30		-	スクレイパー	安山岩	K31	Ⅱ c	8.2	4.1	1.4	41.2	
31		-	スクレイパー	安山岩	L31	Ⅱ c	8.0	4.2	1.7	48.9	
32		SNU-07994	スクレイパー	サヌカイト	K31	Ⅲ b	7.5	3.5	1.2	26.0	
33		SNU-05409	スクレイパー	サヌカイト	M31	Ⅲ b	5.2	3.8	1.2	16.3	
34		SNU-01183	スクレイパー	黒曜石	M31	Ⅲ a	3.9	2.4	0.8	7.2	
46		35	SNU-01443	スクレイパー	サヌカイト	K31	Ⅲ b	4.5	8.6	2.1	82.0
	36	SNU-03171	スクレイパー	サヌカイト	Q22	Ⅲ a	3.1	7.3	1.8	38.2	
	37	SNU-07363	スクレイパー	サヌカイト	T26	Ⅲ b	4.0	5.9	1.9	31.8	
	38	SNU-04596	スクレイパー	サヌカイト	H29	Ⅲ b	4.0	5.6	1.6	27.4	
	39	SNU-06686	スクレイパー	サヌカイト	AB22	Ⅲ b	4.7	6.2	1.3	33.1	
47	40	-	石鏃	黒曜石	O31	Ⅱ c	2.5	1.5	0.4	1.0	
	41	SNU-06991	石鏃	サヌカイト	T24	Ⅲ b	2.9	1.8	0.4	1.4	
	42	SNU-04533	石鏃	サヌカイト	G29	Ⅲ b	2.4	2.1	0.6	2.1	
	43	SNU-00793	石鏃	黒曜石	L33	Ⅲ a	2.0	1.4	0.3	0.8	
	44	SNU-00282	石鏃	黒曜石	K32	Ⅲ a	1.1	2.0	0.3	0.7	
	45	-	石鏃	安山岩	Q30	Ⅱ c	2.3	2.2	0.5	1.2	
	46	SNU-08036	石鏃	サヌカイト	T27	Ⅲ b	1.9	2.2	0.4	0.9	
	47	SNU-00854	石鏃	黒曜石	L33	Ⅲ a	1.9	1.8	0.4	1.0	
	48	SNU-08065	石鏃	黒曜石	P20	Ⅲ b	1.5	2.2	0.4	0.9	
	49	SNU-04547	石鏃	チャート	M31	Ⅲ a	2.6	1.7	0.4	1.1	石材同定試料1
	50	-	石鏃	黒曜石	Y23	Ⅱ c	2.2	1.6	0.3	0.7	



第18表 出土石器観察表②

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
47	51	SNU-06844	石鏃	黒曜石	M31	Ⅲ b	2.2	1.8	0.4	1.1	
	52	-	石鏃	黒曜石	K32	Ⅱ c	1.4	1.6	3.5	0.4	石材同定試料2
	53	SNU-06414	石鏃	サヌカイト	K31	Ⅲ b	2.0	1.9	0.3	0.8	
	54	SNU-06717	石鏃未成品	黒曜石	T28	Ⅲ b	2.6	1.7	0.4	1.3	
	55	SNU-03588	石鏃未成品	黒曜石	AA21	Ⅲ b	2.0	1.9	0.3	1.0	
	56	SNU-05369	石鏃未成品	黒曜石	O31	Ⅲ b	2.1	1.7	0.5	2.0	
	57	SNU-07607	石鏃未成品	黒曜石	Q18	Ⅲ b	1.6	1.6	0.4	0.5	
	58	-	石鏃未成品	黒曜石	R28	Ⅱ	3.3	2.7	1.9	6.3	
	59	SNU-03934	石錐	サヌカイト	Z22	Ⅲ b	6.1	4.1	2.0	39.5	
	60	SNU-01912	石錐	黒曜石	U27	Ⅲ a	2.9	1.1	0.6	1.4	
48	61	SNU-05193	微細剥離剥片	黒曜石	O30	Ⅲ b	4.3	2.2	0.8	6.4	
	62	SNU-07564	二次加工・微細剥離剥片	黒曜石	R20	Ⅲ b	4.3	2.3	0.8	5.2	
	63	SNU-07501	微細剥離剥片	黒曜石	P21	Ⅲ b	4.4	2.5	0.4	3.8	
	64	SNU-02887	微細剥離剥片	黒曜石	P20	Ⅲ a	3.4	1.6	0.6	2.3	
	65	SNU-05927	微細剥離剥片	黒曜石	L31	Ⅲ b	4.4	2.1	0.8	5.5	
	66	SNU-05348	微細剥離剥片	黒曜石	N30	Ⅲ b	3.8	2.3	0.8	4.1	
	67	SNU-05027	微細剥離剥片	黒曜石	Q29	Ⅲ b	3.0	1.0	0.6	1.2	
	68	SNU-04087	微細剥離剥片	黒曜石	Y23	Ⅲ b	4.6	3.1	1.2	8.3	
	69	SNU-06727	微細剥離剥片	黒曜石	T28	Ⅲ b	3.4	2.0	0.7	3.3	
	70	SNU-04231	二次加工剥片	黒曜石	W24	Ⅲ b	3.5	2.3	0.9	5.8	
	71	SNU-02810	微細剥離剥片	黒曜石	S24	Ⅲ a	2.6	2.1	0.9	3.3	
	72	SNU-00033	二次加工剥片	黒曜石	K32	Ⅲ a	3.0	2.0	0.6	3.5	
	73	SNU-03974	二次加工剥片	黒曜石	Z22	Ⅲ b	3.1	1.9	0.7	2.3	
	74	SNU-00364	微細剥離剥片	黒曜石	L31	Ⅲ a	3.1	3.0	0.7	4.1	
	75	SNU-04726	微細剥離剥片	黒曜石	T28	Ⅲ b	3.3	2.1	6.0	3.1	石材同定試料3
	76	SNU-00281	微細剥離剥片	黒曜石	K32	Ⅲ a	3.6	1.7	0.7	4.1	
	77	SNU-04318	微細剥離剥片	黒曜石	W25	Ⅲ b	2.9	2.7	1.0	5.1	
	78	SNU-04351	微細剥離剥片	黒曜石	V25	Ⅲ b	2.9	2.6	1.1	5.3	
	79	SNU-01460	二次加工剥片	黒曜石	K31	Ⅲ b	2.7	2.3	7.5	4.2	
	80	SNU-04343	微細剥離剥片	黒曜石	V25	Ⅲ b	2.3	2.0	4.5	2.5	
	81	SNU-00305	二次加工・微細剥離剥片	黒曜石	K32	Ⅲ a	2.1	2.9	0.7	4.4	
	82	SNU-00330	二次加工剥片	黒曜石	L32	Ⅲ a	2.3	3.0	0.7	2.9	
	83	SNU-03750	二次加工剥片	黒曜石	AA21	Ⅲ b	1.6	4.1	1.3	8.7	
	84	SNU-00152	微細剥離剥片	黒曜石	J32	Ⅲ a	2.1	3.3	0.8	5.4	
49	85	SNU-07905	磨製石斧	蛇紋岩	T27	Ⅲ b	8.5	7.3	2.8	226.8	
	86	SNU-07517	磨製石斧	安山岩	Q21	Ⅲ b	6.4	7.5	3.1	149.8	
	87	SNU-05413	磨製石斧	頁岩	M31	Ⅲ b	5.6	6.7	1.2	69.3	
	88	SNU-04081	磨製石斧	頁岩	Y22	Ⅲ b	7.3	3.7	1.5	47.2	
	89	SNU-08102	磨製石斧	安山岩	AH11	Ⅲ b	4.9	3.6	2.2	29.7	
	90	SNU-06849	磨製石斧	蛇紋岩	L31	Ⅲ b	4.9	2.9	0.9	23.0	
	91	SNU-07796	スクレイパー	安山岩	M31	Ⅲ b	5.9	3.7	0.8	19.0	
50	92	SNU-03833	打製石斧	安山岩	Y22	Ⅲ b	11.6	6.0	2.1	168.4	
	93	SNU-06988	打製石斧	安山岩	U24	Ⅲ b	10.2	7.0	1.8	190.7	
	94	-	打製石斧	安山岩	2区南隅	-	9.6	6.6	1.8	157.2	
	95	SNU-07546	打製石斧	安山岩	R20	Ⅲ b	11.9	6.6	3.1	299.0	
	96	SNU-04301	打製石斧	安山岩	V24	Ⅲ b	9.2	7.1	1.3	83.4	
	97	SNU-07180	打製石斧	安山岩	S24	Ⅲ b	6.4	7.9	2.4	148.1	
	98	SNU-08109	打製石斧	安山岩	AK11	Ⅲ b	8.6	7.7	2.5	240.2	
	99	SNU-00778	打製石斧	安山岩	JK34	Ⅲ a	7.0	8.4	1.6	149.0	
	100	SNU-08101	打製石斧	安山岩	AF 7	Ⅲ b	6.6	6.9	1.2	60.7	

第19表 出土石器観察表③

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
50	101	SNU-08107	剥片	結晶片岩	A112	Ⅲ b	4.3	4.4	0.9	18.6	
	102	SNU-07695	剥片	安山岩	S24	Ⅲ b	3.0	4.6	1.2	16.5	
	103	SNU-05474	剥片	安山岩	M32	Ⅲ b	3.8	3.4	0.7	7.5	
	104	SNU-06462	剥片	安山岩	L32	Ⅲ b	4.3	2.8	0.9	12.1	
	105	SNU-05579	剥片	安山岩	L32	Ⅲ b	3.8	3.1	0.6	5.8	
	106	SNU-05552	剥片	安山岩	M32	Ⅲ b	2.5	2.4	0.6	4.6	
	107	SNU-00987	剥片	安山岩	M32	Ⅲ a	2.5	3.9	1.2	8.5	
	108	SNU-07976	剥片	安山岩	M32	Ⅲ b	3.9	2.2	0.6	4.7	
	109	SNU-06718	剥片	安山岩	T28	Ⅲ b	2.7	3.0	1.0	5.9	
	110	SNU-01062	剥片	安山岩	M32	Ⅲ a	2.6	2.2	0.5	2.6	
51	111	-	石皿	安山岩	5区南東部	攪乱	14.1	16.8	5.7	2100.0	
	112	SNU-03440	台石	安山岩	AA22	Ⅲ b	12.0	8.0	4.9	1020.0	
	113	SNU-00044	台石	砂岩	K31	Ⅲ a	15.1	7.2	2.1	443.8	
	114	SNU-03730	台石	砂岩	AA21	Ⅲ b	8.6	8.5	2.5	258.7	
52	115	SNU-07722	砥石・敲石	砂岩	W25	Ⅲ b	25.3	7.0	6.4	1537.0	
	116	SNU-01910	砥石	砂岩	U27	Ⅲ a	10.4	10.6	3.8	438.0	
	117	SNU-06606	砥石	砂岩	Z21	Ⅲ b	10.6	8.5	2.9	268.8	
	118	-	砥石	砂岩		-	9.6	8.7	6.0	31.2	土坑内出土
	119	SNU-07191	砥石	砂岩	S24	Ⅲ b	12.5	12.0	6.9	1354.4	
53	120	SNU-07813	敲石	砂岩	L31	Ⅲ b	3.3	3.9	4.5	1236.0	
	121	SNU-07741	磨石・敲石	砂岩	J33	Ⅲ b	14.1	10.2	5.9	1341.0	
	122	SNU-01405	磨石・敲石	安山岩	J32	Ⅲ b	15.6	10.4	5.1	1273.0	
	123	SNU-08078	磨石・敲石	砂岩	Q19	Ⅲ b	10.0	10.0	5.1	762.5	
	124	SNU-00384	磨石・敲石	砂岩	L31	Ⅲ a	10.4	11.8	5.0	842.5	
	125	SNU-03678	敲石	安山岩	AA22	Ⅲ b	9.7	10.5	3.5	410.1	
	126	SNU-01626	敲石	安山岩	R29	Ⅲ a	6.2	9.0	5.5	401.5	
	127	SNU-04031	敲石	砂岩	Z21	Ⅲ b	11.1	7.5	4.8	495.0	
	128	-	磨石	安山岩	3区	攪乱	9.3	5.1	6.0	355.4	
	129	SNU-06688	敲石	安山岩	AB21	Ⅲ b	8.0	6.9	2.4	171.4	
54	130	SNU-05386	敲石	頁岩	N31	Ⅲ b	6.2	5.5	4.4	172.3	
	131	SNU-02852	敲石	砂岩	U24	Ⅲ a	6.2	4.2	2.0	57.8	
	132	SNU-04054	敲石	石英	Z21	Ⅲ b	5.9	3.5	2.8	80.8	
	133	SNU-05070	敲石	砂岩	U28	Ⅲ b	4.8	4.1	2.2	49.3	
	134	SNU-05434	敲石	石英	N31	Ⅲ b	4.4	3.8	2.2	47.2	
	135	SNU-07810	磨石	安山岩	E26	Ⅲ b	4.6	3.6	1.0	23.4	
	136	SNU-04148	磨石	砂岩	X24	Ⅲ b	3.2	2.7	0.5	6.6	
	137	SNU-06316	磨石	砂岩	K32	Ⅲ b	3.0	3.2	1.0	14.6	
	138	SNU-00154	磨石	砂岩	J32	Ⅲ a	3.0	2.2	1.5	13.7	
	139	-	磨石	砂岩	-	廃土	2.9	2.0	0.9	7.9	
	140	SNU-05836	磨石	安山岩	L31	Ⅲ b	2.6	2.1	0.8	5.1	
	141	SNU-04312	磨石	頁岩	W26	Ⅲ b	1.8	2.1	0.6	3.1	
	142	SNU-07636	磨石	砂岩	U24	Ⅲ b	2.1	1.3	0.6	2.0	
	143	SNU-04290	磨石	頁岩	W24	Ⅲ b	1.6	1.6	0.6	2.0	
	144	-	磨石	蛇紋岩	4区北西部	壁	1.4	1.1	0.4	1.0	

## 第Ⅳ章 自然科学分析

株式会社古環境研究所

### 1 放射性炭素年代測定

#### (1) はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌さらには土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村, 2003)。

今回の分析調査では、諏訪ノ上遺跡の発掘調査で出土した土器の年代に関する情報を得る目的で、放射性炭素年代測定を実施した。

#### (2) 試料

試料は、土器付着炭化物13点である。試料の詳細を第20表に示す。

第20表 測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細		試料の種類	前処理・調整	測定法
1	5区	倒木痕内	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
2	Z21	Ⅲb層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
3	K31・L31	Ⅲa層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
4	K31	Ⅲb層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
5	5区南東部	攪乱	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
6	Z22	Ⅲb層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
7	Q30	Ⅲa層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
8	O30	Ⅲa層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
9	N31	Ⅲb層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
10	K31	Ⅲb層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
11	AA21	Ⅲc層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS
12	S24	Ⅲa層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AAA)	AMS
13	V26	Ⅲb層	土器付着炭化物(外面)	酸-アルカリ-酸処理(AaA)	AMS

※AMS(Accelerator Mass Spectrometry)は加速器質量分析法

#### (3) 方法

試料の付着物を取り除いた後、酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と結果表に記載する。

化学処理後の試料を燃焼させ、二酸化炭素( $\text{CO}_2$ )を発生させ、真空ラインで二酸化炭素を精製する。精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に

装着する。

測定方法は、加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(%)で表した値である。

<sup>14</sup>C年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach, 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を結果表に示す。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma=68.2\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma=95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al., 2013)を用い、OxCalv4.3較正プログラム(Bronk Ramsey, 2009)を使用する。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」・「cal BP」という単位で表される。

#### (4) 結果

年代測定および暦年較正結果の一覧を第21表、各試料の暦年較正結果を第55・56図に示す。

今回年代測定を実施した土器付着炭化物の年代値(補正年代)は、2,690 $\pm$ 30yrBP(試料番号13)~2,490 $\pm$ 30yrBP(試料番号10)の年代範囲に収まる。200年の年代幅があるが、誤差も含めて考えれば、最少で140年と比較的短い時間幅である。

#### (5) 所見

試料番号1の年代値は、2,610 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で816cal BC-774cal BC)を示した。試料番号2の年代値は、2,550 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で801cal BC-746cal BC, 686cal BC-666cal BC, 643cal BC-553cal BC)を示した。試料番号3の年代値は、2,530 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で795cal BC-735cal BC, 689cal BC-662cal BC, 648cal BC-546cal BC)を示した。試料番号4の年代値は、2,540 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で796cal BC-739cal BC, 688cal BC-663cal BC, 646cal BC-548cal BC)を示した。試料番号5の年代値は、2,540 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で796cal BC-739cal BC, 688cal BC-663cal BC, 646cal BC-548cal BC)を示した。試料番号6の年代値は、2,620 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で826cal BC-778cal BC)を示した。試料番号7の年代値は、2,500 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦年較正年代で776cal BC-537cal BC)を示した。試料番号8の年代値は、2,540 $\pm$ 30yrBP(2 $\sigma$ 暦

年較正年代で798cal BC-745cal BC, 686cal BC-666cal BC, 644cal BC-552cal BC) を示した。試料番号9の年代値は,  $2,640 \pm 30$ yrBP (2 $\sigma$  暦年較正年代で835cal BC-790cal BC) を示した。試料番号10の年代値は,  $2,490 \pm 30$ yrBP (2 $\sigma$  暦年較正年代で773cal BC-519cal BC) で, 今回測定した試料の中で最も新しい年代を示した。試料番号11の年代値は,  $2,680 \pm 30$ yrBP (2 $\sigma$  暦年較正年代で895cal BC-866cal BC, 860cal BC-800cal BC) を示した。試料番号12の年代値は,  $2,630 \pm 30$ yrBP (2 $\sigma$  暦年較正年代で831cal BC-790cal BC) を示した。試料番号13の年代値は,  $2,690 \pm 30$ yrBP (2 $\sigma$  暦年較正年代で896cal BC-806cal BC) で, 今回測定した試料の中で最も古い年代を示した。

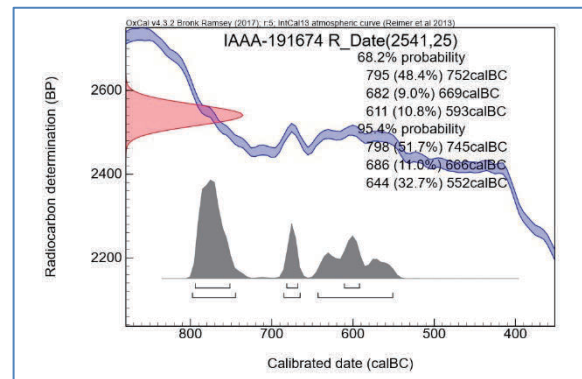
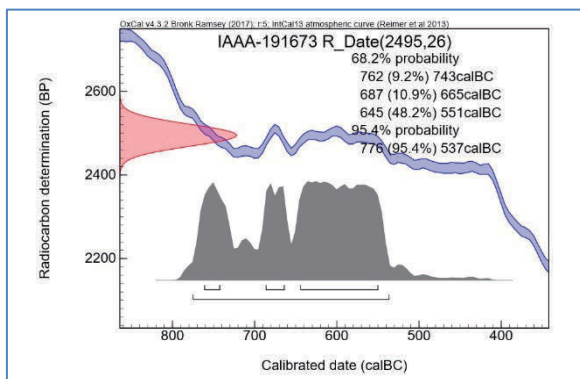
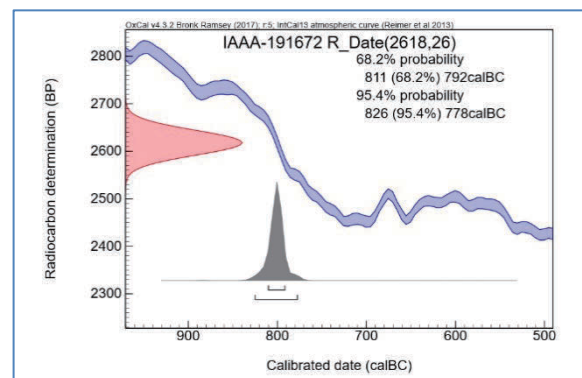
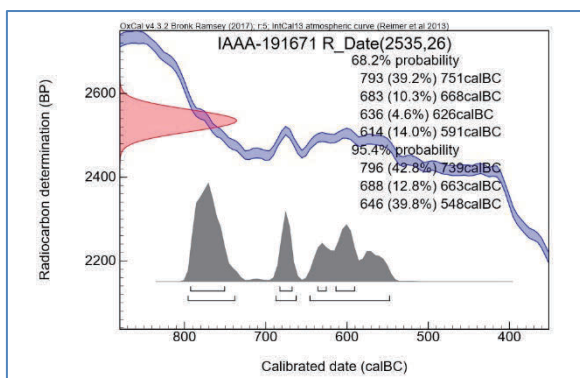
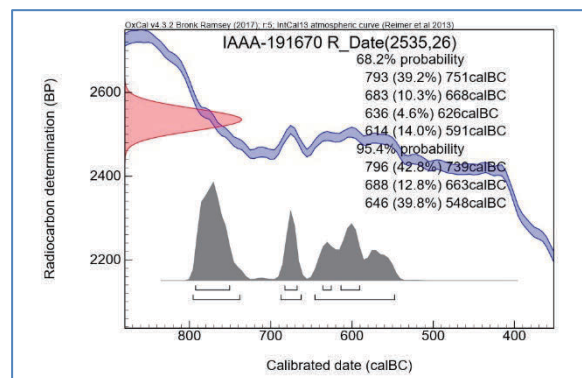
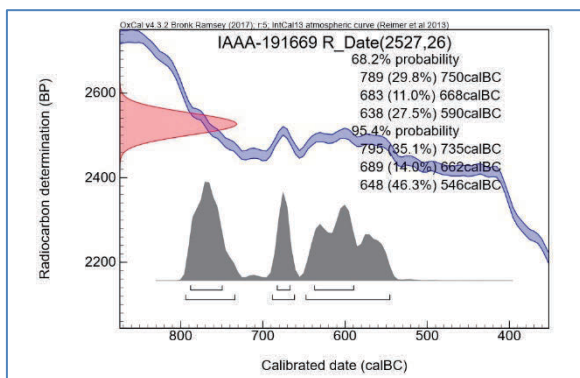
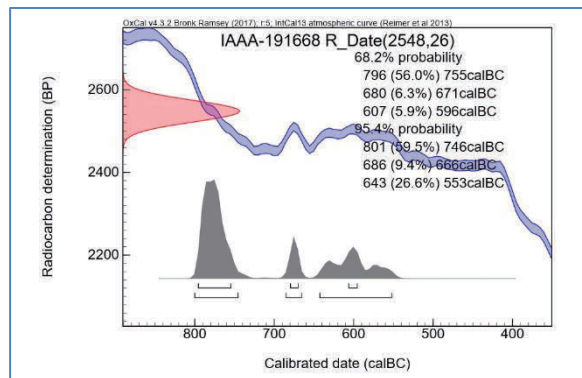
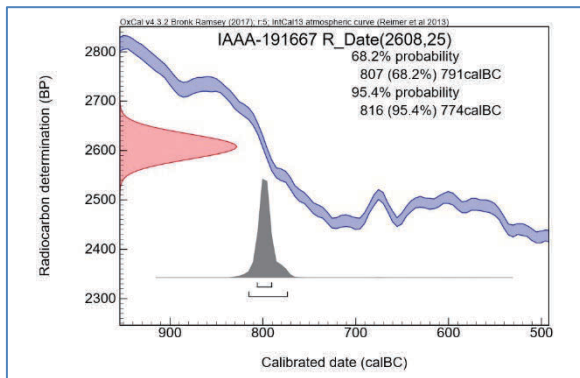
第21表 測定結果

試料 番号 (IAAA-)	測定No.	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (年 BP)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年 BP)	暦年代 (西暦)	
					1 $\sigma$ (68.2%確率)	2 $\sigma$ (95.4%確率)
1	191667	$-24.98 \pm 0.22$	$2608 \pm 25$	$2610 \pm 30$	807cal BC - 791cal BC (68.2%)	816cal BC - 774cal BC (95.4%)
					796cal BC - 755cal BC (56.0%)	801cal BC - 746cal BC (59.5%)
2	191668	$-24.74 \pm 0.23$	$2548 \pm 26$	$2550 \pm 30$	680cal BC - 671cal BC (6.3%)	686cal BC - 666cal BC (9.4%)
					607cal BC - 596cal BC (5.9%)	643cal BC - 553cal BC (26.6%)
3	191669	$-25.08 \pm 0.22$	$2527 \pm 26$	$2530 \pm 30$	789cal BC - 750cal BC (29.8%)	795cal BC - 735cal BC (35.1%)
					683cal BC - 668cal BC (11.0%)	689cal BC - 662cal BC (14.0%)
4	191670	$-25.05 \pm 0.25$	$2535 \pm 26$	$2540 \pm 30$	638cal BC - 590cal BC (27.5%)	648cal BC - 546cal BC (46.3%)
					793cal BC - 751cal BC (39.2%)	796cal BC - 739cal BC (42.8%)
5	191671	$-26.29 \pm 0.23$	$2535 \pm 26$	$2540 \pm 30$	683cal BC - 668cal BC (10.3%)	688cal BC - 663cal BC (12.8%)
					636cal BC - 626cal BC (4.6%)	646cal BC - 548cal BC (39.8%)
6	191672	$-23.99 \pm 0.22$	$2618 \pm 26$	$2620 \pm 30$	614cal BC - 591cal BC (14.0%)	796cal BC - 739cal BC (42.8%)
					793cal BC - 751cal BC (39.2%)	688cal BC - 663cal BC (12.8%)
7	191673	$-25.90 \pm 0.23$	$2495 \pm 26$	$2500 \pm 30$	683cal BC - 668cal BC (10.3%)	688cal BC - 663cal BC (12.8%)
					636cal BC - 626cal BC (4.6%)	646cal BC - 548cal BC (39.8%)
8	191674	$-26.21 \pm 0.24$	$2541 \pm 25$	$2540 \pm 30$	614cal BC - 591cal BC (14.0%)	796cal BC - 739cal BC (42.8%)
					793cal BC - 751cal BC (39.2%)	688cal BC - 663cal BC (12.8%)
9	191675	$-23.13 \pm 0.26$	$2636 \pm 26$	$2640 \pm 30$	682cal BC - 669cal BC (9.0%)	686cal BC - 666cal BC (11.0%)
					611cal BC - 593cal BC (10.8%)	644cal BC - 552cal BC (32.7%)
10	191676	$-24.61 \pm 0.25$	$2488 \pm 26$	$2490 \pm 30$	818cal BC - 797cal BC (68.2%)	835cal BC - 790cal BC (95.4%)
					757cal BC - 735cal BC (10.4%)	773cal BC - 519cal BC (95.4%)
11	191677	$-19.32 \pm 0.26$	$2675 \pm 25$	$2680 \pm 30$	689cal BC - 679cal BC (4.6%)	689cal BC - 679cal BC (4.6%)
					672cal BC - 663cal BC (4.4%)	672cal BC - 663cal BC (4.4%)
12	191678	$-23.46 \pm 0.25$	$2631 \pm 25$	$2630 \pm 30$	648cal BC - 546cal BC (48.7%)	773cal BC - 519cal BC (95.4%)
					838cal BC - 805cal BC (68.2%)	895cal BC - 866cal BC (13.7%)
13	191679	$-23.05 \pm 0.23$	$2689 \pm 26$	$2690 \pm 30$	814cal BC - 796cal BC (68.2%)	860cal BC - 800cal BC (81.7%)
					892cal BC - 878cal BC (11.8%)	831cal BC - 790cal BC (95.4%)
					846cal BC - 808cal BC (56.4%)	896cal BC - 806cal BC (95.4%)

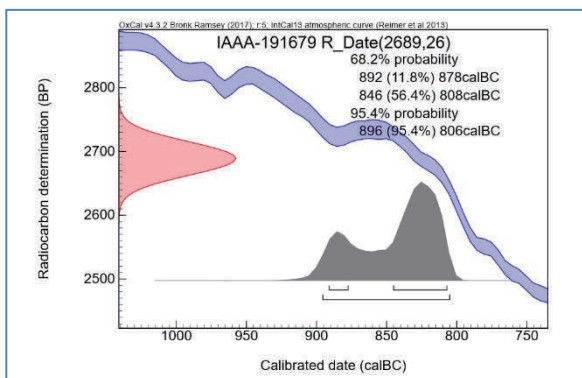
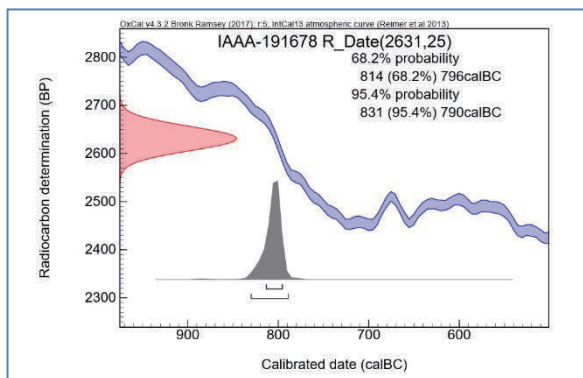
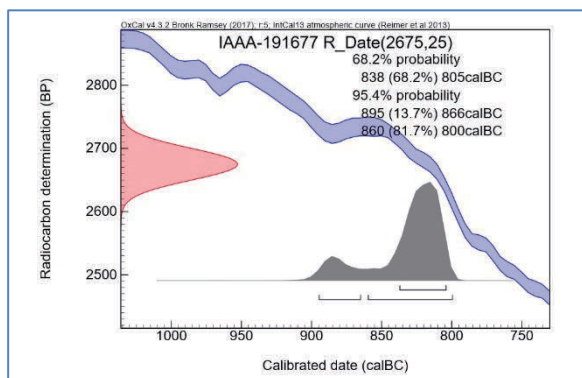
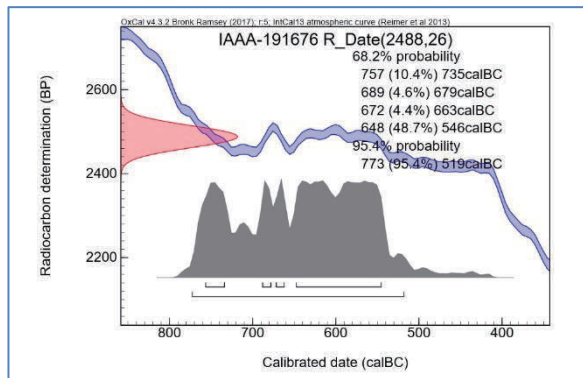
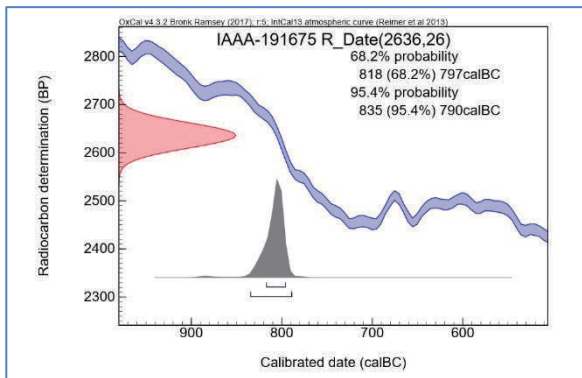
BP : Before Physics (Present), BC : 紀元前

[参考文献]

- Bronk Ramsey, C., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), p. 337-360.  
 中村俊夫, 2003, 放射性炭素年代測定法と暦年代較正. 環境考古学マニュアル, 同成社, p. 301-322.  
 Reimer, P.J. et al., 2013, IntCal 13 and Marine 13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), p. 1869-1887.  
 Stuiver, M. and Polach, H.A., 1977, Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19(3), 355-363.



第55図 暦年較正年代グラフ①



第56図 暦年較正年代グラフ②



試料番号 1 (135)



試料番号 2 (45)



試料番号 3 (47)

写真 1 諏訪ノ上遺跡出土土器①





試料番号 4 (49)



試料番号 5 (175)



試料番号 6 (171)



試料番号 7 (112)



試料番号 8 (129)



試料番号 9 (252)



試料番号 10 (235)



試料番号 11 (409)



試料番号 12 (339)



試料番号 13 (446)

写真 2 諏訪ノ上遺跡出土土器②

## 2 石材同定

### (1) はじめに

本報告では、南島原市深江町に所在する諏訪ノ上遺跡から出土した石器について、肉眼鑑定ならびに蛍光 X 線分析を実施し、岩種の同定を行った。

### (2) 試料

試料は、諏訪ノ上より出土・採取された石器 3 点である。試料の詳細を結果表第23表に、試料の写真を写真 3 に示す。

### (3) 方法

#### 1) 肉眼鑑定

肉眼ならびに20倍の実体顕微鏡で観察した。また、同定精度を高めるために石器の比重も計測した。なお、比重値は小数点以下 1 位の場合と 2 位の場合があるが、これは有効数字を考慮した結果である。

#### 2) 蛍光 X 線分析

分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA 1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大50kV、1000 $\mu$ A のロジウム (Rh) ターゲット、X 線照射径が 8 mm または 1 mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム (Na) ~ウラン (U) であるが、ナトリウム、マグネシウム (Mg)、アルミニウム (Al) といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV (一次フィルタ無し)・50kV (一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用) の計 3 条件で、測定時間は各条件500~1000s、管電流自動設定、照射径 8 mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。

### (4) 結果

蛍光 X 線分析 (半定量分析) の結果を第22表に、石材同定の結果を第23表に示す。なお、委託番号 2, 3 は肉眼鑑定で黒曜石と判定されたことから、蛍光 X 線分析は実施していない。

第22表 半定量分析結果 (mass%)

委託番号	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	BaO
1	0.36	4.60	93.20	0.27	0.22	0.43	0.25	0.10	0.01	0.54	0.02

蛍光 X 線分析の結果、マグネシウム (MgO)、アルミニウム (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、ケイ素 (SiO<sub>2</sub>)、リン (P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、硫黄 (SO<sub>3</sub>)、カリウム (K<sub>2</sub>O)、カルシウム (CaO)、チタン (TiO<sub>2</sub>)、マンガン (MnO)、鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、バリウム (BaO) が検出された。

第23表 諏訪ノ上遺跡出土石器

委託番号	取上番号	器種	判定岩石名	重量	浮力	比重	判定基準	備考
1	SNU-04547	石鏃	チャート	1.06	0.40	2.7	極めて細粒緻密で、曇ガラス様質感を呈し、比重が2.7であることからチャートと判定	
2	-	石鏃	黒曜石	0.47	1.29	2.36	明瞭な火山ガラスで、比重が2.36であることから黒曜石と判定。黒みが弱く、透明感も弱い。中に黒雲母・斜長石の微晶が多く認められる。姫島観音崎産に類似する。	外観からは同一産地と推定される
3	SNU-04726	剥片	黒曜石	3.05	0.20	2.4	明瞭な火山ガラスで、比重が2.36であることから黒曜石と判定。黒みが弱く、透明感も弱い。中に黒雲母・斜長石の微晶が多く認められる。姫島観音崎産に類似する。	

(5) 考察

1) 委託番号1：極めて細粒緻密で、曇ガラス様質感を呈する。比重が2.7であり、ケイ素 (SiO<sub>2</sub>) が約93%と組成のほとんどを占めることから、チャートと判定される。

2) 委託番号2・3：明瞭な火山ガラスで、比重が2.36であることから、黒曜石と判定される。黒みが弱く、透明感も弱い。石器中に黒雲母・斜長石の微晶が多く認められることから、姫島観音崎産に類似するが、詳細は元素分析を実施して判別図法により産地を推定する。

3 黒曜石製石器の産地推定 (補足)

(1) はじめに

南島原市深江町に所在する諏訪ノ上遺跡から出土した黒曜石製石鏃と剥片について、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置による元素分析を行い、原産地を推定した。

(2) 試料と方法

分析対象は、諏訪ノ上遺跡より出土した黒曜石製石鏃1点 (委託番号2) と剥片1点 (委託番号3) である (表1)。測定前にメラミンフォーム製のスポンジと精製水を用いて、試料の表面を洗浄した。

第24表 分析対象一覧

委託番号	取上番号	グリッド	層位	器種
2	-	K32	Ⅱ c 層	石鏃
3	SNU-04726	T28	Ⅲ b 層	剥片

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管ターゲットはロジウム (Rh)、X 線検出器は SDD 検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径 8 mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光 X 線分析による X 線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた (望月, 1999など)。本方法は、まず各試料を蛍光 X 線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計 7 元素の X 線強度 (cps; count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

1) Rb 分率 = Rb 強度 \* 100 / (Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度)

2) Sr 分率 = Sr 強度 \* 100 / (Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度)

3) Mn 強度 \* 100 / Fe 強度

4) log (Fe 強度/K 強度)

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図(横軸 Rb 分率-縦軸 Mn 強度×100/Fe 強度の判別図と横軸 Sr 分率-縦軸 log (Fe 強度/K 強度)の判別図)を作成し,各地の原石データと石器のデータを照合して,産地を推定する方法である。この方法は,できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため,形状,厚み等の影響を比較的受けにくく,原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して

第25表 西日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群	原石採取地(点数)
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)
		箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)
大分	姫島	姫島	姫島(20)
佐賀	伊万里	腰岳	二ノ瀬(8)
長崎	佐世保	淀姫	淀姫神社(10)
熊本	球磨	白浜	白浜林道(14)
	人吉	桑ノ木	桑ノ木津留(17), 上青木(21)
鹿児島	大口	日東	日東(10), 五女木(10), 小川内(11)
	市来	市来	上牛鼻(10), 野下(9), 宇都川(7), 平木場(1), 黒岩川(9)
	鹿児島	三船	三船(10)
	垂水	小浜	小浜(5)
	錦江	長谷	長谷(10)

非常に有効な方法であるといえる。ただし,風化試料の場合,log (Fe 強度/K 強度)の値が減少する(望月,1999)。試料の測定面にはなるべく平滑な面を選んだ。

原石試料も,採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で,分析対象の石器と同様の条件で測定した。第25表に各原石の採取地とそれぞれの試料点数を示す。

(3) 分析結果

第26表に石鏃の測定値および算出された指標値を,第57図と第58図に,日本列島西部における黒曜石原石の判別図に石鏃の分析結果をプロットした図を示す。なお,両図は視覚的にわかりやすくするため,各判別群を楕円で取り囲んである。分析の結果,2点とも互いに近い位置にプロットされ,同一産地の黒曜石の可能性が高いとみられるが,第25表に示した各原石の判別群とは一致しなかった。しかし,1点のみではあるが佐世保市の針尾島南部にある古里海岸で採取された黒曜石原石を所持しており,今回分析した石器2点は,この古里海岸の黒曜石原石の測定値に近い位置にプロットされた。原石が1点しかないものの,古里海岸で採取された原石と同一の判別群に属すると推定される。ここでは,仮に古里海岸群と呼称する。第26表に産地推定結果を示す。

第26表 測定値および産地推定結果

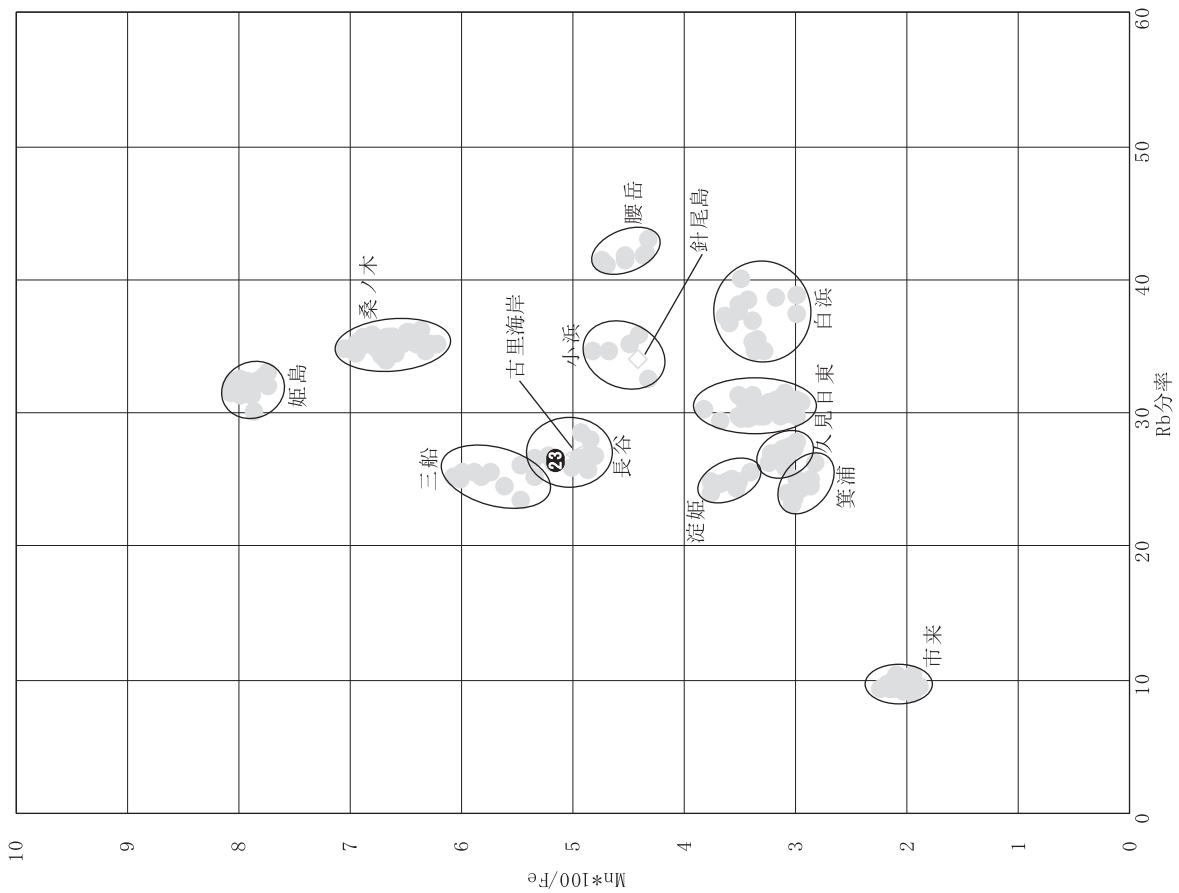
委託番号	K 強度 (cps)	Mn 強度 (cps)	Fe 強度 (cps)	Rb 強度 (cps)	Sr 強度 (cps)	Y 強度 (cps)	Zr 強度 (cps)	Rb 分率	$\frac{Mn*100}{Fe}$	Sr 分率	$\log \frac{Fe}{K}$	判別群	エリア
2	200.3	76.9	1495.1	566.7	797.4	216.8	570.5	26.34	5.15	37.06	0.87	(古里海岸)	佐世保
3	243.8	91.2	1770.7	673.9	937.6	252.3	670.3	26.59	5.15	37.00	0.86	(古里海岸)	佐世保

(4) まとめ

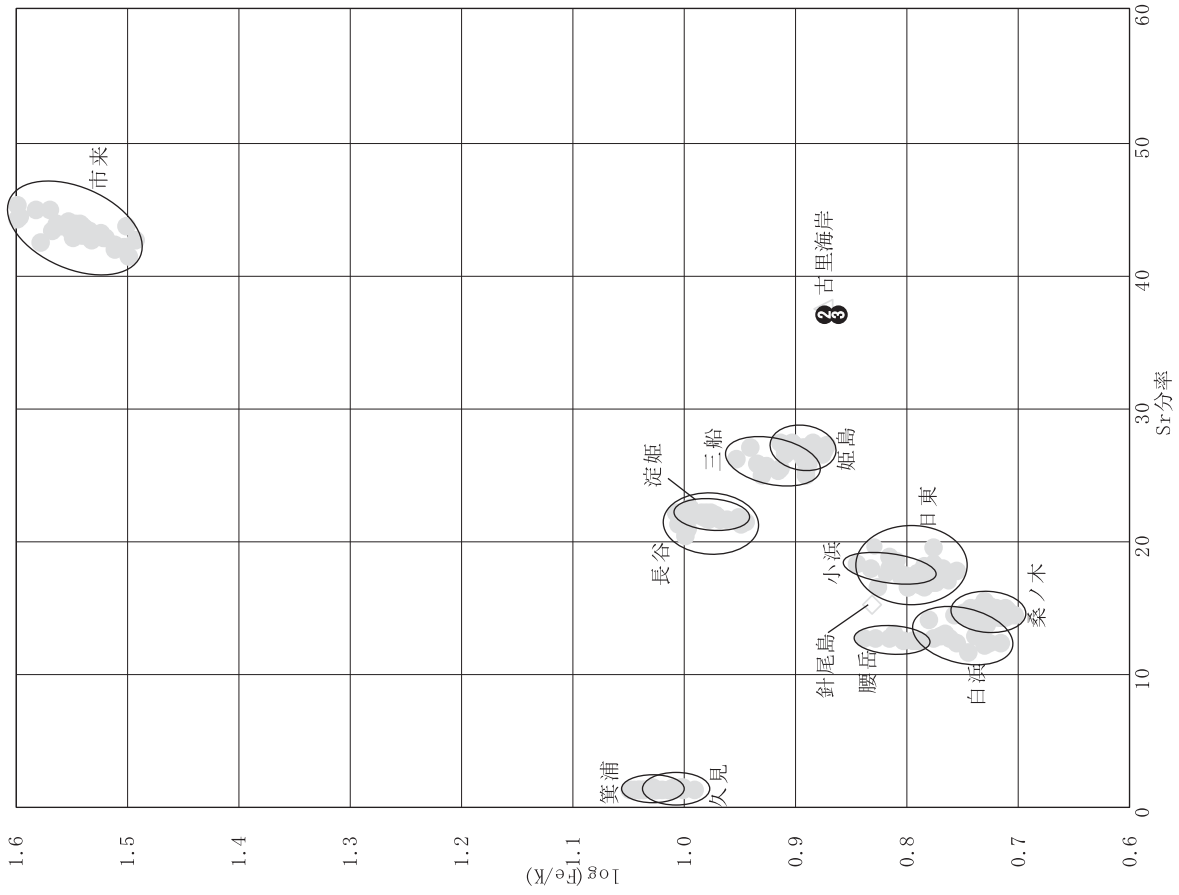
諏訪ノ上遺跡より出土した黒曜石製石器2点について,蛍光 X 線分析を用いた判別図法による産地推定を行った結果,いずれも佐世保エリア産と推定された。

[引用文献]

望月明彦(1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 一上和田城山遺跡篇一」:172-179, 大和市教育委員会.



第57図 黒曜石産地推定判別図①



第58図 黒曜石産地推定判別図②



委託番号 1 (49)



委託番号 2 (52)



委託番号 3 (75)

写真 3 諏訪ノ上遺跡出土石器

## 第V章 まとめ

### 諏訪ノ上遺跡の立地的特徴

雲仙火山の東斜面に広がる深江町域の地質的特徴は、「深江原（ふかえばる）」と呼ばれる火山性の扇状地が大部分を占めていることである。扇状地の土台をなすのは、雲仙火山の噴火活動に伴って発生したと考えられる土石流の厚い堆積物（Ⅶ層）である。扇状地は、北縁に水無川が、南縁に深江川が走り、扇端部は東の有明海（島原湾）へと向かって延びる。文字通り水無川は、降雨の時以外普段地表を水が流れることはなく、生活水源としての機能は果たさない。深江川にはいくつかの小河川が合流している。

土石流による厚い砂礫堆積の存在は、深江町域における湧水点の分布に大きな影響を与えている。極めて水はけのよい土石流堆積物は、扇中央部において地表面への湧水点を作らない。深江町域で水源を求めるとすれば、基本的に雲仙火山の山体部から東麓への傾斜変換点、扇状地南縁の深江川流域一帯、そして海岸近くの扇端部一帯、以上の大きく三つのエリアに分けてとらえることが可能である。そして、深江町域の遺跡はこれら三つのうちのいずれかを生活の基盤として展開していたといえる。

そうしたなかで、標高約35mにある諏訪ノ上遺跡の立地は、海岸沿いの扇端部における水源を基盤として展開する遺跡群に含まれる。遺跡から現在の海岸までの距離は約550mで、深江小・中学校を間にはさんで100mほど下った諏訪神社には現在も湧水がみられる。

### 深江町域Ⅶ層についての新知見

今回の諏訪ノ上遺跡における発掘調査は、弥生時代初頭の主要な遺物包含層と判断されたⅢ層の掘削を主体に進めた。しかしその過程で、平成27年度の本調査においては、近世以降の造営と考えられる性格不明の大型遺構を検出するに至った。大型遺構は、区画壁をもっていて複数の小部屋が認められ、おそらくは天井面も存在したと推測されるものであったが、「深江原」扇状地の土台となっているⅦ層の砂礫層を深く掘りこんだ構造となっていた。このことは、当初の調査計画においては見込んでいなかった偶発的なものではあったが、考古学的な成果としてだけでなく、火山学的にも非常に大きな知見が得られたといえる。

諏訪ノ上遺跡の不明大型遺構が掘り込まれたⅦ層は、深江原一帯で実施してきた過去の各所での発掘調査においても確認しており、土石流堆積物であることが判明していた。また、このⅦ層よりも上位の土層から出土する遺物が縄文時代早期以降のものに限定され、旧石器時代の遺物の出土が深江町域で皆無であることから、Ⅶ層は時期的には旧石器時代末期から縄文時代初頭において発生した土石流の堆積物であると判断してきた。そしてさらに、深江町域を覆うほどの大規模な土石流であるので、その発生は雲仙火山の噴火活動に起因するものであろうと推測してきた。

しかしながら、これまでの過去の発掘調査で下層確認のために幾度かⅦ層の掘削を試みているものの、Ⅶ層は固結の進行した砂礫層であるがゆえに人力での掘削には限界があり、ツルハシなどを使ってもせいぜい数十cmの深さでしか堆積状況を把握できていなかった。よって、明確に土石流の発生要因を突き止めるには至っていなかったのである。

そのような状況のなか、不明大型遺構はⅦ層に1.5mもの深度で掘削が及んでおり、過去の発掘調

査では確認できていなかったⅦ層のより深い部分の堆積状況が、幸運にもその遺構壁面において確認できた。また、大型遺構の床面にトレンチを設定してそこからさらに約1mの掘削を行い、より下位の部分の堆積状況についても確認することができた。

結果、遺構壁面には水成の砂礫堆積の痕跡が明瞭に観察され、火山灰と砂礫の互層も確認された。また、Ⅶ層の堆積上面から約1.5m下がったところでは砂礫を含まない純粋な約10cmの厚さの火山灰層を検出した。さらにそれより下位では、砂礫層や火山灰層が一部土壌を含みながら幾重にも堆積している状況が観察された。これにより、「深江原」扇状地の土台を形成したⅦ層の堆積が雲仙火山の噴火活動とそれに伴う土石流の断続的な発生によるものであることが明らかになったと考える。



不明大型遺構内Ⅶ層堆積状況

水成堆積をみせるⅦ層

火山灰検出状況（床面トレンチ）

### 諏訪ノ上遺跡の出土遺物の分析

今回の諏訪ノ上遺跡の発掘調査において検出した遺構としては、溝や不明大型遺構などおもに近世以降のものが多くみられるものの、出土遺物の主体である突帯文期に伴うと考えられる遺構は非常に少ない。こうした遺物の出土量に対して遺構が少ないという状況は、深江町域における縄文時代晩期から突帯文期の遺跡、例えば権現脇遺跡などにおいても認められる事象で、これが当時の土地利用のあり方をそのまま反映したものなのか、あるいは火山灰質土壌の経年的色調変化などが要因となって遺構を捉えづらいついたようなことがあるのかなど判然としない部分もあり、今後の課題としておきたい。

さて、Ⅲ a 層及びⅢ b 層から出土した遺物については、出土地点の観測を行っており、観測総数は8,100点である。自然礫や土塊、混入とみられる現代物などを除くと8,009点を数える。この8,009点の内訳についてみる。土

第27表 諏訪ノ上遺跡遺物内訳

種別	Ⅲ a 層	Ⅲ b 層	総計
土器・土製品	2,888	3,859	6,747
陶磁器	4	1	5
石器	512	744	1,256
鉄滓	1		1
総計	3,405	4,604	8,009

器・土製品が6,747点（84.2%）、陶磁器が5点（0.06%）、石器が1,256点（15.7%）、鉄滓が1点（0.01%）で、数量的には土器・土製品と石器で全体の99.6%を占める。層位的な出土状況としては、Ⅲ a 層出土のもの3,405点（42.5%）、Ⅲ b 層出土のもの4,604点（57.5%）とおおよそ4対6の割合での出土である。

土器・土製品・陶磁器についてみる。6,747点中、縄文時代後期から突帯文期にかけての時期



である2・3群<sup>(註)</sup>に含まれるものが6,700点(99.3%)である。ただ、全体の出土遺物を見渡せば、弥生時代中期から古墳時代にかけての資料や中世の遺物も若干ではあるがみられ、深江町域における周辺遺跡での出土傾向も勘案して、Ⅲ a層の包含する遺物の時期的な下限は、中世期までは下る可能性が高いことは押さえておきたい。

それでは、出土遺物の中心となるⅢ a層及びⅢ b層出土の2・3群の土器について、時期別にみていきたい。2群(縄文時代後期)のものとして明確に比定できる資料は、非常に少ない。口縁部の肥厚する深鉢口縁部の資料(第18図3~6)やタガ状口縁の資料(同図7・8)

があり、あとは一応3群に含めて報告したが、底部資料として第5図185~188、第26図233・234の鉢や、第32図474・475の浅鉢がさかのぼる可能性があるくらいである。

次に、3群(縄文時代晩期及び突帯文期)の資料についてである。縄文時代晩期の資料については、第19図22~34のような大きく口縁部の開く深鉢[権現脇深鉢D類]の資料がある。おそらくこれらの資料は肩部を作るか、胴部でS字状にゆるく屈曲して口縁部へと至り、場合によっては蝶ネクタイ状などの粘土塊貼付文をもったり、口縁部から胴部の上位にかけて間隔の広い平行沈線や弧状の沈線文を施したりするものとする。第19図37・38も間隔の広い平行沈線文をもつ資料である可能性がある。全体からすると数量はさほどない。精製浅鉢の資料としては、第27図257・258のような頸部が大きく開いて口縁部が短く立ち上がる資料[権現脇浅鉢A類]が見られる。ボウル形・洗面器形の粗製浅鉢[権現脇浅鉢L類]と型取り成型によって製作された組織痕のある粗製浅鉢[権現脇浅鉢M類]もこの時期の遺跡において一般的にみられる器種ではあるので、いくらかは含んでいる可能性がある。ただ、先述した深鉢、精製浅鉢の出土数量を考え合わせれば、多くは突帯文期に属するもので、当該期のものは多くないと考える。

そして、主体を占める突帯文期の資料である。刻目突帯をもつ甕[権現脇深鉢E類]の資料は、485点を数える。Ⅲ a層出土のものが224点(46.2%)、Ⅲ b層出土のものが261点(53.8%)とほぼ半数ずつの構成となっている。その他、多くの粗製土器片も突帯文土器甕[権現脇深鉢E類]の胴部資料であると思われる。

刻目の種類についてみてみよう。指先によって刻むもの153点(31.5%)、棒状工具の側面を押しあてて、あるいはそれを引き上げるようにして刻むもの163点(33.6%)、ヘラ状工具によって切るように刻むもの110点(22.7%)があり、この3種で全体の87.8%を占める。ほかに棒状工具の小口によって刺突するもの、二枚貝の貝殻腹縁によるもの、口縁部突帯と胴部突帯とで刻目の種類が違うものがある。

刻目主要3種の層位別の比率は、指先による刻目がⅢ a層38.6%、Ⅲ b層61.4%、棒状工具の側

第28表 2・3群土器器種別内訳

土器分類	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
深鉢(刻目突帯文土器甕含む)	1,345	1,503	2,848
鉢	5	20	25
浅鉢	976	1,548	2,524
壺	525	752	1,277
高坏・脚台付土器	8	13	21
土製品	2	3	5
総計	2,861	3,839	6,700

第29表 刻目突帯文土器(甕)刻目種類別内訳

刻目種類	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
指	59	94	153
棒状工具	78	85	163
ヘラ状工具	51	59	110
工具小口刺突	11	6	17
貝殻腹縁		2	2
異種原体併用		2	2
不明	25	13	38
総計	224	261	485

面による刻目がⅢ a層47.9%、Ⅲ b層52.1%、ヘラ状工具による刻目がⅢ a層46.4%、Ⅲ b層53.6%となっている。棒状工具刻みとヘラ状工具刻みのものが近似値を示すとともに、2者は指刻みのものに対してⅢ a層出土の比率が高い。このことは棒状工具とヘラ状工具による刻目が施された資料の中に指による刻目のものより時期的に新しい段階のものが一定数含まれることを示していると考えられる。そして、この新しい時期のものとして、棒状工具によるものでは第22図122、125、128、130、131を、ヘラ状工具によるものでは第23図135、154～157、165、174をあげておきたい。特徴としては、器壁が比較的薄手で、突帯は細く、刻目が細かく刻まれる、さらに口縁部の突帯は口唇部に接して貼りつけられている、胴部の屈曲は不明瞭でゆるいといった点があげられる。

一方、第23図135（年代測定試料1）や同171（年代測定試料6）についても、細い突帯と細かい刻目の特徴から諏訪ノ上遺跡の突帯文土器の中では新しい部類に入ることを想定していたが、放射性年代測定の結果からはむしろ分析を行った他の試料より古い測定値が得られており、135の屈曲の強さや口縁部突帯の貼りつけ位置、171の外面に残る貝殻条痕調整といった特徴が、諏訪ノ上遺跡における突帯文土器の中での位置づけでは古相として評価できるのかもしれない。

突帯文土器に伴うものとして、まず第27図259～268のようないわゆる方形浅鉢〔権現脇浅鉢I類〕や第28図281～337のような断面逆「く」字をなす精製浅鉢〔権現脇浅鉢J類〕がある。浅鉢L類、浅鉢M類についても、特に浅鉢L類は口縁部に突帯をもつ資料が多く認められることから、大部分は突帯文期の資料と考えてよからう。

壺については、第38図632・633のように「M」字突帯を貼りつける弥生時代中期のものも一部みられるが、大部分は明らかに胎土や焼成の具合からもそれらと異っており、突帯文期の資料として間違いなからう。多くの口縁部資料が断面先細りとなって外反するものであるが、一部第33図519、535のように口縁部外面が肥厚して段を形成するものもある。肩部については第33図538、540のようになで肩のものと、第33図537、541のようにしっかりと肩の張るものがある。また、肩部と頸部との境界に第33図540のように圏線を入れるものとそうでないものが存在する。底部でみると、第33図542のような大型で丸底のもの、第33図543や第35図601のような平底のもの、第33図544や第35図599・600のような円盤貼り付けの張り出し底のものがある。

土製品については、詳細な時期比定の根拠に乏しいが、紡錘車2点（第37図623・624）は表裏面や側面に線刻を施しておらず、中膨らみも弱いことを考えれば、突帯文期に属するものと考えてよいのではなからうか。また、第37図627の資料は、欠損部が多く全体像を把握できないが、もし仮に土偶としての評価ができるのであれば、突帯文期に伴う可能性がある精神文化にかかわる遺物として注目するところである。

石器の出土状況についてみる。Ⅲ a層及びⅢ b層における総出土点数は1,256点である。Ⅲ a層出土のものが512点（40.8%）、Ⅲ b層出土のものが744点（59.2%）となっており、おおよそ4対6の割合で土器の層位別出土比率ともほぼ一致する。石器石材の様相は、黒曜石が755点（60.1%）、サヌカイトが389点（30.9%）で、この2者で全体の91.0%を占めている。その他の石材としては、砂岩、安山岩、頁岩、石英、蛇紋岩、チャート、片岩がみられる。安山岩のごく一部を除いて石器石材には他地域からの搬入品に依存している状況がうかがわれ、こうした諏訪ノ上遺跡における石材利用のあり方は、在地産石器素材の乏しさを反映して雲仙東麓における縄文時代や突帯文期の遺跡群と

第30表 石器石材別内訳

石材	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
黒曜石	296	459	755
サヌカイト	180	209	389
砂岩	19	31	50
安山岩	9	29	38
頁岩	4	10	14
石英		3	3
蛇紋岩		2	2
チャート	2		2
片岩	1	1	2
不明	1	1	2
総計	512	745	1,257

第31表 黒曜石色調別内訳

黒曜石種類	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
黒色黒曜石	288	437	725
黒色黒曜石 (風化顕著)	1	4	5
暗灰色黒曜石	3	9	12
灰色黒曜石	4	8	12
灰白色黒曜石		1	1
総計	296	459	755

第32表 石器器種別内訳

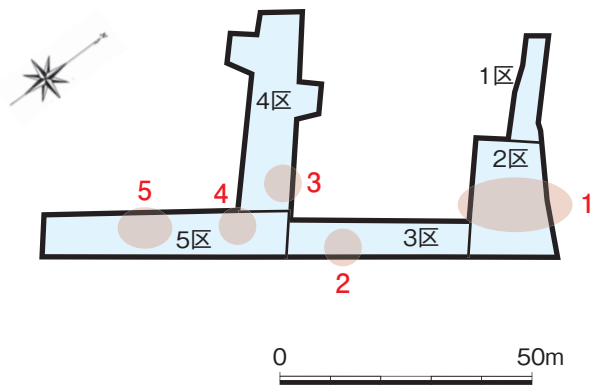
器種	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
原石	1	2	3
石核	23	32	55
剥片	295	399	694
碎片	115	169	284
スクレイパー	8	13	21
石鏃	4	6	10
石鏃未成品	1	2	3
石錐	1	1	2
二次加工剥片・微細剥離剥片	31	44	75
磨製石斧		5	5
磨製石斧再加工		1	1
打製石斧	2	7	9
打製石斧破片(整形・刃部再生・破損)	4	10	14
石皿・台石		4	4
砥石	9	10	19
磨石・叩石・凹石	5	13	18
小型磨石(土器製作具カ)	2	8	10
自然礫	2	11	13
破片	7	5	12
不明	2	3	5
総計	512	745	1,257

大きくは相違ないものといえる。

黒曜石の肉眼観察による色調別の内訳においては、大部分を黒色黒曜石が占めている。1群土器などに伴うであろうと推定する著しく風化の進行している5点を除くと、黒色黒曜石は725点出土しており、黒曜石全体の中で96.0%である。ほかに暗灰色、灰色、灰白色のものがあるが、それらを合わせても25点(3.3%)とごくわずかである。なお、暗灰色を呈する黒曜石の石器として報告したものの中に石鏃(第47図52)と微細剥離剥片(第48図75)があるが、蛍光X線分析装置による元素分析の結果、産地については長崎県佐世保エリアとの推定がなされた。

それから、サヌカイトの層位別の出土比率をみると、Ⅲ a層出土のものが46.3%、Ⅲ b層出土のものが53.7%となっており、石器全体における、あるいは黒曜石における値と比べるとⅢ a層の比率が高い。突帯文土器のなかで棒状工具とヘラ状工具によって刻目を施した資料の一部が、突帯文期の中で新しい時期の一群として存在することを推察したが、あるいはそうした突帯文期の中での時期の違いがサヌカイトの利用の比重の差となって反映された可能性があると考えられる。

次に出土遺物の分布状況についてみていきたい。平成26年度における本調査の対象面積が1,605㎡で、Ⅲ a層及びⅢ b層において出土地点の観測を行った遺物の有効点数が8,009点であるので、平米あたりの出土点数は5点程度となる。ただし、後世の耕作地造成のための削平や攪乱によって遺物包含層であるⅢ a層・Ⅲ b層が残存しておらず、分



第59図 遺物集中部概略図 (S=1/1,500)

布図上も空白地帯となっている部分がかかなり存在する。よって、実際の平米あたりの出土点数は10点程度にはなるであろう。面的な発掘調査ではあるが、道路や水路、石垣部分のみの調査で調査区幅が限られていることもあり、よって遺跡における全体的な遺物分布を明らかにできたとはいいがたいが、若干の所見を述べておく。

遺物包含層残存部分での全体的な遺物の出土傾向としては、いくつかの出土集中部が認められ、第59図のとおり第1集中部から第5集中部の五つのエリアに整理した。最も密度の高い出土状況をみせるのは2区（第1集中部）であり、またその広がりも大きい。3区南隅部付近（第2集中部）、4区東隅部付近（第3集中部）、それから5区の北西部付近（第4集中部）と中ほど（第5集中部）でも集中的な出土傾向が確認できる。そして、これらの出土集中部は、ある程度出土点数をもつ分類項目では土器、石器ともにおおよそ共通して五つそれぞれのまとまりをみせるが、細かく見ていくと若干の差異も認められる。

土器については、例えば、深鉢E類は全体としては各出土集中部でまとまった出土がみられるのに対し、工具刺突による刻目のものは第1集中部での出土が目立つものの、他ではほとんど出土していない。また、浅鉢J類は第3集中部からの出土が少ない。高坏・脚台付土器については第1・第2・第5の集中部においては出土がみられるのに対し、第3・第4集中部では皆無である。

石器については、打製石斧を中心として利用される安山岩の出土が第4集中部では希薄である。また、同様に磨石・敲石・凹石類や石皿・台石類の出土が第4集中部では見られない。それから、サヌカイト素材の石器としては、各集中区からそれぞれまとめて出土がみられているのに対して、スクレイパー類に限ってみると、第3・第4・第5集中区からの出土はごく少数である。

## おわりに

今回の諏訪ノ上遺跡における発掘調査の意義について、二点あげたい。

まず、島原半島における突帯文期のほぼ単純遺跡として、諏訪ノ上遺跡の成果が得られた点である。諏訪ノ上遺跡と同じく南島原市深江町に所在する権現脇遺跡では、近年まで雲仙普賢岳平成噴火の鎮静後の砂防事業に伴って発掘調査が継続的に実施されてきたが、膨大な量の出土遺物があり、多くの知見を私たちに与えてくれた。一方で権現脇遺跡の存続期間は、縄文時代後期末から突帯文期にかけてと比較的長く、複数時期にわたって継続的に生活が営まれたことにより、同一地点、同一層位（諏訪ノ上遺跡と同様のⅢ a 層・Ⅲ b 層）から時間幅のある遺物が複合して出土するため、それぞれの単一時期の様相が非常につかみづらいという状況にあった。その点、諏訪ノ上遺跡の出土遺物はほぼ突帯文期に限定され、かつ、その突帯文期もわずかに新相を示すものが含まれる可能性があるものの、大部分の資料が短期間の時間幅に収まるものと考えられる。今後権現脇遺跡をはじめとした諏訪ノ上遺跡と時期的に重なる部分のある複合遺跡においては、相互に比較検討を行うことにより、複合する各々の時期の様相を明瞭に浮かび上がらせていく作業ができるのではないかと期待する。

次に、島原半島では縄文時代晩期から突帯文期にかけての遺跡は、これまで比較的標高の高い地点で確認されることが多かったのであるが、今回調査を行った諏訪ノ上遺跡は標高35m付近の遺跡立地ということで、比較的低標高域に位置する海岸に近い遺跡として押さえられた点である。高標高域の遺跡であれば、当然食糧をはじめとした生活資源の海への依存度は低くなり、山麓地帯での生業形

態を想定しなければならない。それと同時に突帯文期の遺跡であることを考えれば、水田農耕の導入についても気になるところである。その点では、諏訪ノ上遺跡における今回の発掘調査では比較的低標高域ではあるものの水田農耕にかかわるような直接的な成果は得られておらず、突帯文期に突入しても水田農耕の導入には至っていない島原半島の様相がまたひとつ明らかになったものとする。海岸まで550メートルという近距離にありながらも扇状地地形で傾斜地であるため、また水はけのよい土石流堆積物上の土壌環境であるため、水利施設の造営には不適合地だったのだろう。今のところ島原半島における水田によるコメ作りの始まりは、弥生時代中期を待たなければならないのである。その一方で、権現脇遺跡においては破片資料ではあるが擦切り穿孔の石包丁の出土例などもあり、水田農耕そのものは受け入れていなくとも、それに付随する各種文化要素は突帯文期にはすでに採用していた形跡がみられるわけで、いち早く水田農耕を取り入れた北部九州地域の周縁部の様相として捉えておく必要がある。今後、諏訪ノ上遺跡よりもさらに海岸に近い突帯文期の低地遺跡が存在するのか、もし存在するとすればそこには水田農耕文化の影響がどれほど及んでいるのか、あるいは及んでいないのか、注意しておきたい。

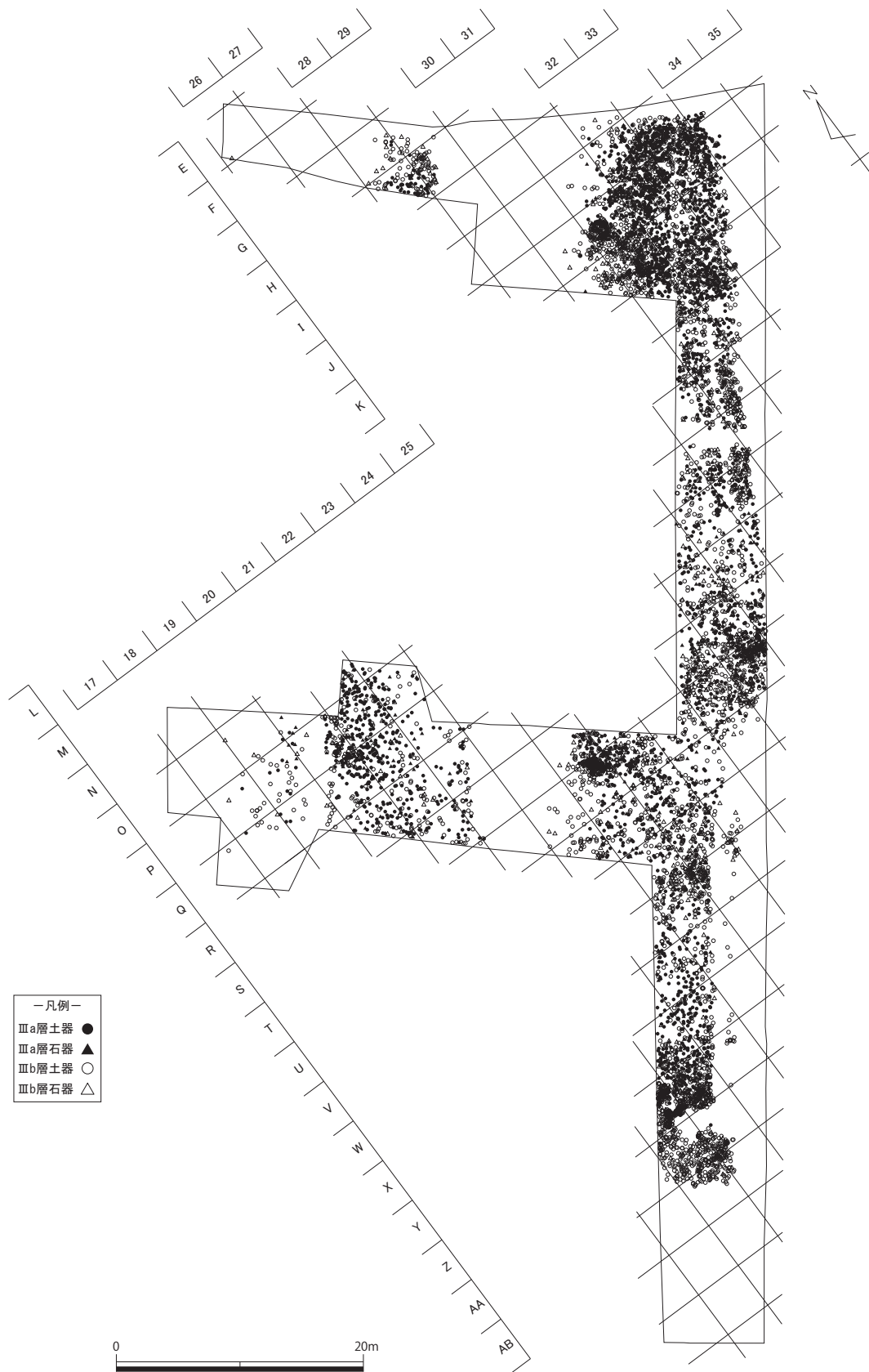
(註)

2群と3群の土器については、粗製土器、精製土器ともに胴部など多くの小片資料にあつては、器面調整のみでの詳細な時期分類は困難であり、ここではひとまとめにして扱うことにする。

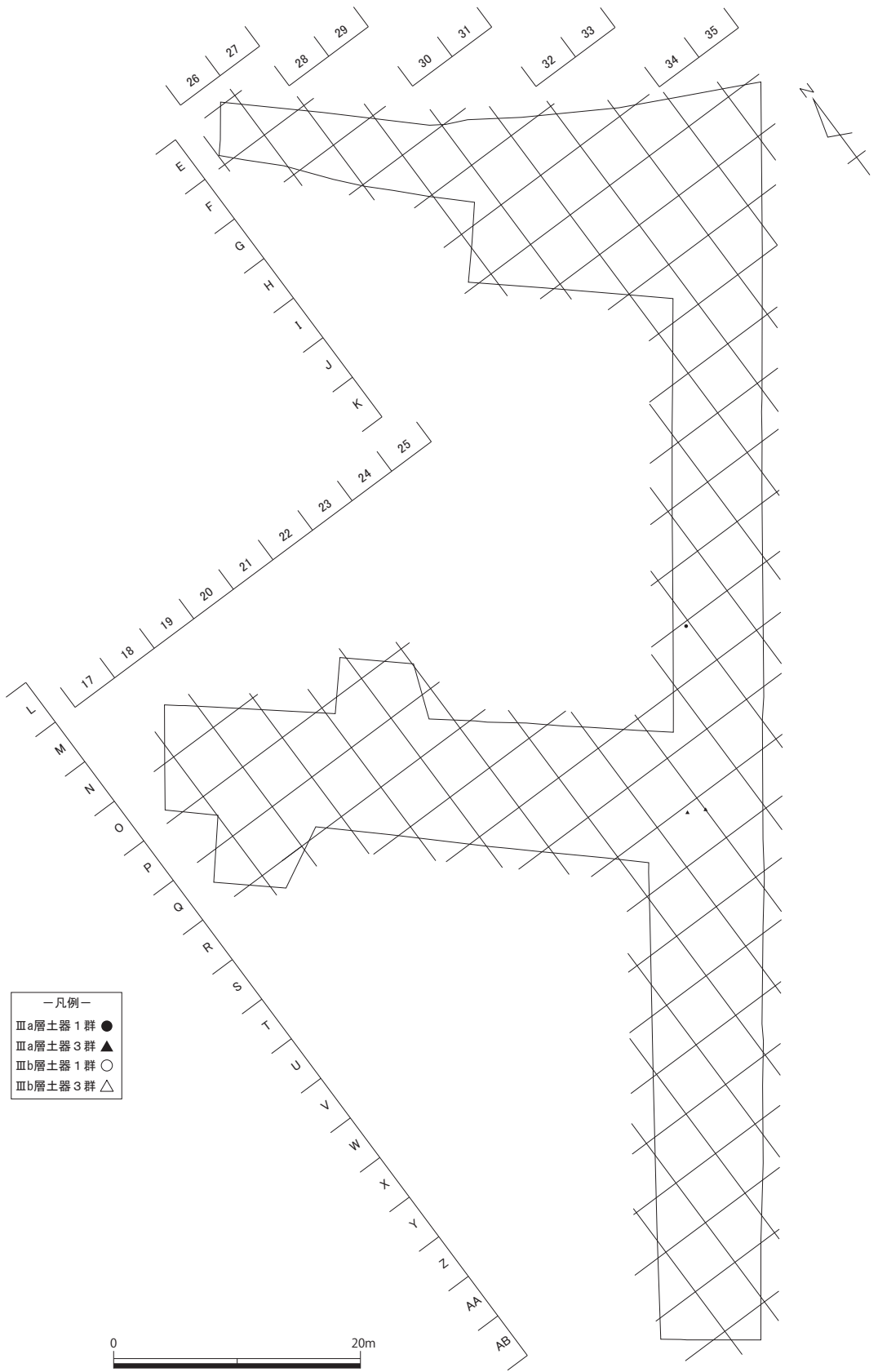
また、主要な器種の分類については、諏訪ノ上遺跡と同じく深江町域に所在する権現脇遺跡において縄文時代後・晩期から突帯文期にかけての充実した調査成果（『権現脇遺跡』2006）があり、そこでの分類名称を踏襲することにする。

【参考文献】

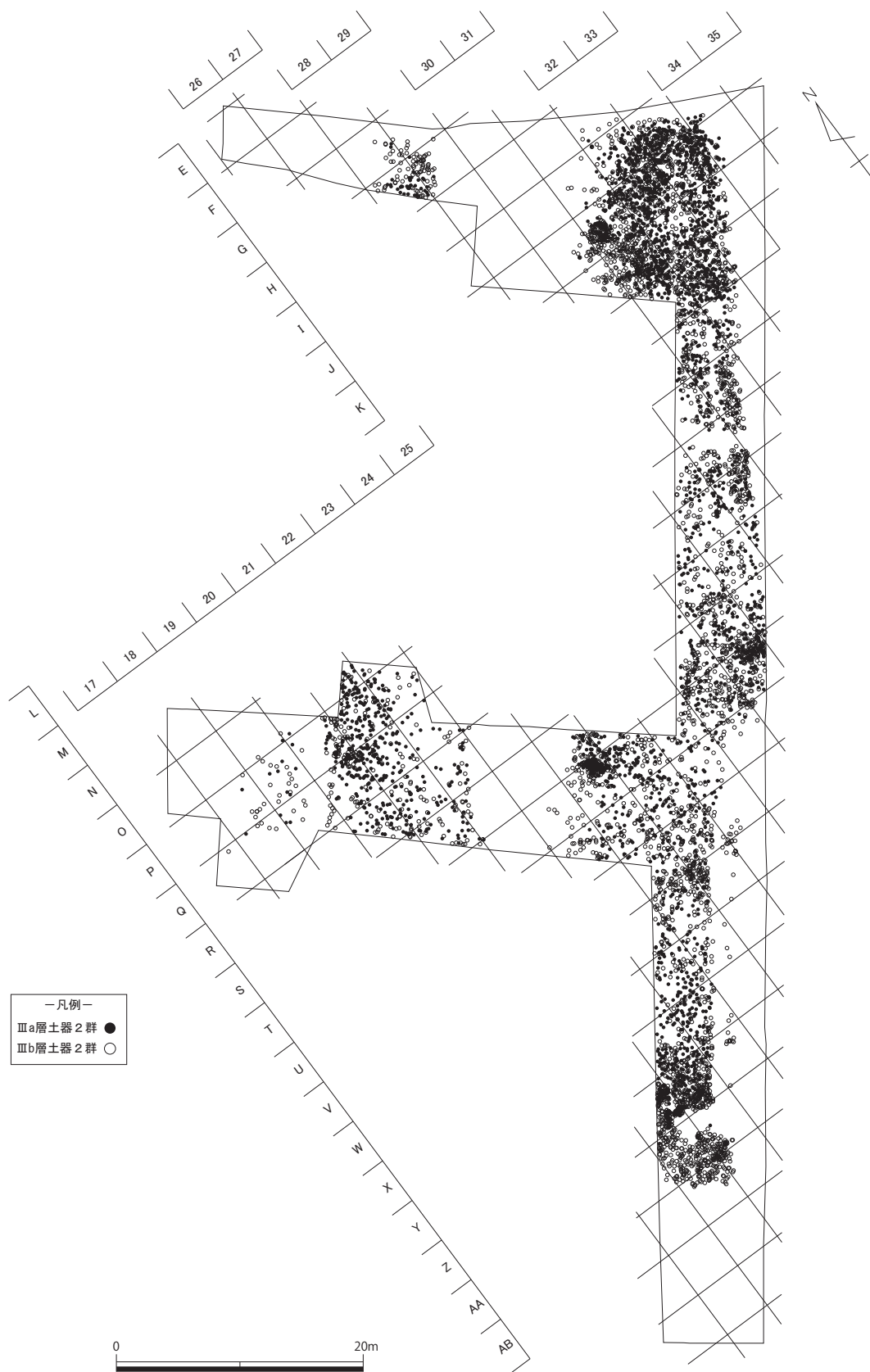
- 久原卷二 1994 「地理的歴史的環境」『県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書第116集 長崎県教育委員会
- 本多和典編 2006 『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集 深江町教育委員会
- 本多和典編 2007 『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第1集 南島原市教育委員会



第60図 遺物分布図① [土器・石器 (全体)] (S=1/500)

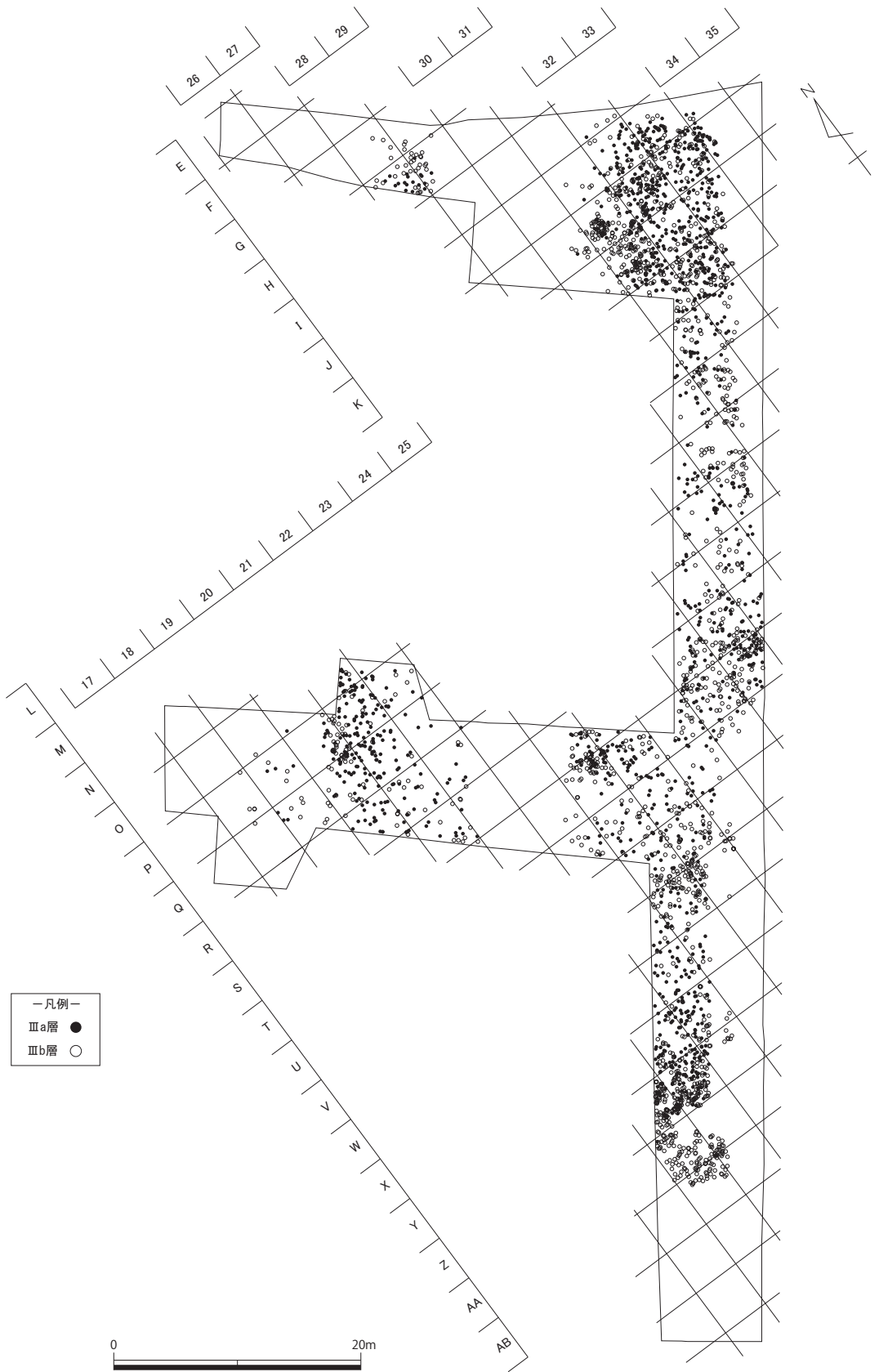


第61図 遺物分布図② [土器 (時期別) 1群土器・4群土器] (S=1/500)

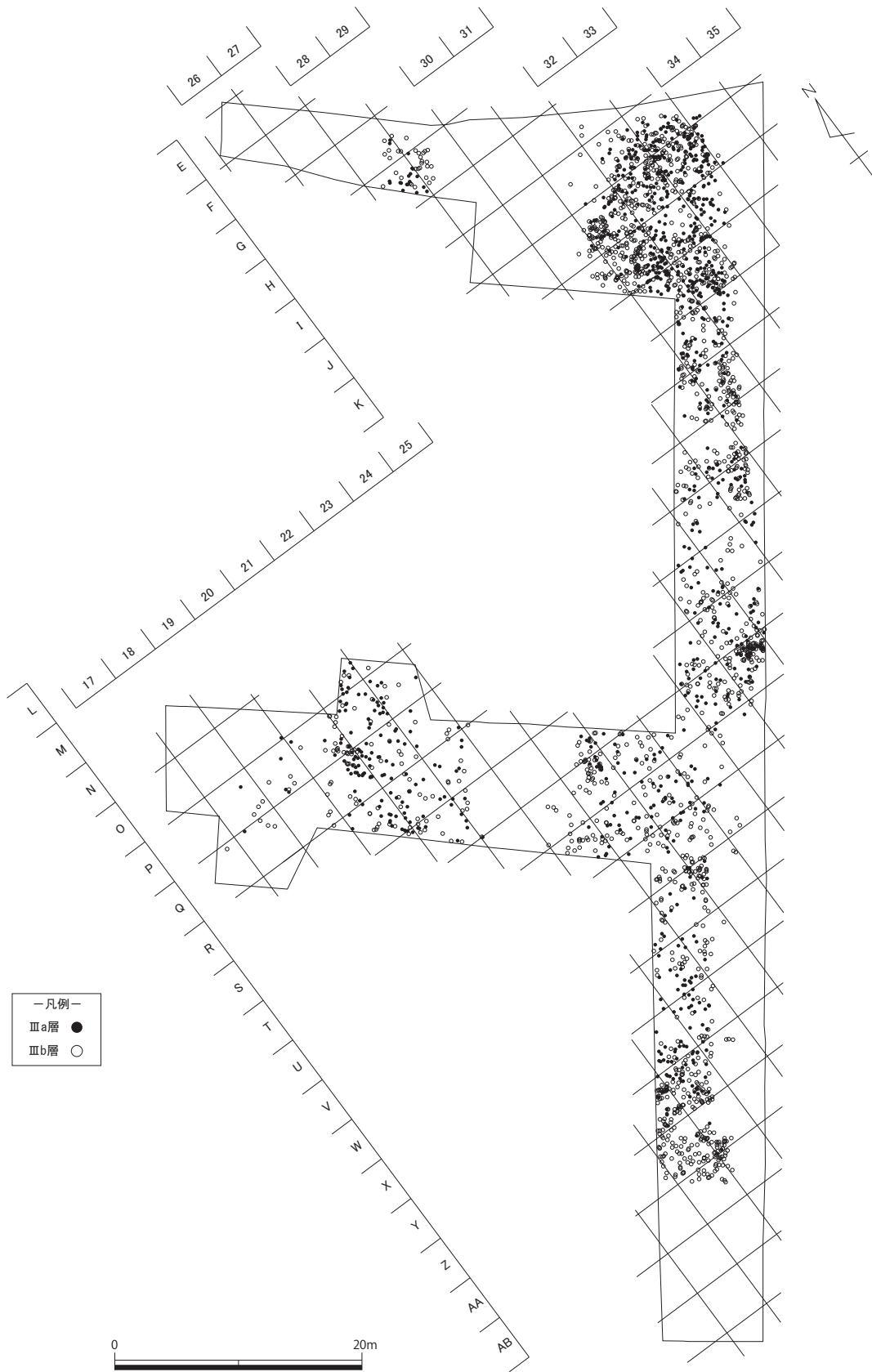


第62図 遺物分布図③ [土器 (時期別) 2群土器・3群土器] (S=1/500)

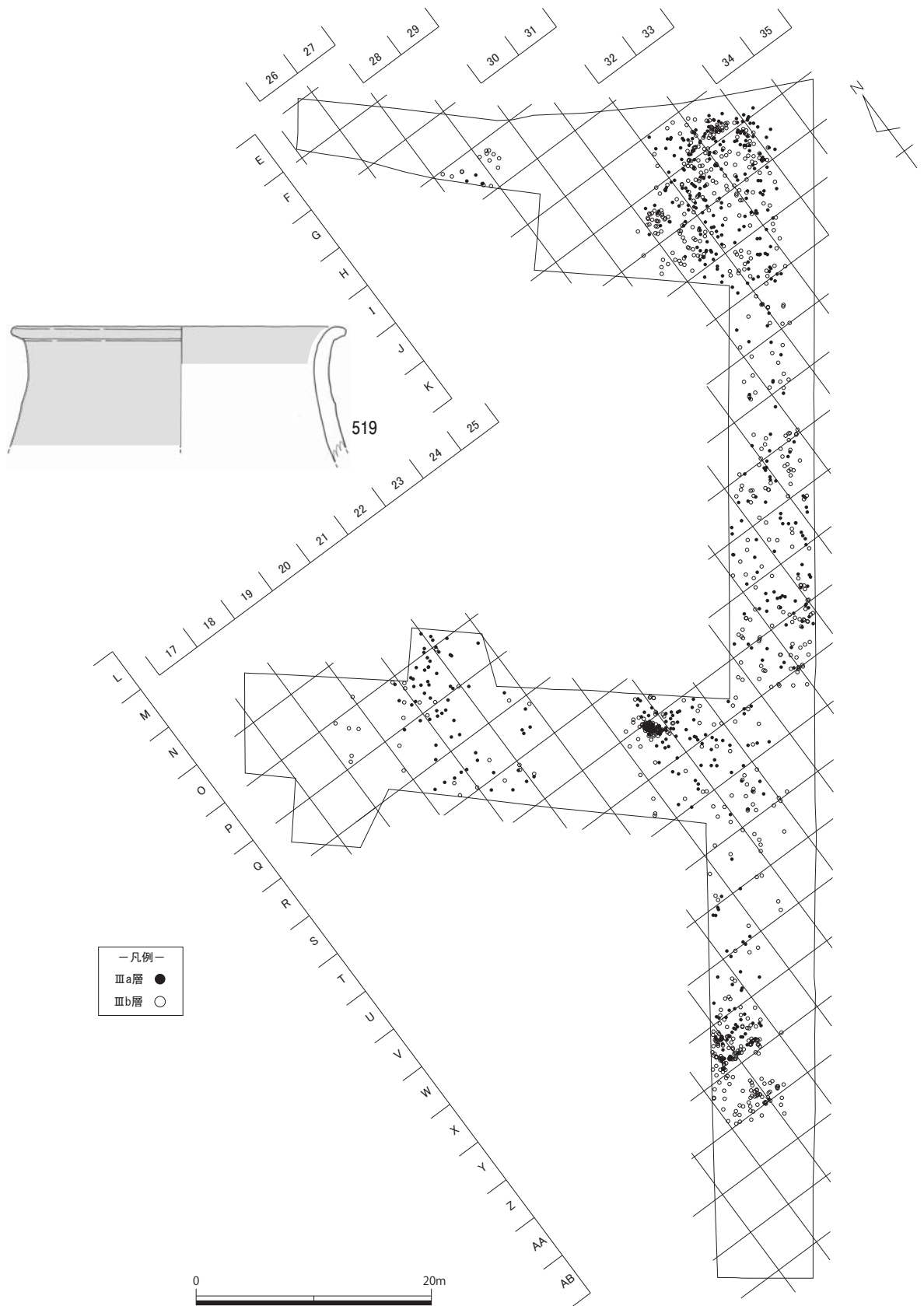




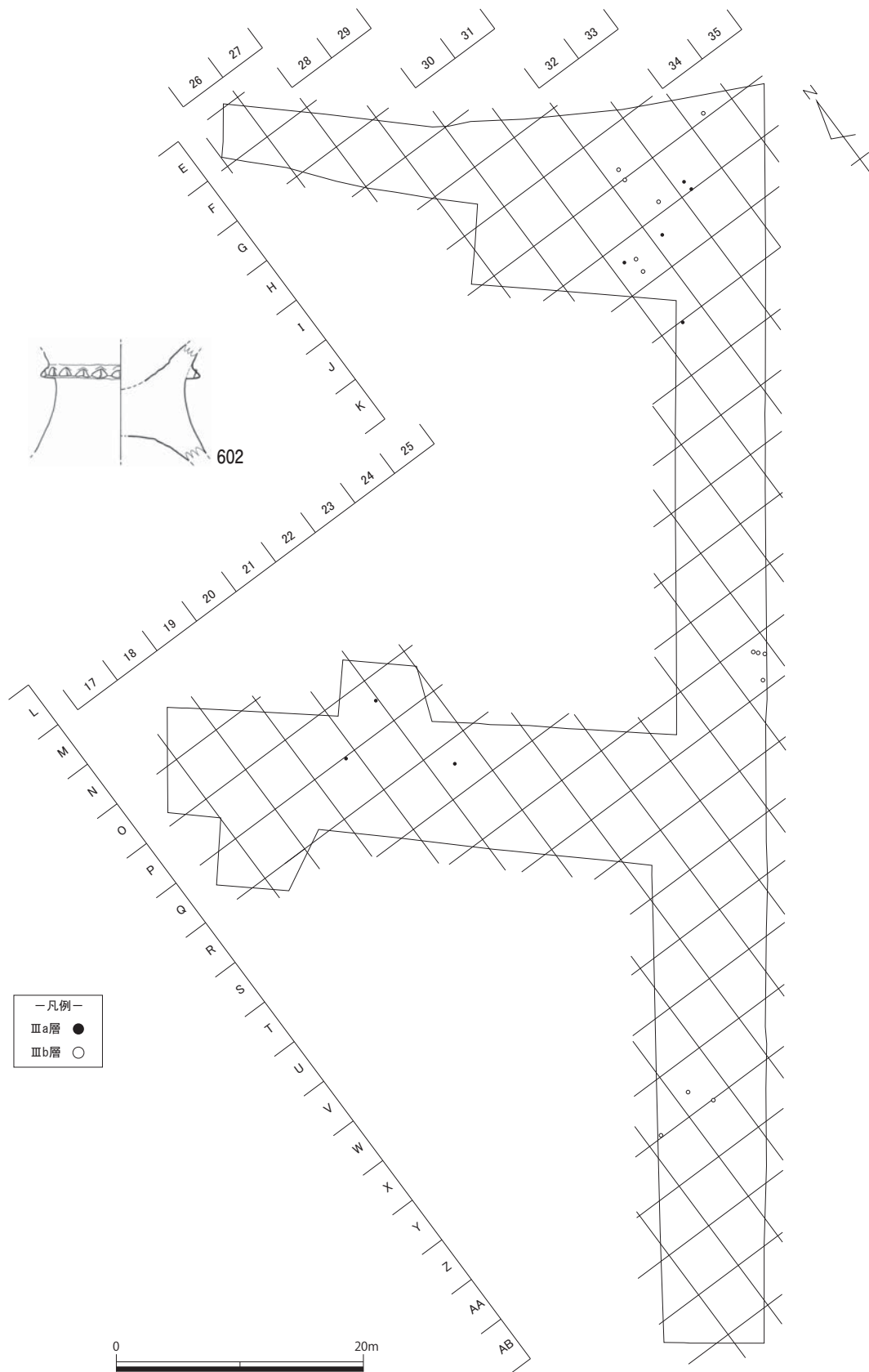
第63図 遺物分布図④ [3群土器 (器種大別) - 深鉢] (S=1/500)



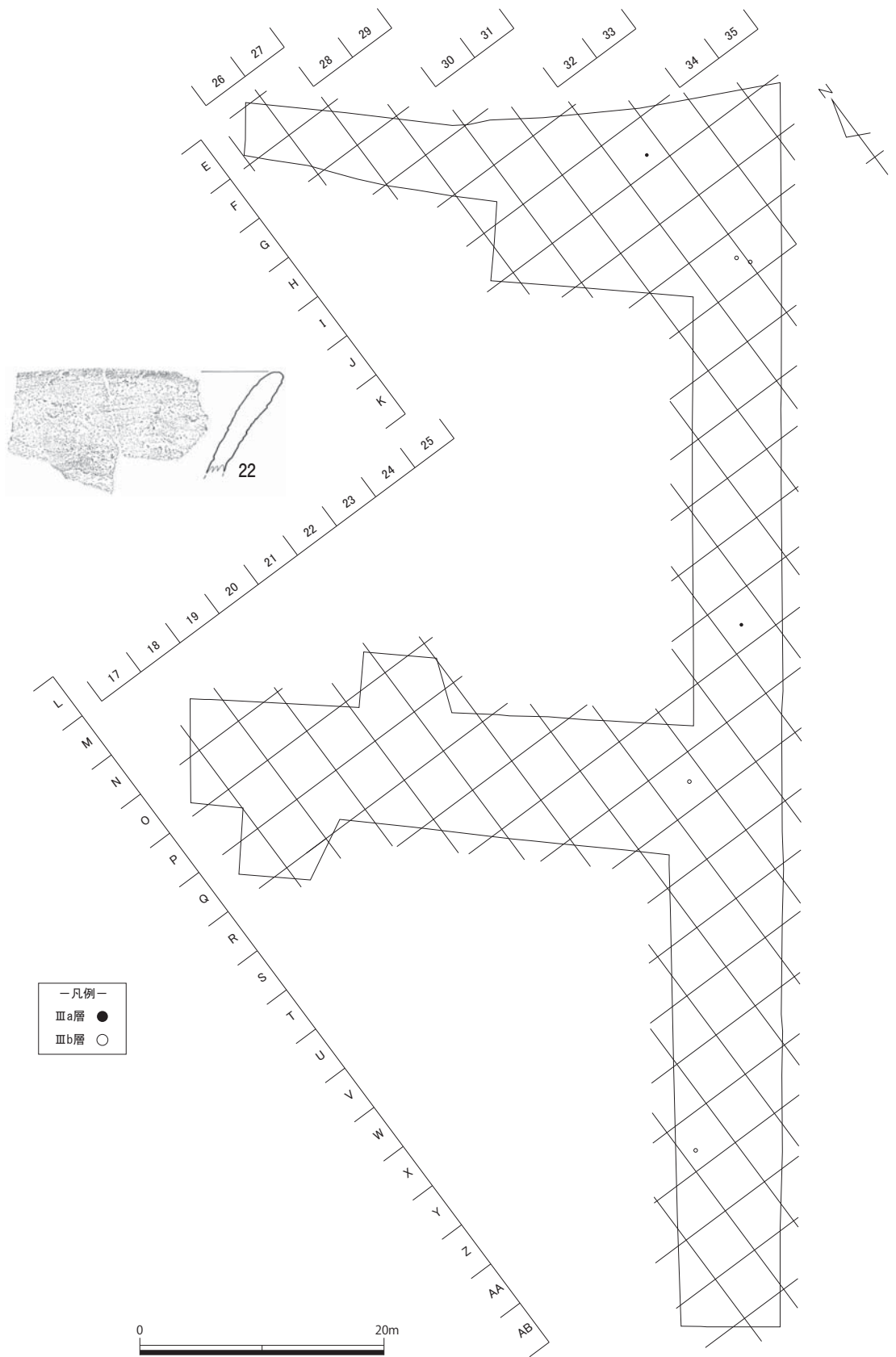
第64図 遺物分布図⑤ [3群土器 (器種大別) - 浅鉢] (S=1/500)



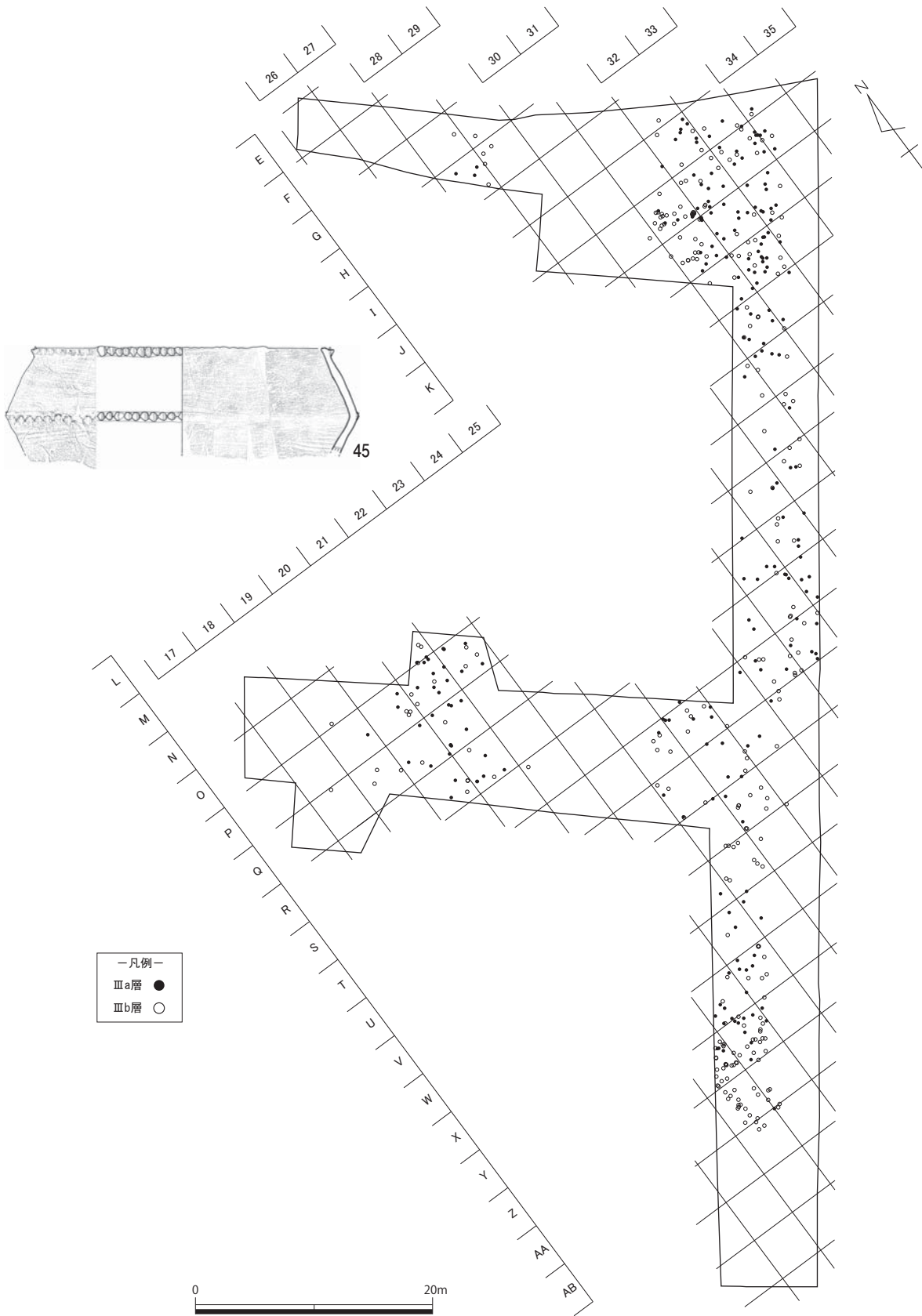
第65図 遺物分布図⑥ [ 3群土器 (器種大別) - 壺 ] (S=1/500)



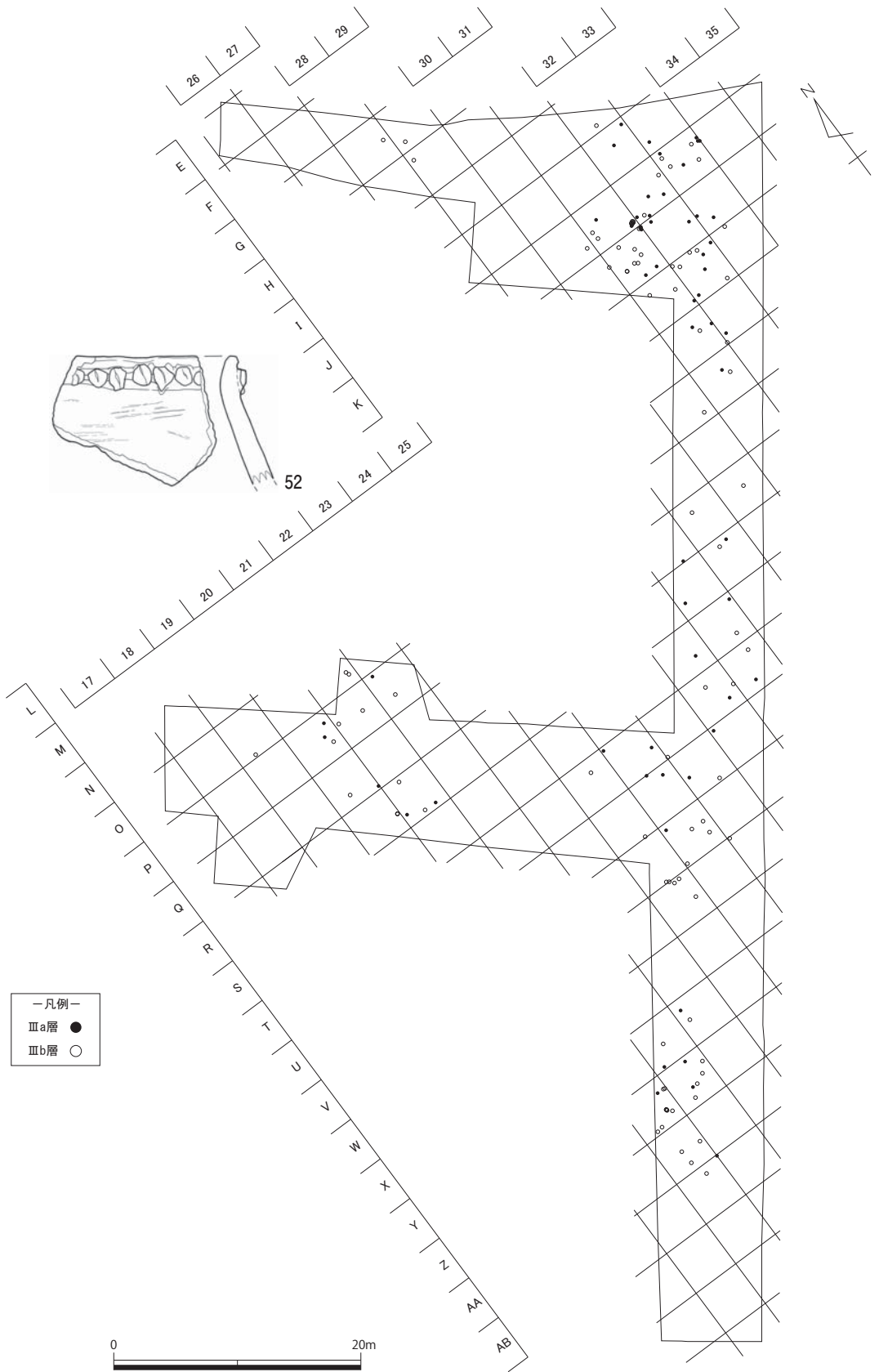
第66図 遺物分布図⑦ [3群土器 (器種大別) - 高坏・脚台付土器] (S=1/500)



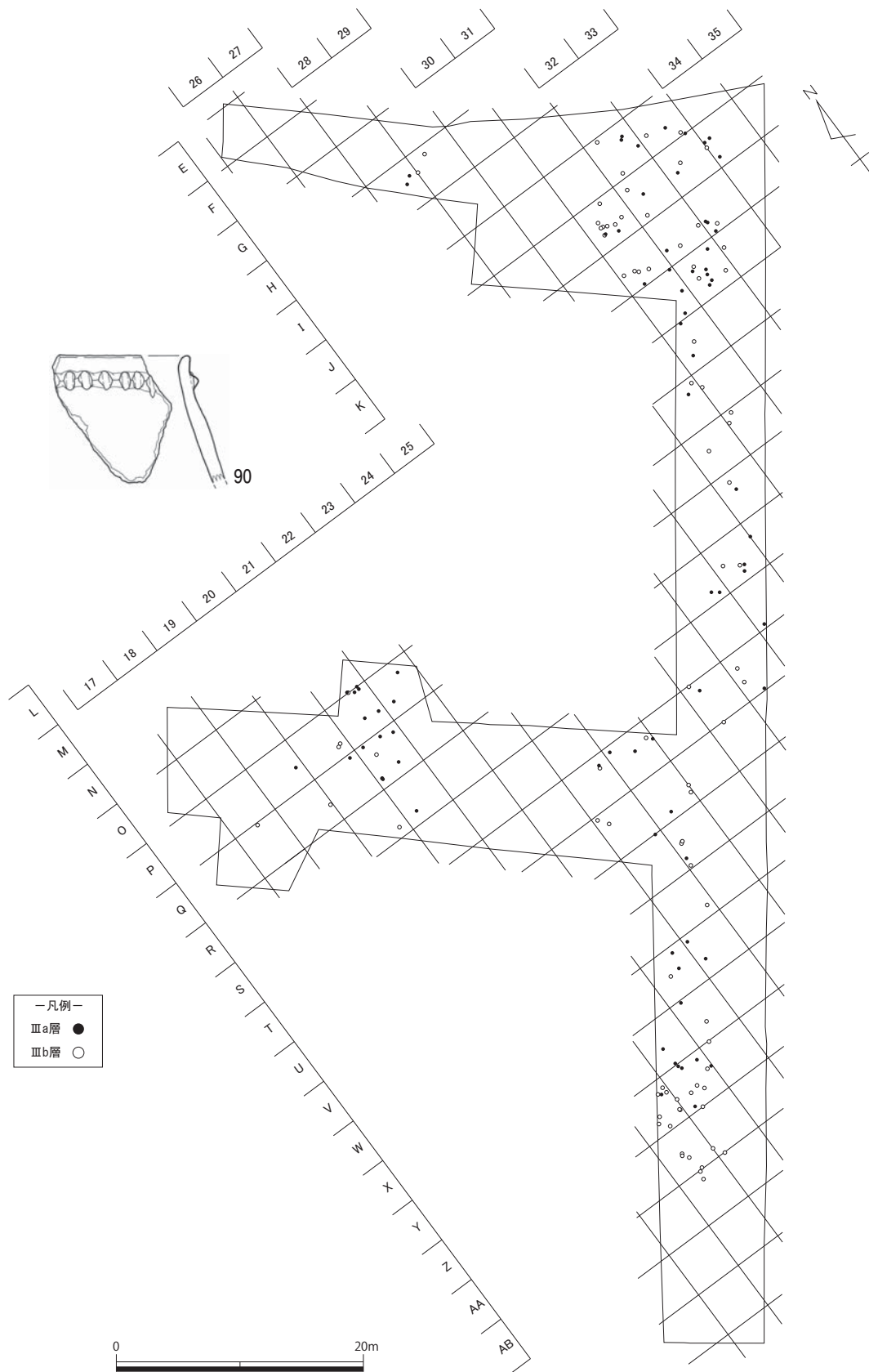
第67図 遺物分布図⑧ [3群土器 (器種小別) - 深鉢D類] (S=1/500)



第68図 遺物分布図⑨ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類] (S=1/500)

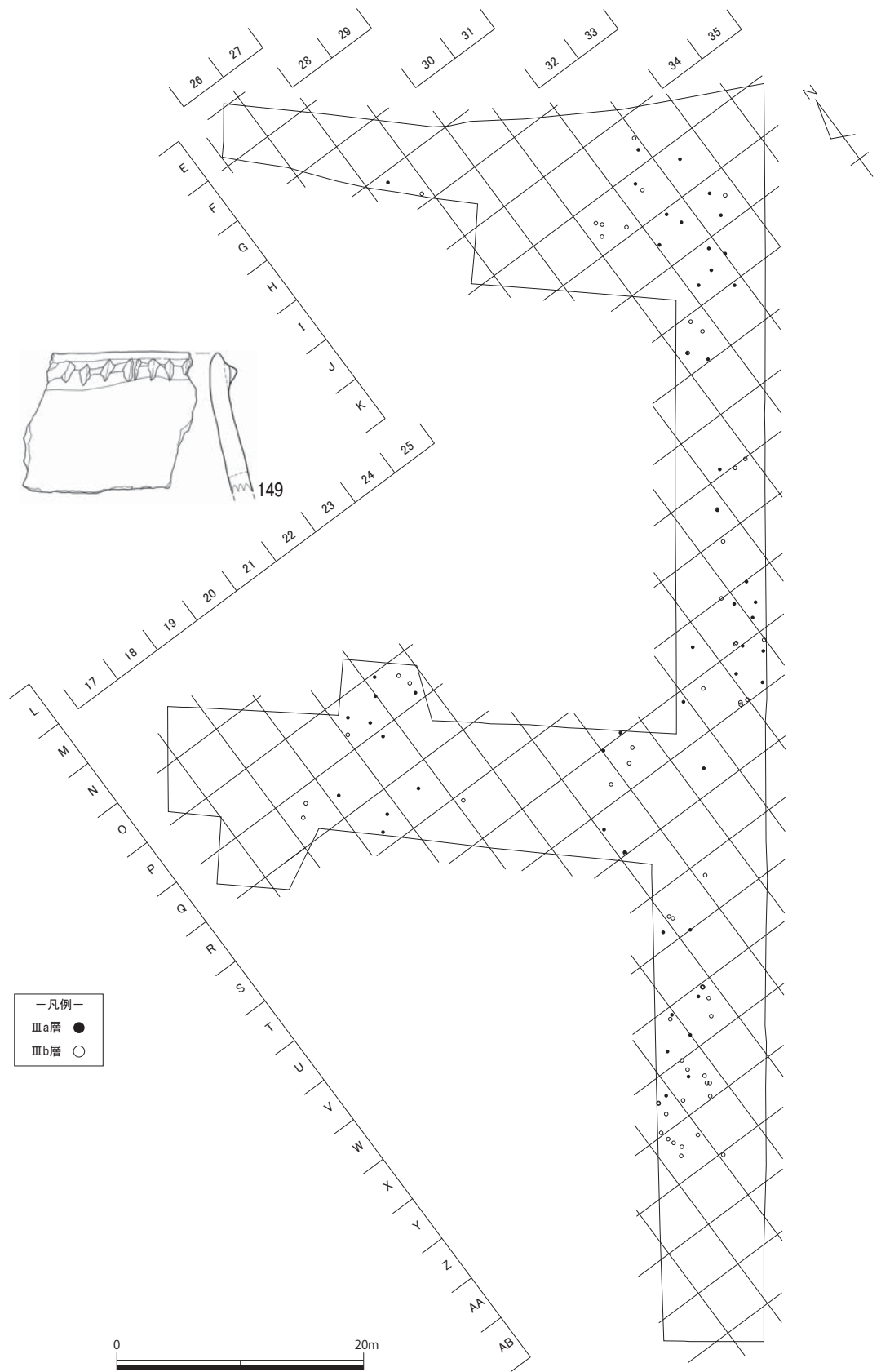


第69図 遺物分布図⑩ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類:指] (S=1/500)

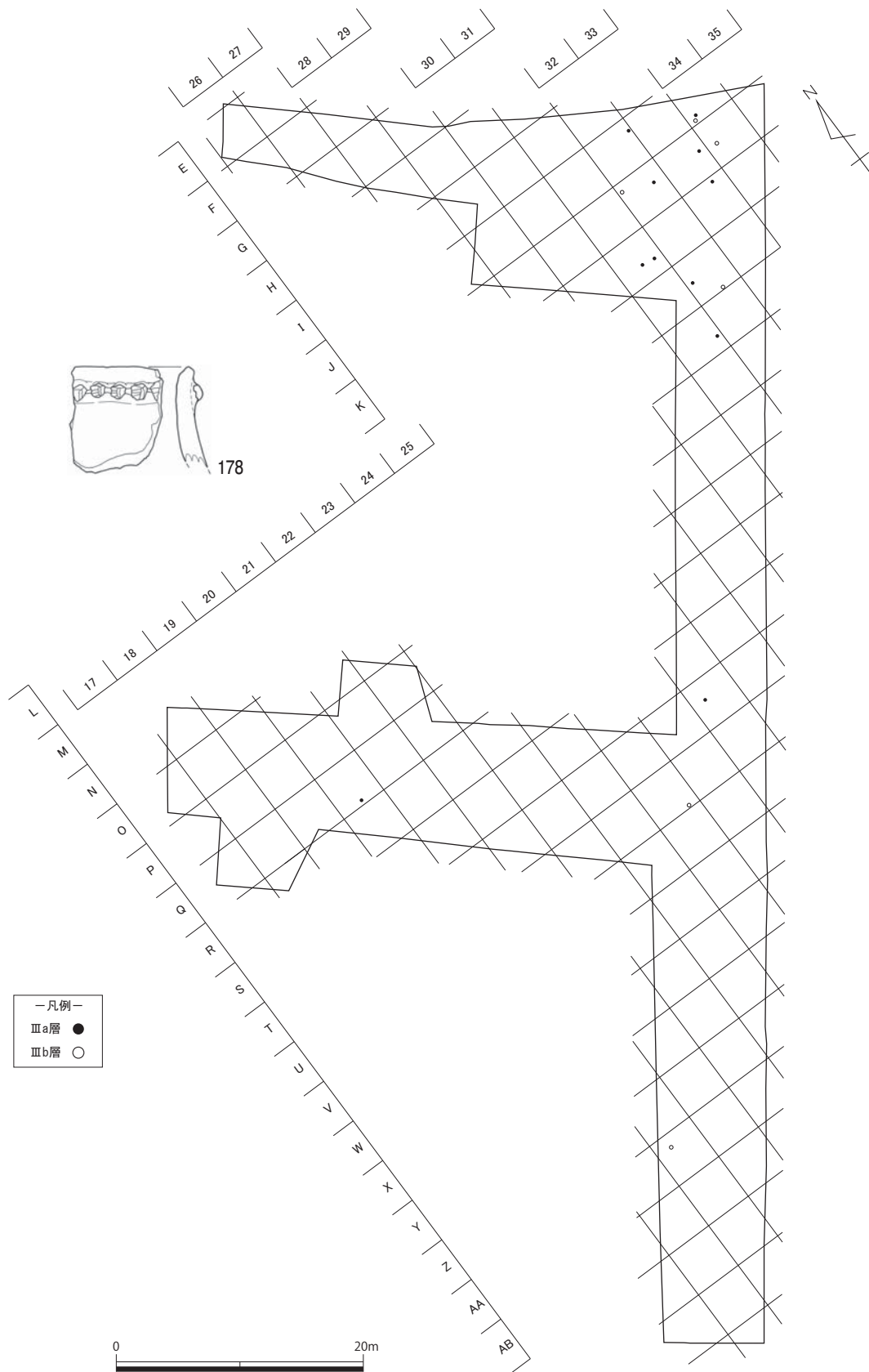


第70図 遺物分布図⑪ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類:棒] (S=1/500)

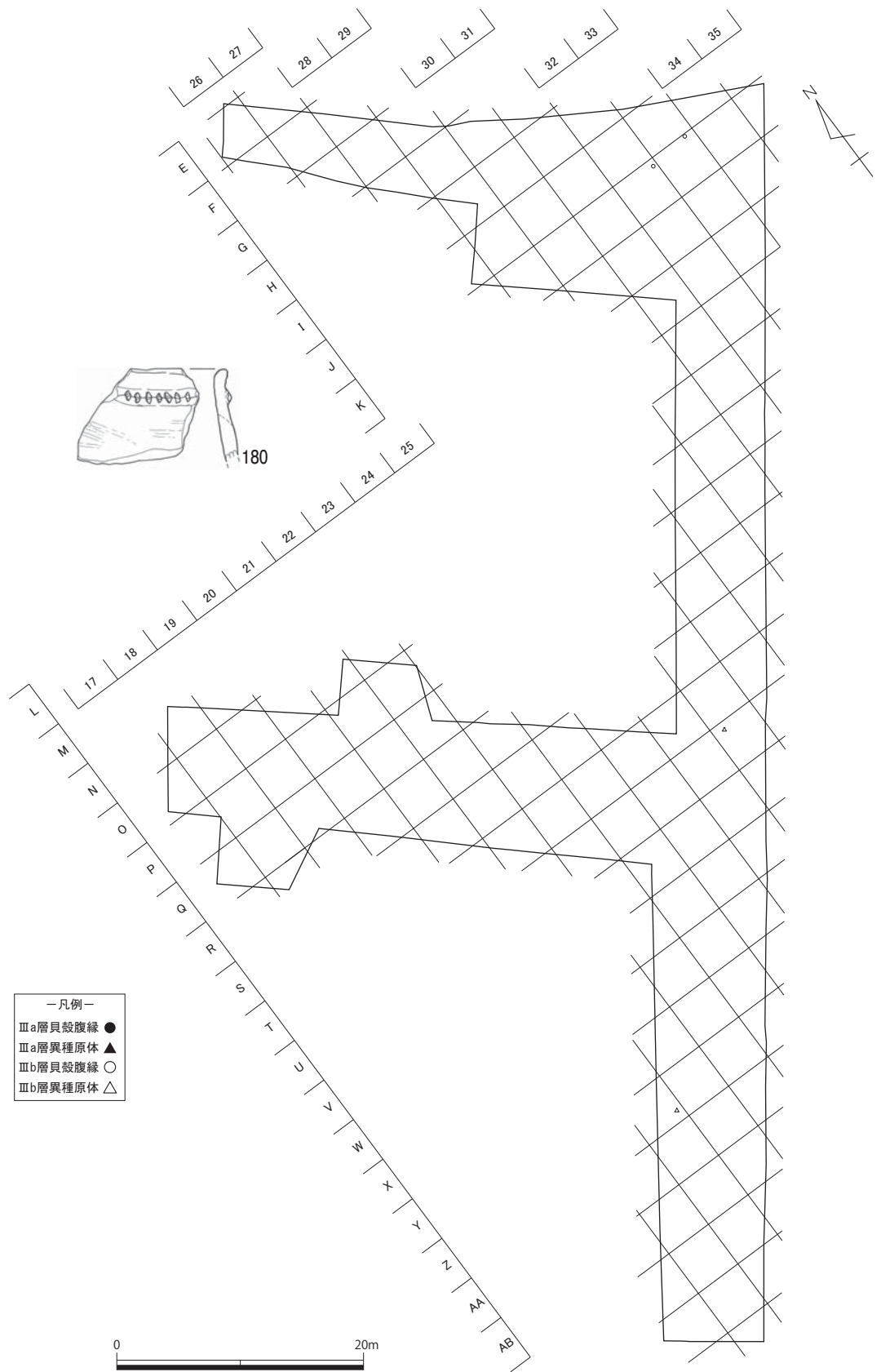




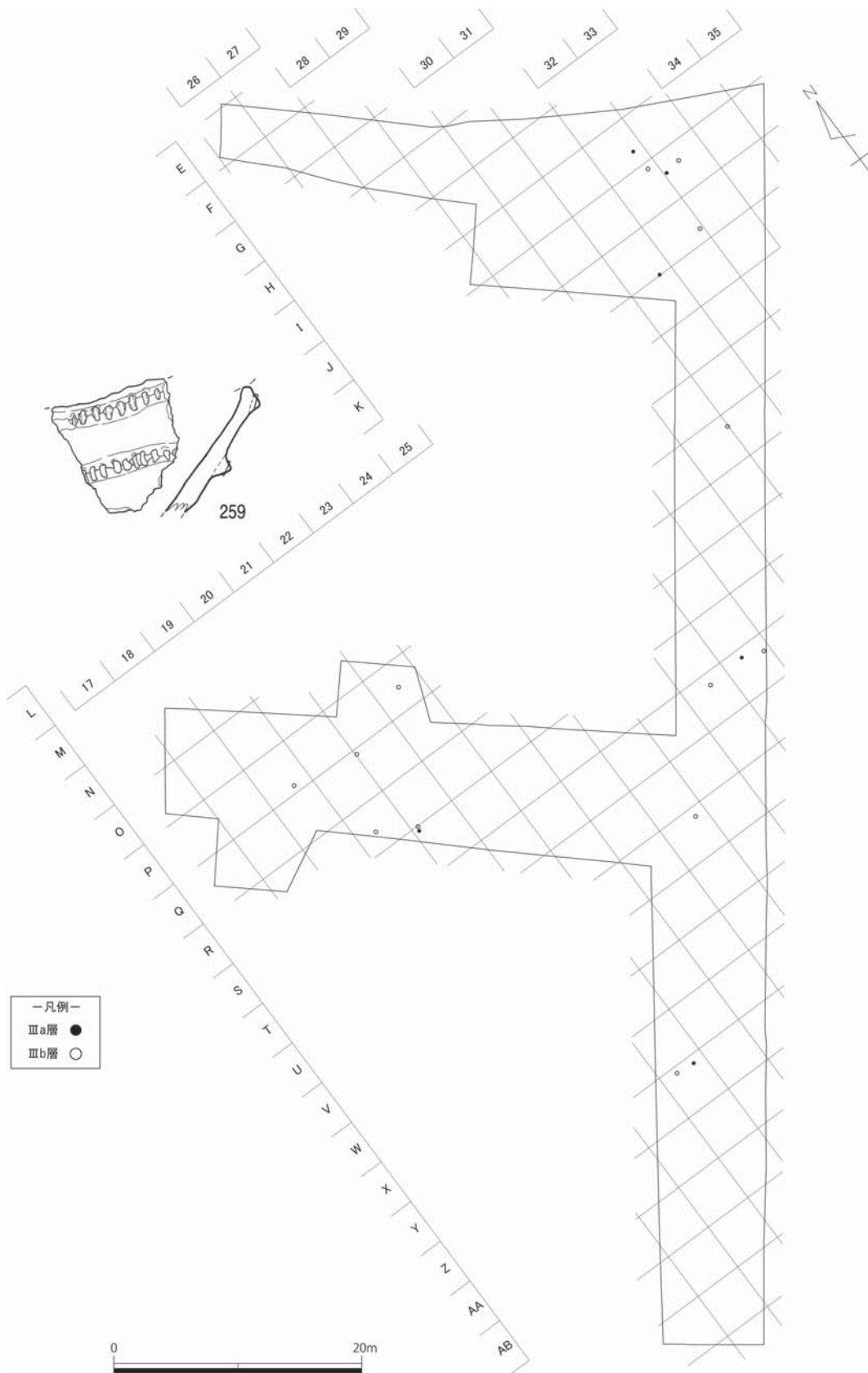
第71図 遺物分布図⑫ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類:ヘラ] (S=1/500)



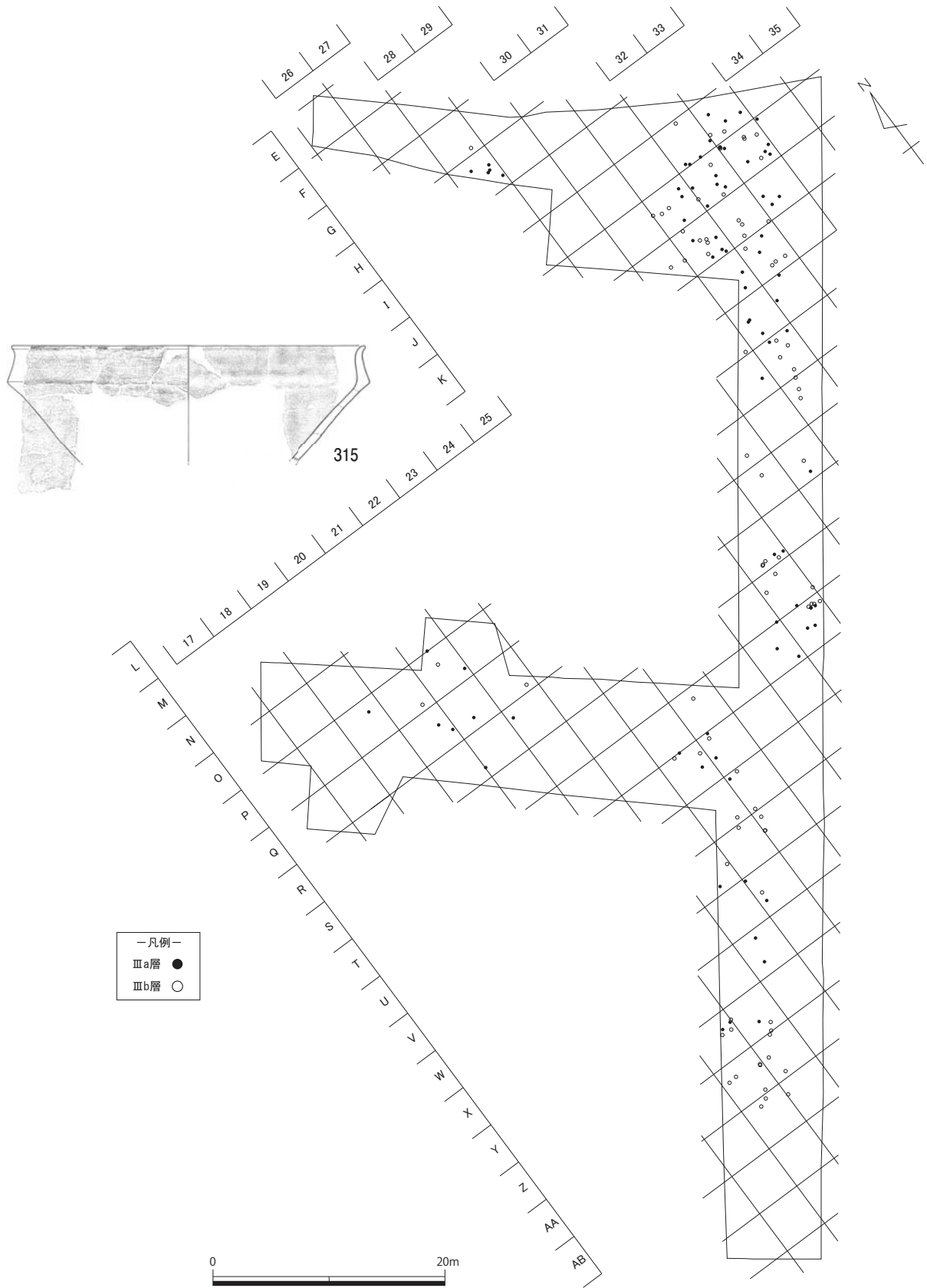
第72図 遺物分布図⑬ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類: 工具刺突] (S=1/500)



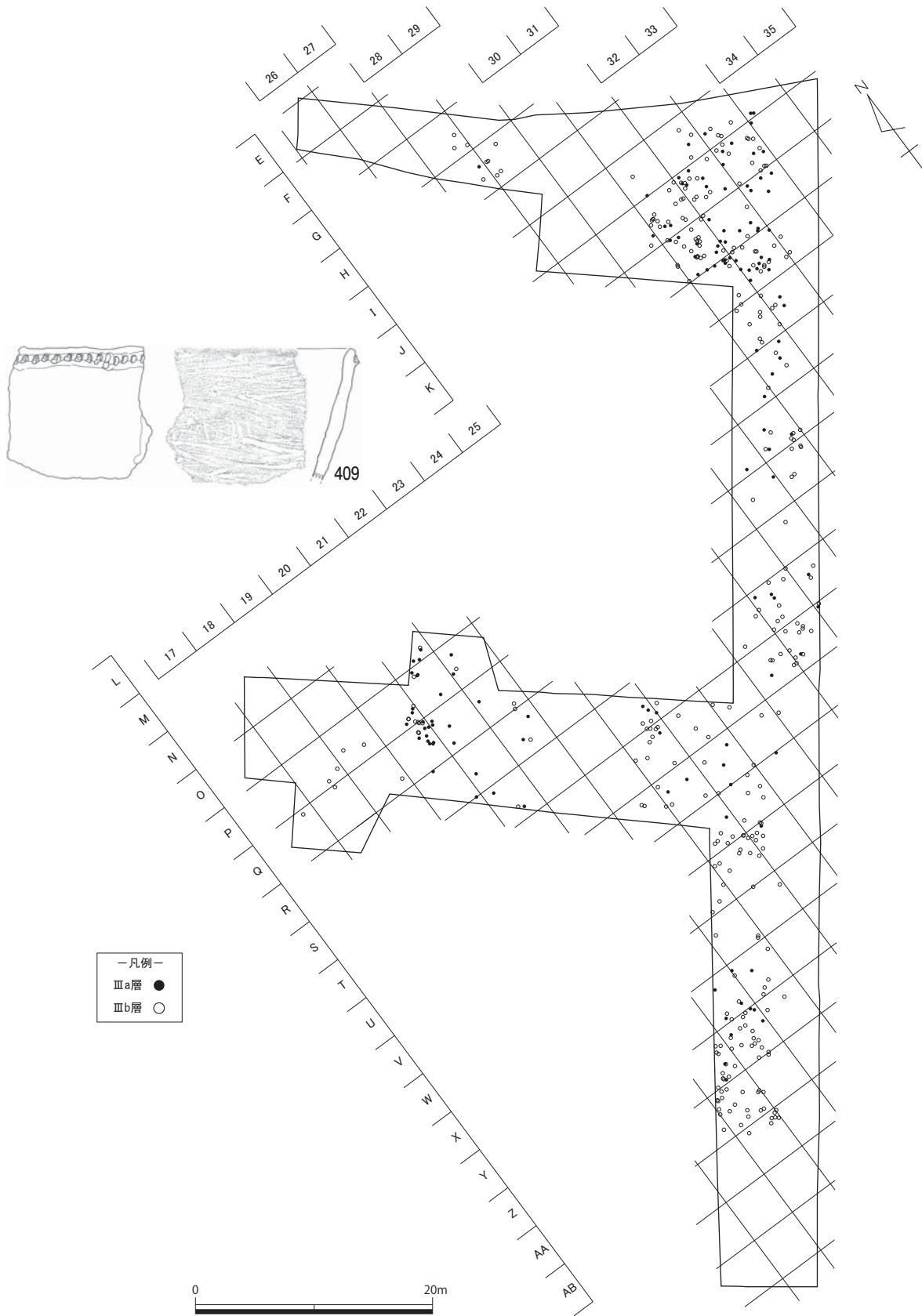
第73図 遺物分布図⑭ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類: 貝殼腹縁・異種原体] (S=1/500)



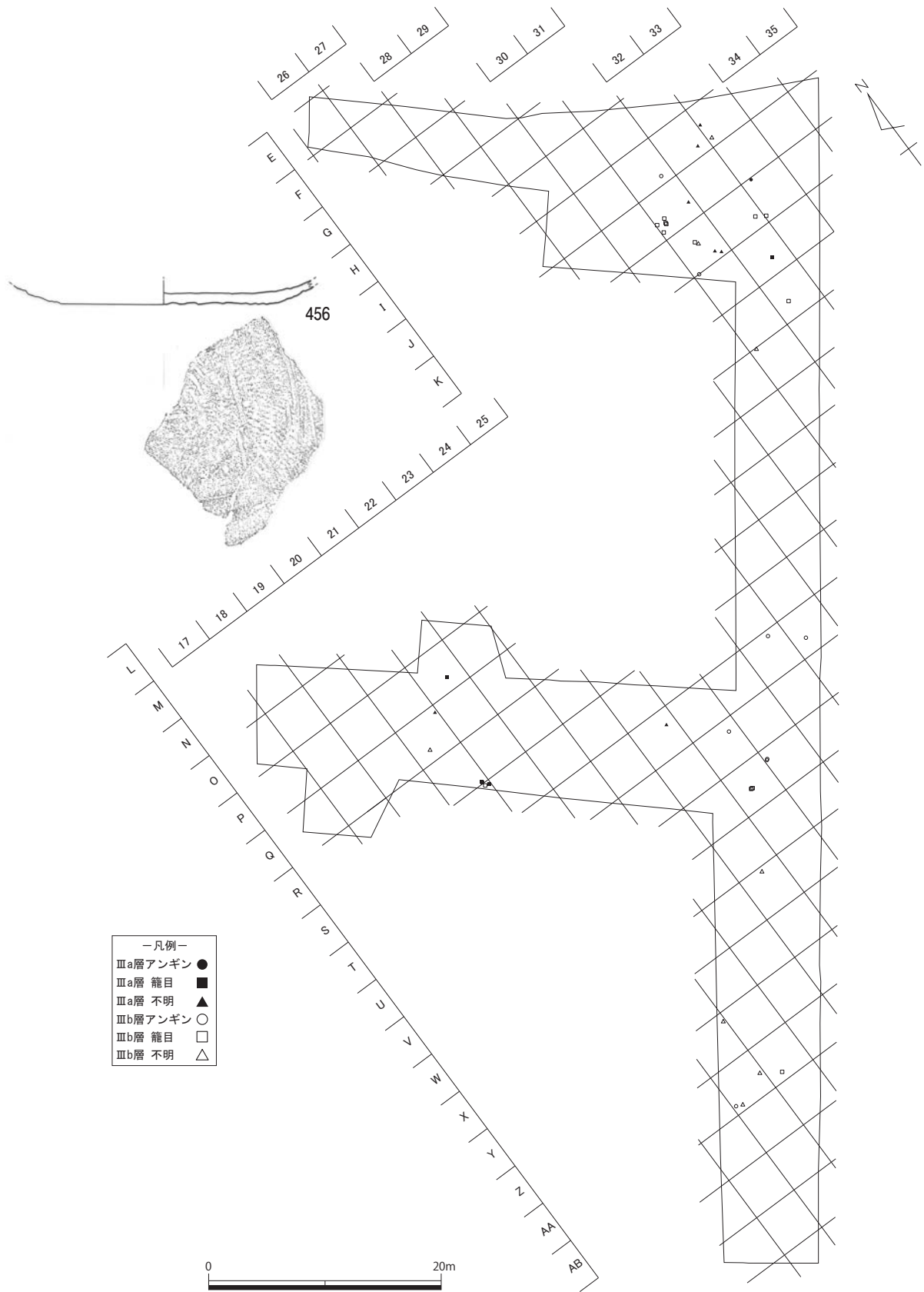
第74図 遺物分布図⑮ [3群土器(器種小別) - 浅鉢I類] (S=1/500)



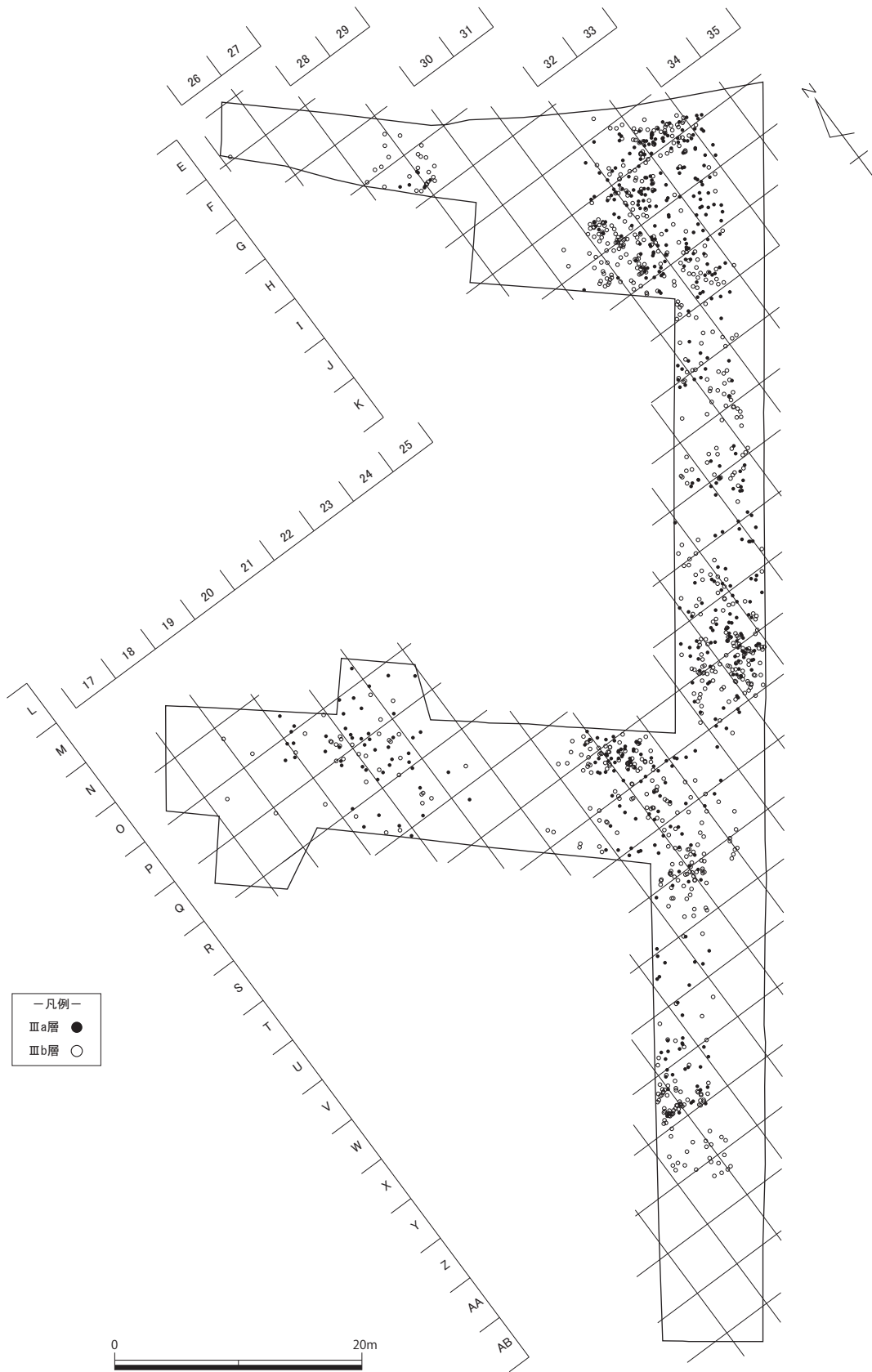
第75図 遺物分布図⑩ [3群土器 (器種小別) - 浅鉢J類] (S=1/500)



第76図 遺物分布図⑰ [3群土器 (器種小別) - 浅鉢L類] (S=1/500)

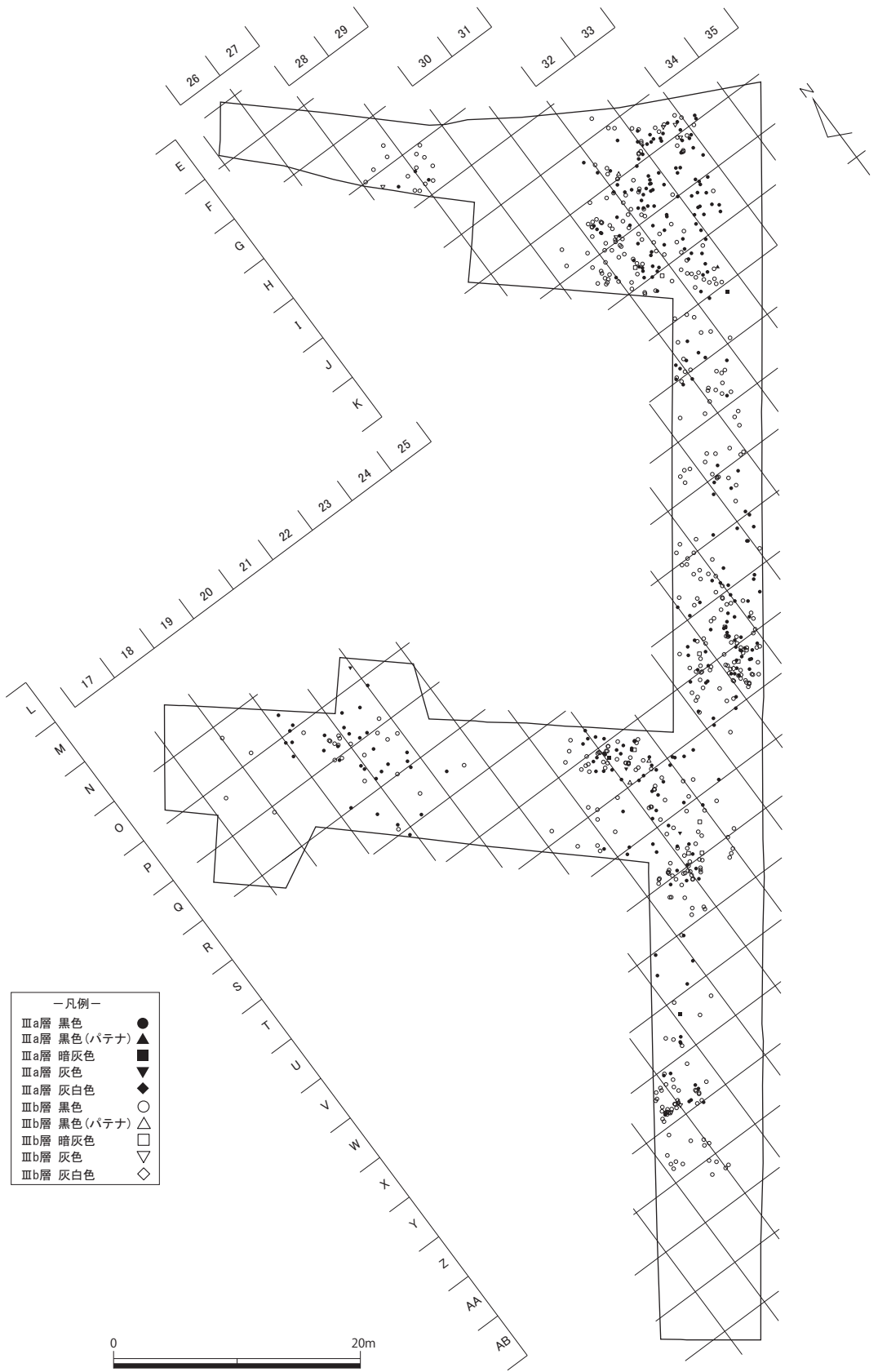


第77図 遺物分布図⑩ [3群土器 (器種小別) - 浅鉢M類] (S=1/500)

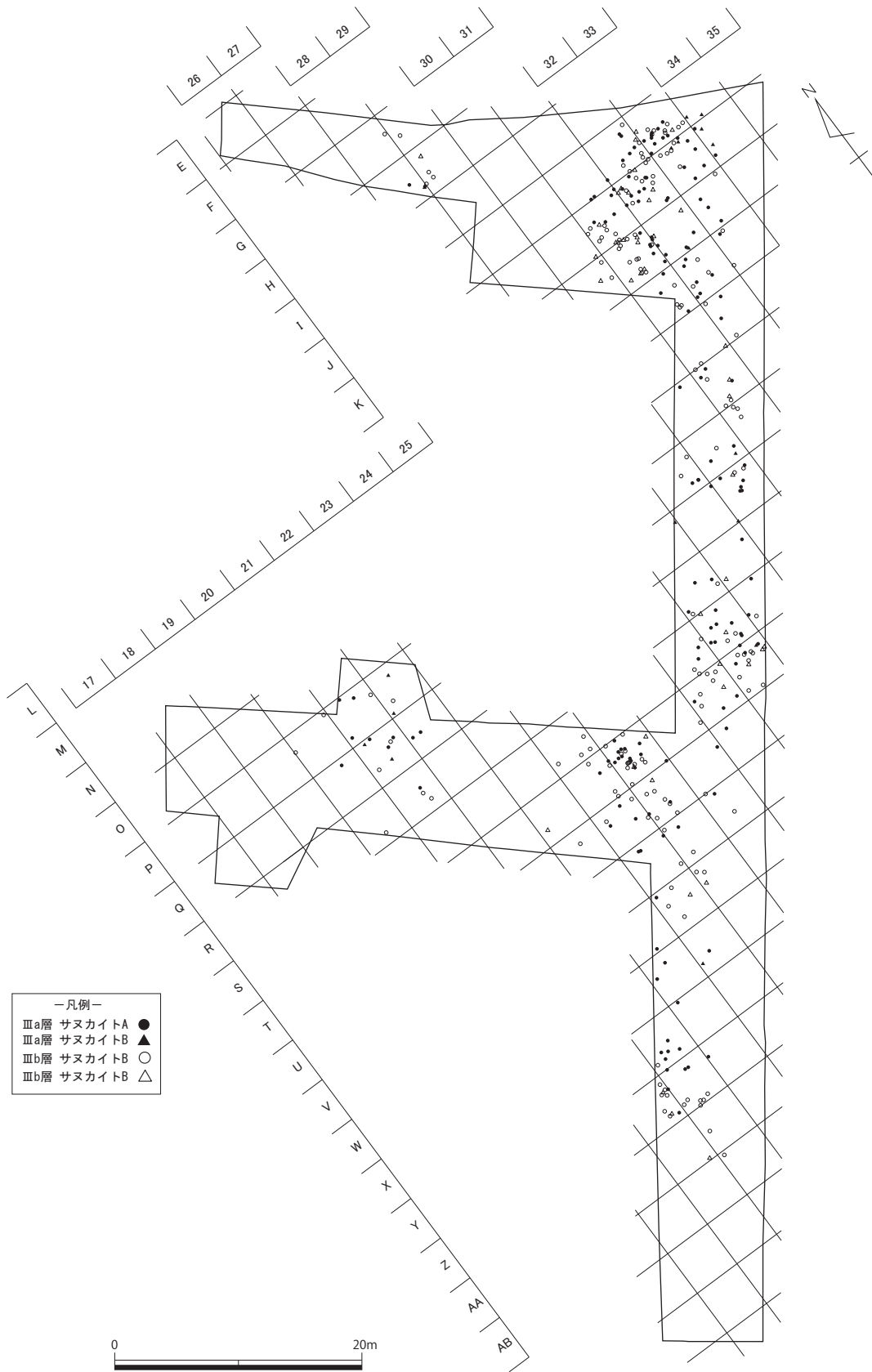


第78図 遺物分布図<sup>19</sup> [石器 (全体)] (S=1/500)

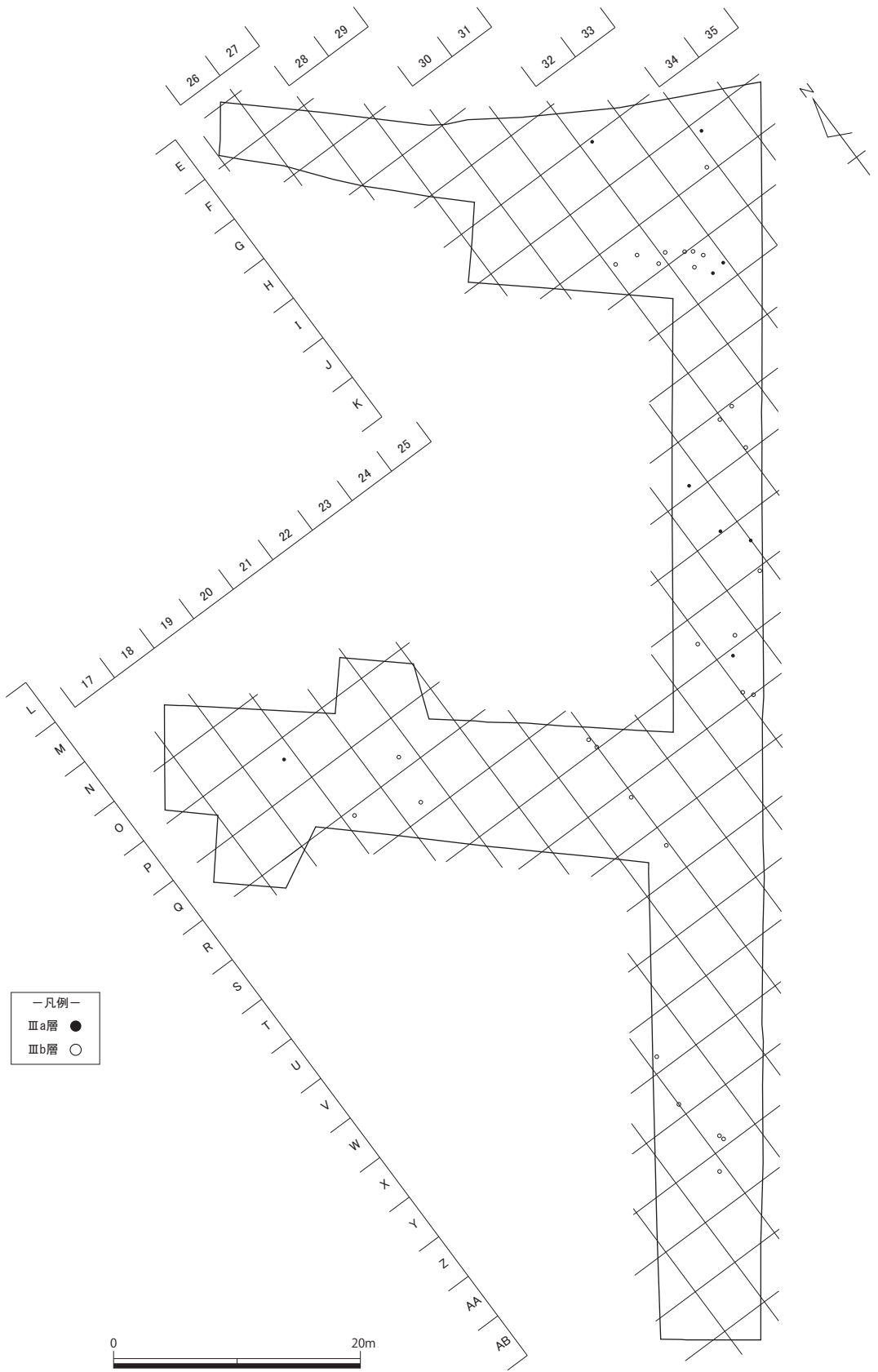




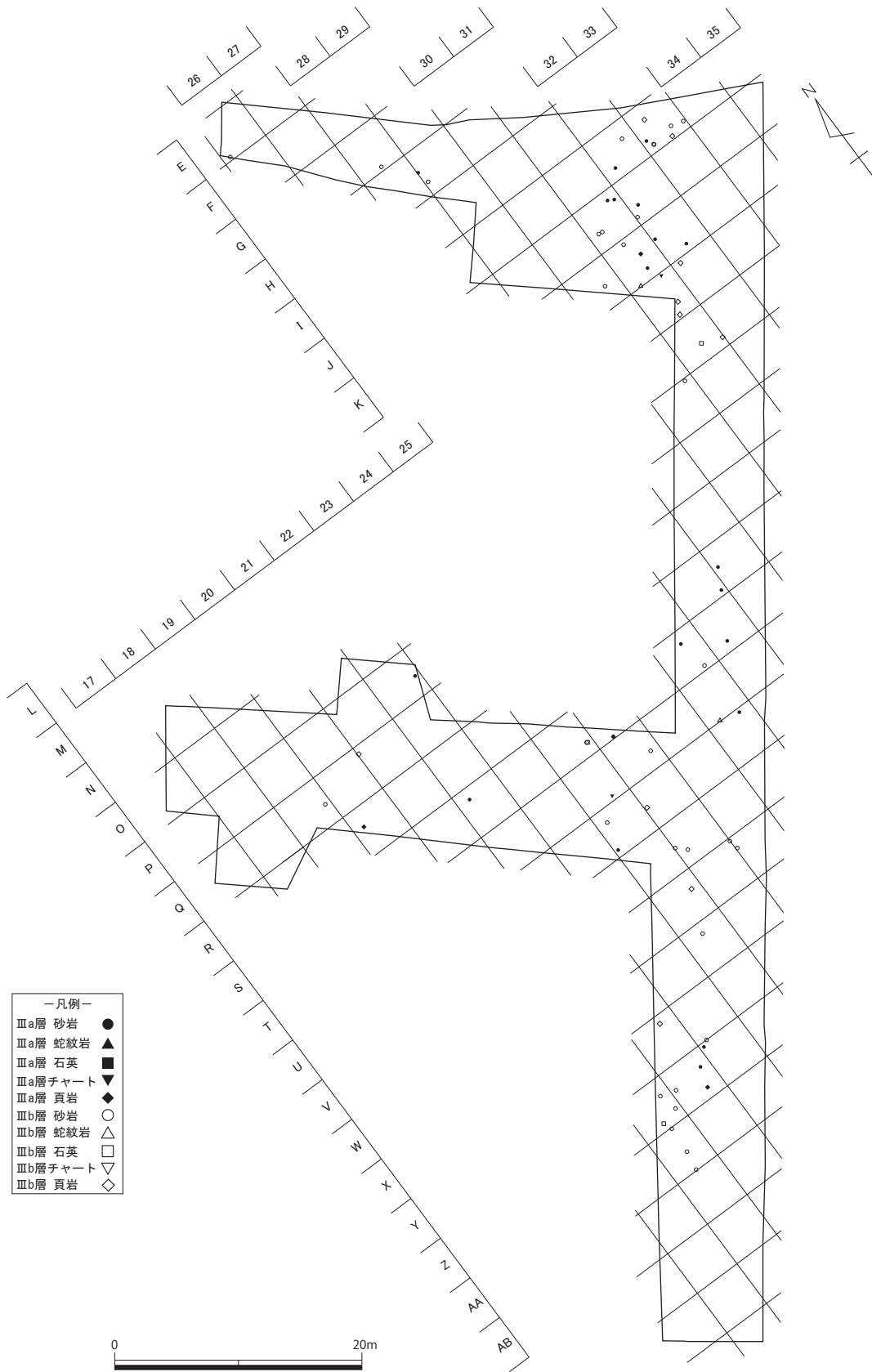
第79図 遺物分布図② [石器 (石材別) - 黒曜石] (S=1/500)



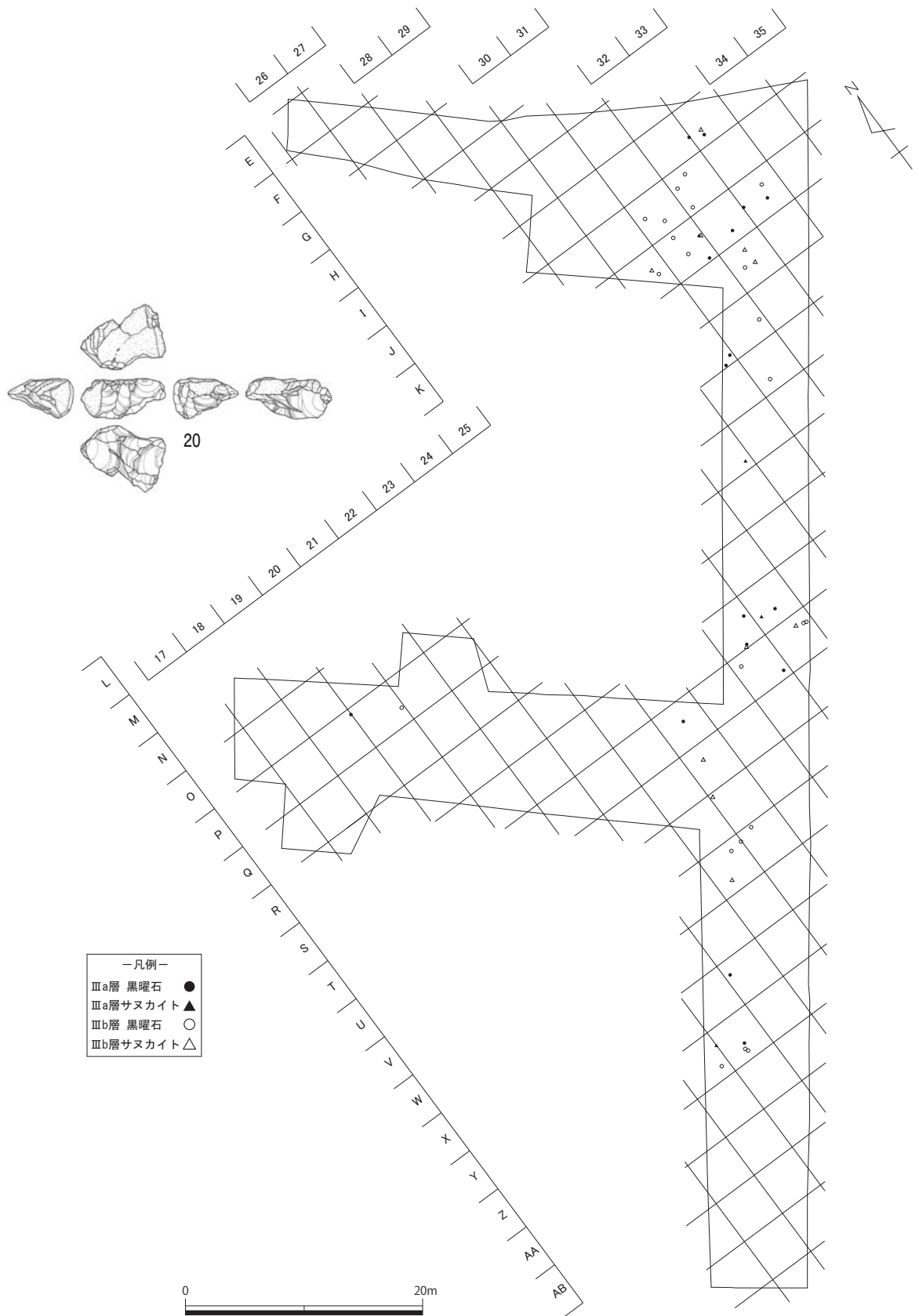
第80図 遺物分布図② [石器 (石材別) - サヌカイト] (S=1/500)



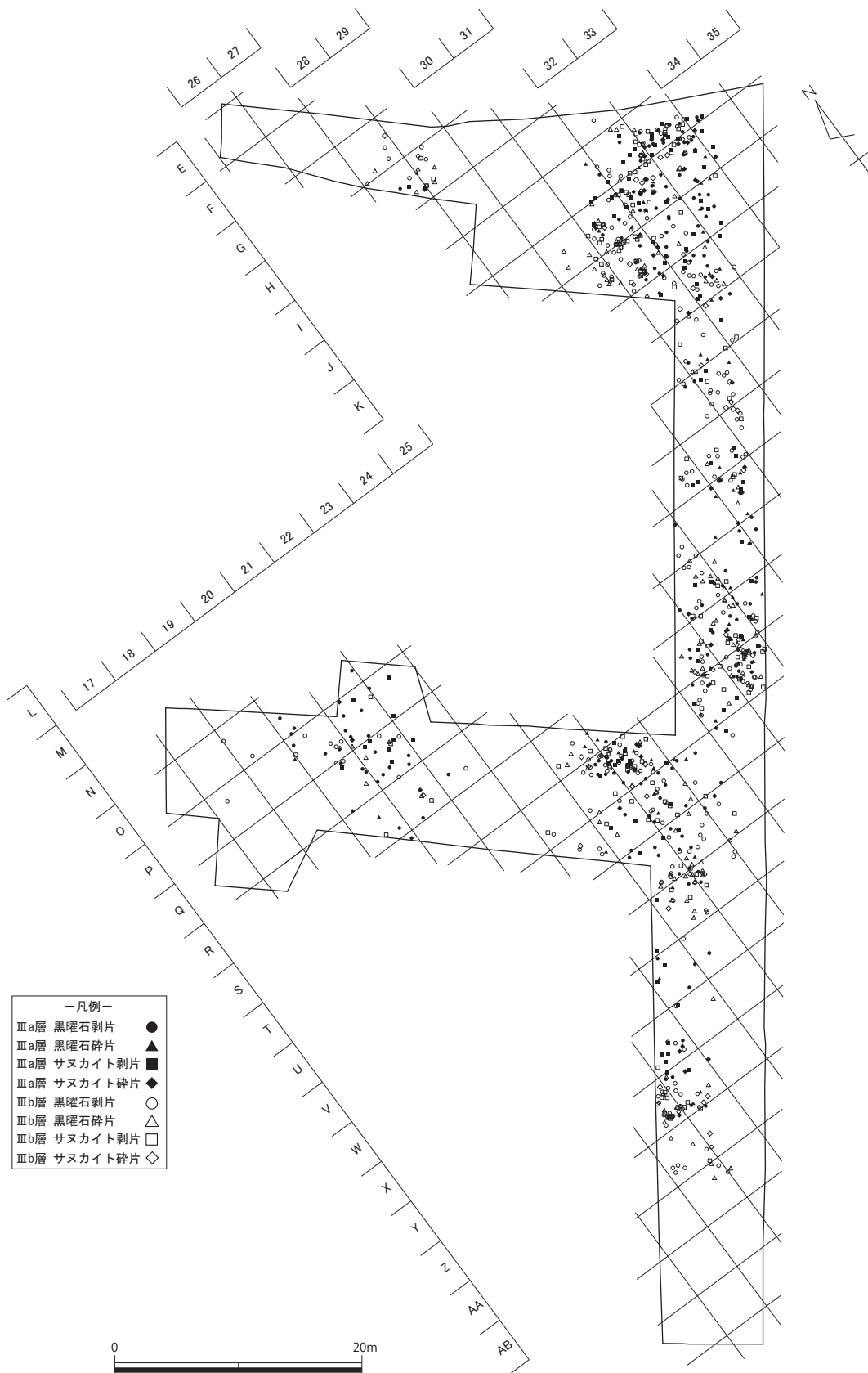
第81図 遺物分布図② [石器 (石材別) - 安山岩] (S=1/500)



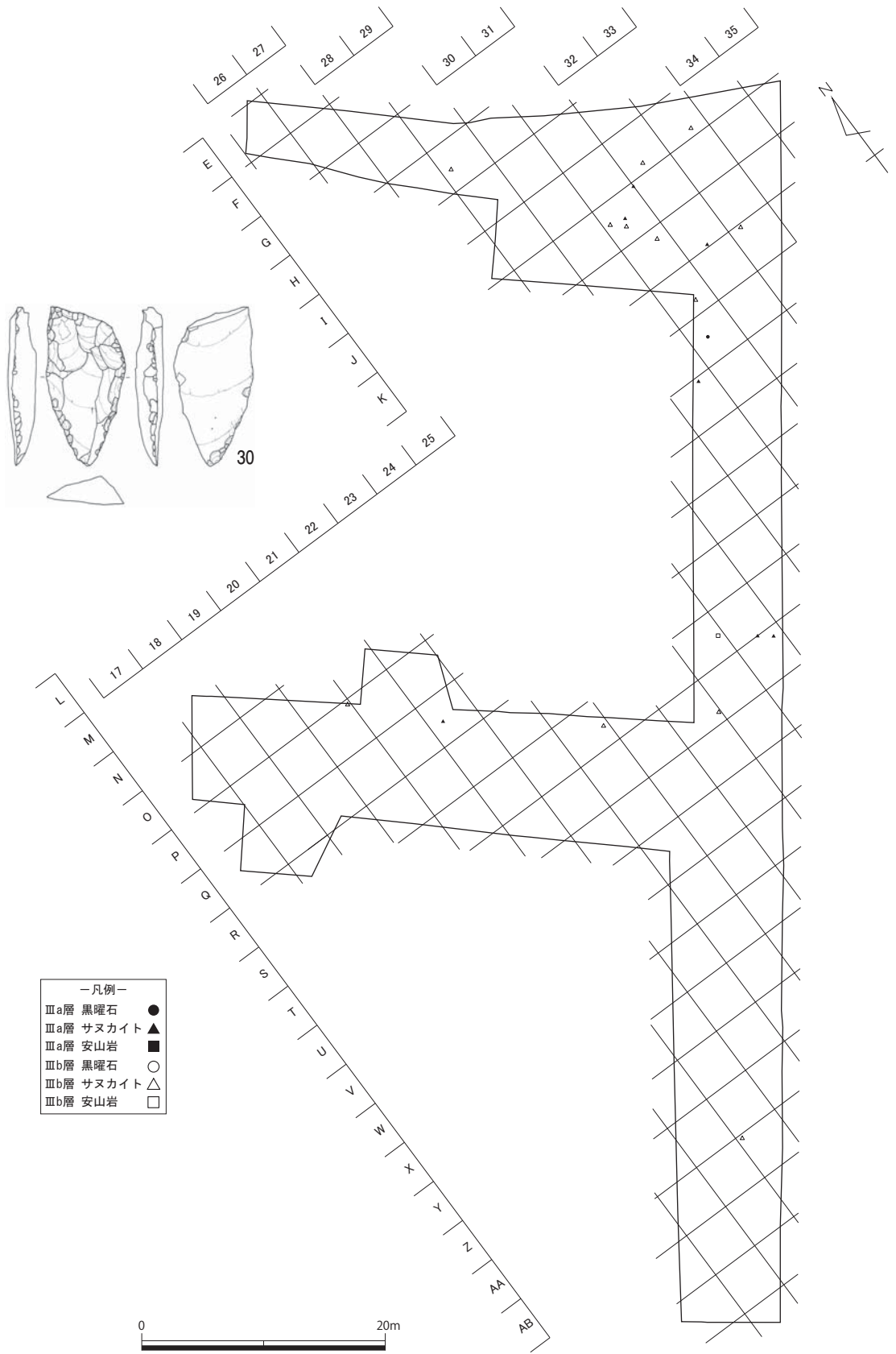
第82図 遺物分布図② [石器 (石材別) - その他の石材] (S=1/500)



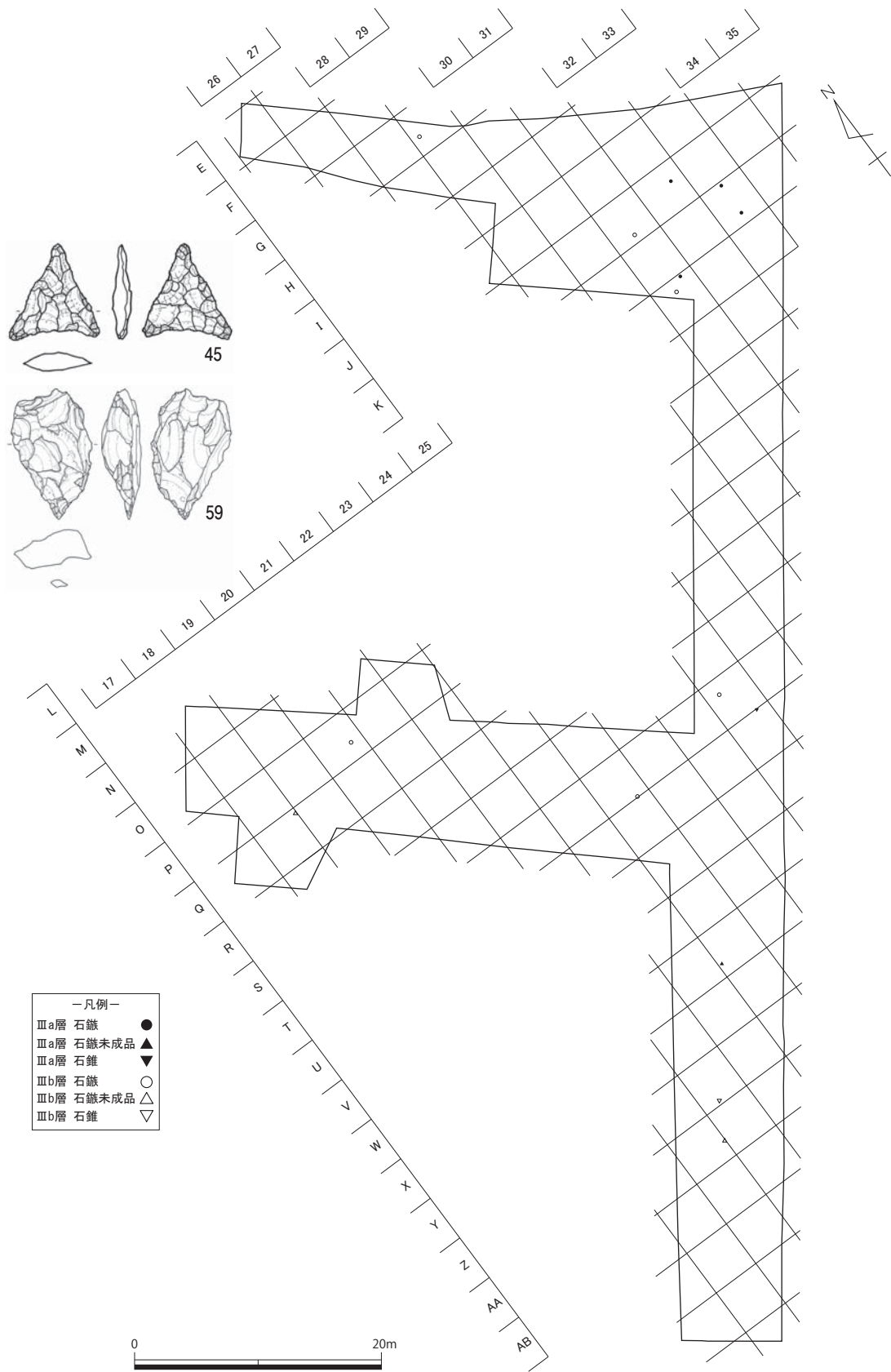
第83図 遺物分布図② [石器 (器種別) - 石核] (S=1/500)



第84図 遺物分布図② [石器 (器種別) - 剥片/碎片] (S=1/500)

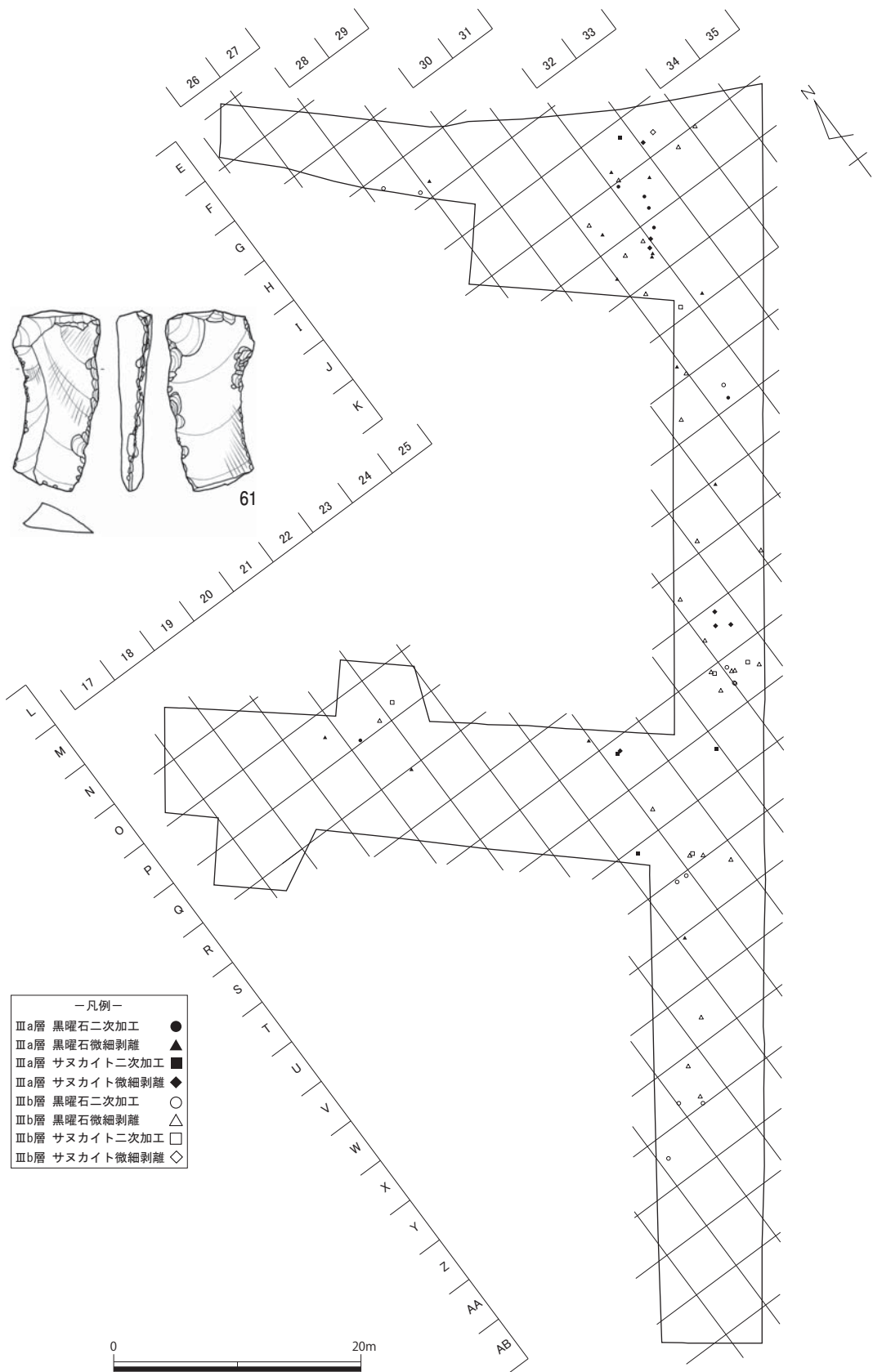


第85図 遺物分布図②⑥ [石器 (器種別) - スクレイパー] (S=1/500)

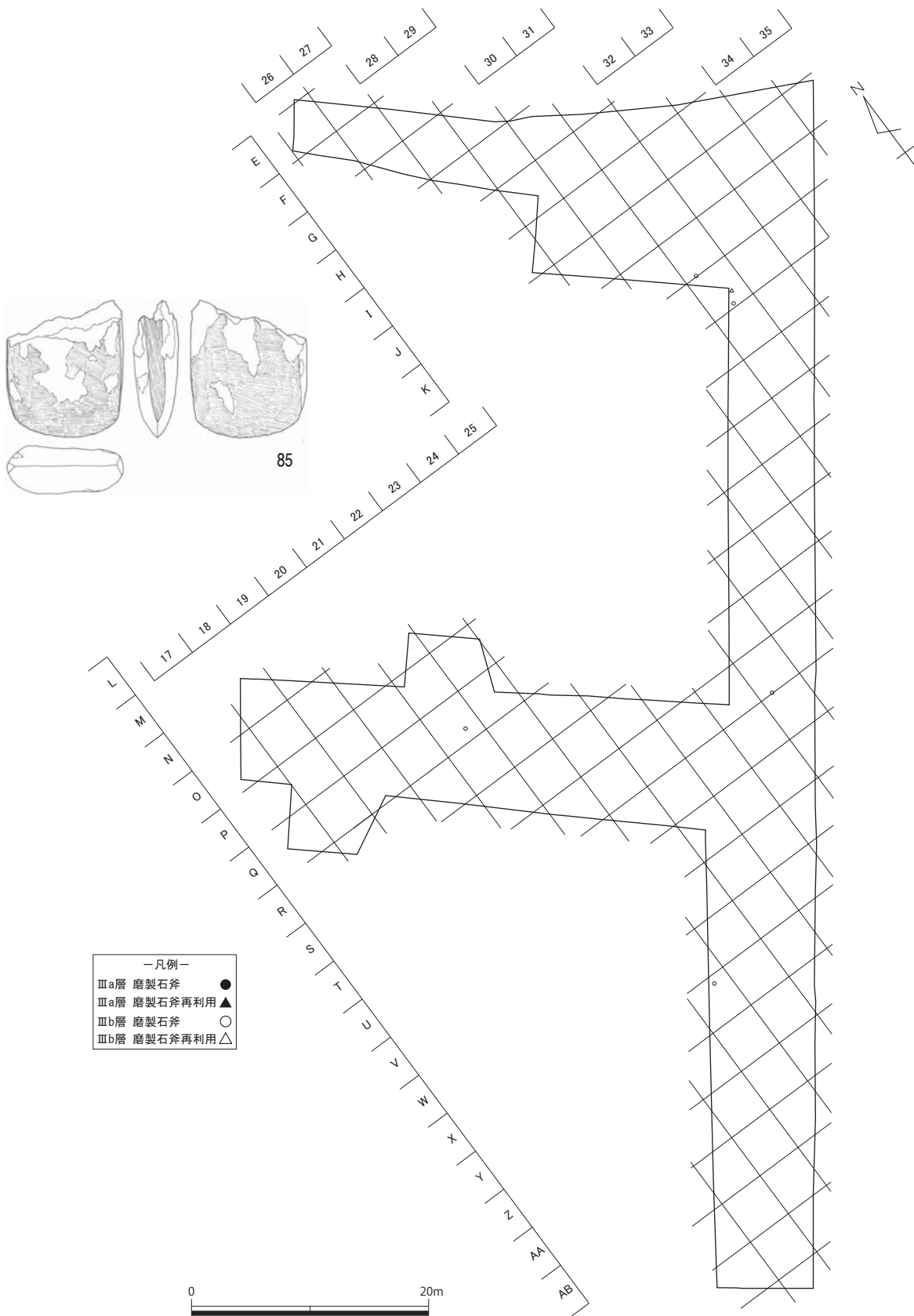


第86図 遺物分布図② [石器 (器種別) - 石鏃 / 石鏃未成品 / 石錐] (S=1/500)

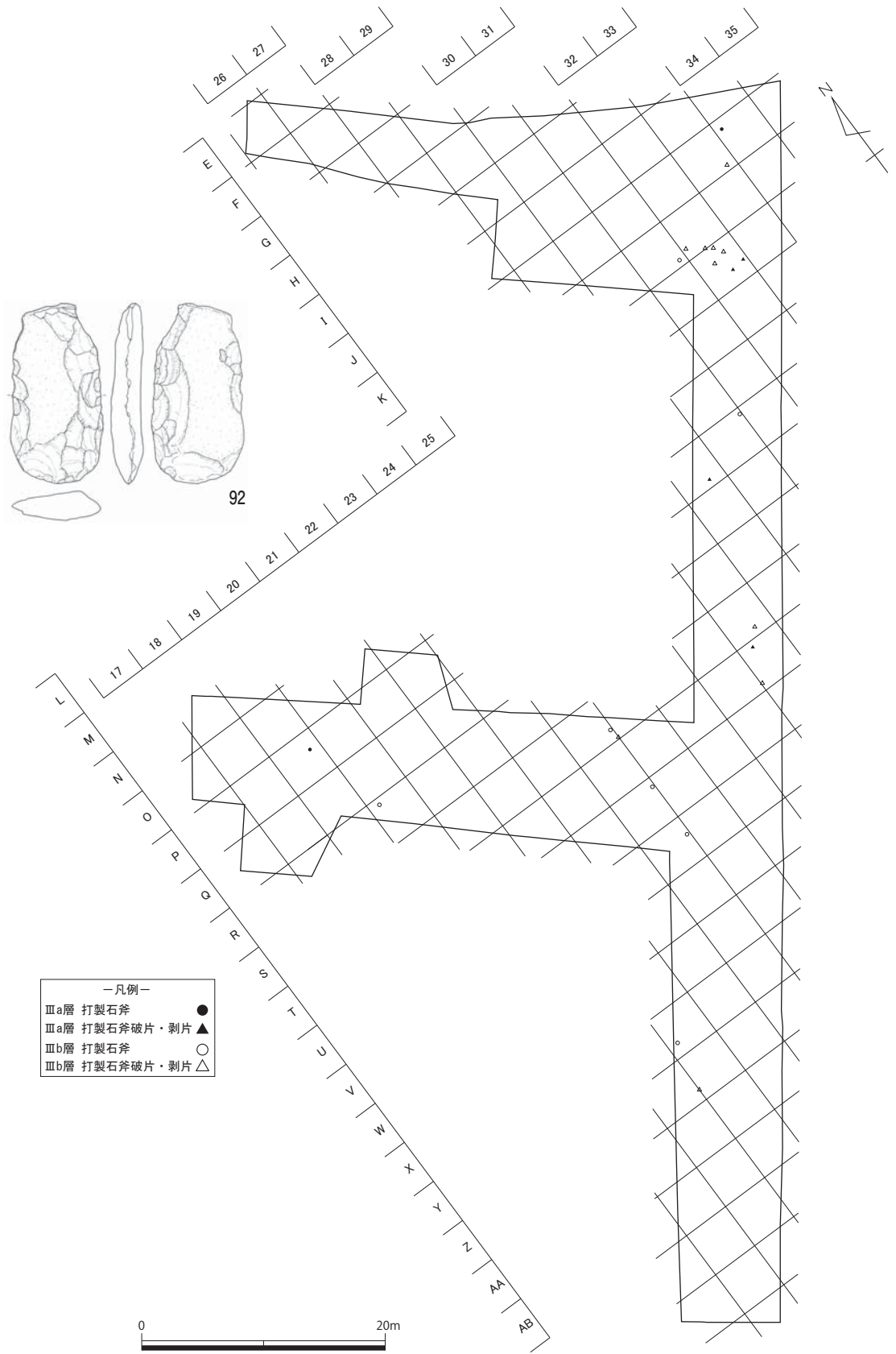




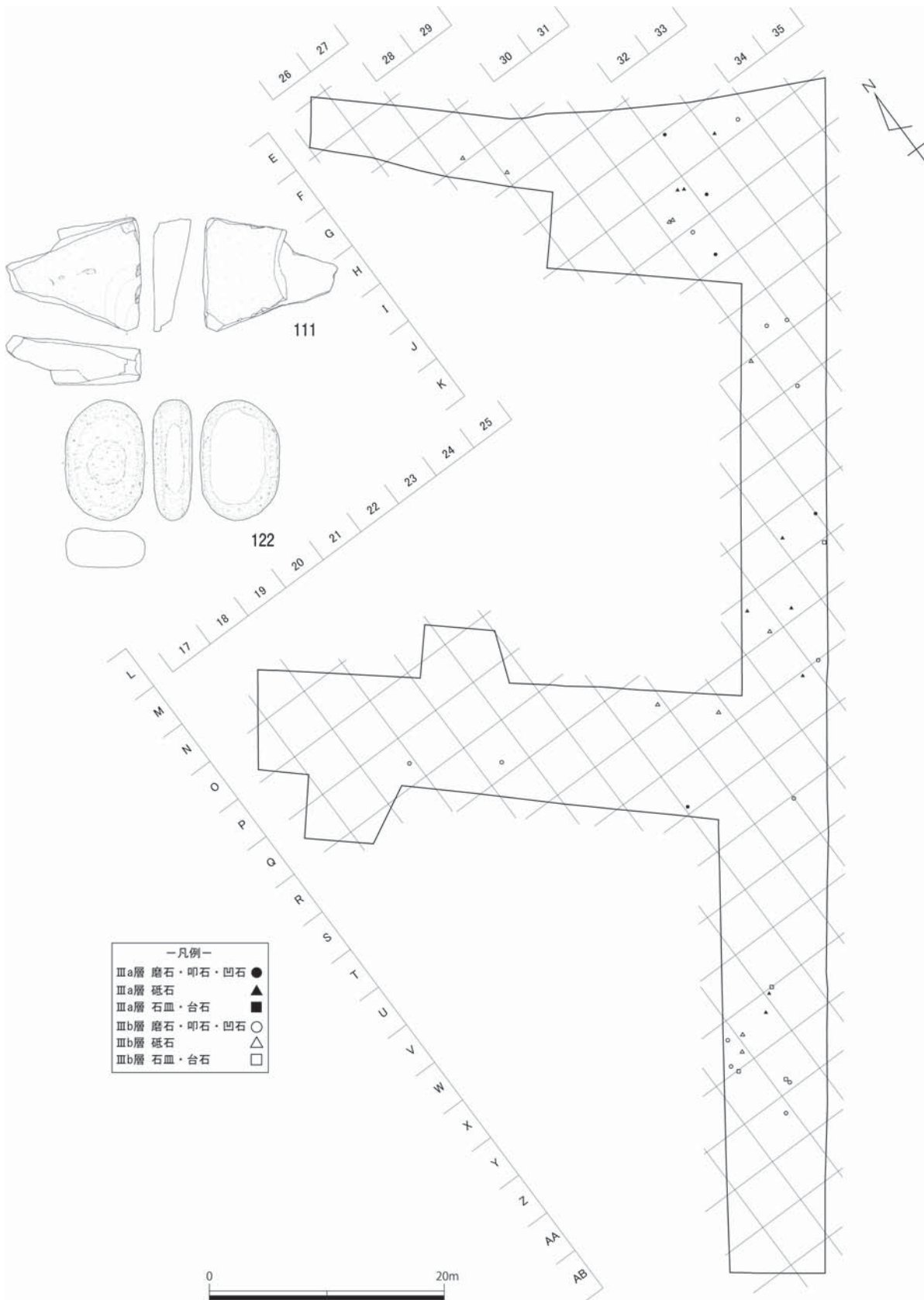
第87図 遺物分布図② [石器 (器種別) - 二次加工剥片 / 微細剥離剥片] (S=1/500)



第88図 遺物分布図② [石器 (器種別) - 磨製石斧磨製/磨製石斧再利用] (S=1/500)



第89図 遺物分布図③ [石器 (器種別) - 打製石斧/破片・剥片] (S=1/500)



第90図 遺物分布図③ [石器 (器種別) - 磨石・敲石・凹石/石皿・台石] (S=1/500)

# 圖 版



諏訪ノ上遺跡周辺航空写真

図版 2



TP.1 南壁



TP.2 西壁



TP.3 南壁



TP.4 南壁



TP.5 南壁



TP.6 南壁



TP.7 南壁



TP.8 南壁

諏訪地区試掘調査①



TP. 9 南壁



TP. 10 南壁



TP. 11 南壁



TP. 12 西壁



TP. 13 南壁



TP. 14 南壁



TP. 15 西壁



TP. 16 南壁

諏訪地区試掘調査②



図版 4



TP. 17 南壁



TP. 18 南壁



TP. 19 南壁



TP. 20 南壁



TP. 21 南壁



TP. 22 南壁



TP. 23 南壁



TP. 24 南壁

諏訪地区試掘調査③



TP.25 南壁



TP.26 南壁



TP.27 南壁



TP.28 南壁



TP.29 南壁



TP.30 南壁



作業状況



諏訪ノ上遺跡近景（北から）

諏訪地区試掘調査④



TP. 31 南西壁



TP. 32 南西壁



TP. 33 南西壁



TP. 34 南西壁



TP. 35 南西壁



TP. 33 遺物出土状況



作業状況



出口遺跡近景 (南から)



平成26年度本調査区航空写真（全体）



平成26年度本調査区航空写真（4・5区）



平成26年度本調査区航空写真（1～3区）



平成27年度本調査区航空写真（6・7区）



1区南西壁（東から）



3区北西壁（南から）

平成26年度本調査区土層①





4区・5区境界ベルト（南から）



4区北東壁（南から）

平成26年度本調査区土層②



4区北張出部北西壁（南東から）



4区北張出部北東壁（南西から）

平成26年度本調査区土層③



7区横断ベルト①（東から）



7区横断ベルト②（東から）

平成27年度本調査区土層



2区土坑（東から）



5区倒木痕（南東から）

平成26年度本調査区遺構ほか検出状況



6区不明大型遺構（南西から）



6区不明大型遺構（北東から）

平成27年度本調査区遺構検出状況①



7区溝（東から）



7区溝（北東から）

平成27年度本調査区遺構検出状況②



作業状況



2区Ⅲ a層（北東から）



2区Ⅲ a層（北から）

遺物検出状況①





4区Ⅲa層（北東から）



5区Ⅲa層（北東から）

遺物検出状況②



1区Ⅲb層（南西から）



2区Ⅲb層（西から）

遺物検出状況③



2区Ⅲb層（北東から）



3区Ⅲb層（南西から）

遺物検出状況④



3区Ⅲb層（北東から）



4区Ⅲb層（北から）

遺物検出状況⑤



4区Ⅲb層（西から）



4区Ⅲb層（南から）

遺物検出状況⑥



5区Ⅲb層（南西から）

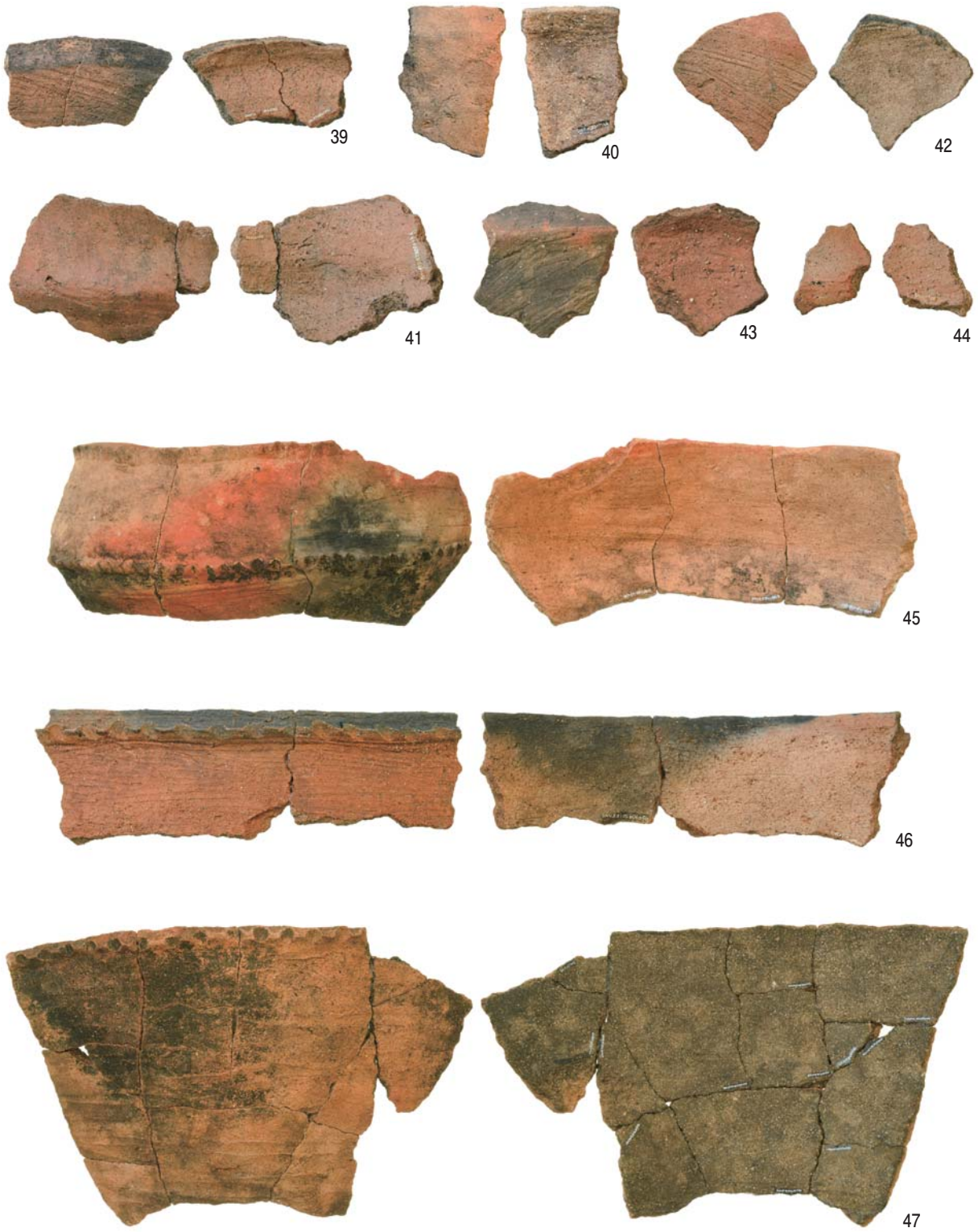


5区Ⅲb層（北東から）

遺物検出状況⑦

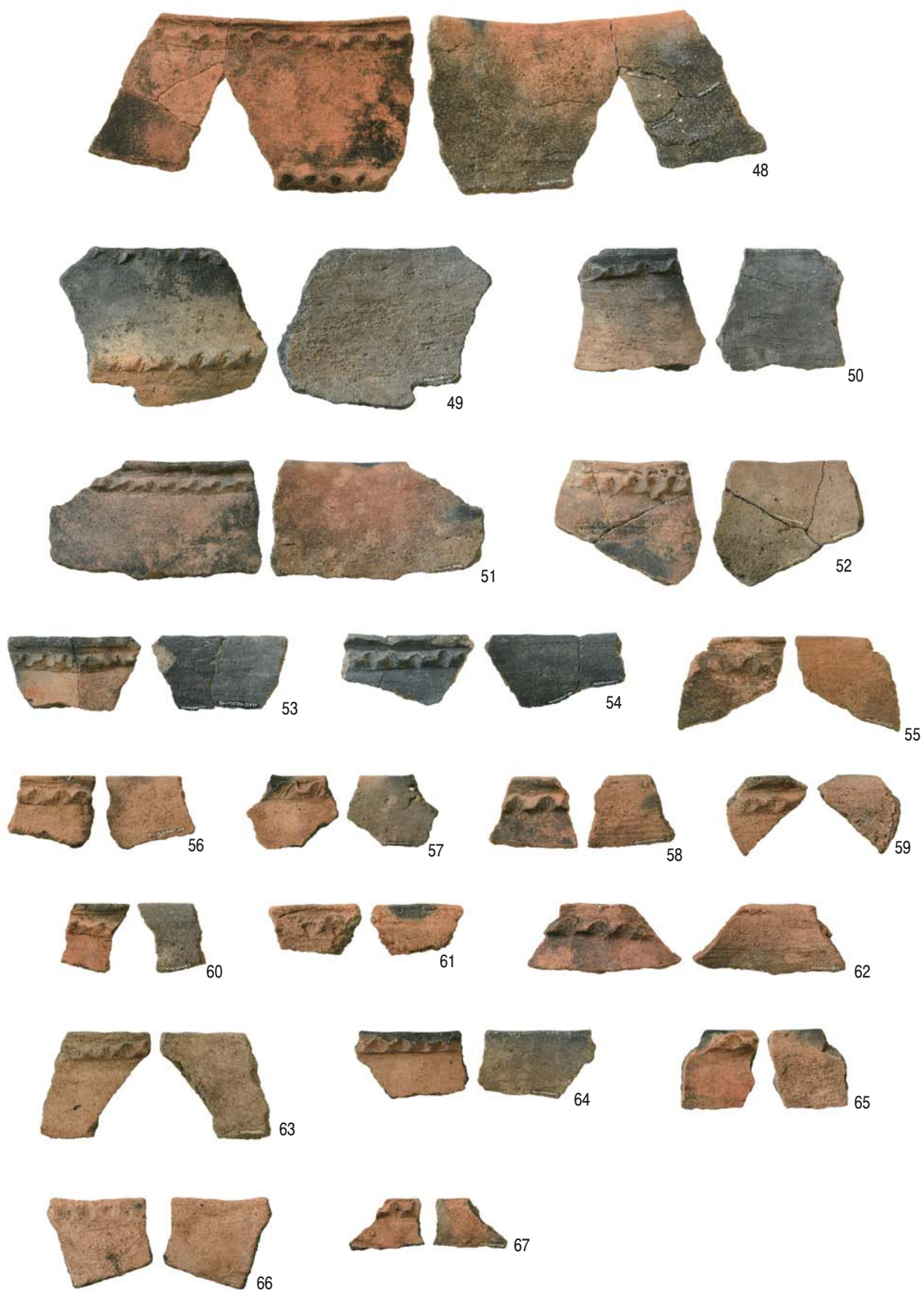


出土土器①



出土土器②





出土土器③



68



69



71



72



70



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87

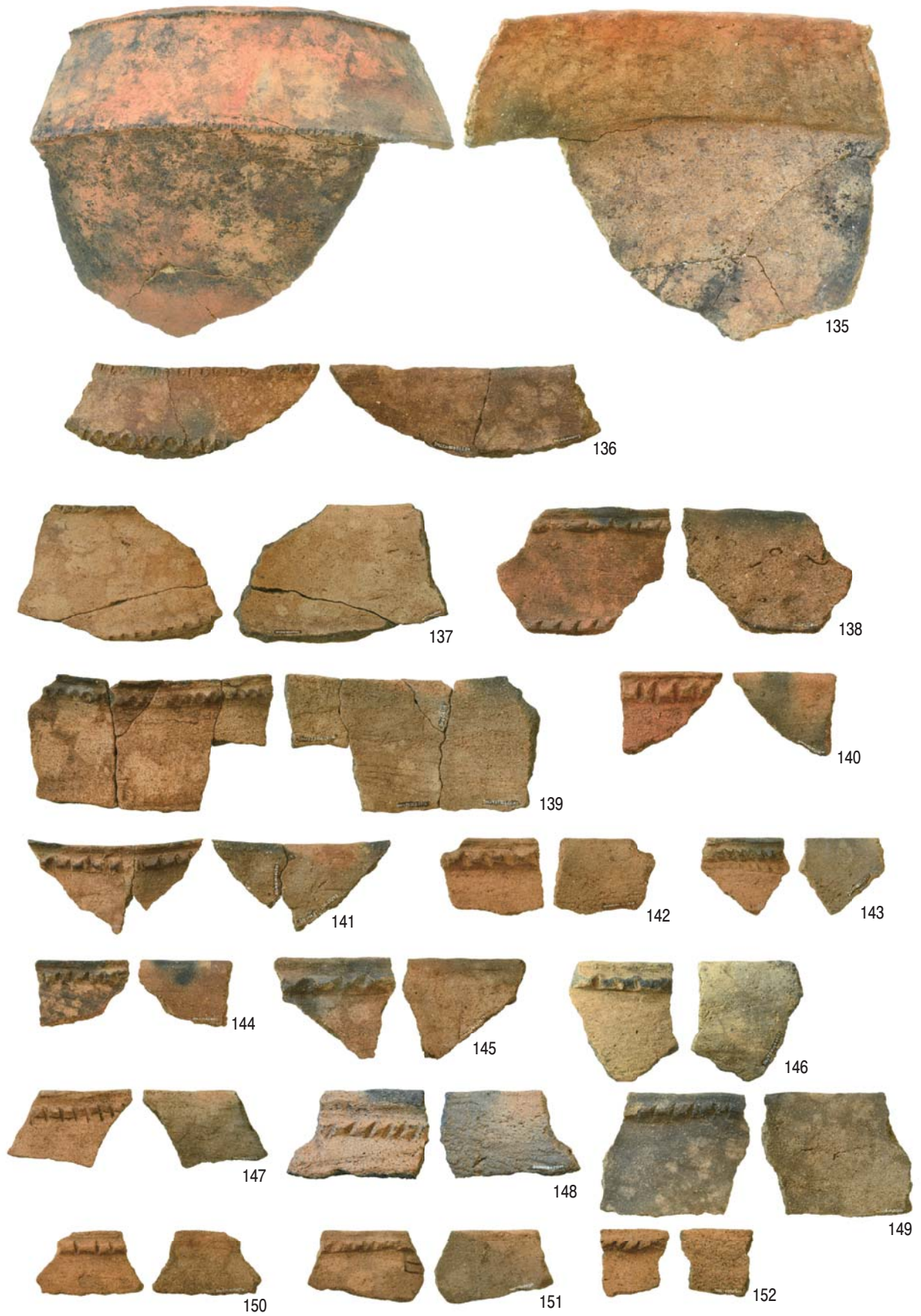
出土土器④



出土土器⑤



出土土器⑥



出土土器⑦



出土土器⑧



出土土器⑨



出土土器⑩





203



204



205



206



207



208



209



210



211



212



213



214



215



216



217



218



219



220

出土土器①



221



222



225



226



227



228



223



224



223 底面



224 底面

出土土器⑫



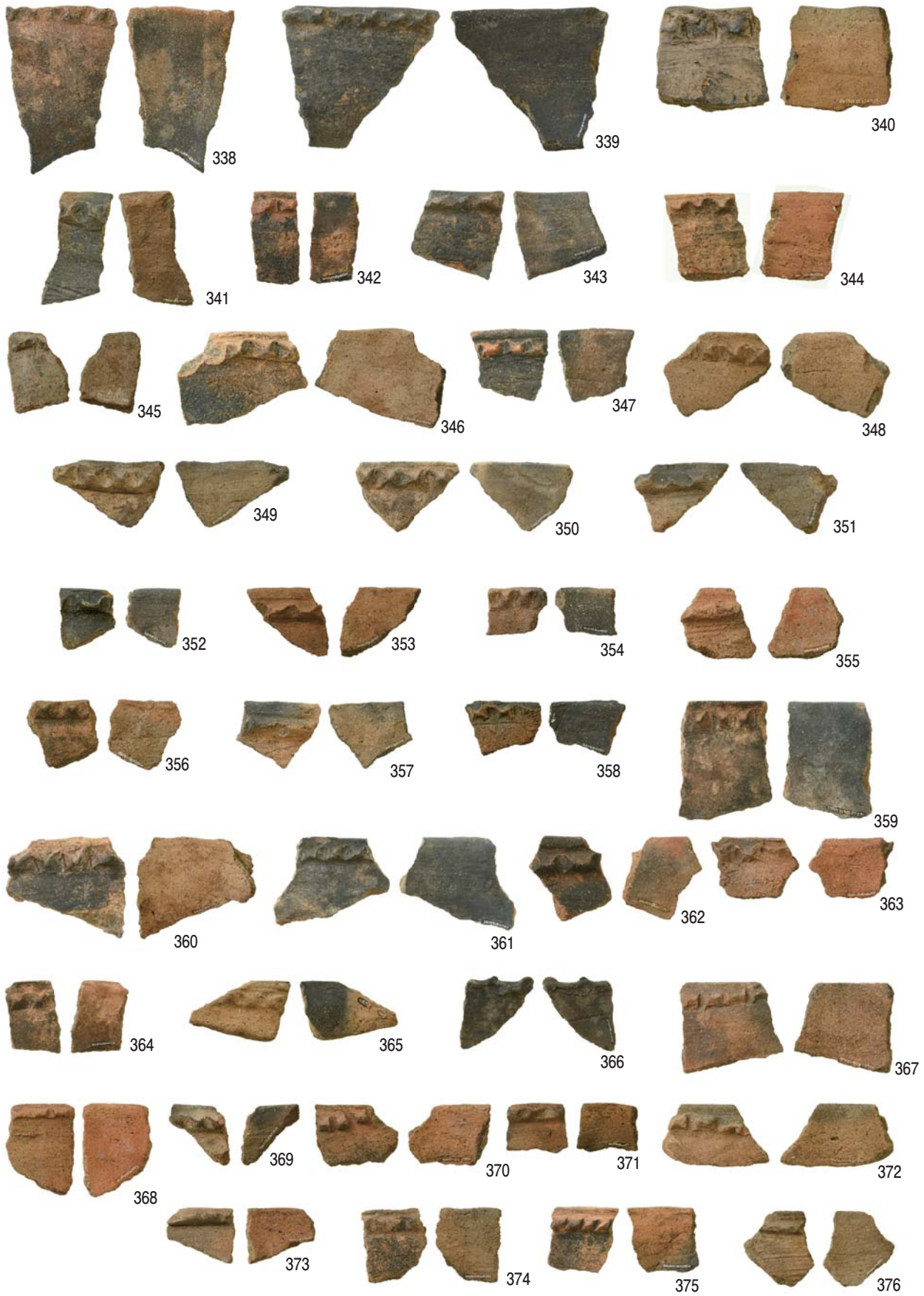
出土土器⑬



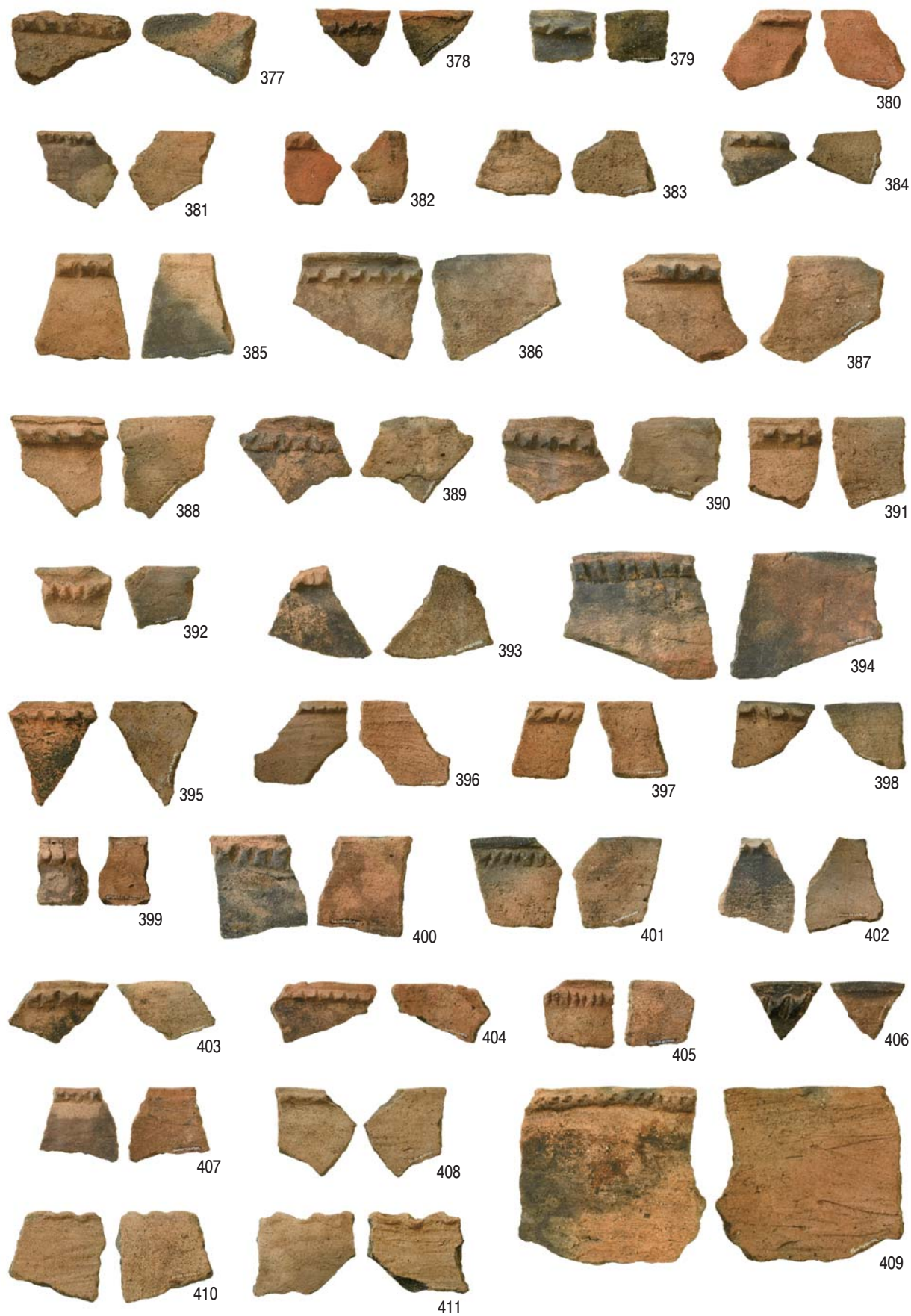
出土土器⑭



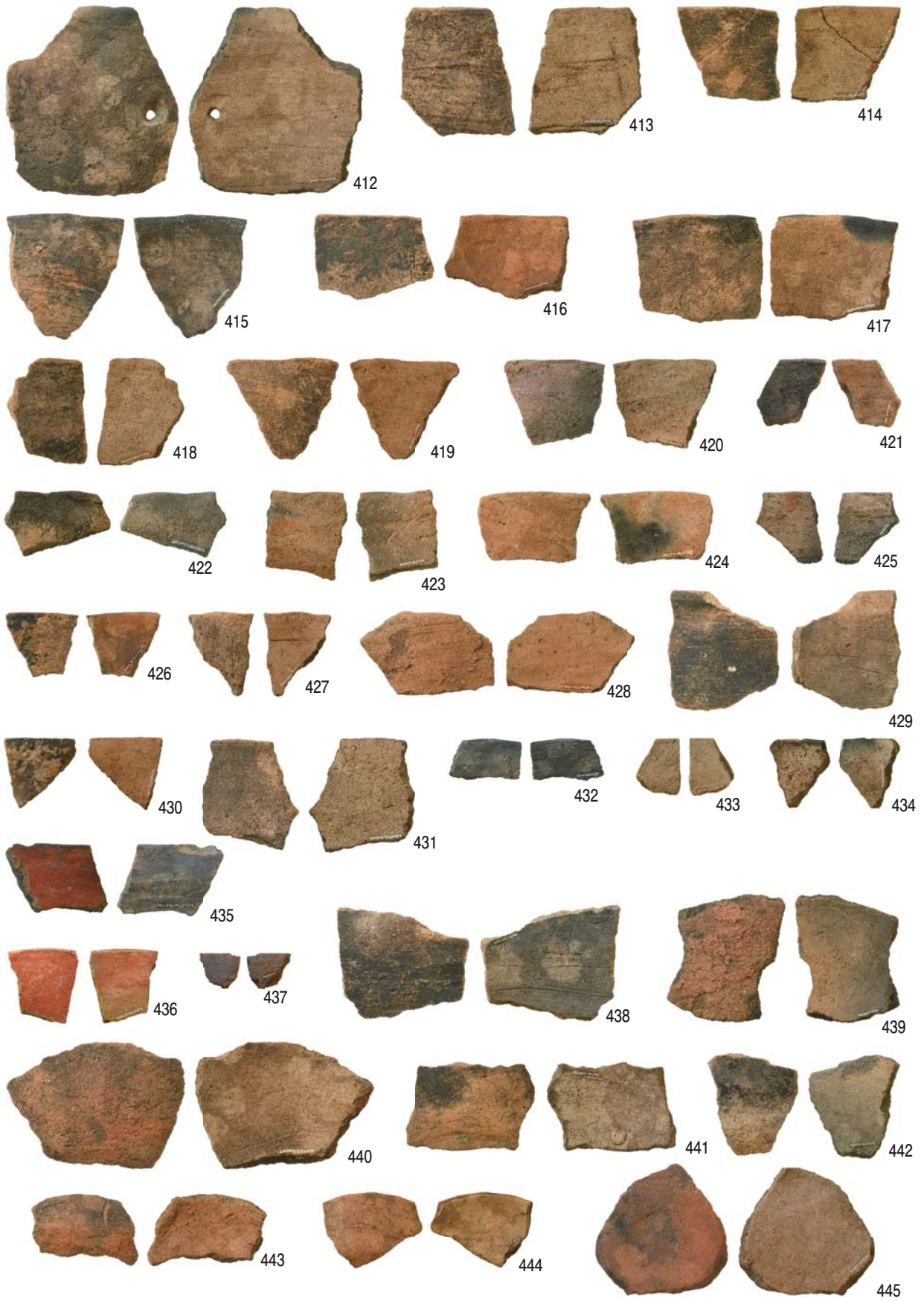
出土土器⑮



出土土器⑩



出土土器⑰



出土土器<sup>⑧</sup>





出土土器①



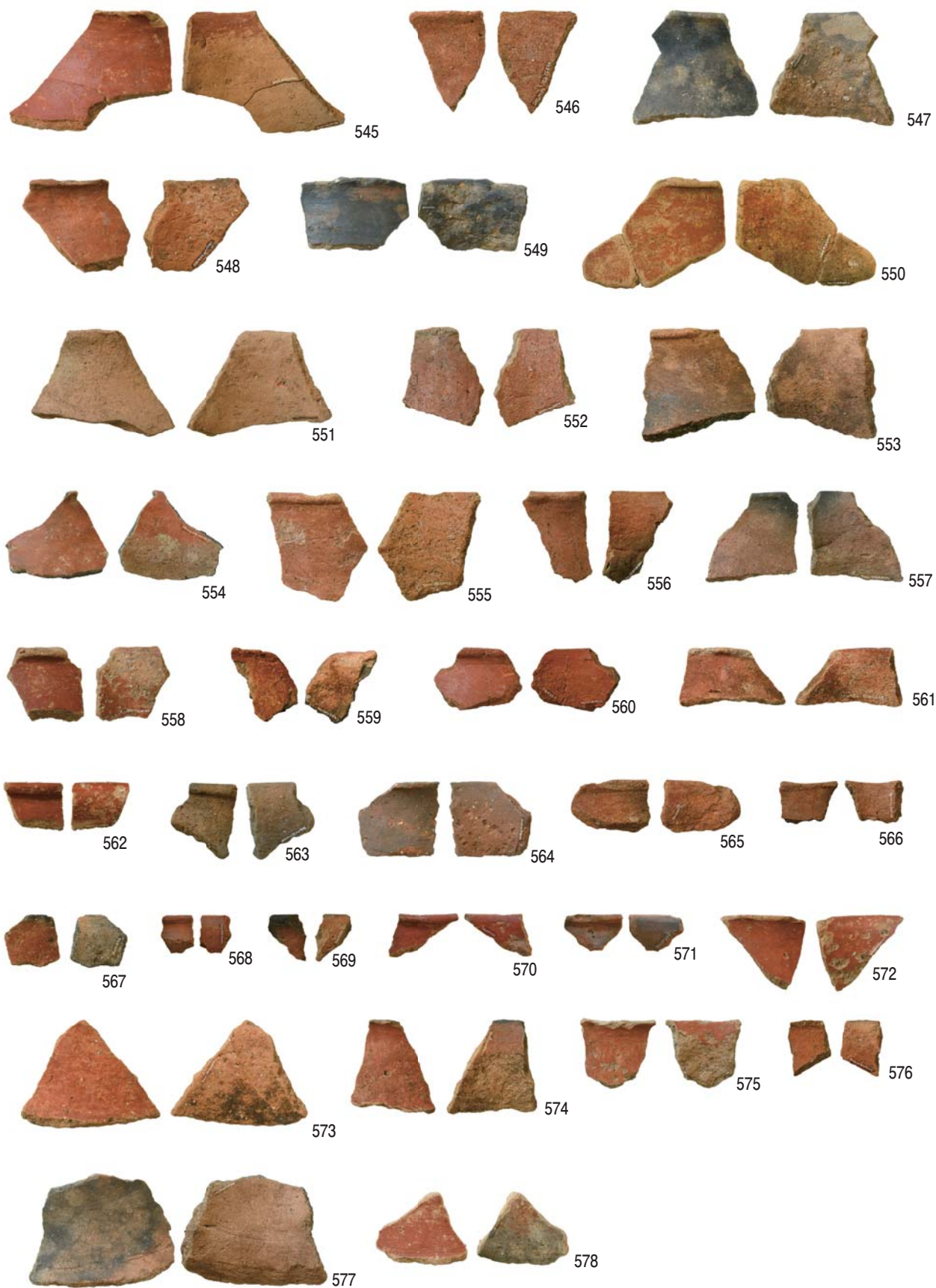
出土土器②



出土土器②



出土土器②



出土土器②



579



580



581



582



583



584



585



586



587



588



589



590



591



593



592



594



595



596



597



598



599



600



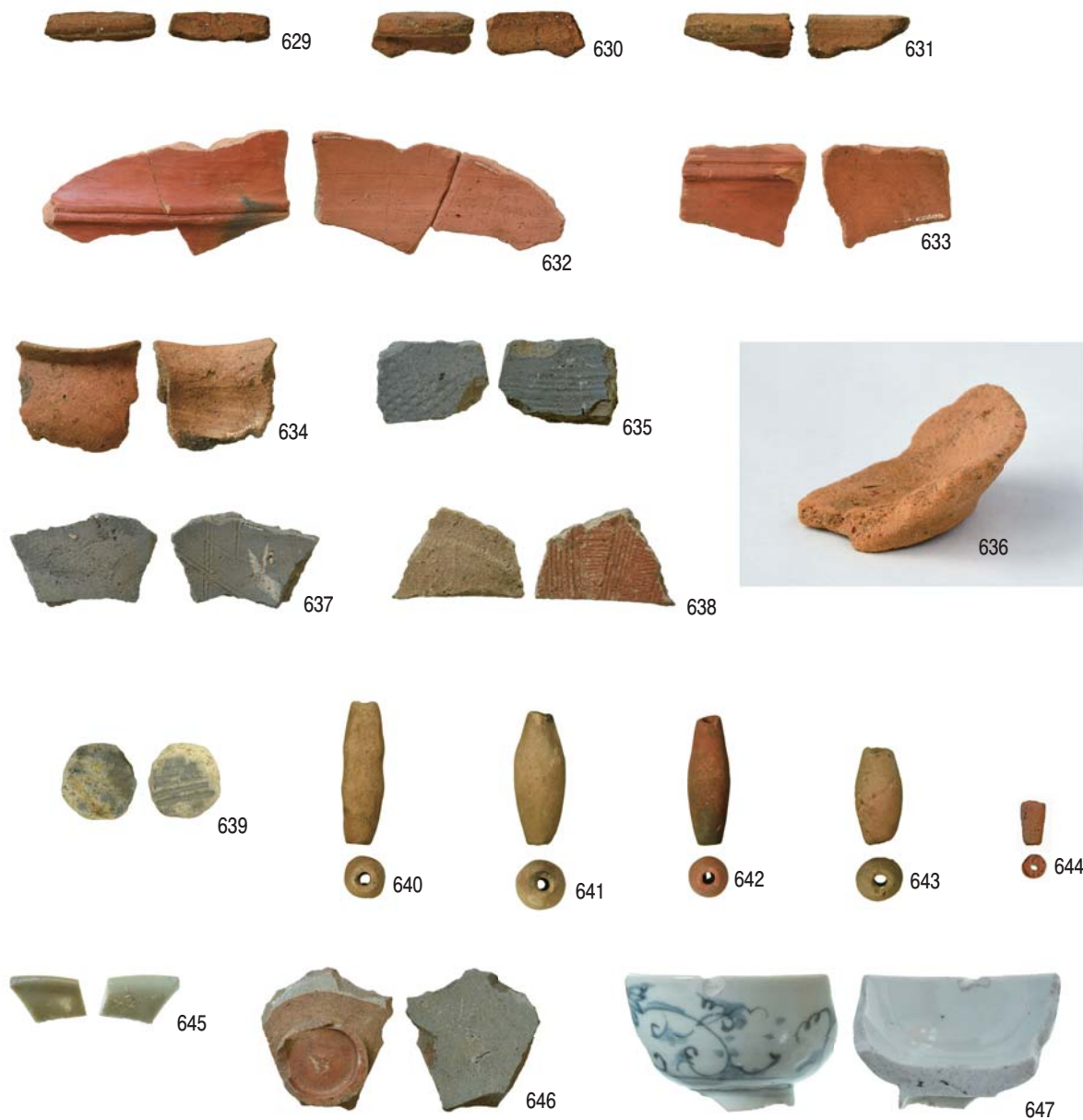
601

出土土器④

图版50



出土土器⑤



出土土器②⑥·陶磁器





出土石器①



出土石器②



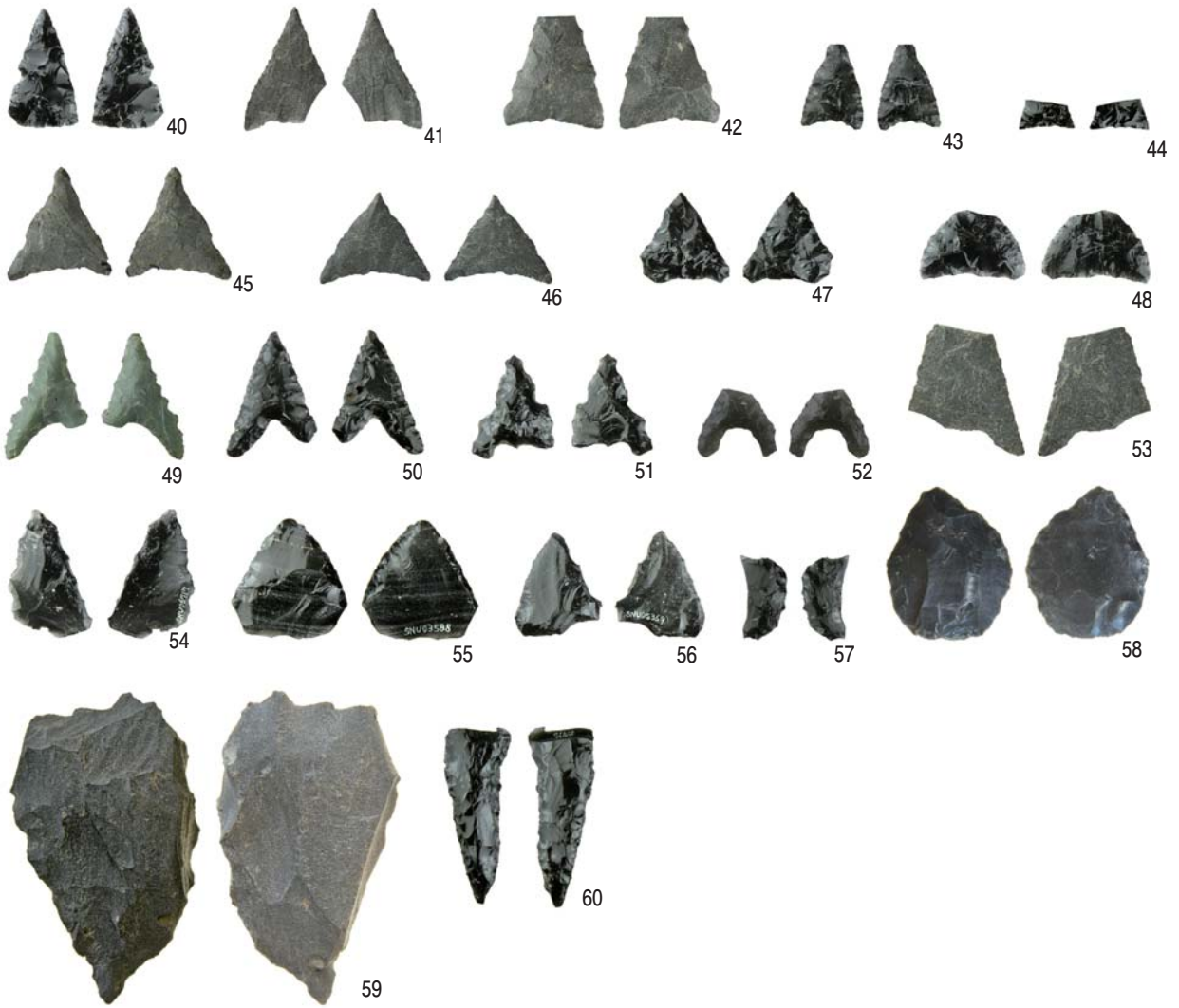
出土石器③



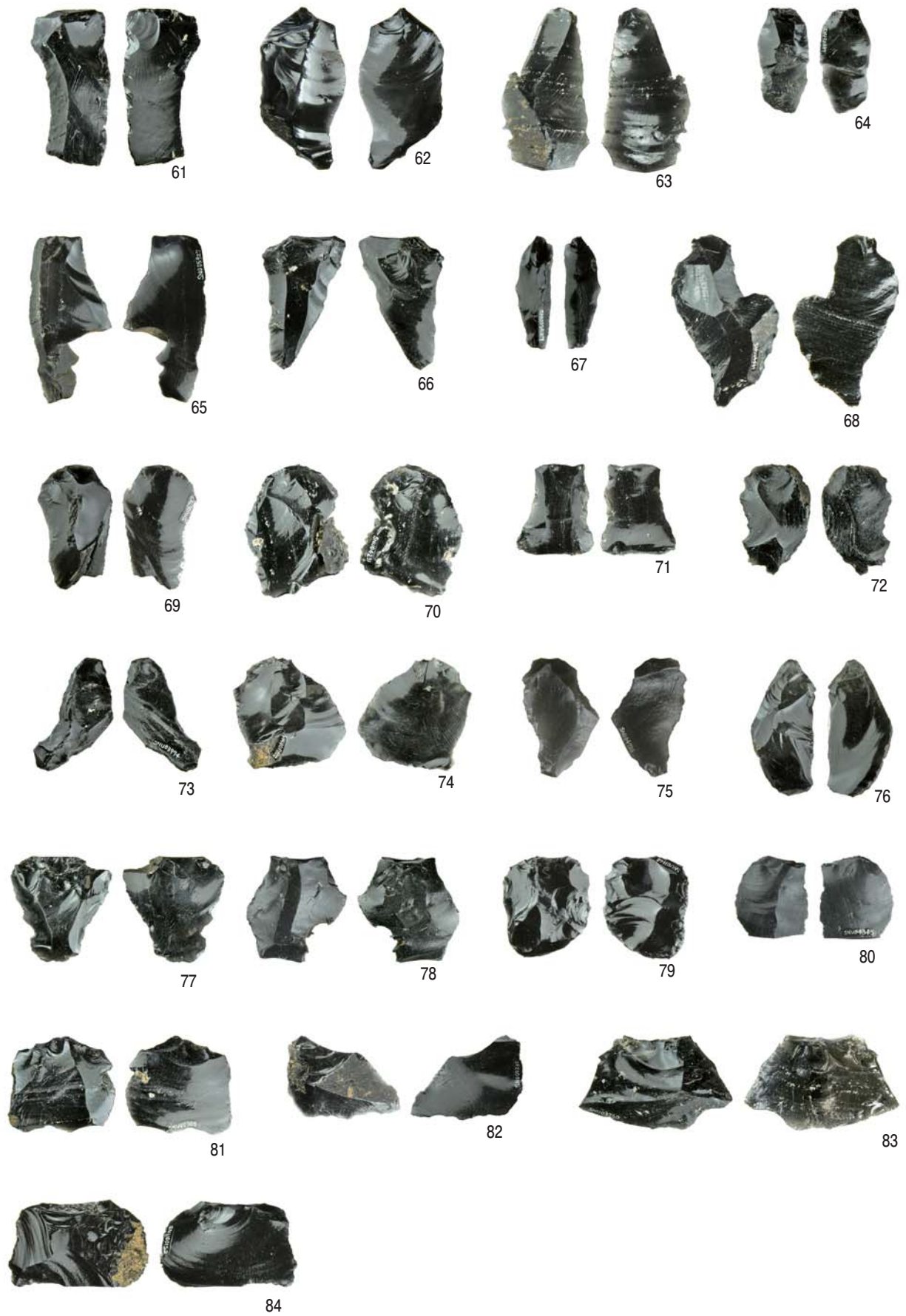
出土石器④



出土石器⑤



出土石器⑥

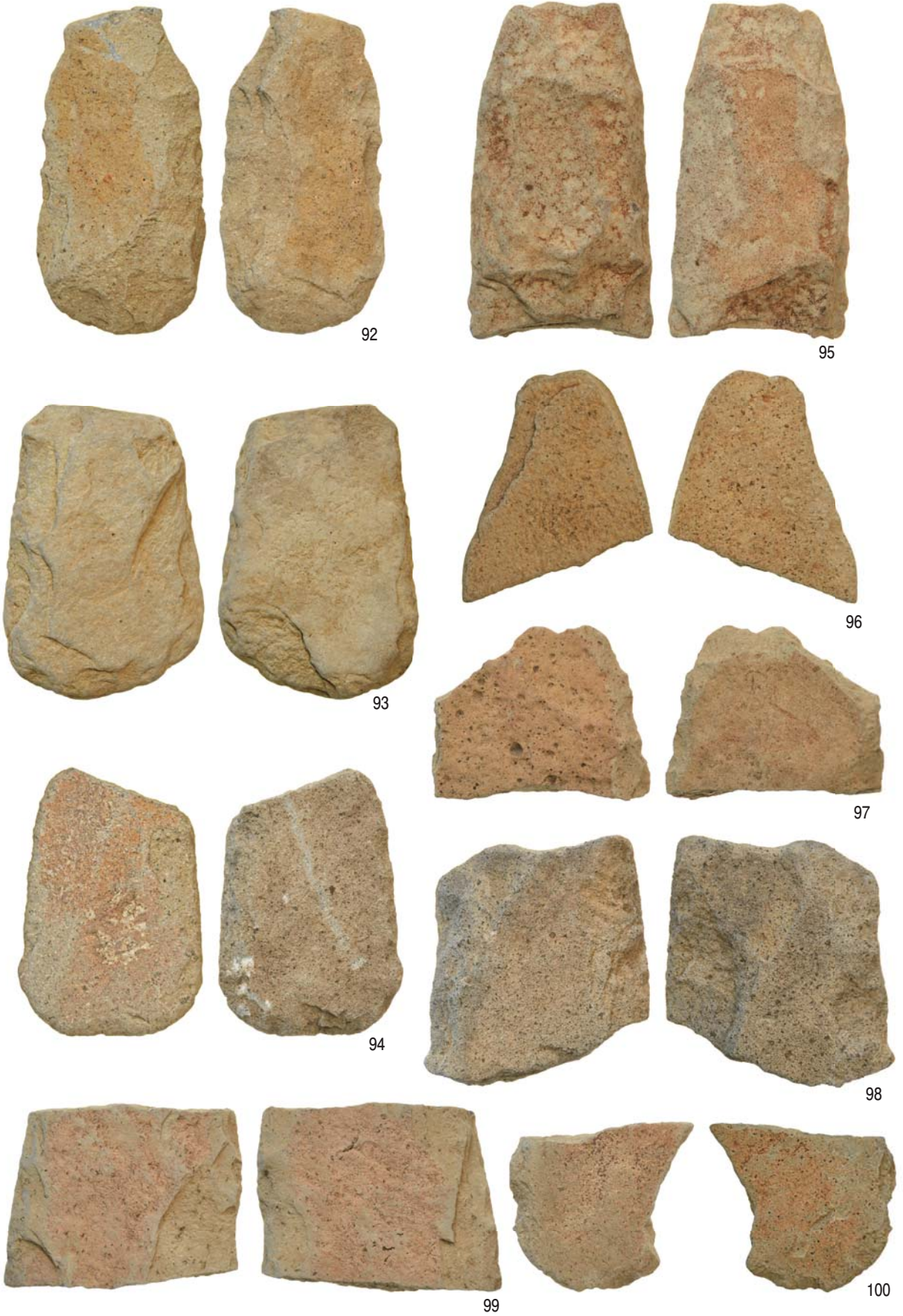


出土石器⑦



出土石器⑧





出土石器⑨



出土石器⑩



出土石器①



出土石器⑫

# 報告書抄録

ふりがな	すわのうえいせき							
書名	諏訪ノ上遺跡							
副書名	県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手型・諏訪地区）に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	本多 和典							
編集機関	南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705							
発行年月日	西暦2020年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇'〃	東経 〇'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すわのうえ 諏訪ノ上 いせき 遺跡	みなみしまばらし 南島原市 ふかえちよう 深江町	42214	157	32° 43' 26"	130° 21' 13"	20140821 ～ 20141128  20150610 ～ 20150831	1,605㎡   773㎡	水利施設等 保存高度化 事業特別型 (畑地帯担 い手型・諏 訪地区)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
諏訪ノ上 遺跡	遺物 包含地	縄文 弥生 近世		土坑		刻目突帯文土器 丹塗壺 打製石斧		

南島原市文化財調査報告書 第20集

## 諏訪ノ上遺跡

2020. 3. 20

発行 長崎県南島原市教育委員会  
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷 株式会社 昭和堂